

栃木県ヤングケアラー実態調査
報 告 書

令和4（2022）年12月
栃木県

目 次

第1章 調査実施の背景	3
1 ヤングケアラーについて	3
2 「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」について.....	3
第2章 調査実施の概要	4
1 目的	4
2 調査対象	4
3 調査期間	4
4 回答方法	4
5 回収状況	5
6 報告書の見方	5
第3章 児童・生徒向けアンケート調査	7
I 小学生の生活についてのアンケート調査結果	7
1 基本情報	7
2 ふだんの生活について	9
3 家庭や家族のことについて	14
II 中高生の生活実態に関する調査結果	28
1 基本情報	28
2 普段の生活について	34
3 家庭や家族のことについて	45
4 ヤングケアラーについて	62
第4章 学校向けアンケート調査	70
I 児童・生徒の生活実態に関する調査結果	70
1 基本情報	70
2 支援が必要だと思われる子どもへの対応	73
3 ヤングケアラーについて	88

第5章 調査結果の分析	110
I 国の調査との比較	110
1 児童・生徒向けアンケート調査結果の比較	110
2 学校向けアンケート調査結果の比較	116
II 調査結果の追加分析	120
1 お世話をしている家族の有無別でみた生活状況や意識	120
2 ヤングケアラーの自覚別にみた意識	127
3 お世話の頻度別にみたお世話の状況や意識	132
4 平日1日あたりの世話に費やす時間別にみたお世話の状況や意識	147
5 お世話を必要としている家族別にみたお世話の状況や意識	159
第6章 調査結果のまとめ	177
I 児童・生徒向けアンケート調査結果のまとめ	177
1 ヤングケアラーの実態、状況	177
2 ヤングケアラーのお世話の内容	177
3 ヤングケアラーの自覚からみたヤングケアラーの特徴	177
4 ヤングケアラーの支援体制	178
II 学校向けアンケート調査結果のまとめ	178
1 「ヤングケアラー」の理解、認識	178
2 外部機関との連携状況	178
資料編	179
1 小学生向け調査画面	179
2 中高生向け調査画面	193
3 学校向け調査画面	208

第1章 調査実施の背景

1 ヤングケアラーについて

現在、「ヤングケアラー」について法令上の定義はないが、厚生労働省は、「ヤングケアラー」を「一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども」と説明している。また、一般社団法人日本ケアラー連盟の以下の図もあわせて紹介をしている。

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どものことをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている

家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている

障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている

目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている

日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている

家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている

アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している

がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている

障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている

障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

2 「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」について

国では、ヤングケアラーに関する調査研究として、各市区町村の要保護児童対策地域協議会を対象にヤングケアラーの実態調査や、ヤングケアラーを早期発見・支援するためのアセスメントシートやガイドラインの作成等を行ってきた。

令和2年度には、ヤングケアラーと思われる子どもをより正確に把握するため、子ども本人（中学生・高校生）を対象としたヤングケアラーの全国調査が初めて行われた。令和3年度には、小学生を対象としたヤングケアラーの全国調査も行われ、世話をしている家族が「いる」と回答した子どもは、小学6年生で6.5%、中学2年生で5.7%、全日制高校2年生で4.1%という結果となった。

しかし、この調査は、あくまでも全国の小中高生のおおよその状況を把握するための調査であり、今後、自治体がそれぞれで子どもの状況を確認し、地域の実情に応じて対応を検討することが期待されていた。

第2章 調査実施の概要

1 目的

本調査は、栃木県内の児童・生徒における家族の世話の状況やそれに伴う日常生活への支障、支援のニーズ等とともに、各学校における対応状況等について把握し、ヤングケアラーへの支援策の検討を行うための基礎資料とすることを目的として実施した。

2 調査対象

①児童・生徒向け調査

県内全ての公立及び私立学校（分校、義務教育校、中高一貫校、定時制及び通信制を含む）の以下の学年に在籍する児童・生徒

小学6年生	16,362人（350校）
中学2年生	16,878人（165校）
高校2年生	16,635人（85校）

②学校向け調査

県内全ての公立及び私立学校（分校、義務教育校、中高一貫校、定時制及び通信制を含む）

小学校	350校（公立349校、私立1校）
中学校	165校（公立158校、私立7校）
高等学校	85校（公立70校、私立15校）

3 調査期間

①児童・生徒向け調査

令和4年7月5日（火）～令和4年7月31日（日）

②学校向け調査

令和4年7月6日（水）～令和4年8月19日（金）

4 回答方法

①児童・生徒向け調査

1人1台端末（タブレット）を用いたWeb上での回答を基本とし、学級時間やロングホームルーム等、学校時間を活用して調査を実施した（学校時間内の実施が難しい場合は自宅等からの回答も可）。

②学校向け調査

Web上での回答を基本とし、調査を実施した。

5 回収状況

各調査の回収数、回収率は以下の通りであった。

①児童・生徒向け調査

	回収数	回収率
小学6年生	14,621人	89.4%
中学2年生	13,618人	80.7%
高校2年生	12,615人	75.8%

②学校向け調査

	回収数	回収率
小学校	230校	65.7%
中学校	95校	57.6%
高等学校	53校	62.4%

6 報告書の見方

回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してある。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。

複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合がある。

図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。また、回答比率が0.0%の場合は比率を表示していない。

単純集計やクロス集計では、無回答が含まれているが、クロス集計の分析の軸（＝表側）とした調査回答者の属性や設問は、無回答を除いているため、各調査回答者の属性の基数の合計が全体と一致しない場合がある。

基数が30を下回るものについては、調査数が少ないため参考として図示するに留め、文中では言及をしない。（例：学校向けアンケート調査の「定時制高校」、「通信制高校」等）

一部の設問は、国の調査結果と比較をしているが、中学校、高校、中学2年生、高校2年生の結果は、厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（令和3年3月）、小学校、小学6年生の結果は、厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（令和4年3月）にて公表されている結果と比較をしている。国の調査は、本調査と調査対象者の抽出方法や調査の実施時期等が異なるため、その点を留意して比較した結果を確認する必要がある。それぞれの調査研究で実施された調査の概要は次頁のとおりである。

○厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（令和3年3月）

調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の公立中学校から層化無作為抽出された1,000校に在籍する中学2年生 ・全国の公立高等学校（全日制）から層化無作為抽出された350校に在籍する高校2年生 ・各都道府県から1校ずつ無作為抽出された公立の定時制高校、通信制高校に在籍する高校2年生相当の生徒：約168,000人 ・全国の公立中学校1,000校、公立高等学校（全日制）350校を層化無作為抽出、公立の定時制高校、通信制高校をそれぞれ各都道府県から1校ずつ無作為抽出：約1,440校
回収数	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の中学2年生、高校2年生、高校2年生相当：約13,800人 ・全国の公立中学校、高等学校（全日制、定時制、通信制）：約1,000校
調査期間	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け：令和2（2020）年12月21日から令和3（2021）年1月31日 ※通信制高校：令和3（2021）年1月26日から令和3（2021）年2月28日 ・学校向け：令和2（2020）年12月から令和3（2021）年2月
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け：学校を通じて調査回答フォームのQRコード、URLを記載した調査概要を配付し、Web上で回答・回収 ・学校向け：郵送配布、郵送回収

○厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（令和4年3月）

調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の小学校から層化無作為抽出された350校に在籍する小学6年生：約24,500人 ・全国の小学校から層化無作為抽出：約350校
回収数	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の小学6年生：約9,800人 ・全国の小学校：約260校
調査期間	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け：令和4（2022）年1月 ・学校向け：令和4（2022）年1月
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け：学校を通じて調査票を児童に配布、児童は原則自宅に持ち帰り回答の上郵送回収 ・学校向け：郵送配布、郵送回収

国の調査との比較やクロス集計の分析で、分析の軸（＝表側）が対になっている項目については、比率の差を記述している。その表現は％ではなく、ポイントであらわすこととしている。ポイントで比率の差について言及している結果は、統計上「有意な差」であるかどうかを検討するため、仮説検定を行っている。検定の手法は、出現頻度の差ではカイ二乗検定、平均値の差ではt検定である。

統計的な検定を行うにあたっては、帰無仮説と対立仮説が設定される。

帰無仮説：対立仮説を証明するために分析者が棄却したいと考える仮説

対立仮説：分析者が証明をしたい仮説

検定では、帰無仮説のもとで、ある統計量が生じる確率を求め、確立をpで表し、通常p値と呼ぶ。この確率p値があらかじめ設定した有意水準（危険率） α 以下のとき、帰無仮説を棄却して対立仮説を採択することになる。

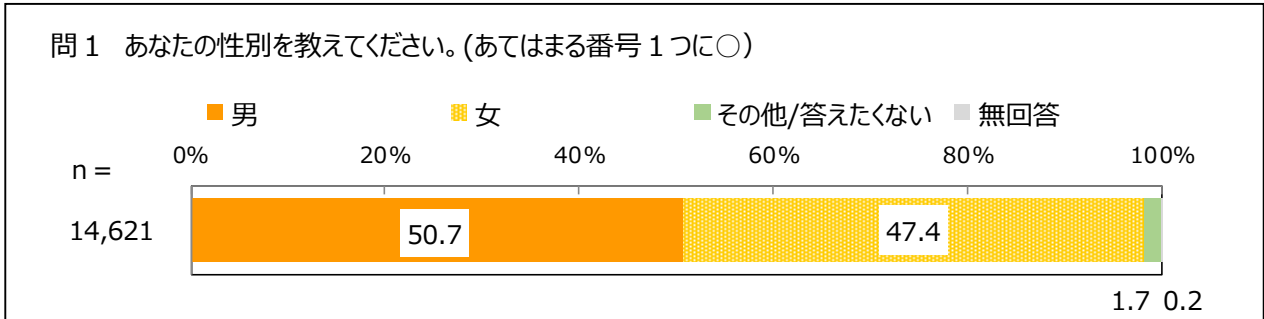
本書では、 $p < 0.05$ （危険率5％）の場合には統計学的に有意と認識して判定している。

第3章 児童・生徒向けアンケート調査

I 小学生の生活についてのアンケート調査結果

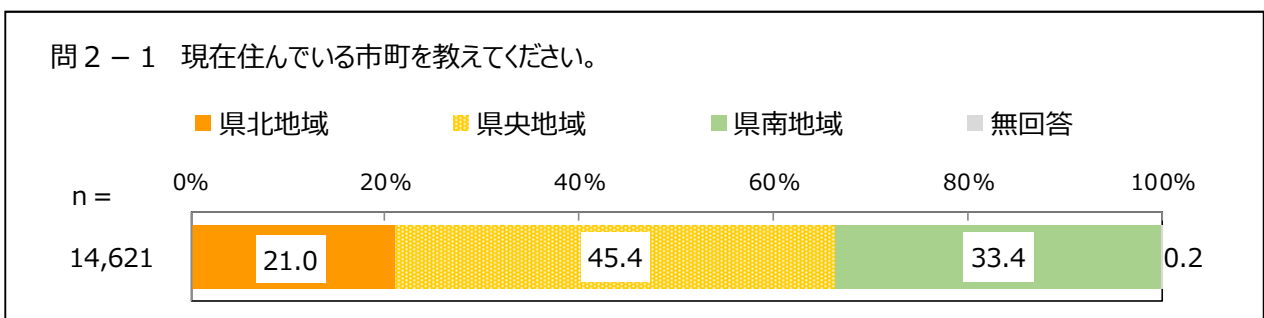
1 基本情報

(1) 性別



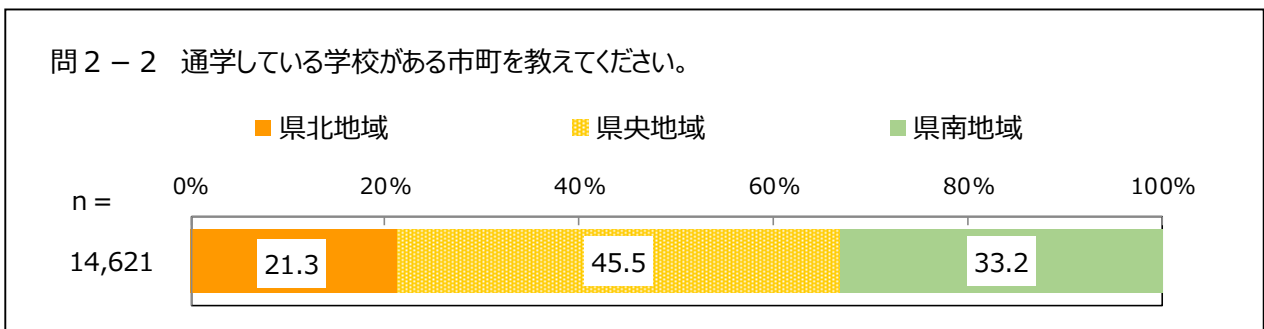
性別は、「男」が50.7%、「女」が47.4%となっている。

(2) 居住地 (3区分)



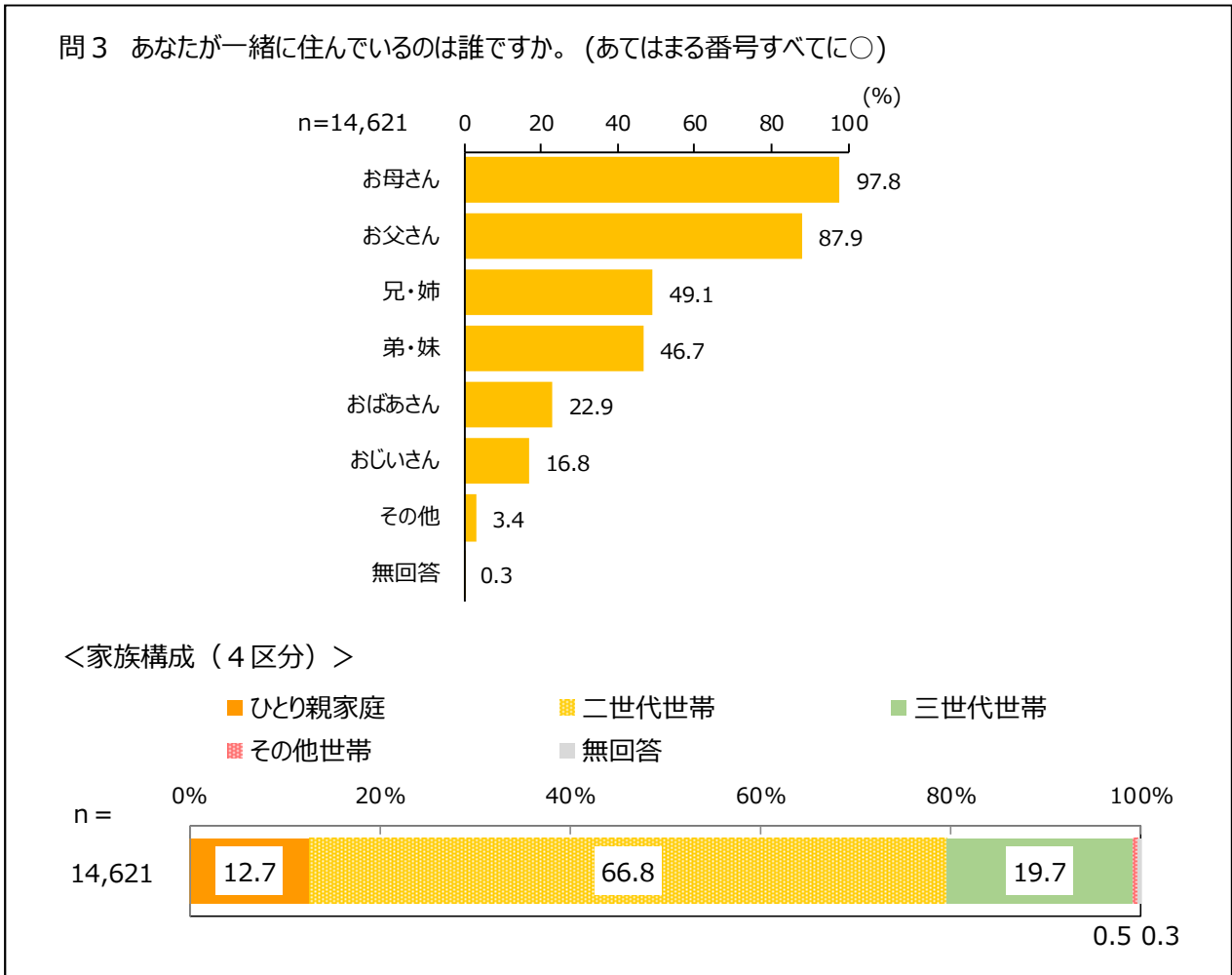
居住地は、「県北地域」が21.0%、「県央地域」が45.4%、「県南地域」が33.4%となっている。

(3) 学校所在地 (3区分)



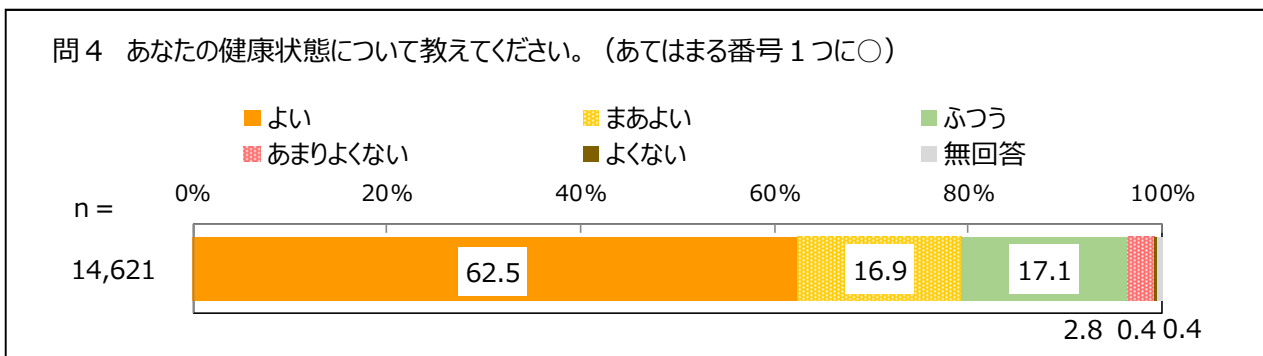
学校所在地は、「県北地域」が21.3%、「県央地域」が45.5%、「県南地域」が33.2%となっている。

(4) 同居家族



同居家族は、「お母さん」が97.8%で最も高く、次いで「お父さん」(87.9%)となっている。
 家族構成は、「二世帯世帯」が66.8%で最も高く、次いで「三世帯世帯」(19.7%)、「ひとり親家庭」(12.7%)となっている。

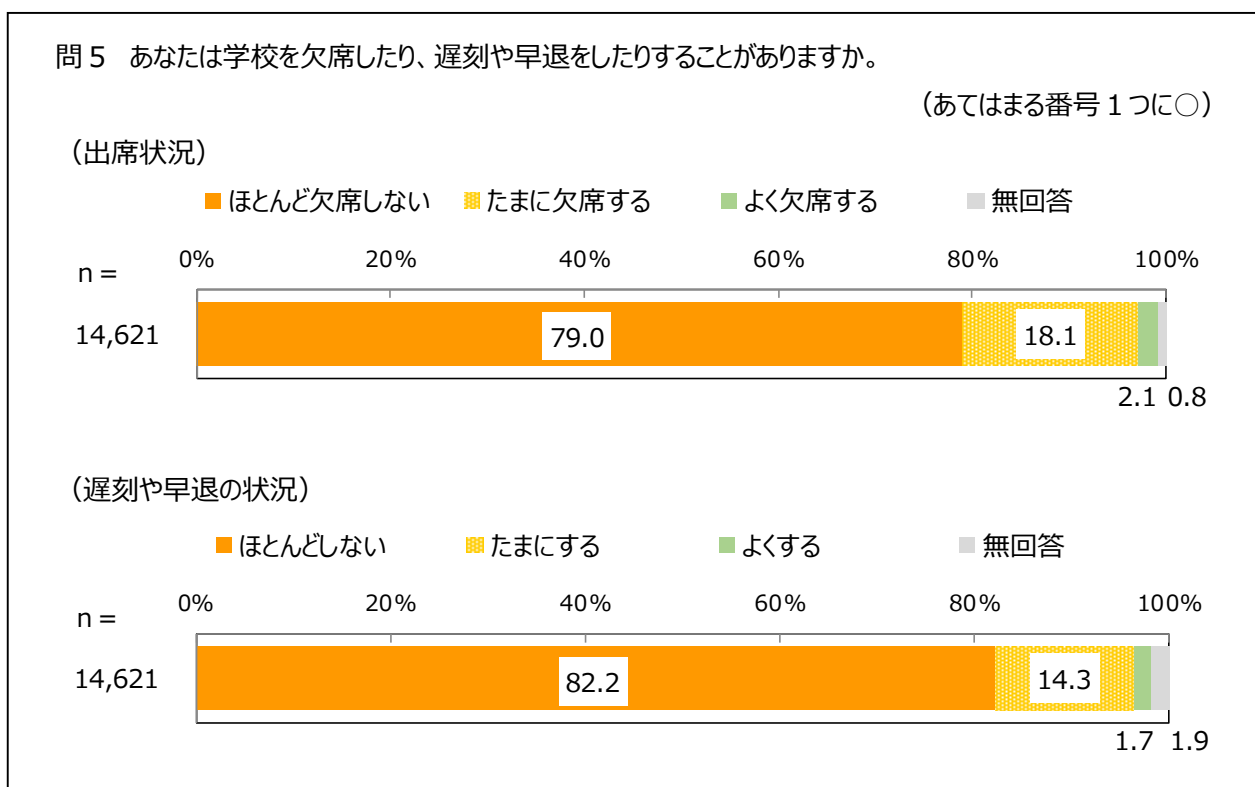
(5) 健康状態



健康状態は、「よい」が62.5%で最も高く、次いで「ふつう」(17.1%)、「まあよい」(16.9%)、「あまりよくない」(2.8%)となっている。

2 ふだんの生活について

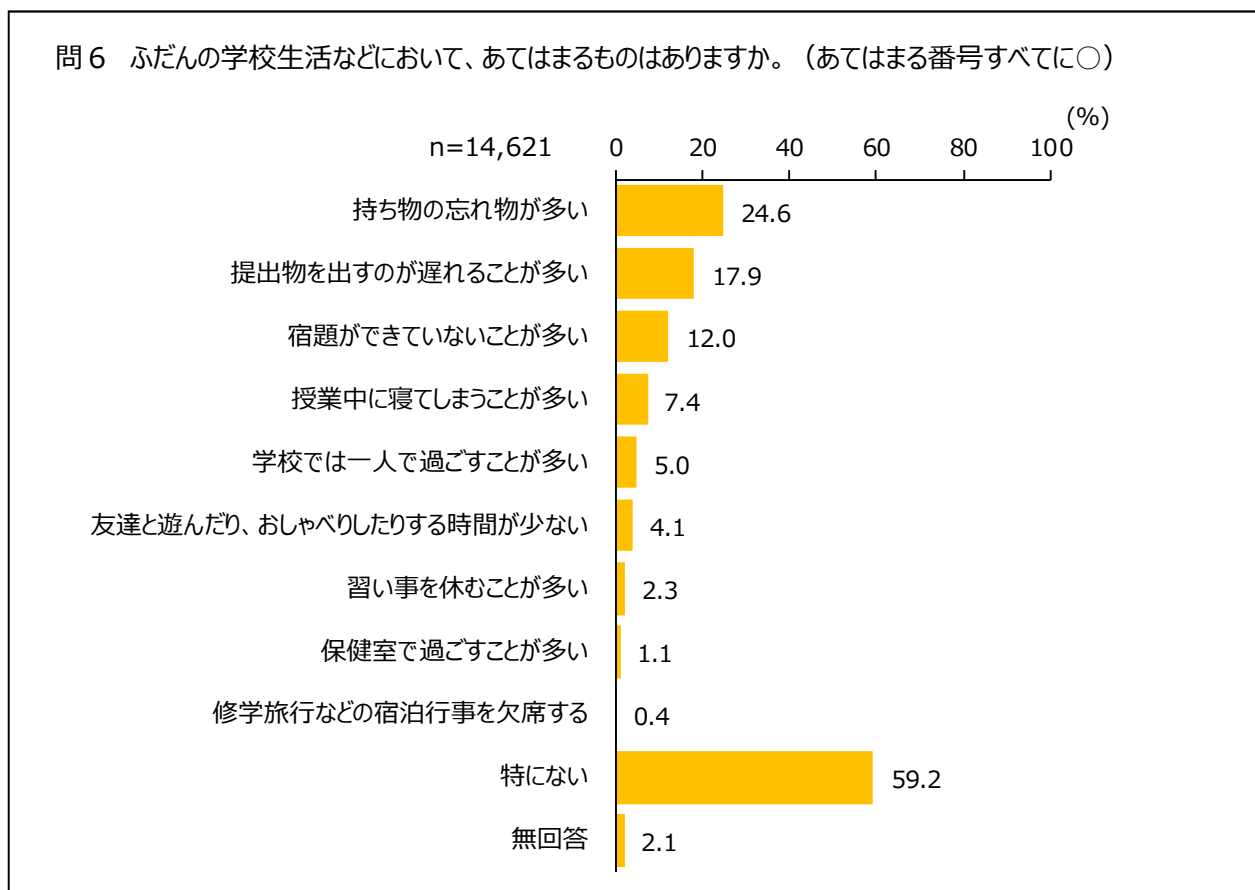
(1) 学校への通学状況



学校への通学状況で、出席状況は、「ほとんど欠席しない」が79.0%で最も高く、次いで「たまに欠席する」(18.1%)、「よく欠席する」(2.1%)となっている。

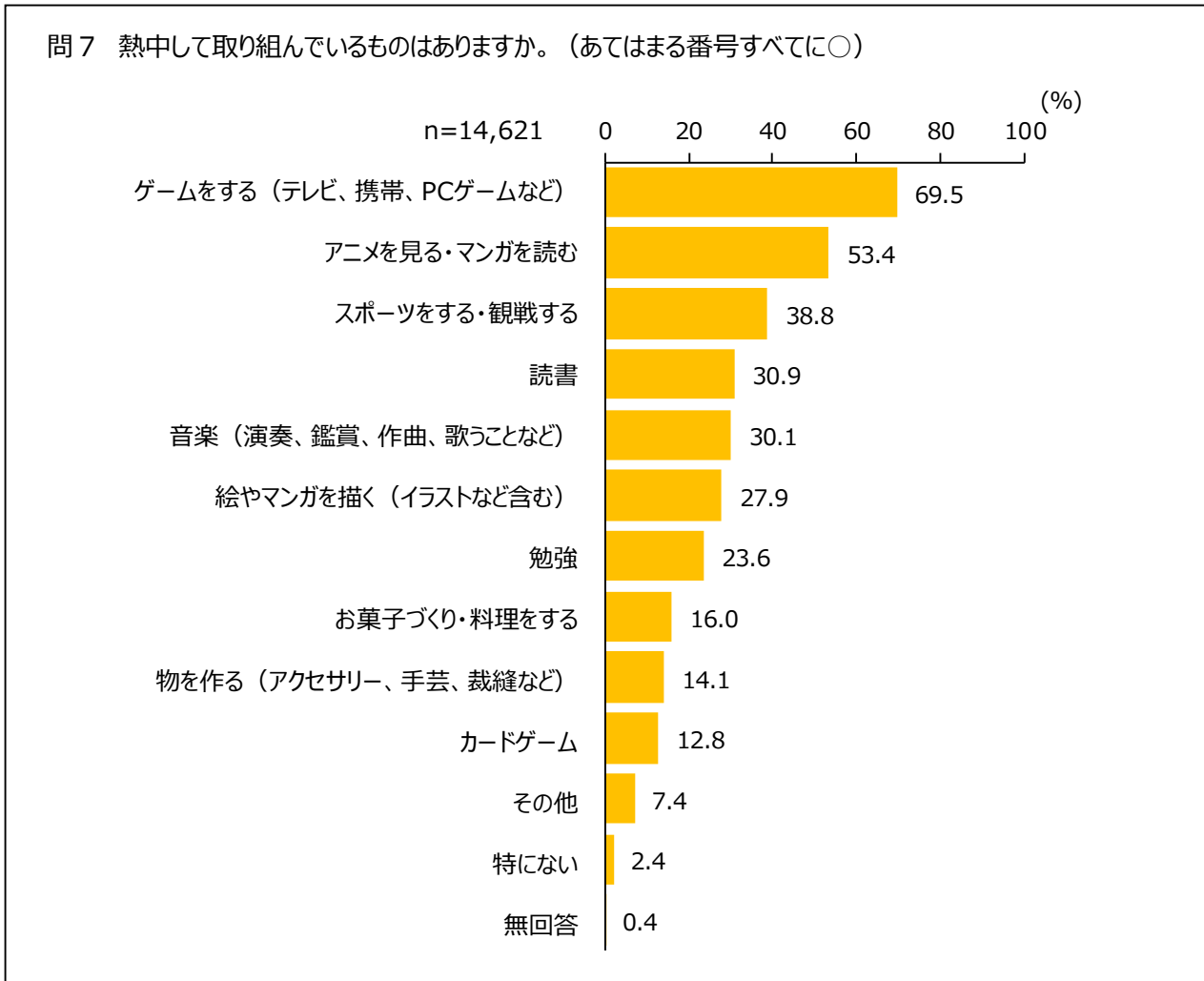
遅刻や早退の状況は、「ほとんどしない」が82.2%で最も高く、次いで「たまにする」(14.3%)、「よくする」(1.7%)となっている。

(2) ふだんの生活であてはまること



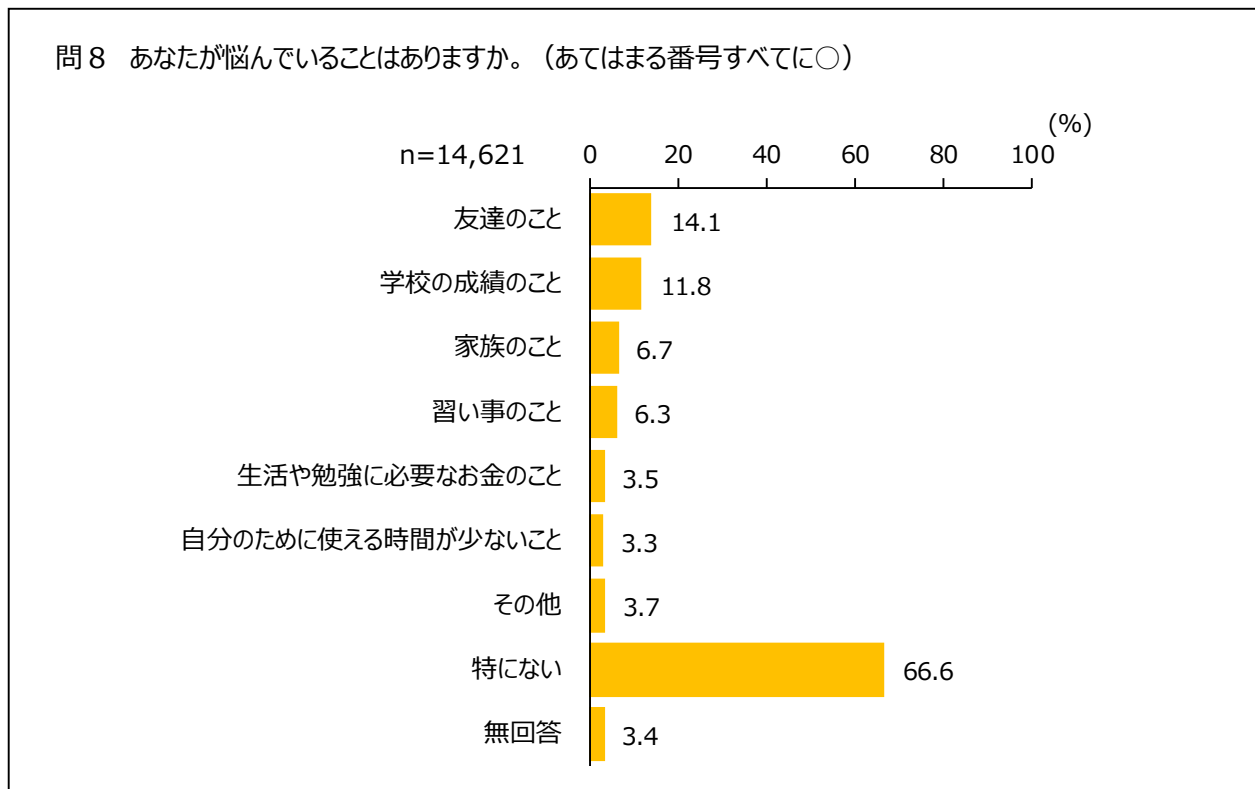
ふだんの学校生活であてはまることは、「特にない」が59.2%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「持ち物の忘れ物が多い」が24.6%で最も高く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」(17.9%)、「宿題ができていないことが多い」(12.0%)となっている。

(3) 熱中しているもの



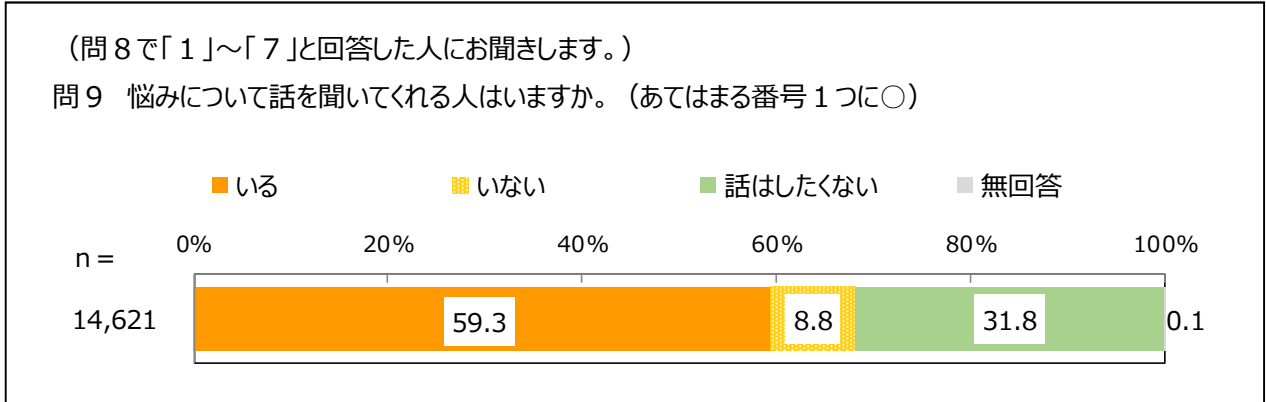
熱中しているものは、「ゲームをする (テレビ、携帯、PC ゲームなど)」が 69.5%で最も高く、次いで「アニメを見る・マンガを読む」(53.4%)、「スポーツをする・観戦する」(38.8%)となっている。

(4) 現在の悩みや困りごと



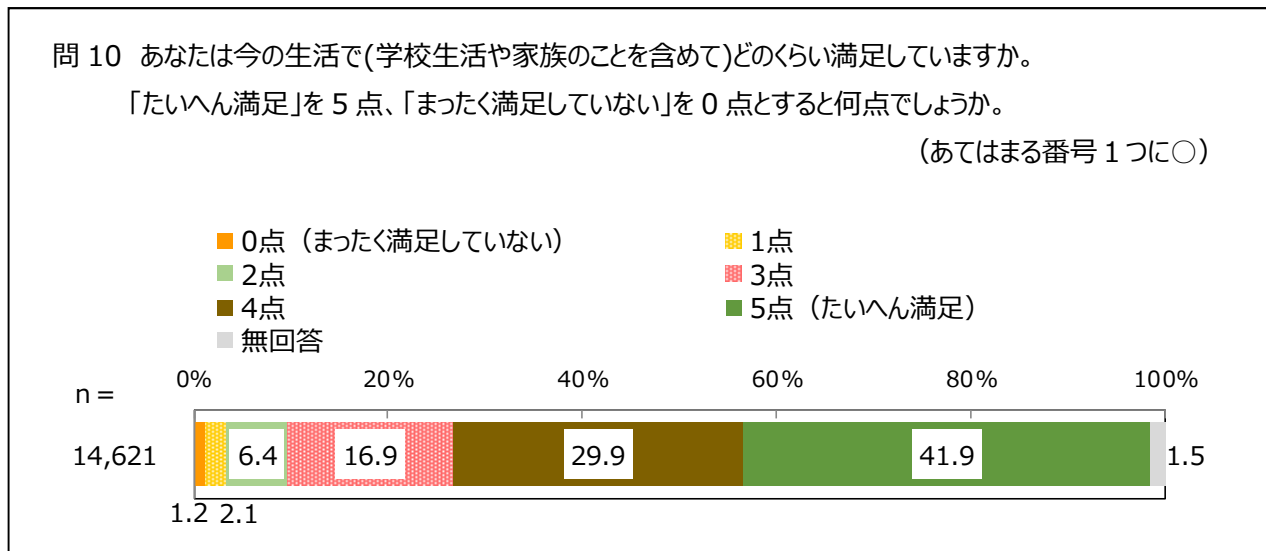
現在の悩みや困りごとは、「特にない」が66.6%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「友達のこと」が14.1%で最も高く、次いで「学校の成績のこと」(11.8%)、「家族のこと」(6.7%)、「習い事のこと」(6.3%)となっている。

(5) 悩みや困りごとの相談相手、話を聞いてくれる人の有無



悩みや困りごとの相談相手、話を聞いてくれる人の有無は、「いる」が59.3%で最も高く、次いで「話したくない」(31.8%)、「いない」(8.8%)となっている。

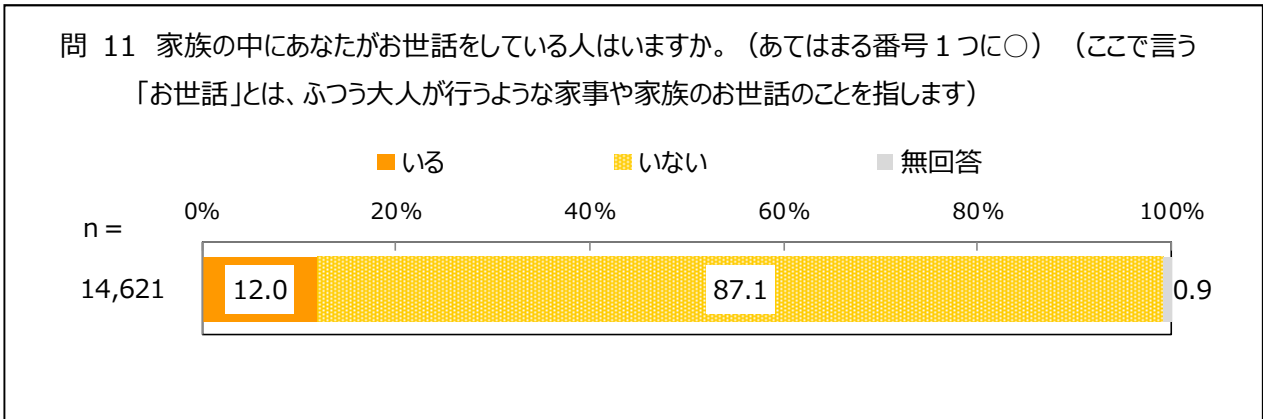
(6) 今の生活の満足度



今の生活の満足度は、「5点 (たいへん満足)」が41.9%で最も高く、次いで「4点」(29.9%)、「3点」(16.9%)となっている。

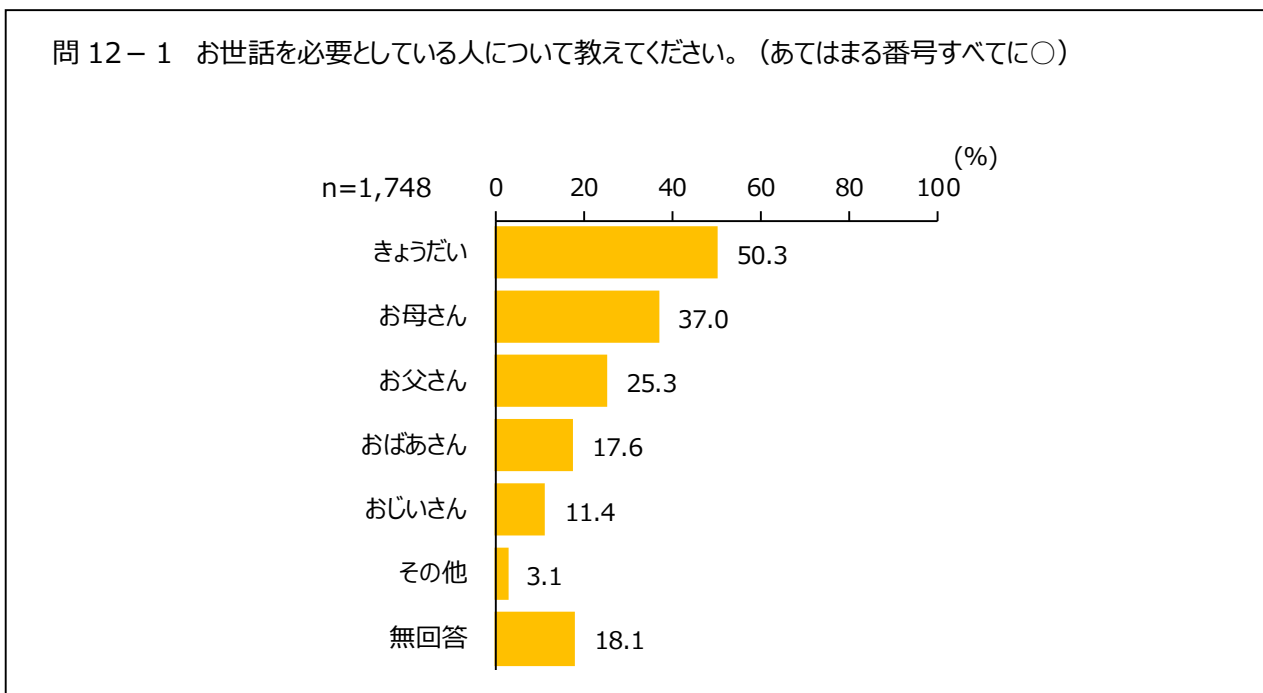
3 家庭や家族のことについて

(1) お世話をしている家族の有無



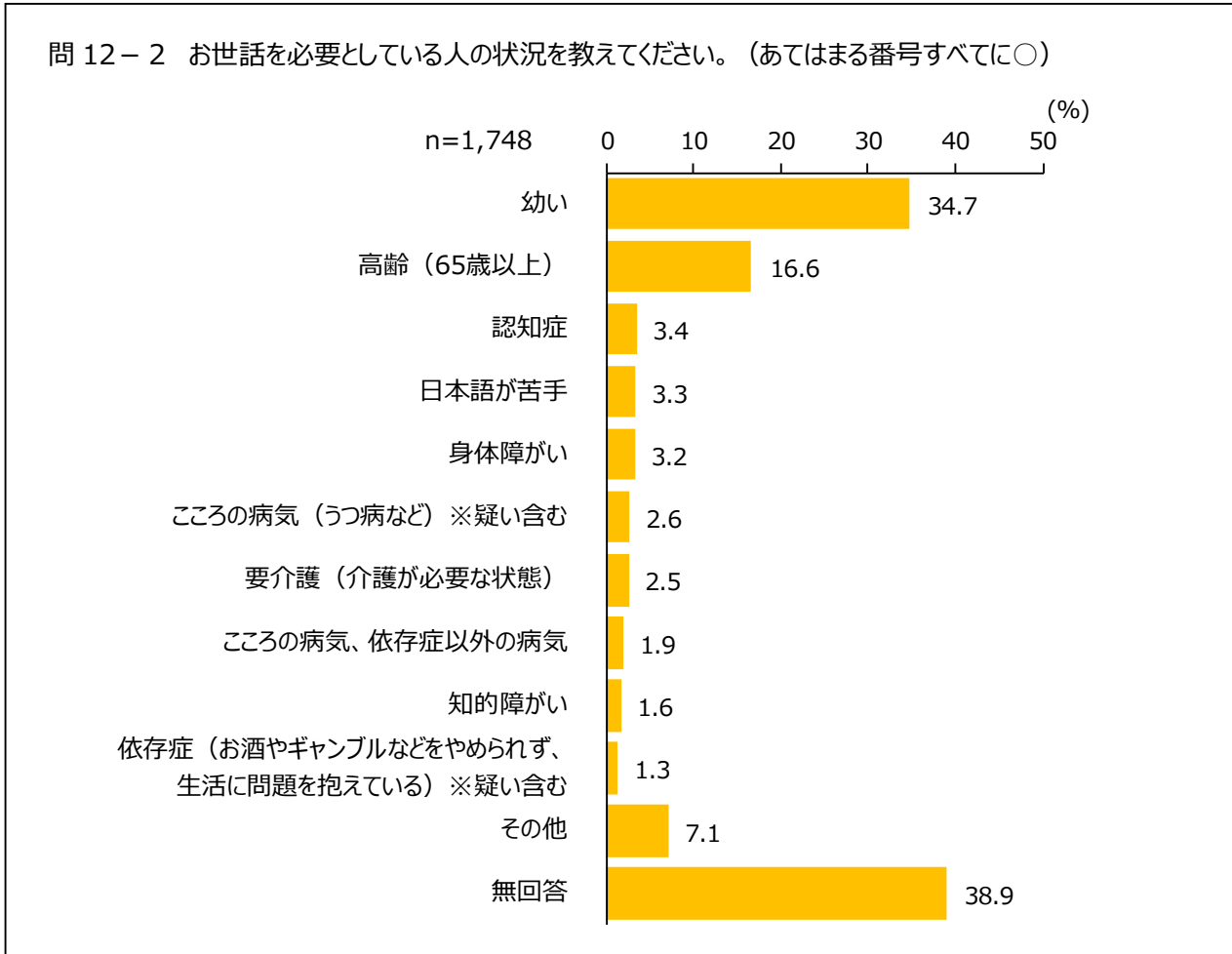
お世話をしている家族の有無は、「いる」が12.0%、「いない」が87.1%となっている。

(2) お世話を必要としている家族



お世話を必要としている家族は、「きょうだい」が50.3%で最も高く、次いで「お母さん」(37.0%)、「お父さん」(25.3%)となっている。

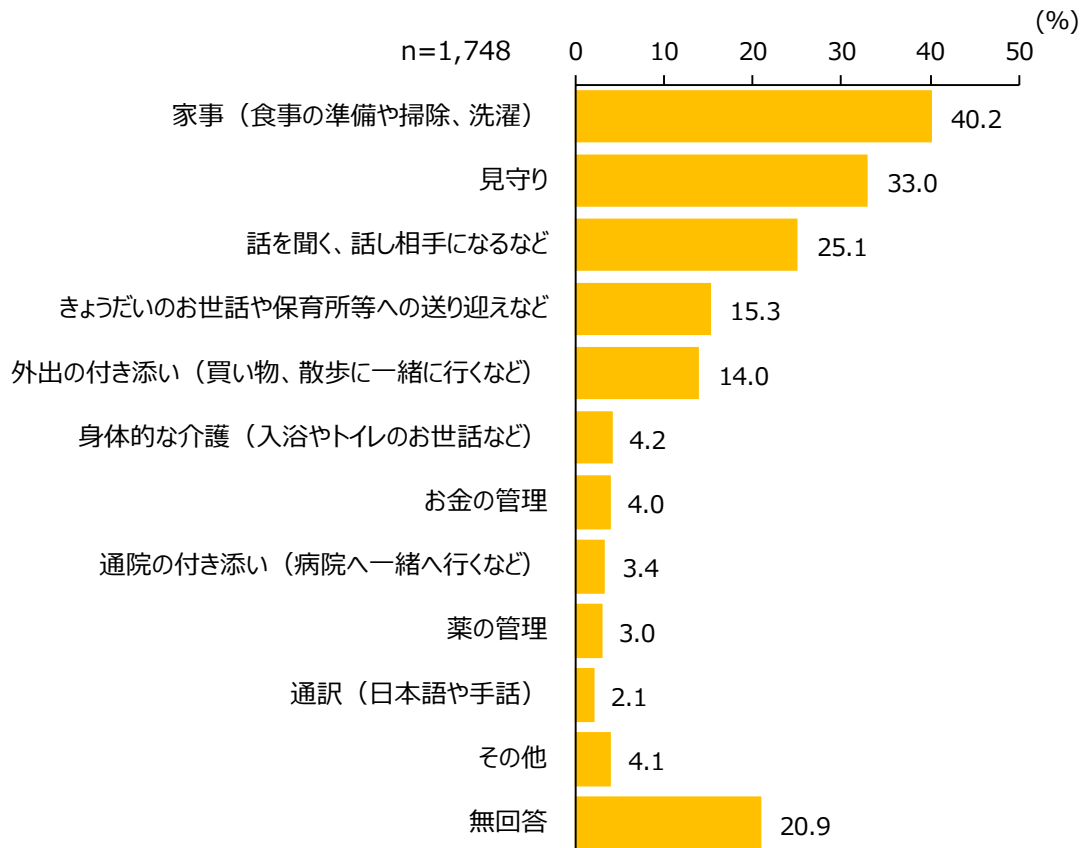
(3) お世話を必要としている人の状況



お世話を必要としている人の状況は、「幼い」が 34.7%で最も高く、次いで「高齢 (65 歳以上)」(16.6%)、「その他」(7.1%)となっている。なお、「その他」の内容には、「仕事が多忙」、「体が弱い」、「妊娠中」などがあつた。

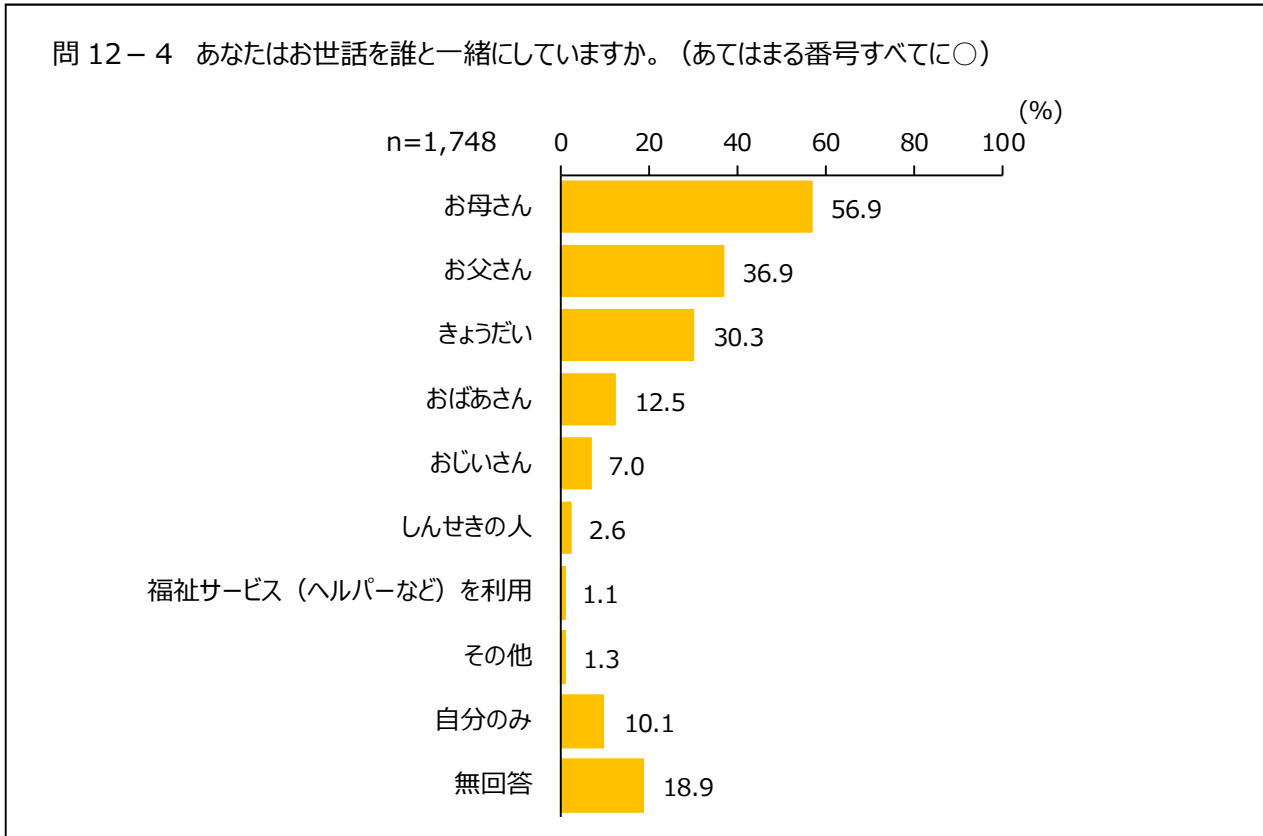
(4) お世話の内容

問 12-3 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○) (お世話を必要としている人が複数いる場合は、それぞれの人ごとではなく一括でお答えください。)



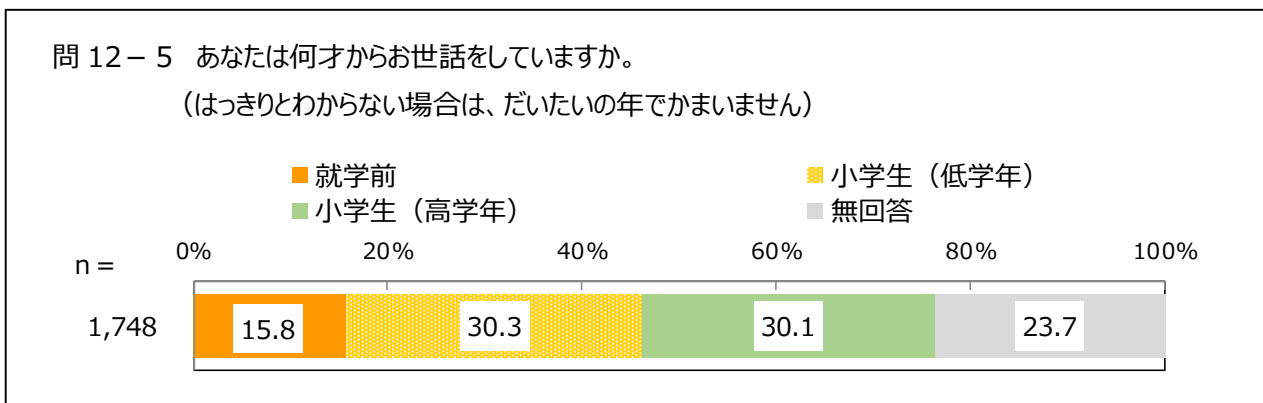
お世話の内容は、「家事 (食事の準備や掃除、洗濯)」が 40.2% で最も高く、次いで「見守り」(33.0%)、「話を聞く、話し相手になるなど」(25.1%)、「きょうだいのお世話や保育所等への送り迎えなど」(15.3%) となっている。

(5) お世話を一緒にしている人



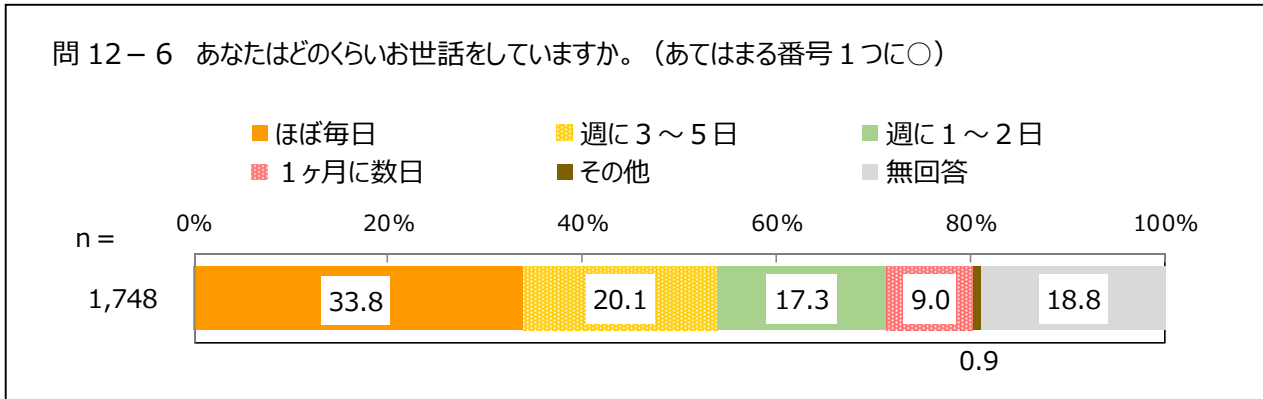
お世話を一緒にしている人は、「お母さん」が 56.9%で最も高く、次いで「お父さん」(36.9%)、「きょうだい」(30.3%)となっている。

(6) お世話を始めた年齢 (3 区分)



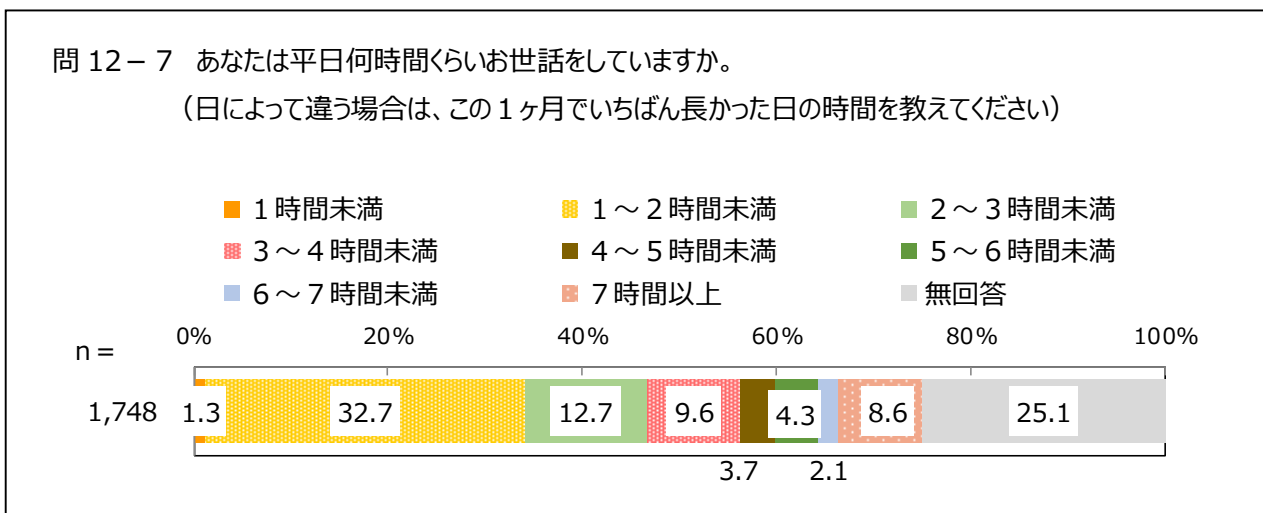
お世話を始めた年齢は、「小学生 (低学年)」が 30.3%で最も高く、次いで「小学生 (高学年)」(30.1%)、「就学前」(15.8%)となっている。

(7) お世話をしている頻度



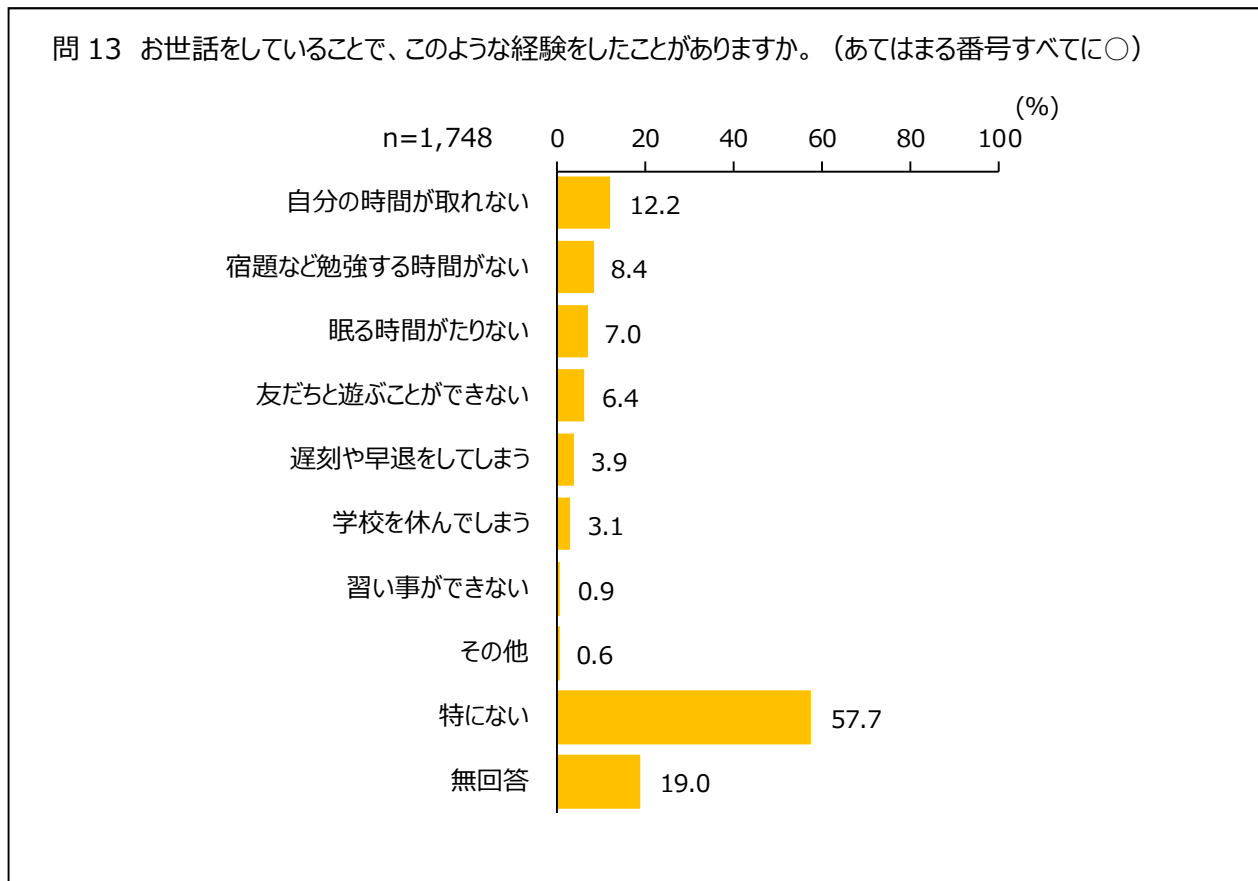
お世話をしている頻度は、「ほぼ毎日」が 33.8% で最も高く、次いで「週に 3 ~ 5 日」(20.1%)、「週に 1 ~ 2 日」(17.3%) となっている。

(8) 平日 1 日あたりにお世話を費やす時間 (8 区分)



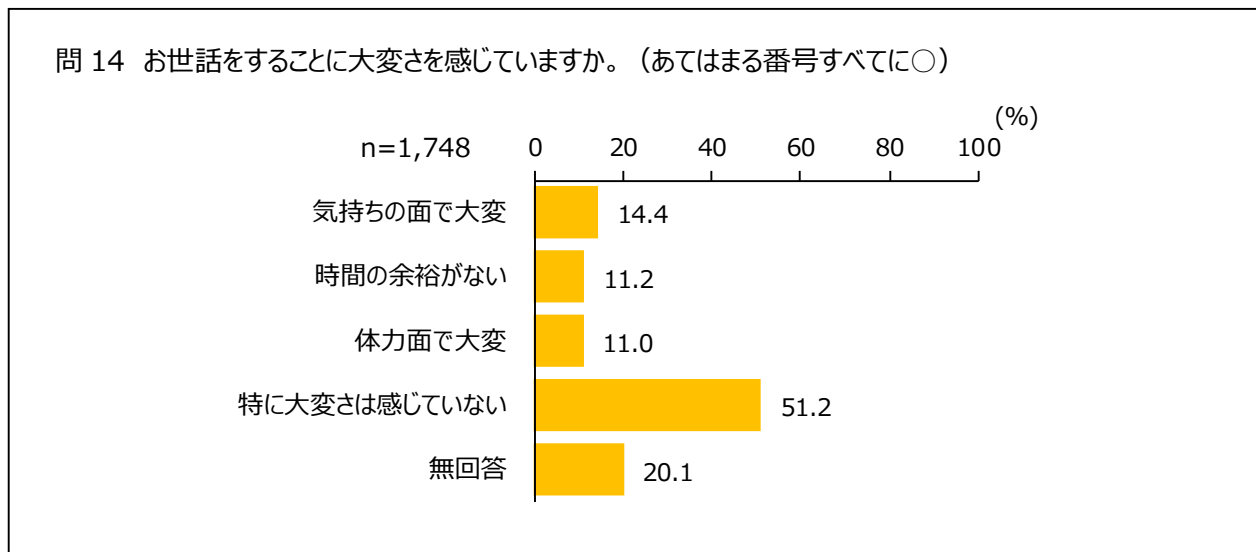
平日 1 日あたりにお世話を費やす時間は、「1 ~ 2 時間未満」が 32.7% で最も高く、次いで「2 ~ 3 時間未満」(12.7%)、「3 ~ 4 時間未満」(9.6%)、「7 時間以上」(8.6%) となっている。

(9) お世話をしているために、やりたいけれどできないこと



お世話をしているために、やりたいけれどできないことは、「特にない」が57.7%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「自分の時間が取れない」が12.2%で最も高く、次いで「宿題など勉強する時間がない」(8.4%)、「眠る時間がたりない」(7.0%)、「友だちと遊ぶことができない」(6.4%)となっている。

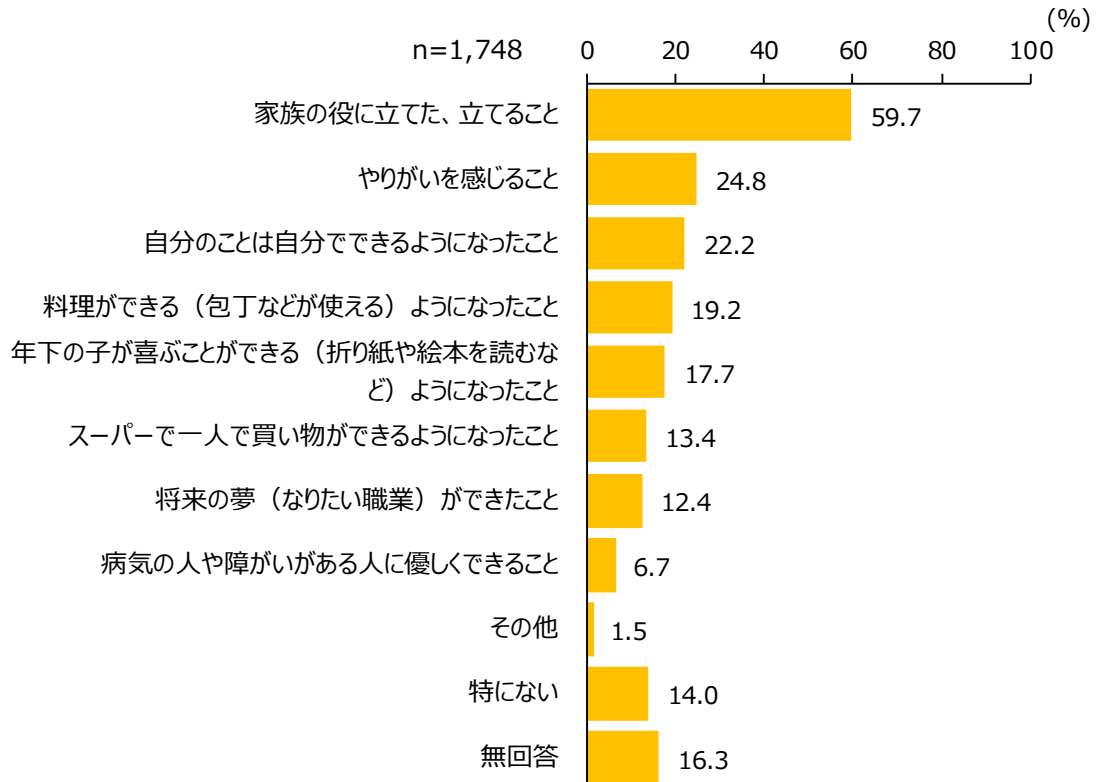
(10) お世話の大変さ



お世話の大変さは、「特に大変さを感じていない」が51.2%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「気持ちの面で大変」が14.4%で最も高く、次いで「時間の余裕がない」(11.2%)、「体力面で大変」(11.0%)となっている。

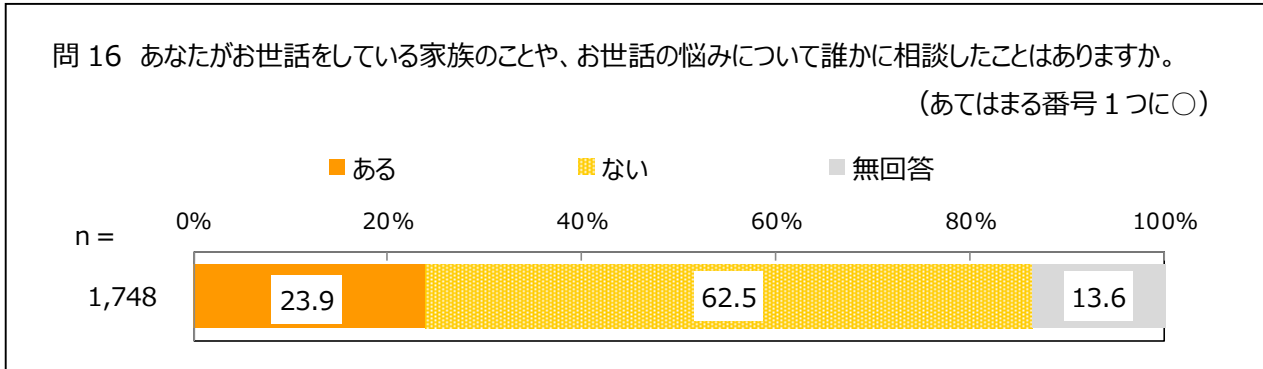
(11) お世話をすることでよかったと思うこと

問 15 お世話をすることで、よかったと思うことを教えてください。(あてはまる番号すべてに○)



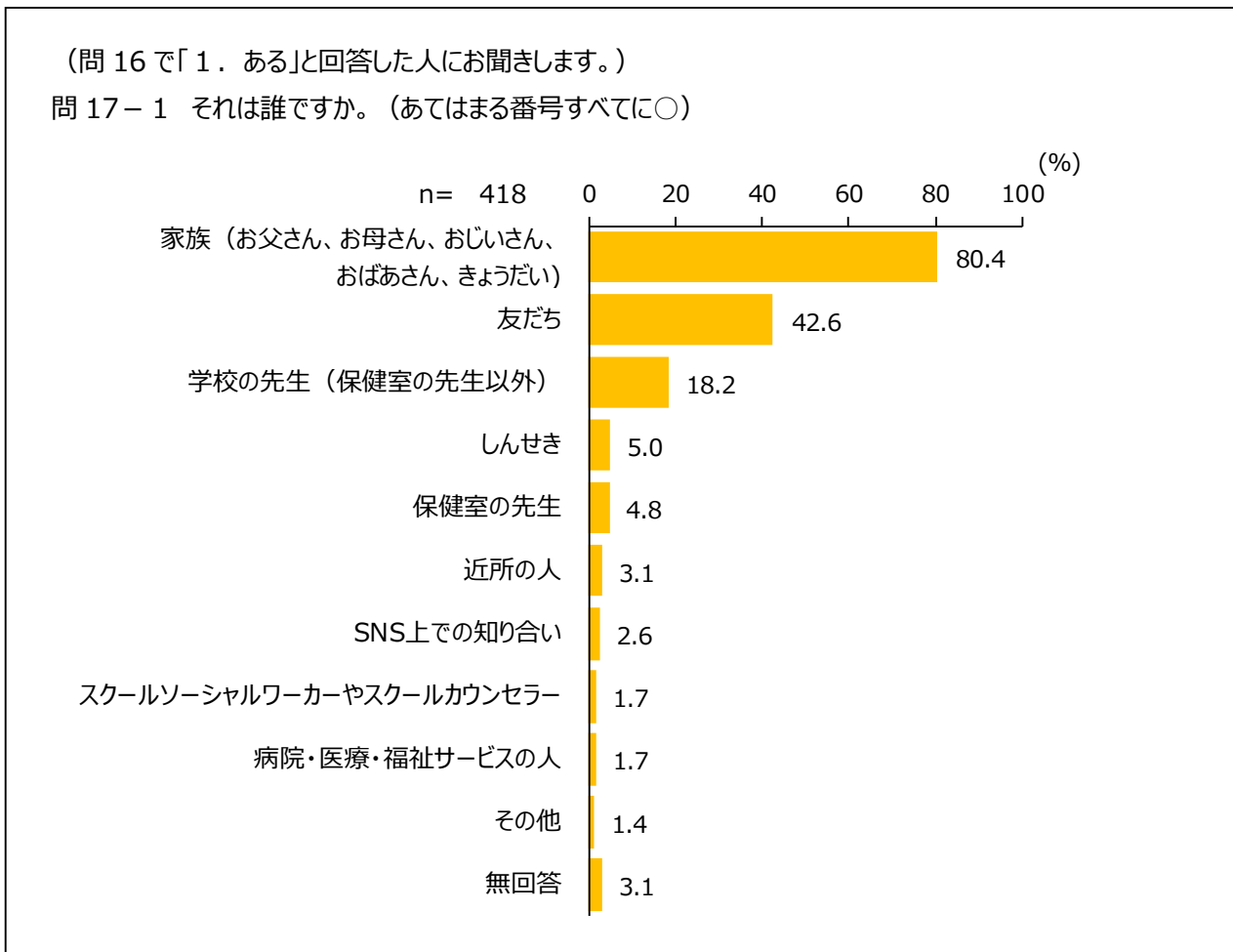
お世話をすることでよかったと思うことは、「家族の役に立てた、立てること」が 59.7%で最も高く、次いで「やりがいを感じる」(24.8%)、「自分のことは自分でできるようになったこと」(22.2%)、「料理ができる(包丁などが使える)ようになったこと」(19.2%)となっている。

(12) お世話について相談した経験



お世話について相談した経験は、「ある」が 23.9%、「ない」が 62.5%となっている。

(13) お世話についての相談相手

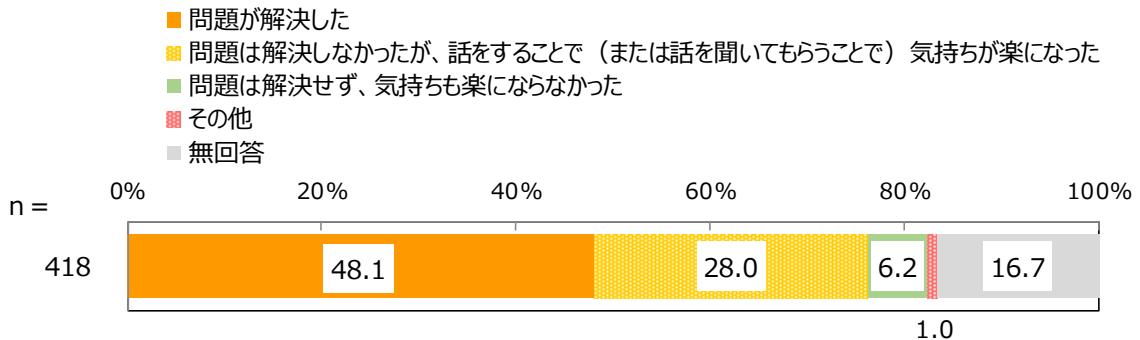


お世話についての相談相手は、「家族 (お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい)」が 80.4%で最も高く、次いで「友だち」(42.6%)、「学校の先生 (保健室の先生以外)」(18.2%)となっている。

(14) 相談した結果

(問 16 で「1. ある」と回答した人にお聞きます。)

問 17-2 相談してどうでしたか。(あてはまる番号 1 つに○)

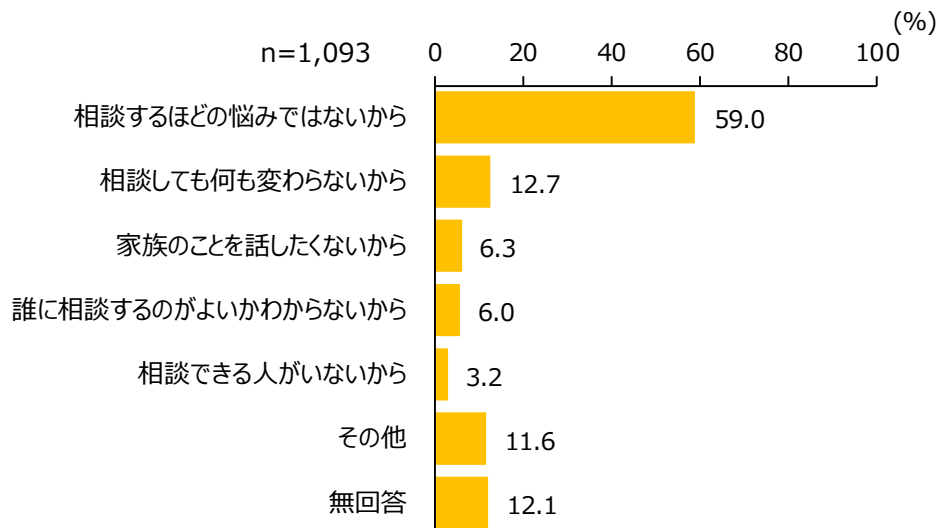


相談した結果は、「問題が解決した」が 48.1% で最も高く、次いで「問題は解決しなかったが、話をすることで（または話を聞いてもらうことで）気持ちが楽になった」(28.0%)、「問題は解決せず、気持ちも楽にならなかった」(6.2%) となっている。

(15) お世話について相談したことがない理由

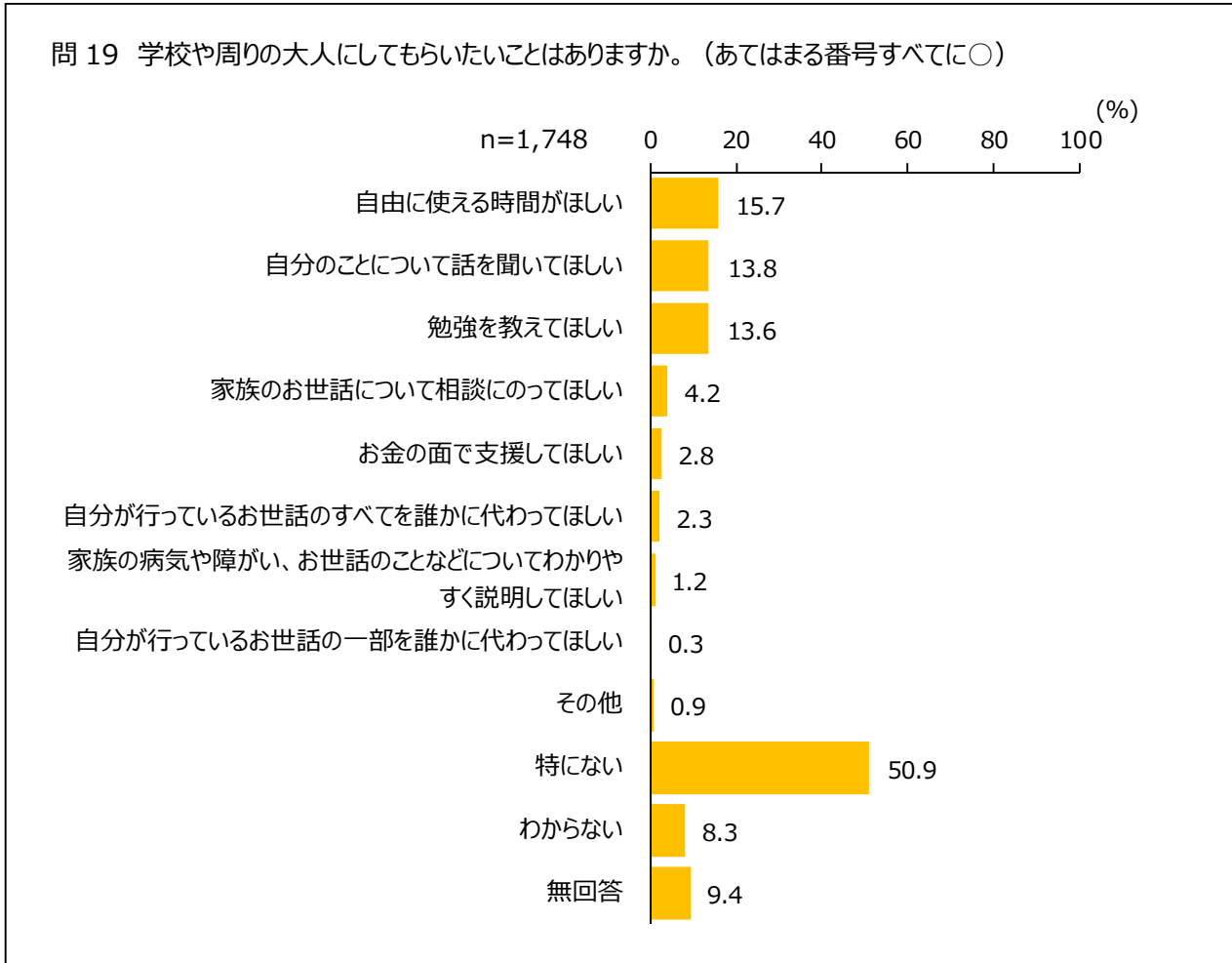
(問 16 で「2. ない」と回答した人にお聞きます。)

問 18 相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)



お世話について相談したことがない理由は、「相談するほどの悩みではないから」が 59.0% で最も高く、次いで「相談しても何も変わらないから」(12.7%)、「その他」(11.6%) となっている。なお、「その他」の内容には、「特に悩みがないから」、「めんどくさいから」、「心配させたくないから」などがあった。

(16) 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

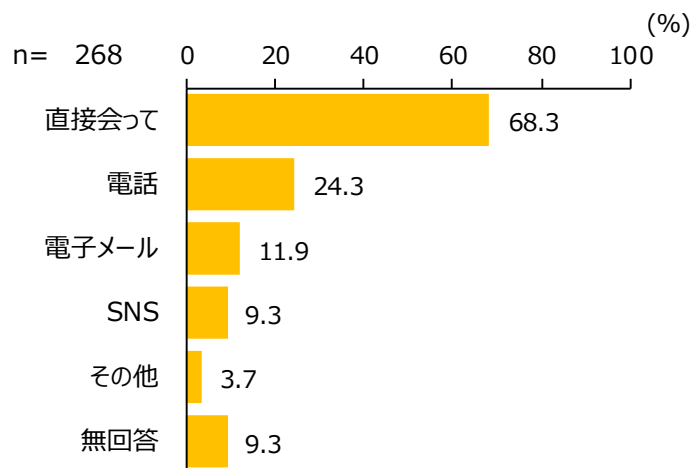


学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援は、「特にない」が50.9%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「自由に使える時間がほしい」が15.7%で最も高く、次いで「自分のことについて話を聞いてほしい」(13.8%)、「勉強を教えてほしい」(13.6%)となっている。

(17) 相談する方法

(問 19 で「1. 自分のことについて話を聞いてほしい」「2. 家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人にお聞きます。)

問 20 どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。(あてはまる番号すべてに○)



相談する方法は、「直接会って」が 68.3%で最も高く、次いで「電話」(24.3%)、「電子メール」(11.9%)、「SNS」(9.3%)となっている。

(18) 自由意見

問 21 家族のお世話をしている子どもにとって、必要だと思うことや学校や周りの大人にしてもらいたいことを自由にかいてください。

以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

①家族のお世話をしている子どもにとって、必要だと思うこと

- ・ヘルパーなど大人の手を借りて、世話してもらうなどの対処が必要だと思いました。それは、僕にも障害者の兄がいるのですがヘルパーさんと呼ぶことによって母や父、そして本当にたまに手伝う僕が少し楽になったと感じたことがあったからです。
- ・家族のお世話をしている子供には、おせわをてつだってくれるひとがみつようだと思う。学校や周りの大人に状況を理解してもらい、できる限りの範囲で手伝ってあげればいいと思う。
- ・大人に頼ろうとしてもいなかったり頼れない理由があると思うし、先生方などの大人に相談をしたくても相談するには勇気が出ない人いると思う。でもそれはなやみがあったら相談するという世の中になっていないからだと思う。大人に話したら気が楽になるということをまだわからないから心のなかにしまい込んでしまい一生治らない傷になってしまうのだと思う。私達は味方だよということ言って誰もが相談できる世の中にするのが大事ですべきことだと思う。
- ・ヤングケアラーの人にとって必要なことは相談できる場所だと思います。CM で見たことがあるのですが、ヤングケアラーのなかには心が元気ではない人がいると思います。だから私は、相談できる人がいて相談すれば完全には治らないかもしれないけど、少しは気が楽になると思います。
- ・放課後などにヤングケアラー教室を開いたり、そこでいろいろないけんを聞いたりできるようにすれば少しでも気持ちが晴れると思うし、その子の話を聞いた人もそういうことがあったんだといういろのことを知れると思ったから。
- ・家族のことをお世話していることはとってもいいことだけど少しでも自分の時間を作ってあげたい。介護センターを無料で貸出したりするとヤングケアラーの子達に自由な時間が与えられると思う。
- ・家族のお世話をしている子は、きっと家族のことで精一杯で自分のやりたいことなどができていないと思います。なので、自分の時間を作ることが必要だと思います。
- ・地域全体でその「家族のお世話をしている子ども」を支えていく必要がある。また、そのような状態に気付いてもらえない子供もいると思うので、周りの大人がその子の状態を知れるアンケートなどを積極的に行う必要もあると思う。
- ・家事などの支援をしてくれる人や、勉強の手伝いをしてくれるような団体を作ったら良いと思います。
- ・相談や、やり方の説明、みんなへの理解を高めるなどが必要だと思います。そして、自分の勉強を進められるように、オンラインなどで参加できるようにする。
- ・お世話をしている子供が自分がそういうことをしているとは恥ずかしいなどと言えないこともあると思う。だから周りの人が気づいてあげたり、手伝える人がいればいいと思います。
- ・学校の友達などが、家族のお世話をしている子に寄り添ってあげること。

②要望・求める支援（お世話をしている家族がいると回答した児童の意見）

<p>・休む時間や、宿題をする時間、寝る時間など生活リズムが崩れないように周りの大人や、家族などに手伝ってほしい。そしてたまには、自由時間や、遊ぶ時間などを作ってほしい。手伝ってばかりだと気持ちの変化があったり、そのせいで学校に行かなかったり塾を休んだりなどの影響があるしストレスがたまったりするから休みが欲しい。けれどなるべく家族と関わっていき仲を深めて良い生活をしていきたい。</p>
<p>・自由な時間、家族と一緒に過ごす時間。家族のお世話を少しでも周りの大人に手伝いをしてもらいたい。</p>
<p>・お世話をしてる分、自由時間を取ってくれたり、勉強を教えてくださいたいです。これからも、親の役に立てるようにがんばりたいです。頑張ろうと思えるいいことがあってほしいです。</p>
<p>・家族だし、寄り添ってあげることは当たり前だと思います。身の回りの人にも優しくしてあげたいです。</p>
<p>・気軽に相談できる人がいたら嬉しいです。電話の相談だと緊張してなかなか電話をかけられないです。話しづらいです。友達感覚で話せる人がいないと一人で抱え込んでしまう性格なので相談できたらいいです。両親が共働きなので家事をすることが当たりの日常で誕生日の日もおめでとうの一言もくれません。自分の心が休める時間がほしいです。</p>
<p>・手伝いなどいろいろやることで、宿題とか課題のていしゅつびに、出せなくなって学習グループの子に怒られてしまったり、せんせいにもじじょうをはなしたら分かってもらえたけど、グループの子は、はなしをきいてくれなくて、いつも怒られてしまいます。</p>
<p>・家族のお世話は、家族と励まし合いながらやることが必要だと思います。また友達にしてもらいたいことは特になのですが私とずっと仲良くしてもらいたいなと思っています。また周りの大人にはもしなにかあったら相談に乗ってもらいたいなと思っています。</p>

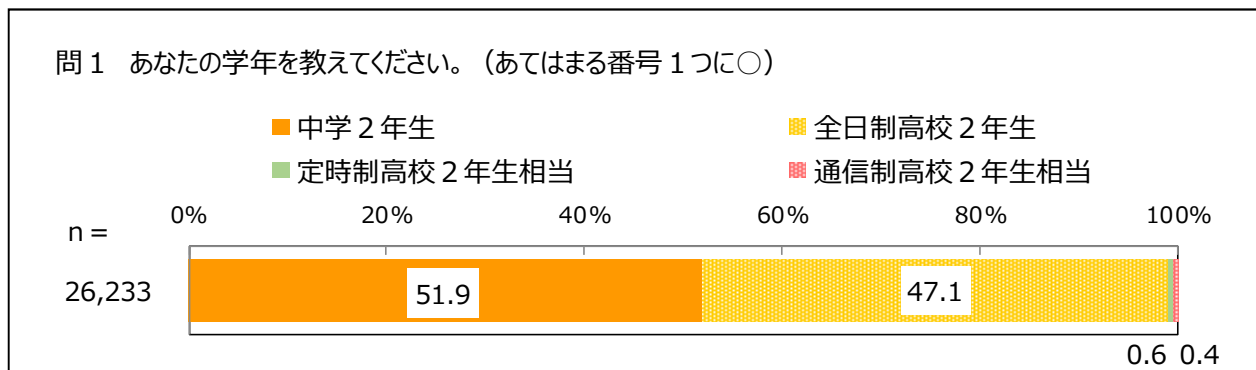
③その他

<p>・大人がやらなくてはいけないことを、子供がやるのは少し良くないと思う。もし子供がお世話をしていたら、大人が支援してあげたほうが良いと思う。</p>
<p>・家族の誰かを日常的にお世話をしている子供にとって、お世話をすることは当たり前になってしまっているので、当たり前ではないことをおしえてあげてほしいです。</p>
<p>・家族のことをお世話している子供と普通に学校生活、家での生活をしている人と同じように過ごして平等に過ごしてほしい。そして何か夢を持っていたり何かをやりたいという人のために、その「夢」や「やりたい」を叶えてほしいです。</p>
<p>・テレビのCMで、誰かに相談できていないヤングケアラーが60%以上だというものがやっていました。相談窓口なども、家事や介護をしている人には、手が届きにくいと思います。もっと相談しやすい仕組みを整えるべきだと思います。</p>
<p>・もっと、皆が生きやすい世の中にしてほしい。障害を持っている人、何かの事故で体の一部をなくしてしまった人、そういう人の差別・いじめなどをなくしてほしい。</p>

II 中高生の生活実態に関する調査結果

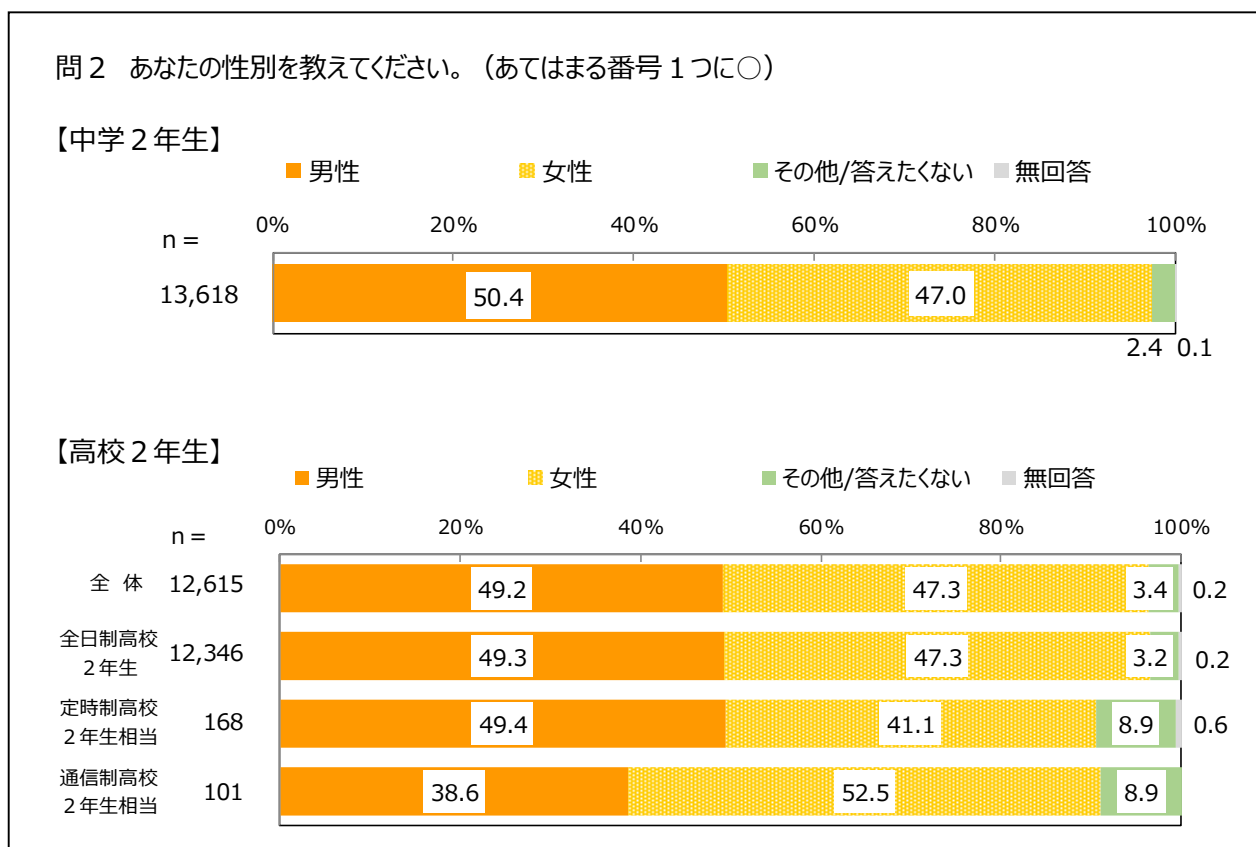
1 基本情報

(1) 学年



学年は、「中学2年生」が51.9%、「全日制高校2年生」が47.1%、「定時制高校2年生相当」が0.6%、「通信制高校2年生相当」が0.4%となっている。

(2) 性別

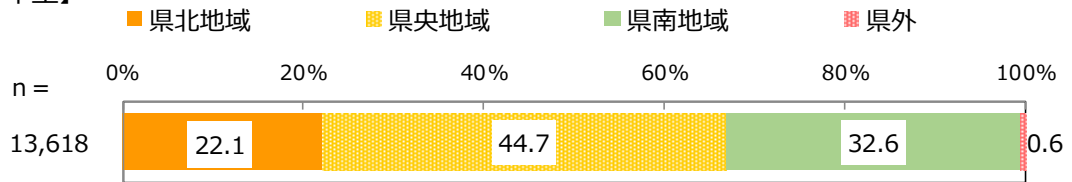


性別は、中学2年生で「男性」が50.4%、「女性」が47.0%となっている。
 高校2年生全体では、「男性」が49.2%、「女性」が47.3%となっている。

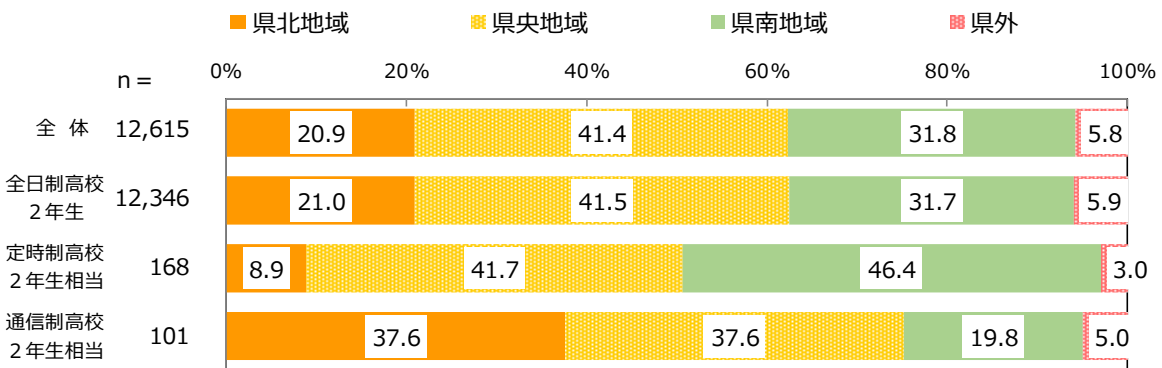
(3) 居住地 (3区分)

問3-1 現在住んでいる市町を教えてください。

【中学2年生】



【高校2年生】



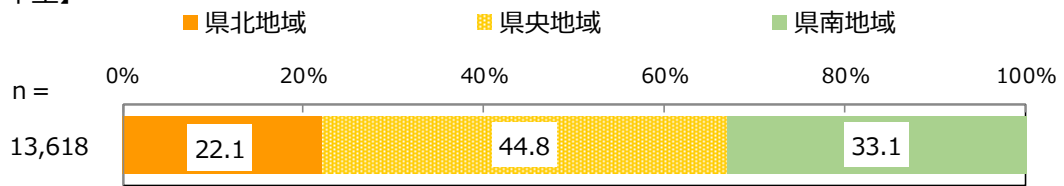
居住地は、中学2年生で「県北地域」が22.1%、「県央地域」が44.7%、「県南地域」が32.6%、「県外」が0.6%となっている。

高校2年生全体では、「県北地域」が20.9%、「県央地域」が41.4%、「県南地域」が31.8%、「県外」が5.8%となっている。

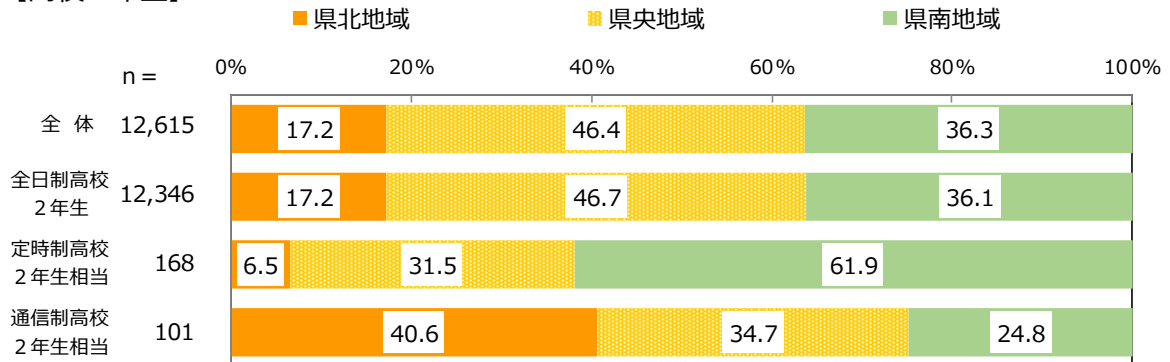
(4) 学校所在地 (3区分)

問3-2 通学している学校がある市町を教えてください。

【中学2年生】



【高校2年生】



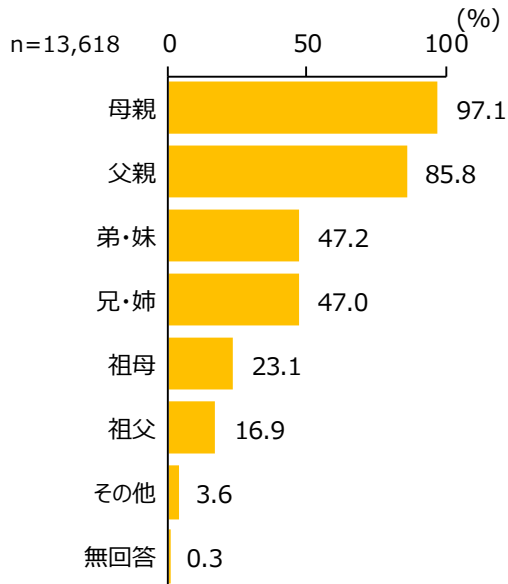
学校所在地は、中学2年生で「県北地域」が22.1%、「県央地域」が44.8%、「県南地域」が33.1%となっている。

高校2年生全体では、「県北地域」が17.2%、「県央地域」が46.4%、「県南地域」が36.3%となっている。

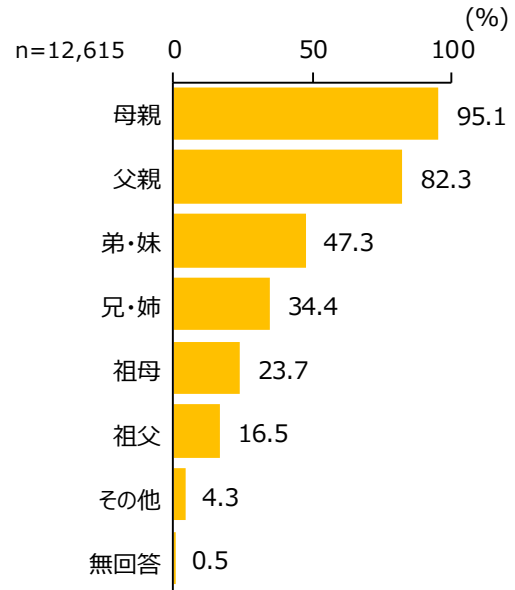
(5) 同居家族

問4 現在一緒に住んでいる家族について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

【中学2年生】



【高校2年生】



<高校2年生・学校種別>

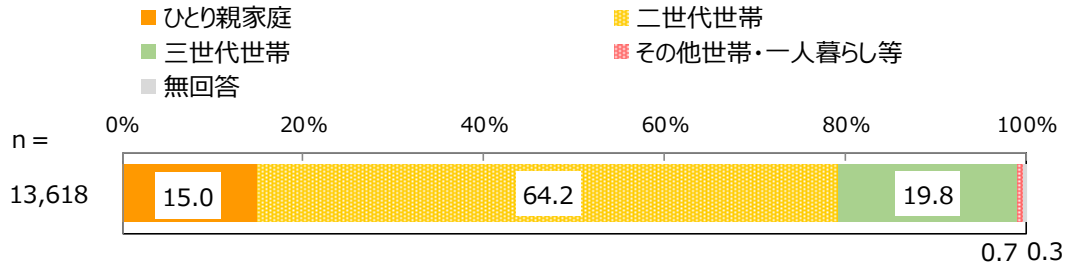
	調査数	母親	父親	弟・妹	兄・姉	祖母	祖父	その他	無回答
全日制高校2年生	12,346	95.2	82.7	47.3	34.3	23.7	16.6	4.2	0.4
定時制高校2年生相当	168	88.1	64.9	44.6	45.2	17.3	10.7	8.9	1.2
通信制高校2年生相当	101	90.1	65.3	47.5	26.7	23.8	18.8	7.9	-

同居家族は、中学2年生で「母親」が97.1%で最も高く、次いで「父親」(85.8%)、「弟・妹」(47.2%)、「兄・姉」(47.0%)となっている。

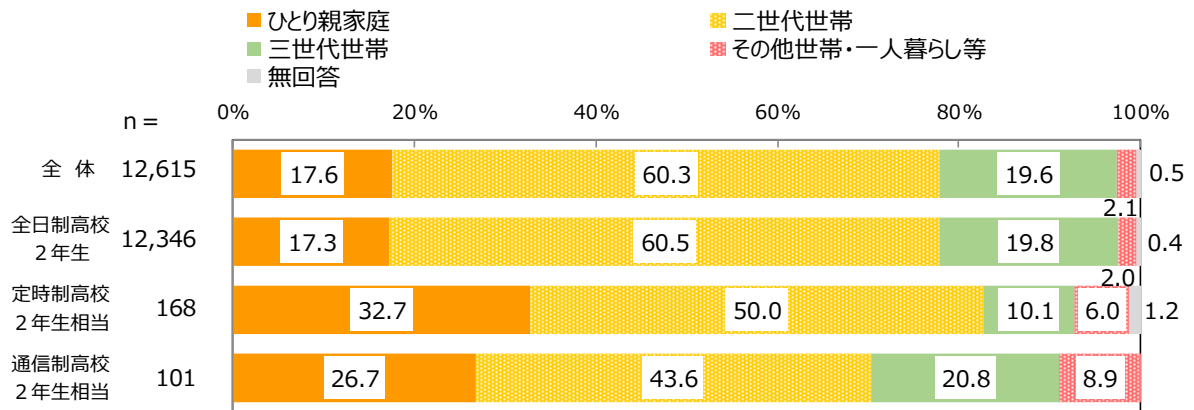
高校2年生では、「母親」が95.1%で最も高く、次いで「父親」(82.3%)、「弟・妹」(47.3%)、「兄・姉」(34.4%)となっている。

<家族構成（4区分）>

【中学2年生】



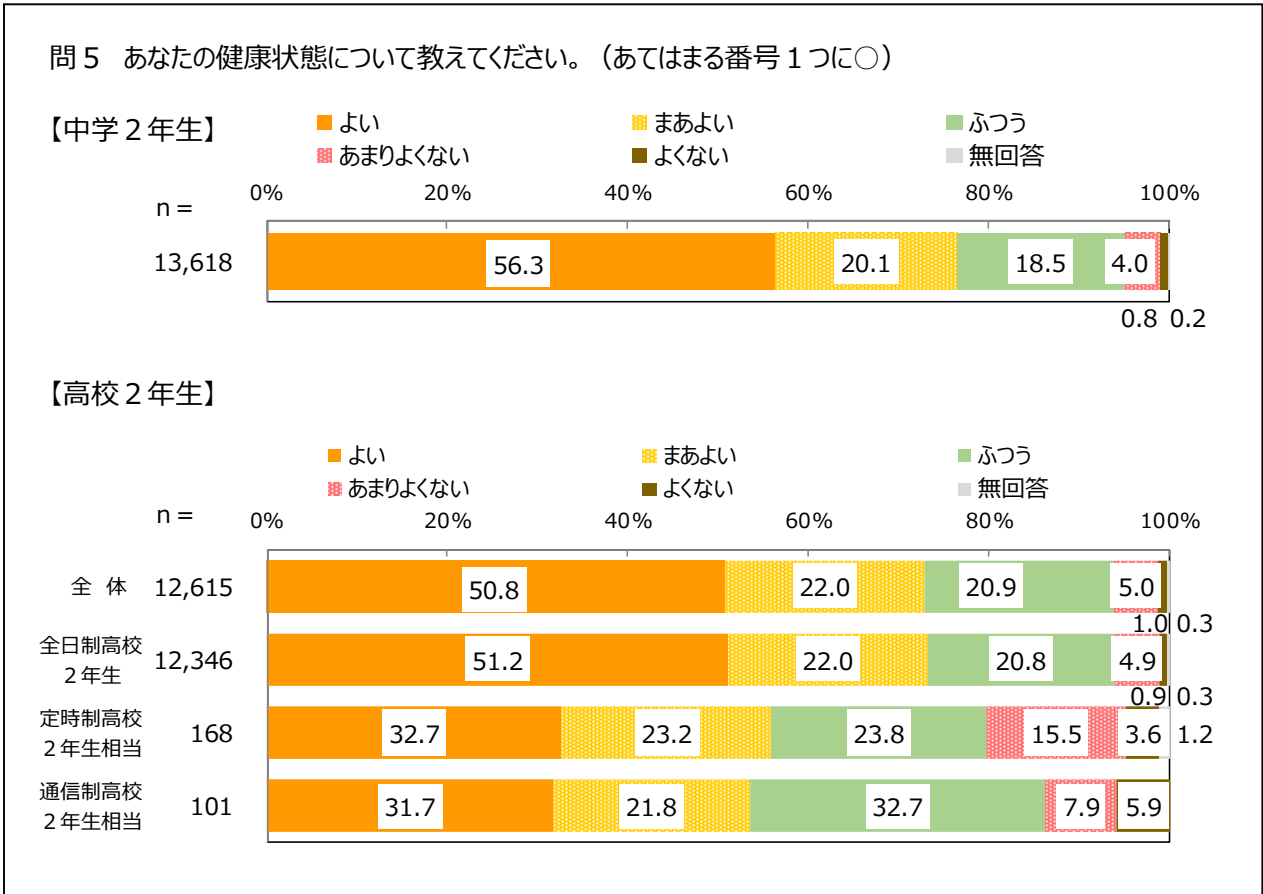
【高校2年生】



家族構成は、中学2年生で「二世帯世帯」が64.2%で最も高く、次いで「三世帯世帯」（19.8%）、「ひとり親家庭」（15.0%）となっている。

高校2年生全体では、「二世帯世帯」が60.3%で最も高く、次いで「三世帯世帯」（19.6%）、「ひとり親家庭」（17.6%）となっている。

(6) 健康状態



健康状態は、中学2年生で「よい」が56.3%で最も高く、次いで「まあよい」(20.1%)、「ふつう」(18.5%)となっている。

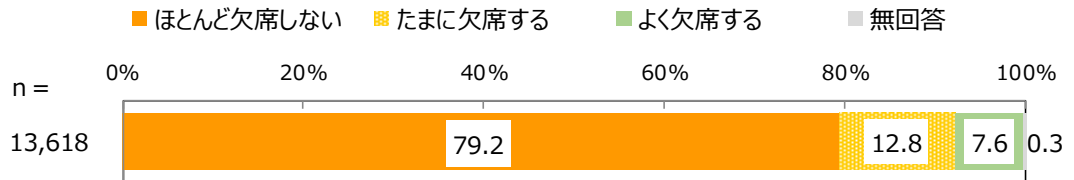
高校2年生全体では、「よい」が50.8%で最も高く、次いで「まあよい」(22.0%)、「ふつう」(20.9%)となっている。

2 普段の生活について

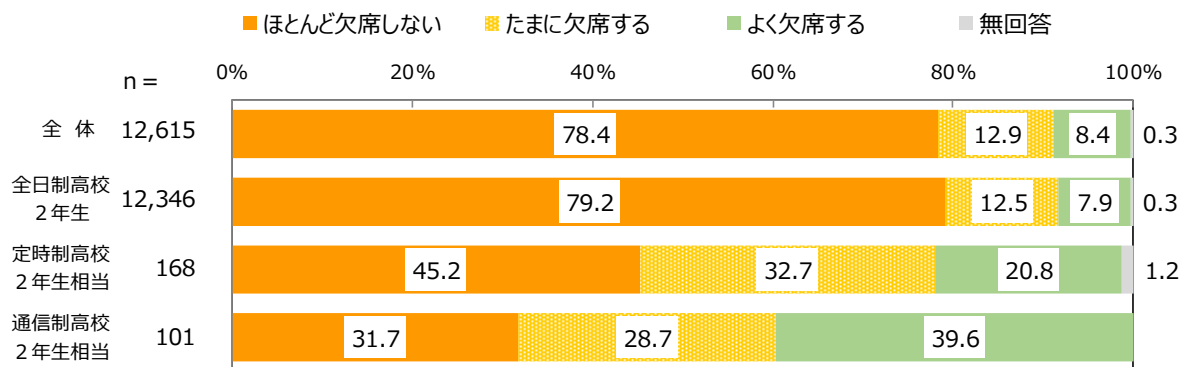
(1) 学校への通学状況（出席状況）

問6-1 学校への通学状況について教えてください。（あてはまる番号1つに○）

【中学2年生】



【高校2年生】



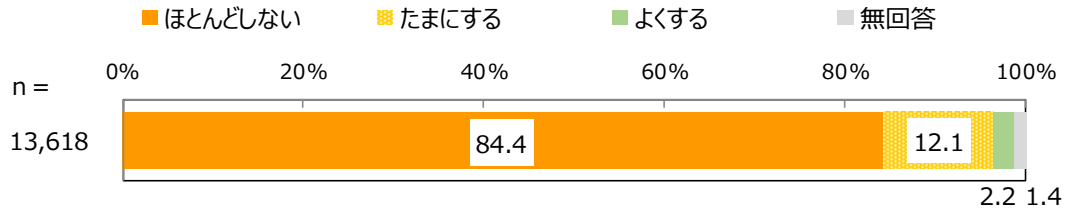
学校への通学状況（出席状況）は、中学2年生で「ほとんど欠席しない」が79.2%で最も高く、次いで「たまに欠席する」（12.8%）、「よく欠席する」（7.6%）となっている。

高校2年生全体では、「ほとんど欠席しない」が78.4%で最も高く、次いで「たまに欠席する」（12.9%）、「よく欠席する」（8.4%）となっている。

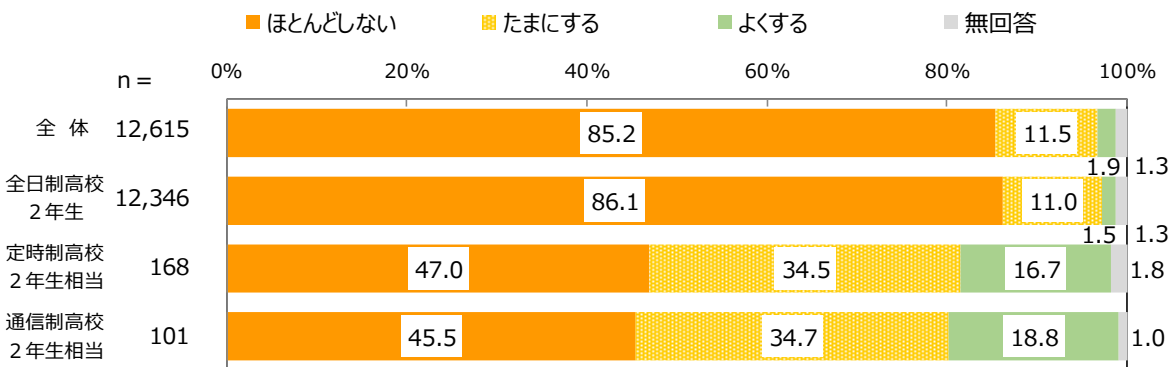
(2) 学校への通学状況（遅刻や早退の状況）

問6-2 学校への通学状況について教えてください。（あてはまる番号1つに○）

【中学2年生】



【高校2年生】



学校への通学状況（遅刻や早退の状況）は、中学2年生で「ほとんどしない」が84.4%で最も高く、次いで「たまにする」（12.1%）となっている。

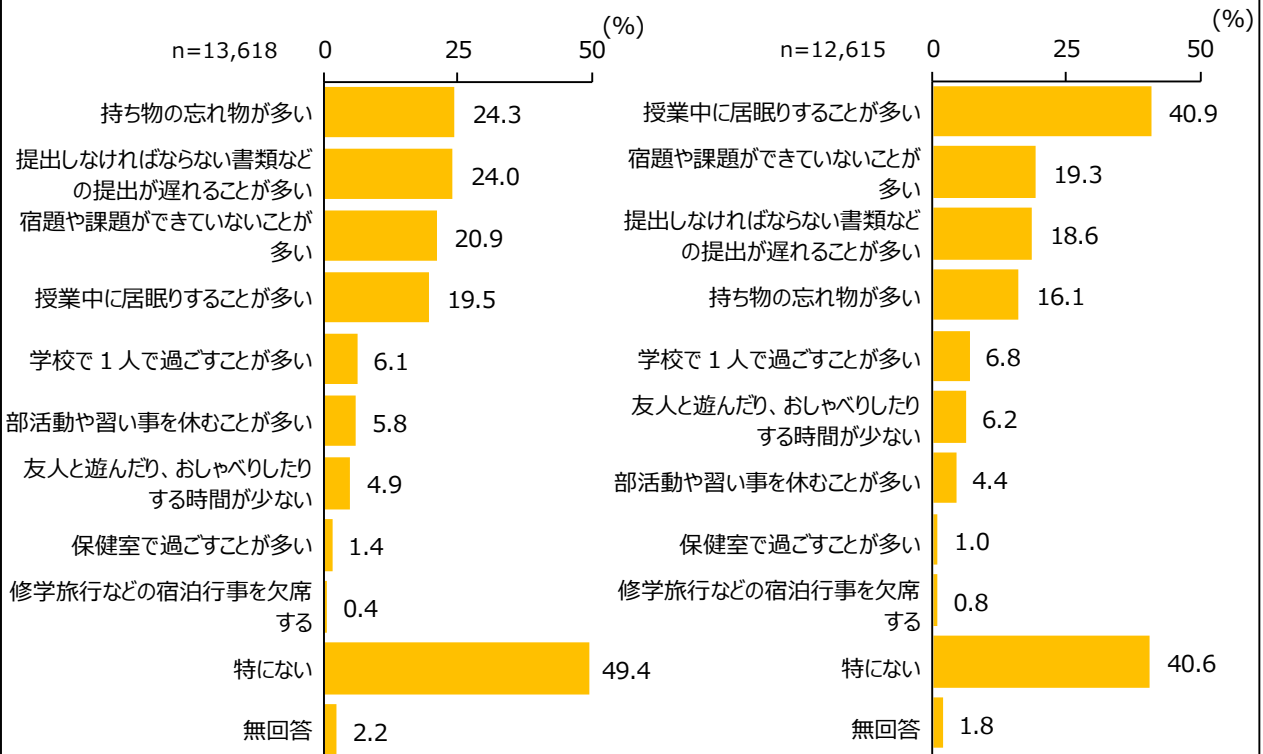
高校2年生全体では、「ほとんどしない」が85.2%で最も高く、次いで「たまにする」（11.5%）となっている。

(3) ふだんの生活についてあてはまること

問7 ふだんの学校生活等においてあてはまるものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

【中学2年生】

【高校2年生】



<高校2年生・学校種別> (上位7項目+「特にない」)

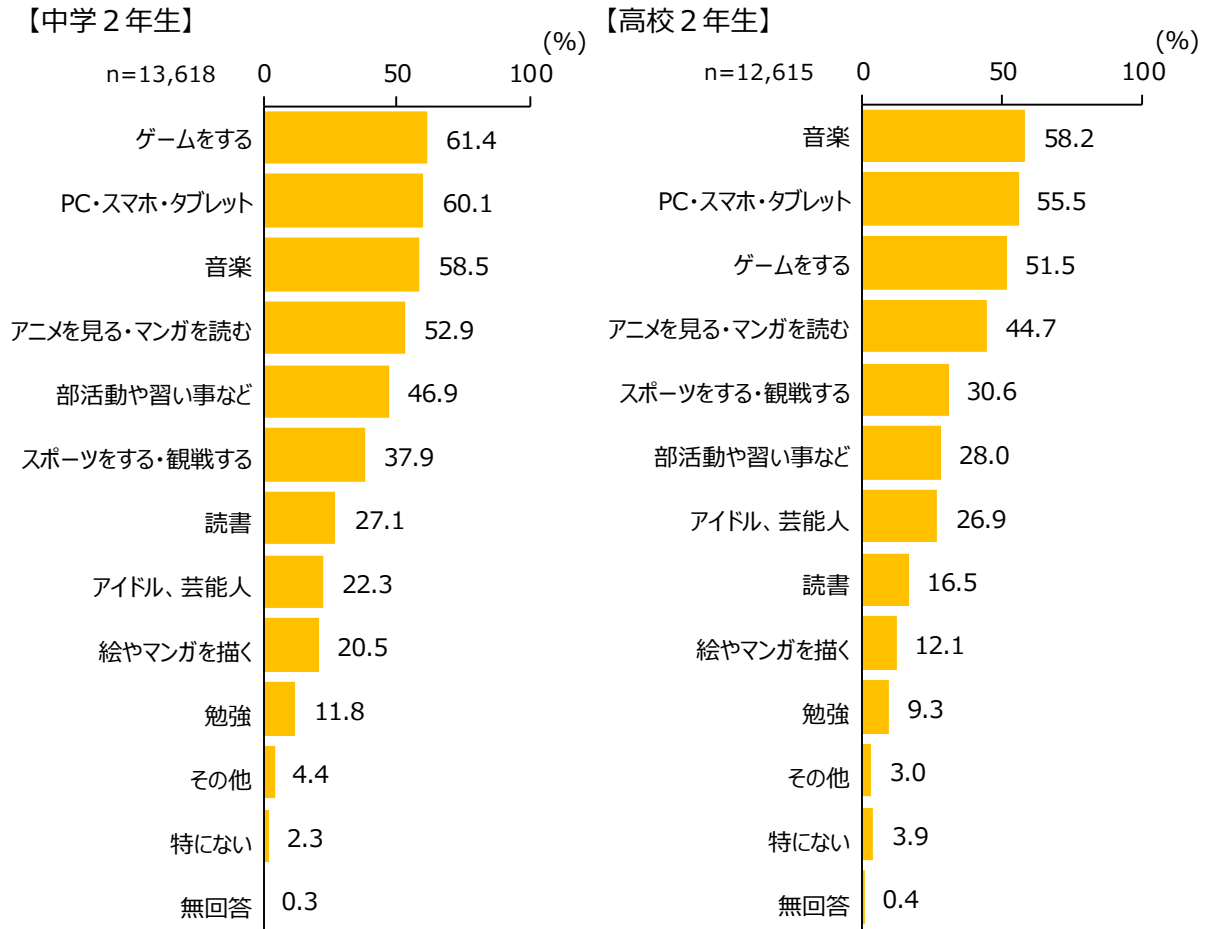
	調査数	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い	持ち物の忘れ物が多い	学校で1人で過ごすことが多い	時間や遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	部活動や習い事を休むことが多い	特にない (%)
全日制高校2年生	12,346	41.3	19.2	18.4	16.2	6.3	5.9	4.4	40.8	
定時制高校2年生相当	168	27.4	17.9	25.0	11.9	24.4	16.1	7.1	33.3	
通信制高校2年生相当	101	19.8	27.7	31.7	14.9	36.6	25.7	7.9	27.7	

ふだんの学校生活についてあてはまることは、中学2年生で「特にない」が49.4%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「持ち物の忘れ物が多い」が24.3%で最も高く、次いで「提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い」(24.0%)、「宿題や課題ができていないことが多い」(20.9%)、「授業中に居眠りすることが多い」(19.5%)となっている。

高校2年生全体では、「授業中に居眠りすることが多い」が40.9%で最も高く、次いで「宿題や課題ができていないことが多い」(19.3%)、「提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い」(18.6%)、「持ち物の忘れ物が多い」(16.1%)となっている。一方、「特にない」は40.6%だった。

(4) 熱中しているもの

問8 熱中しているものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)



<高校2年生・学校種別> (上位7項目)

	調査数	音楽	PC・スマホ・タブレット	ゲームをする	アニメを見る・マンガを読む	スポーツをする・観戦する	部活動や習い事など	アイドル、芸能人
全日制高校2年生	12,346	58.2	55.5	51.1	44.5	30.9	28.4	27.1
定時制高校2年生相当	168	59.5	53.0	73.2	50.0	18.5	11.3	17.3
通信制高校2年生相当	101	57.4	59.4	60.4	50.5	10.9	5.9	18.8

熱中しているものは、中学2年生で「ゲームをする」が61.4%で最も高く、次いで「PC・スマホ・タブレット」(60.1%)、「音楽」(58.5%)、「アニメを見る・マンガを読む」(52.9%)となっている。

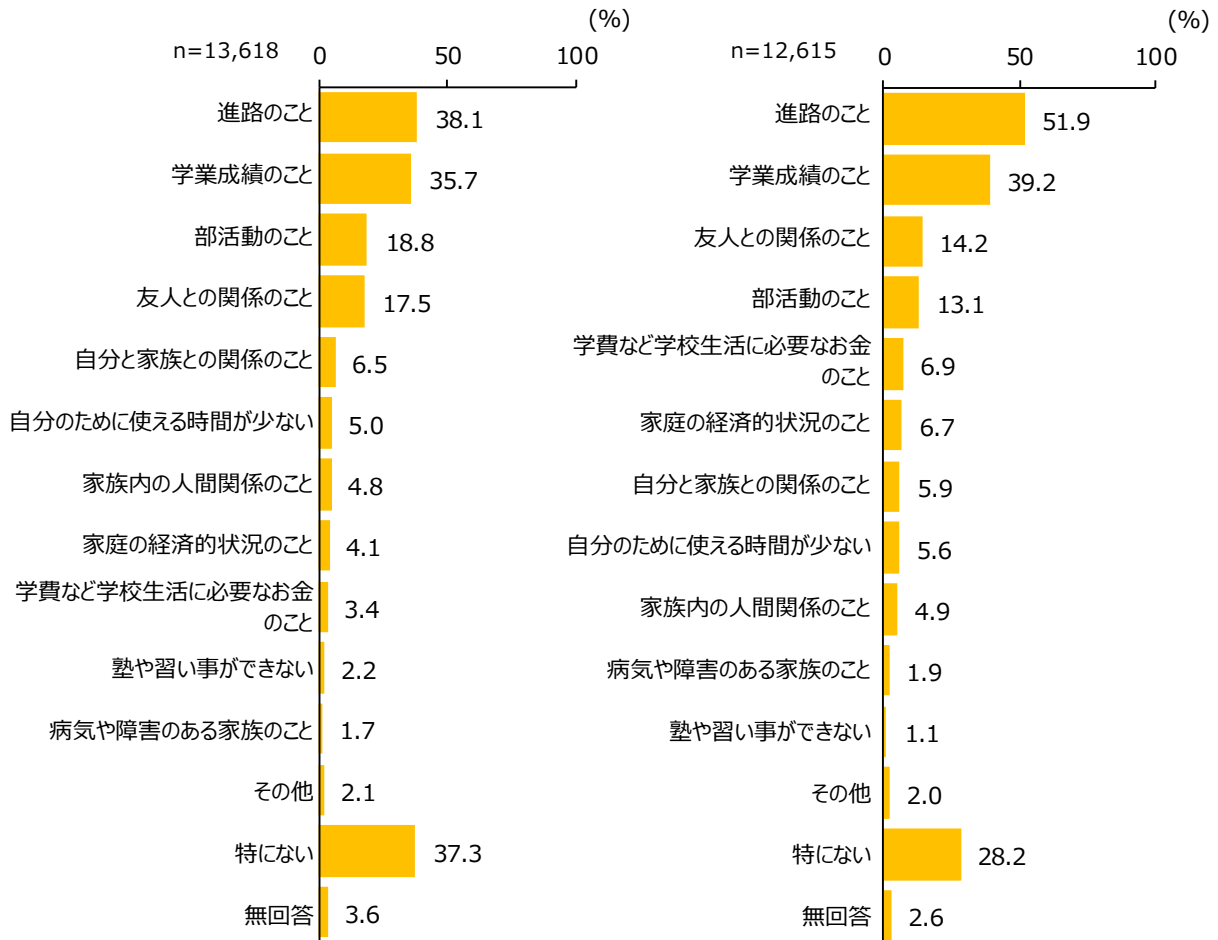
高校2年生全体では、「音楽」が58.2%で最も高く、次いで「PC・スマホ・タブレット」(55.5%)、「ゲームをする」(51.5%)、「アニメを見る・マンガを読む」(44.7%)となっている。

(5) 現在の悩みや困りごと

問9 現在、悩んだり困っていることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

【中学2年生】

【高校2年生】



<高校2年生・学校種別> (上位7項目+「特にない」)

	調査数	進路のこと	学業成績のこと	友人との関係のこと	部活動のこと	の活ここと必要なお金	学費などこの経済的状況	家庭の経済的状況	自分と家族との関係のこと	特にない
全日制高校2年生	12,346	51.9	39.5	14.1	13.3	6.8	6.4	5.7	28.2	
定時制高校2年生相当	168	49.4	25.0	20.8	6.0	10.7	17.3	16.7	29.8	
通信制高校2年生相当	101	50.5	22.8	20.8	3.0	15.8	18.8	12.9	26.7	

現在の悩みや困りごとは、中学2年生で「進路のこと」が38.1%で最も高く、次いで「学業成績のこと」(35.7%)、「部活動のこと」(18.8%)、「友人との関係のこと」(17.5%)となっている。一方、「特にない」は37.3%だった。

高校2年生全体では、「進路のこと」が51.9%で最も高く、次いで「学業成績のこと」(39.2%)、「友人との関係のこと」(14.2%)、「部活動のこと」(13.1%)となっている。一方、「特にない」は28.2%だった。

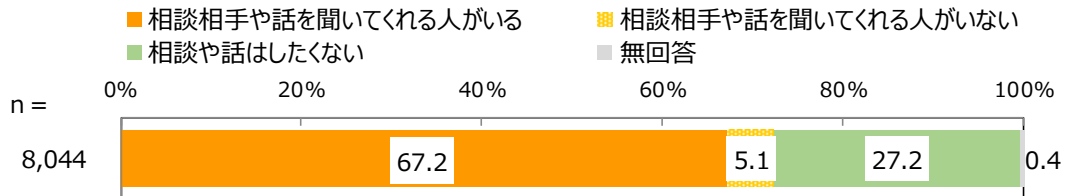
(6) 悩みや困りごとの相談相手、話を聞いてくれる人の有無

(問9で「1」～「12」のいずれかを回答した方にお聞きます。)

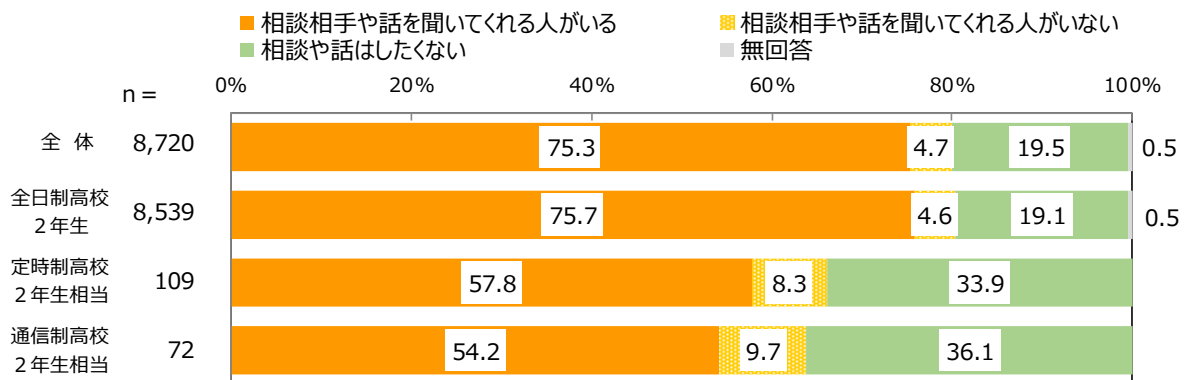
問10 回答した悩みや困りごとについて相談に乗ってくれたり話を聞いてくれる人がいますか。

(あてはまる番号1つに○)

【中学2年生】



【高校2年生】



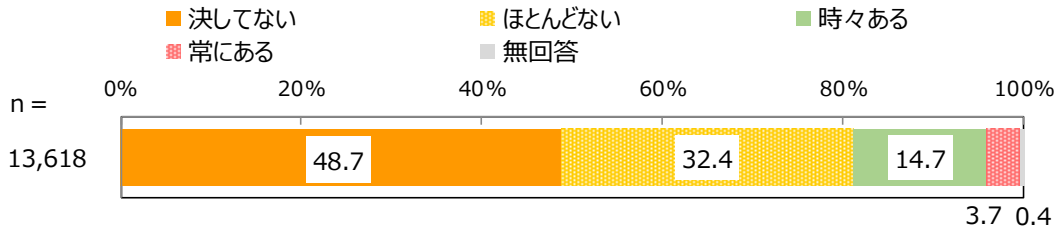
悩みや困りごとの相談相手、話を聞いてくれる人の有無は、中学2年生で「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が67.2%で最も高く、次いで「相談や話はしたくない」(27.2%)、「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」(5.1%)となっている。

高校2年生全体では、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が75.3%で最も高く、次いで「相談や話はしたくない」(19.5%)、「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」(4.7%)となっている。

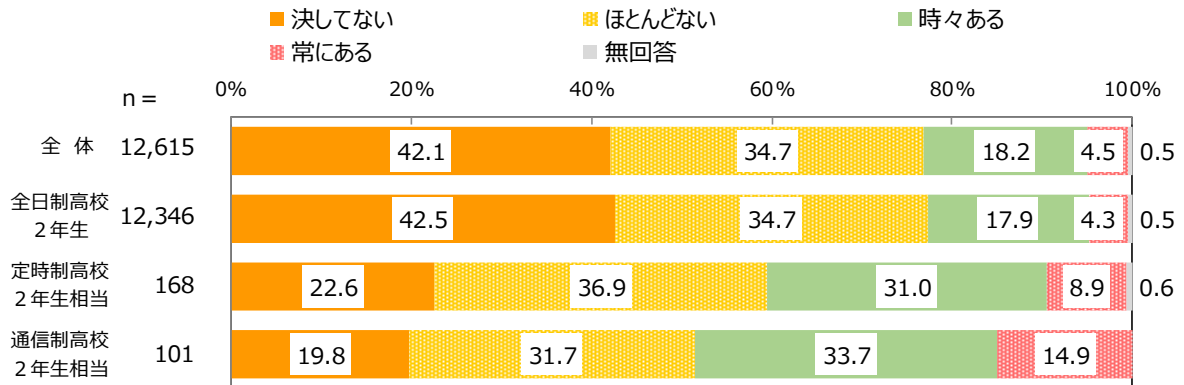
(7) 人との付き合いがないと感じるか

問 11-1 あなたは、自分には人との付き合いがないと感じることがありますか。(あてはまる番号 1 つに○)

【中学2年生】



【高校2年生】



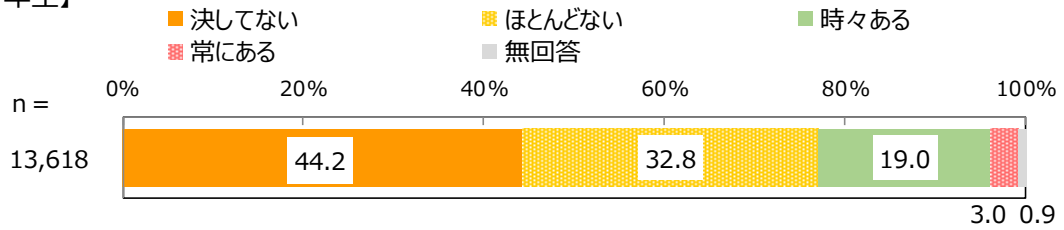
人との付き合いがないと感じるかは、中学2年生で「決してない」が48.7%で最も高く、次いで「ほとんどない」(32.4%)、「時々ある」(14.7%)、「常にある」(3.7%)となっている。

高校2年生全体では、「決してない」が42.1%で最も高く、次いで「ほとんどない」(34.7%)、「時々ある」(18.2%)、「常にある」(4.5%)となっている。

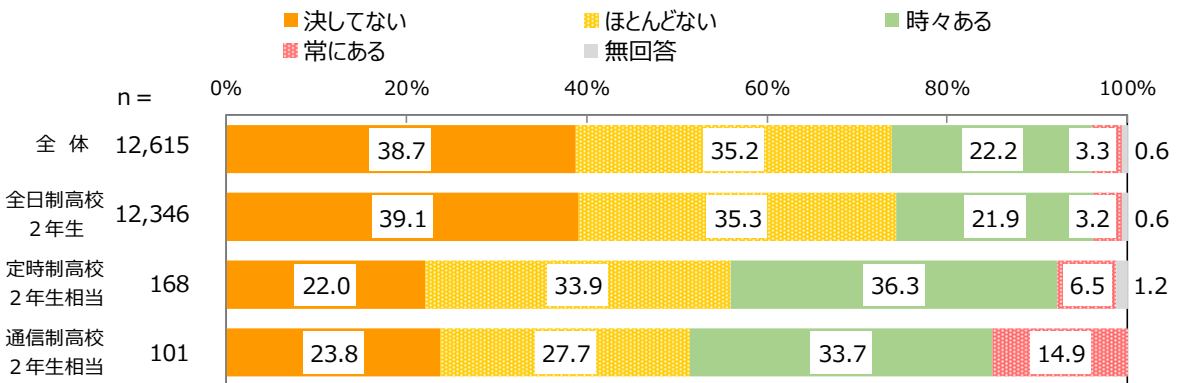
(8) 自分が取り残されていると感じるか

問 11-2 あなたは、自分が取り残されていると感じることがありますか。(あてはまる番号 1 つに○)

【中学 2 年生】



【高校 2 年生】



自分が取り残されていると感じるかは、中学 2 年生で「決してない」が 44.2% で最も高く、次いで「ほとんどない」(32.8%)、「時々ある」(19.0%)、「常にある」(3.0%)となっている。

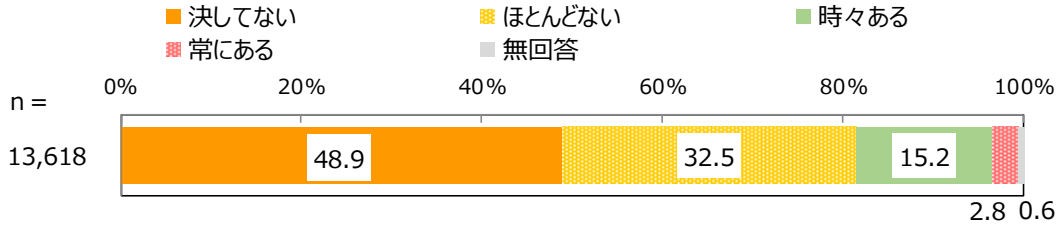
高校 2 年生全体では、「決してない」が 38.7% で最も高く、次いで「ほとんどない」(35.2%)、「時々ある」(22.2%)、「常にある」(3.3%)となっている。

(9) 孤立していると感じるか

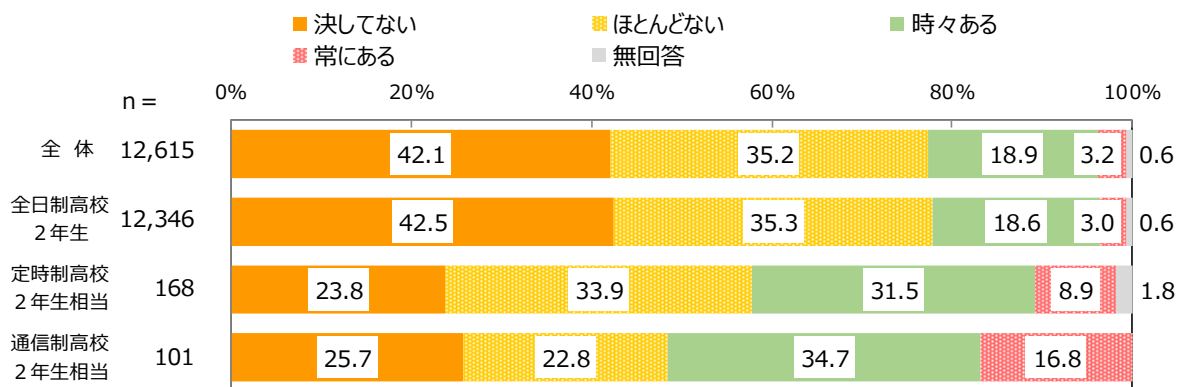
問 11-3 あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

(あてはまる番号 1 つに○)

【中学 2 年生】



【高校 2 年生】

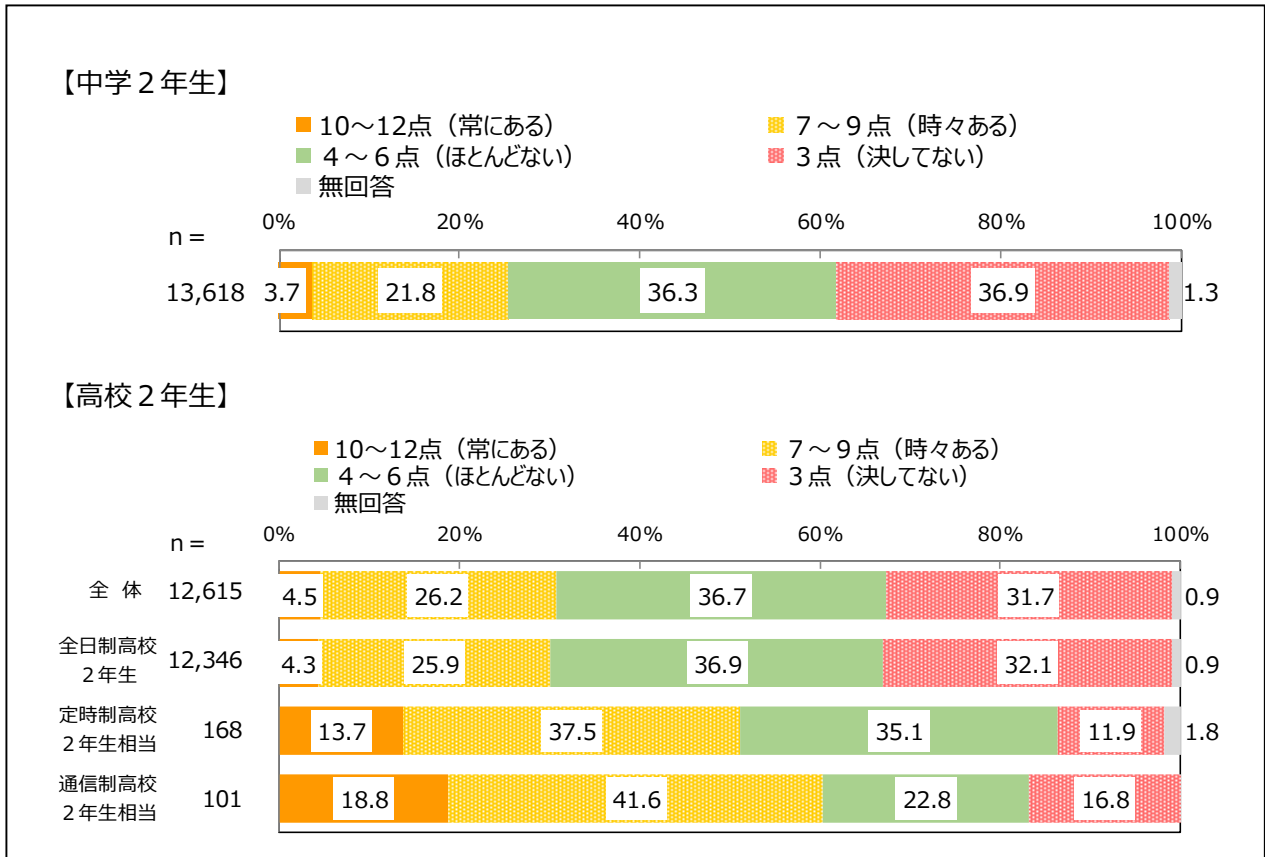


孤立していると感じるかは、中学 2 年生で「決してない」が 48.9% で最も高く、次いで「ほとんどない」(32.5%)、「時々ある」(15.2%)、「常にある」(2.8%)となっている。

高校 2 年生全体では、「決してない」が 42.1% で最も高く、次いで「ほとんどない」(35.2%)、「時々ある」(18.9%)、「常にある」(3.2%)となっている。

(10) 孤独の状況

孤独の状況は、「(7) 人と付き合いがないと感じるか」、「(8) 自分が取り残されていると感じるか」、「(9) 孤立していると感じるか」のそれぞれへの回答について、「決してない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点としてスコア化し、その合計スコアについて便宜的に「10～12点」(常にある)、「7～9点」(時々ある)、「4～6点」(ほとんどない)、「3点」(決してない)の4区分に整理した。



孤独の状況は、中学2年生で「3点 (決してない)」が36.9%で最も高く、次いで「4～6点 (ほとんどない)」(36.3%)、「7～9点 (時々ある)」(21.8%)、「10～12点 (常にある)」(3.7%)となっている。

高校2年生全体では、「4～6点 (ほとんどない)」が36.7%で最も高く、次いで「3点 (決してない)」(31.7%)、「7～9点 (時々ある)」(26.2%)、「10～12点 (常にある)」(4.5%)となっている。

※「(7) 人と付き合いがないと感じるか」、「(8) 自分が取り残されていると感じるか」、「(9) 孤立していると感じるか」から算出した「(10) 孤独の状況」は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) のラッセルが、孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定するために考案した「UCLA 孤独感尺度」の日本語版の3項目短縮版に基づくもので、3つの設問への回答をスコア化し、その合計スコアが高いほど孤独感が高いと評価する内容となっている。

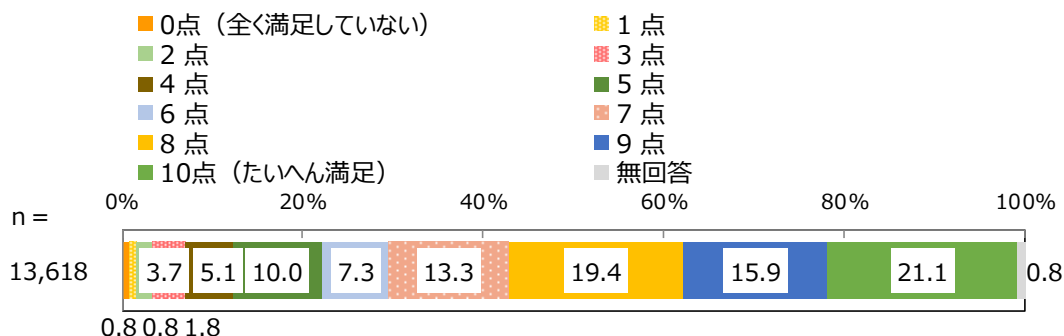
(11) 今の生活での満足度

問 12 あなたは今の生活で(学校生活や家族のことを含めて)どのくらい満足していますか。

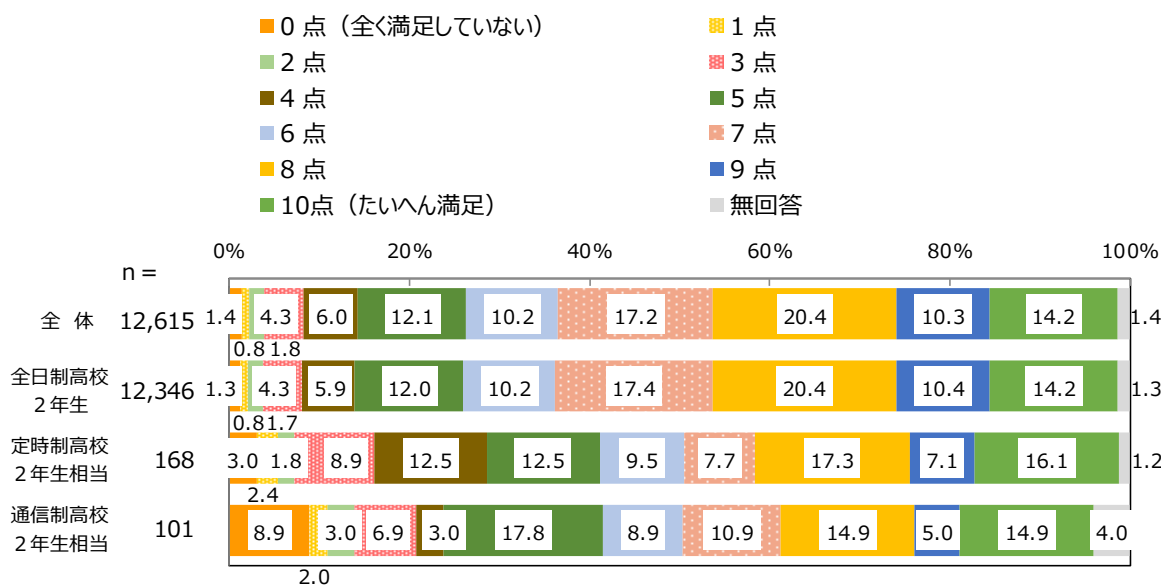
「たいへん満足」を 10 点、「全く満足していない」を 0 点とすると何点でしょうか。

(あてはまる番号 1 つに○)

【中学 2 年生】



【高校 2 年生】



今の生活での満足度は、中学 2 年生で「10 点 (たいへん満足)」が 21.1% で最も高く、次いで「8 点」(19.4%)、「9 点」(15.9%)となっている。

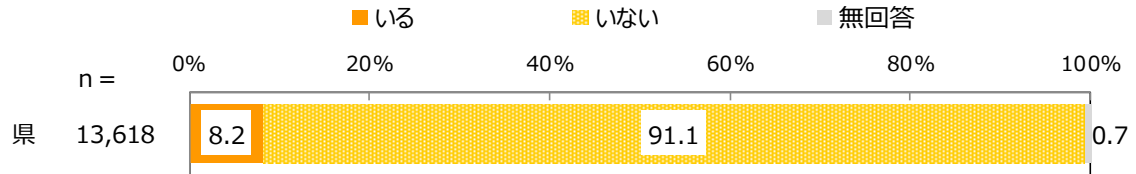
高校 2 年生全体では、「8 点」が 20.4% で最も高く、次いで「7 点」(17.2%)、「10 点 (たいへん満足)」(14.2%)となっている。

3 家庭や家族のことについて

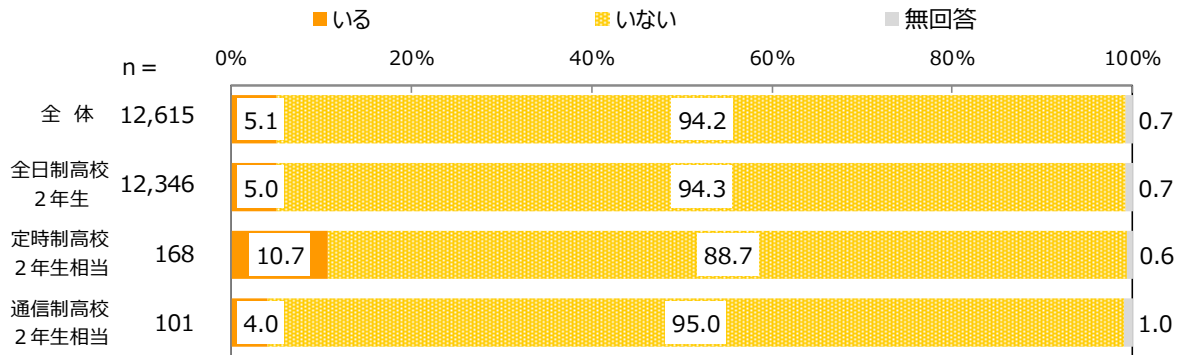
(1) お世話をしている家族の有無

問 13 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(あてはまる番号1つに○) (ここで言う「お世話」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることです)

【中学2年生】



【高校2年生】



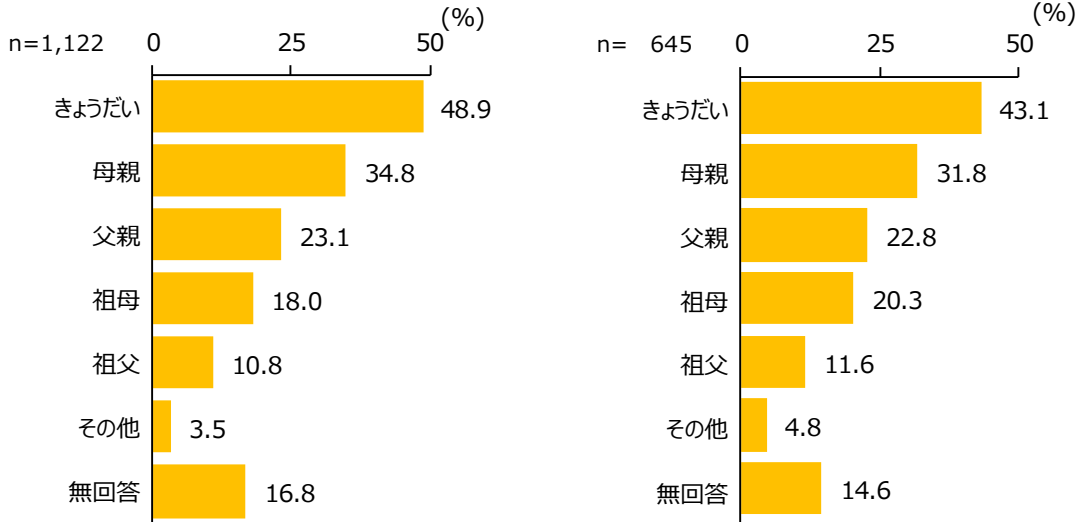
お世話をしている家族の有無は、中学2年生で「いる」が8.2%、「いない」が91.1%となっている。高校2年生全体では、「いる」が5.1%、「いない」が94.2%となっている。

(2) お世話を必要としている家族

問 14-1 お世話を必要としている方について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

【中学2年生】

【高校2年生】



<高校2年生・学校種別>

	調査数	きょうだい	母親	父親	祖母	祖父	その他	無回答
全日制高校2年生	623	42.5	32.4	22.8	20.9	12.0	4.7	14.4
定時制高校2年生相当	18	55.6	16.7	27.8	5.6	-	11.1	16.7
通信制高校2年生相当	4	75.0	-	-	-	-	-	25.0

お世話を必要としている家族は、中学2年生で「きょうだい」が48.9%で最も高く、次いで「母親」(34.8%)、「父親」(23.1%)、「祖母」(18.0%)となっている。

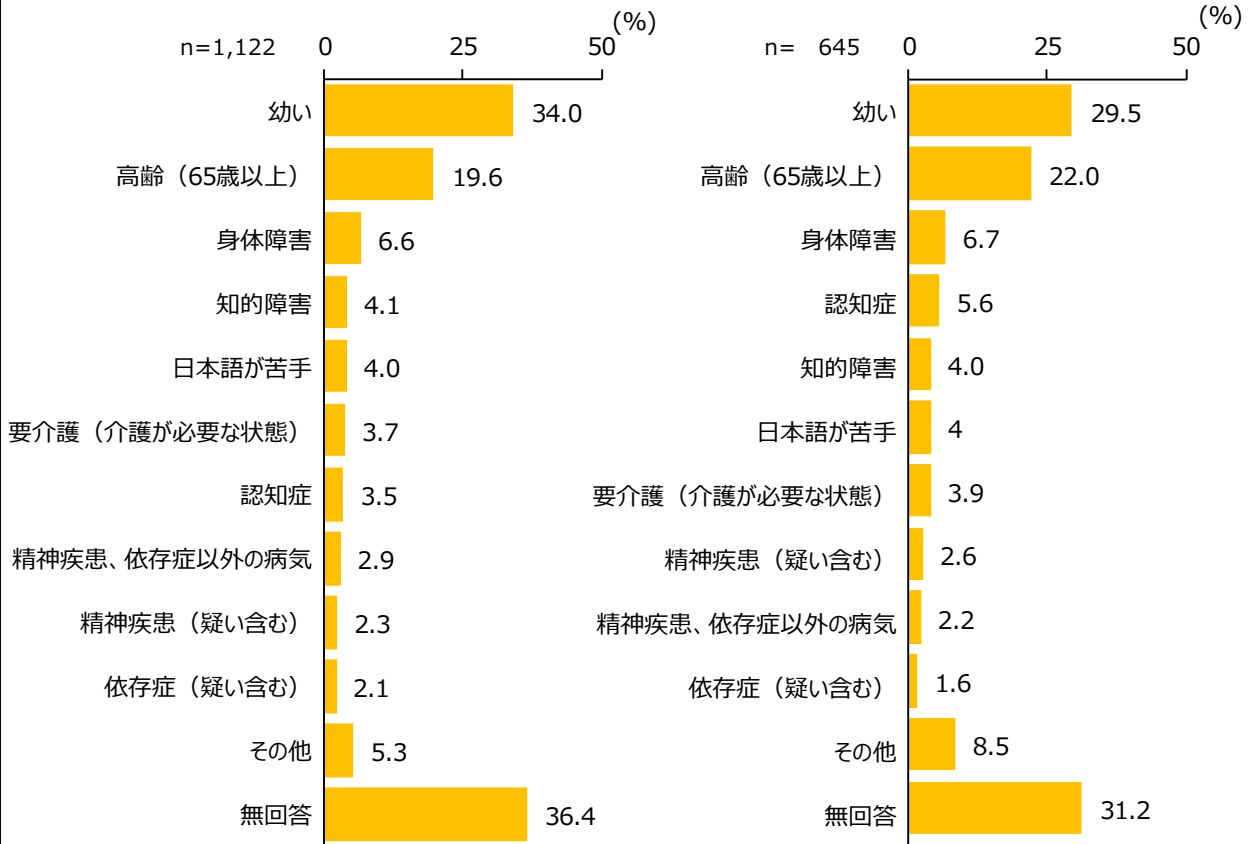
高校2年生全体では、「きょうだい」が43.1%で最も高く、次いで「母親」(31.8%)、「父親」(22.8%)、「祖母」(20.3%)となっている。

(3) お世話を必要としている人の状況

問 14-2 お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

【中学2年生】

【高校2年生】



<高校2年生・学校種別> (上位7項目)

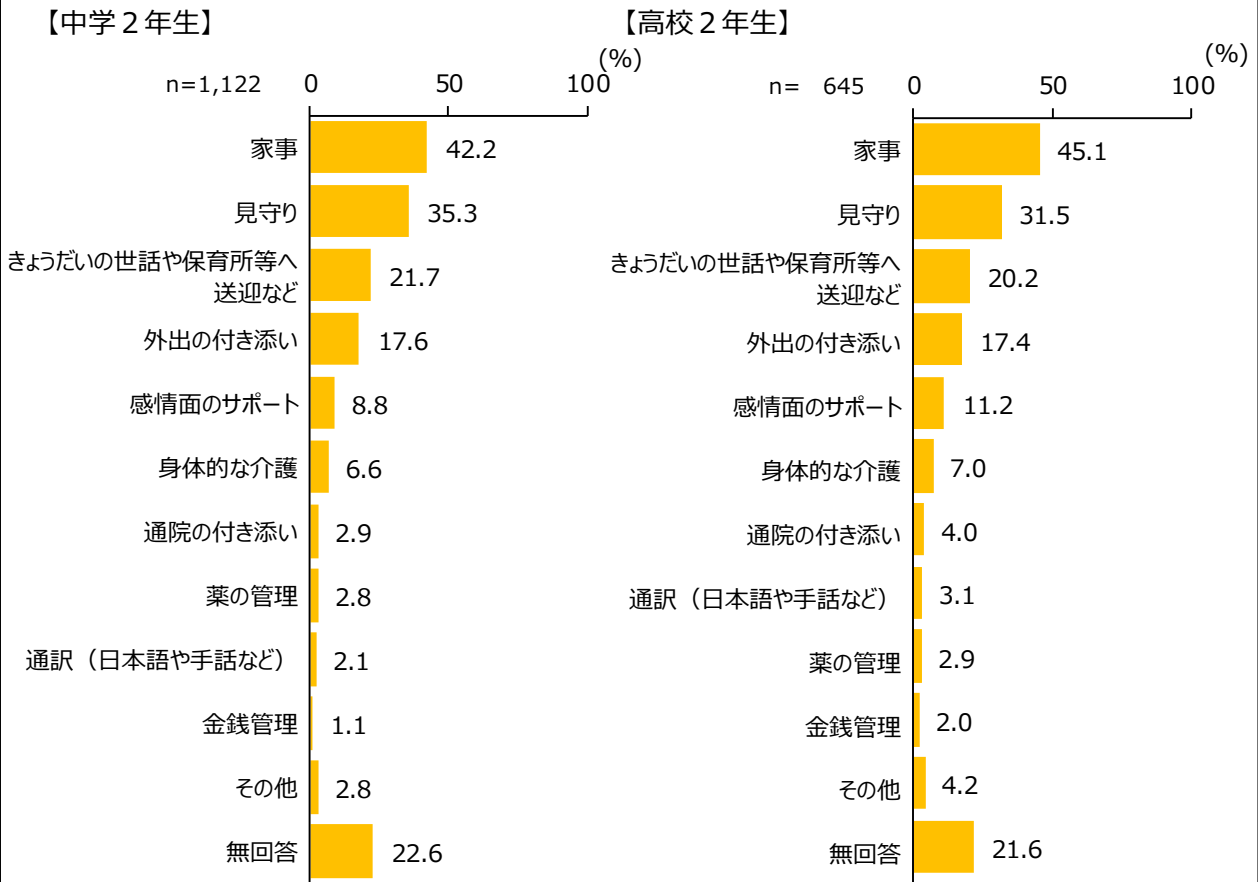
	調査数	幼い	高齢 (65歳以上)	身体障害	認知症	知的障害	日本語が苦手	要介護 (介護が必要な状態)
全日制高校2年生	623	29.5	22.6	6.6	5.8	3.7	3.7	4.0
定時制高校2年生相当	18	27.8	5.6	11.1	-	16.7	16.7	-
通信制高校2年生相当	4	25.0	-	-	-	-	-	-

お世話を必要としている人の状況は、中学2年生で「幼い」が34.0%で最も高く、次いで「高齢 (65歳以上)」(19.6%)、「身体障害」(6.6%)となっている。

高校2年生全体では、「幼い」が29.5%で最も高く、次いで「高齢 (65歳以上)」(22.0%)、「その他」(8.5%)、「身体障害」(6.7%)となっている。なお、「その他」の内容には、「仕事が多忙」、「足の痛み、ケガなど」、「母親が祖父の介護で疲れている」、「妊娠している」などがあつた。

(4) 世話の内容

問 14-3 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)



<高校2年生・学校種別> (上位7項目)

	調査数	家事	見守り	きょうだいの世話や保育所等へ送迎など	外出の付き添い	感情面のサポート	身体的な介護	通院の付き添い
全日制高校2年生	623	44.5	31.8	20.2	17.7	11.2	6.7	4.2
定時制高校2年生相当	18	66.7	27.8	16.7	11.1	11.1	11.1	-
通信制高校2年生相当	4	50.0	-	25.0	-	-	25.0	-

お世話の内容は、中学2年生で「家事」が42.2%で最も高く、次いで「見守り」(35.3%)、「きょうだいの世話や保育所等へ送迎など」(21.7%)、「外出の付き添い」(17.6%)となっている。

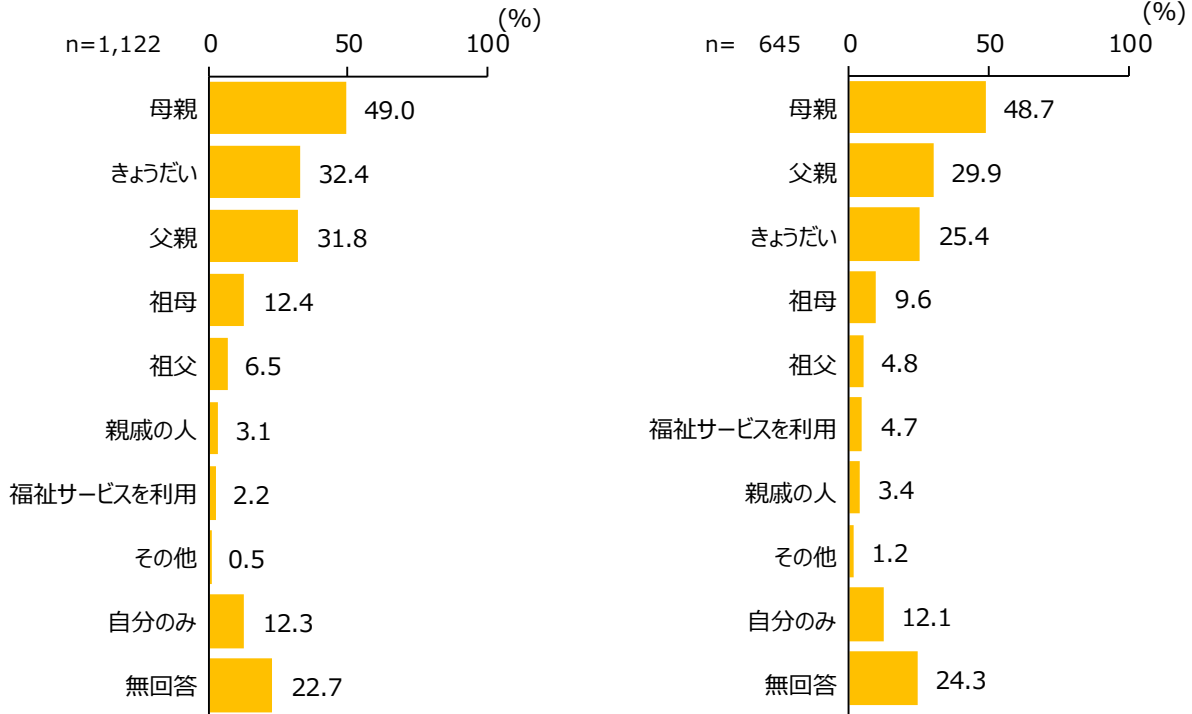
高校2年生全体では、「家事」が45.1%で最も高く、次いで「見守り」(31.5%)、「きょうだいの世話や保育所等へ送迎など」(20.2%)、「外出の付き添い」(17.4%)となっている。

(5) お世話を一緒にしている人

問 14-4 お世話は誰と行っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

【中学2年生】

【高校2年生】



<高校2年生・学校種別> (上位7項目+「自分のみ」)

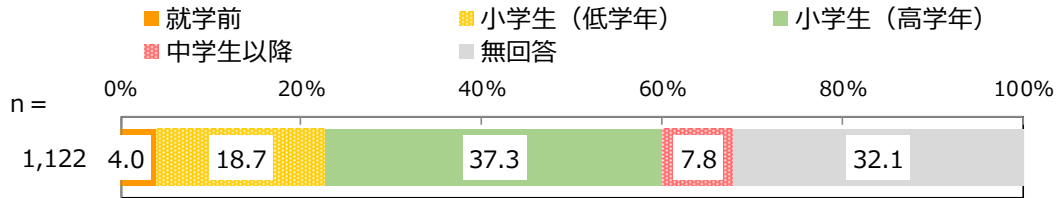
	調査数	母親	父親	きょうだい	祖母	祖父	福祉サービスを利用	親戚の人	自分のみ
全日制高校2年生	623	48.5	30.0	25.2	9.5	4.8	4.7	3.4	12.2
定時制高校2年生相当	18	61.1	27.8	33.3	11.1	5.6	5.6	5.6	5.6
通信制高校2年生相当	4	25.0	25.0	25.0	25.0	-	-	-	25.0

お世話を一緒にしている人は、中学2年生で「母親」が49.0%で最も高く、次いで「きょうだい」(32.4%)、「父親」(31.8%)、「祖母」(12.4%)となっている。一方、「自分のみ」は12.3%だった。高校2年生全体では、「母親」が48.7%で最も高く、次いで「父親」(29.9%)、「きょうだい」(25.4%)、「祖母」(9.6%)となっている。一方、「自分のみ」は12.1%だった。

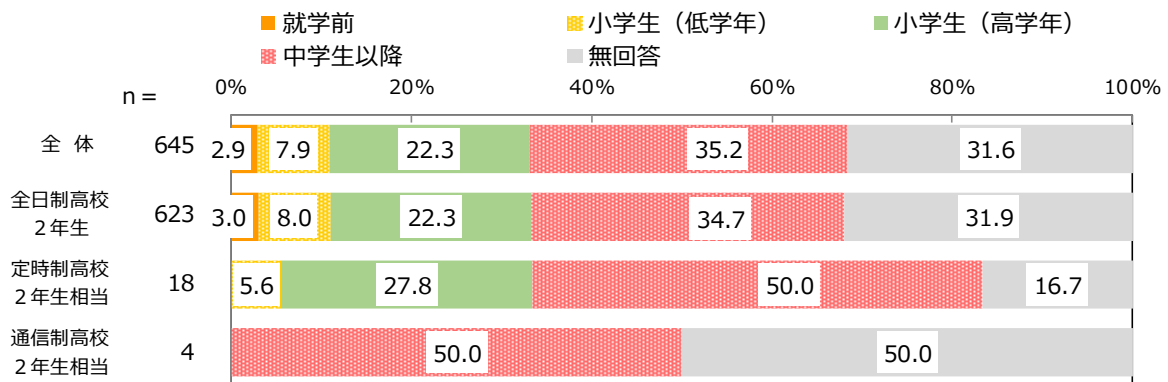
(6) お世話を始めた年齢 (4区分)

問 14-5 お世話はいつから行っていますか。お世話を始めた年齢をお答えください。
 (はっきりとわからない場合は、だいたいの年齢でかまいません)

【中学2年生】



【高校2年生】



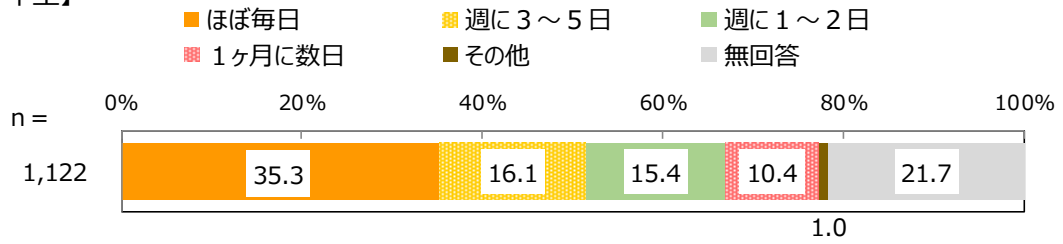
お世話を始めた年齢は、中学2年生で「小学生 (高学年)」が37.3%で最も高く、次いで「小学生 (低学年)」(18.7%)、「中学生以降」(7.8%)、「就学前」(4.0%)となっている。

高校2年生全体では、「中学生以降」が35.2%で最も高く、次いで「小学生 (高学年)」(22.3%)、「小学生 (低学年)」(7.9%)、「就学前」(2.9%)となっている。

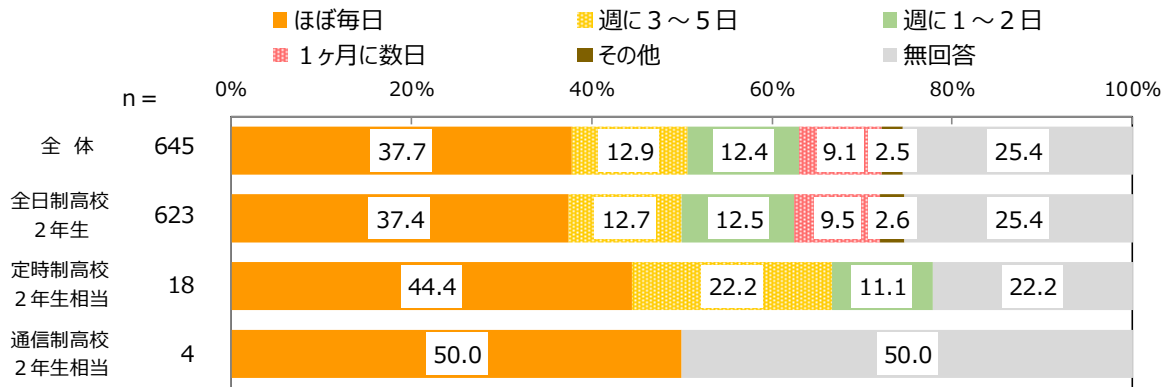
(7) お世話をしている頻度

問 14-6 お世話をしている頻度を教えてください。(あてはまる番号 1 つに○)

【中学 2 年生】



【高校 2 年生】



お世話をしている頻度は、中学 2 年生で「ほぼ毎日」が 35.3%で最も高く、次いで「週に 3~5 日」(16.1%)、「週に 1~2 日」(15.4%)、「1ヶ月に数日」(10.4%)となっている。

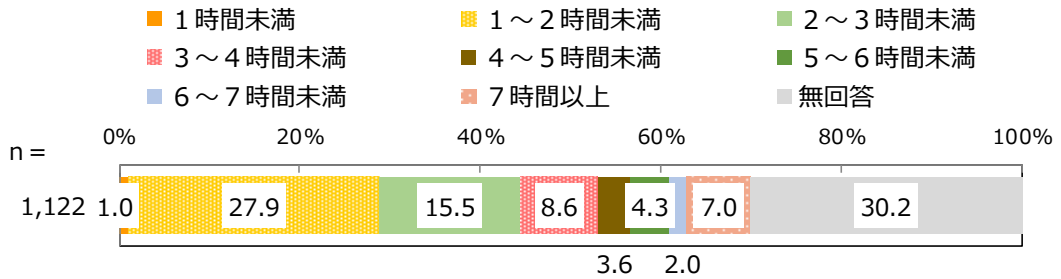
高校 2 年生全体では、「ほぼ毎日」が 37.7%で最も高く、次いで「週に 3~5 日」(12.9%)、「週に 1~2 日」(12.4%)、「1ヶ月に数日」(9.1%)となっている。

(8) 平日1日あたりにお世話に費やす時間(8区分)

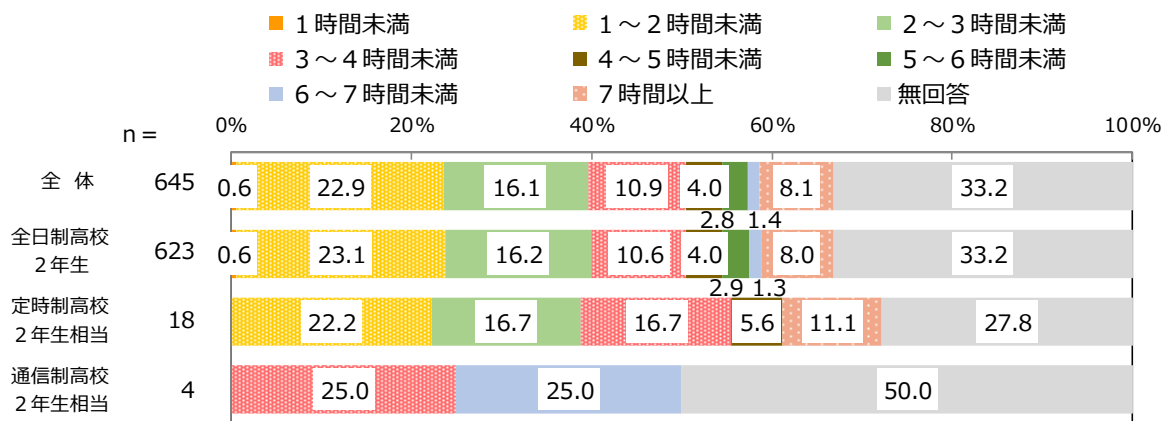
問14-7 平日にお世話はどのくらい行っていますか。時間数をお答えください。

(日によって異なる場合は、この1ヶ月の中で最も長かった日の時間をお答えください)

【中学2年生】



【高校2年生】



平日1日あたりにお世話に費やす時間は、中学2年生で「1~2時間未満」が27.9%で最も高く、次いで「2~3時間未満」(15.5%)、「3~4時間未満」(8.6%)となっている。

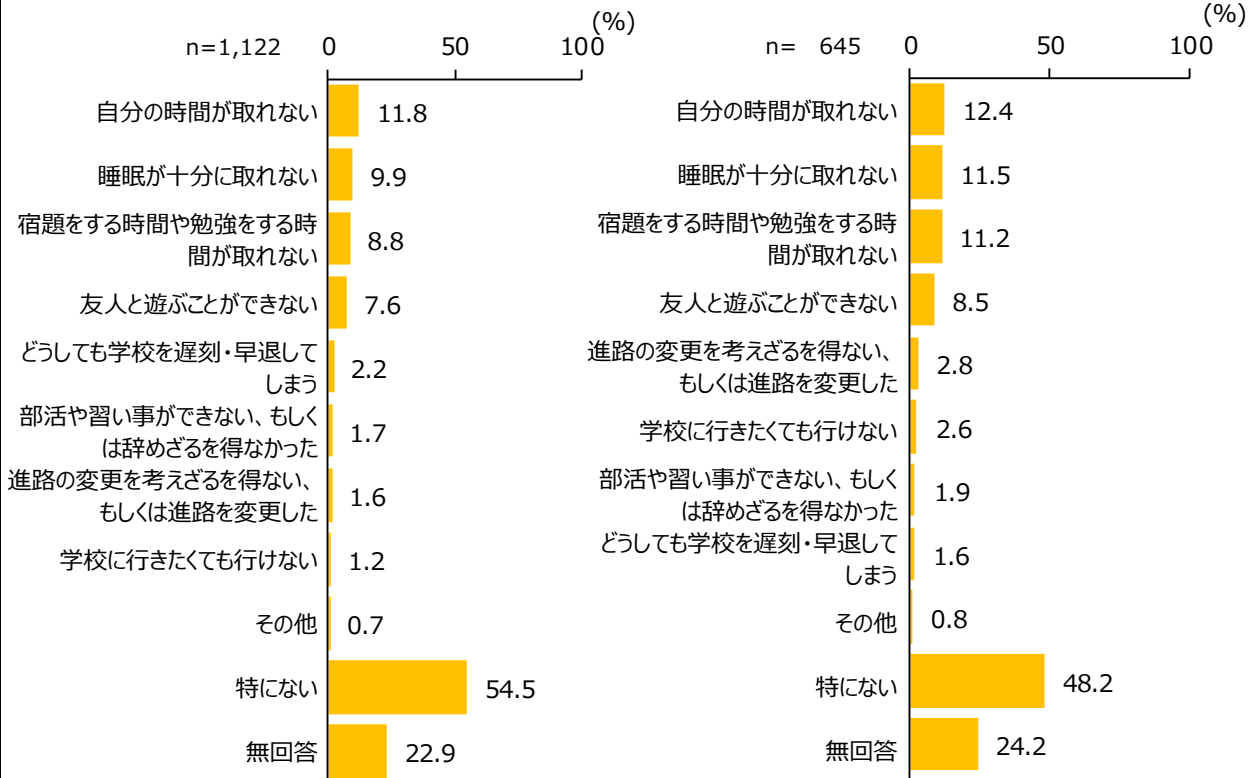
高校2年生全体では、「1~2時間未満」が22.9%で最も高く、次いで「2~3時間未満」(16.1%)、「3~4時間未満」(10.9%)となっている。

(9) お世話をしているためにやりたいけれどできないこと

問 15 お世話をしていることで、やりたいけどできていないことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

【中学2年生】

【高校2年生】



<高校2年生・学校種別> (上位7項目+「特になし」)

	調査数	自分の時間が取れない (%)	睡眠が十分に取れない (%)	強を宿題をする時間や勉強が取れない (%)	友人と遊ぶことができない (%)	はる進路を変更し、たし、くご (%)	行学校に行きたくても (%)	ざな部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得ない (%)	特になし (%)
全日制高校2年生	623	11.6	11.2	11.1	8.2	2.7	2.6	1.9	48.8
定時制高校2年生相当	18	38.9	16.7	11.1	16.7	5.6	5.6	-	27.8
通信制高校2年生相当	4	25.0	25.0	25.0	25.0	-	-	-	50.0

お世話をしているためにやりたいけれどできないことは、中学2年生で「特になし」が54.5%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「自分の時間が取れない」が11.8%で最も高く、次いで「睡眠が十分に取れない」(9.9%)、「宿題をする時間や勉強をする時間が取れない」(8.8%)、「友人と遊ぶことができない」(7.6%)となっている。

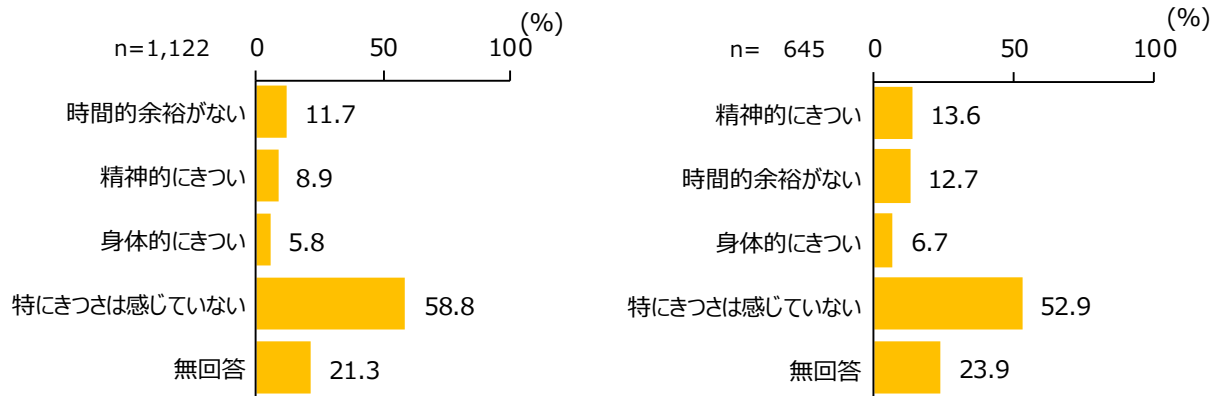
高校2年生全体では、「特になし」が48.2%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「自分の時間が取れない」が12.4%で最も高く、次いで「睡眠が十分に取れない」(11.5%)、「宿題をする時間や勉強をする時間が取れない」(11.2%)となっている。

(10) お世話のきつき

問 16 お世話をすることにつきさを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

【中学 2 年生】

【高校 2 年生】



<高校 2 年生・学校種別>

	調査数	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつきさは感じていない	無回答
全日制高校 2 年生	623	5.9	12.5	12.7	53.6	24.1
定時制高校 2 年生相当	18	27.8	50.0	16.7	27.8	16.7
通信制高校 2 年生相当	4	25	25.0	-	50.0	25.0

お世話のきつきは、中学 2 年生で「特にきつきさは感じていない」が 58.8%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「時間的余裕がない」が 11.7%で最も高く、次いで「精神的にきつい」(8.9%)、「身体的にきつい」(5.8%)となっている。

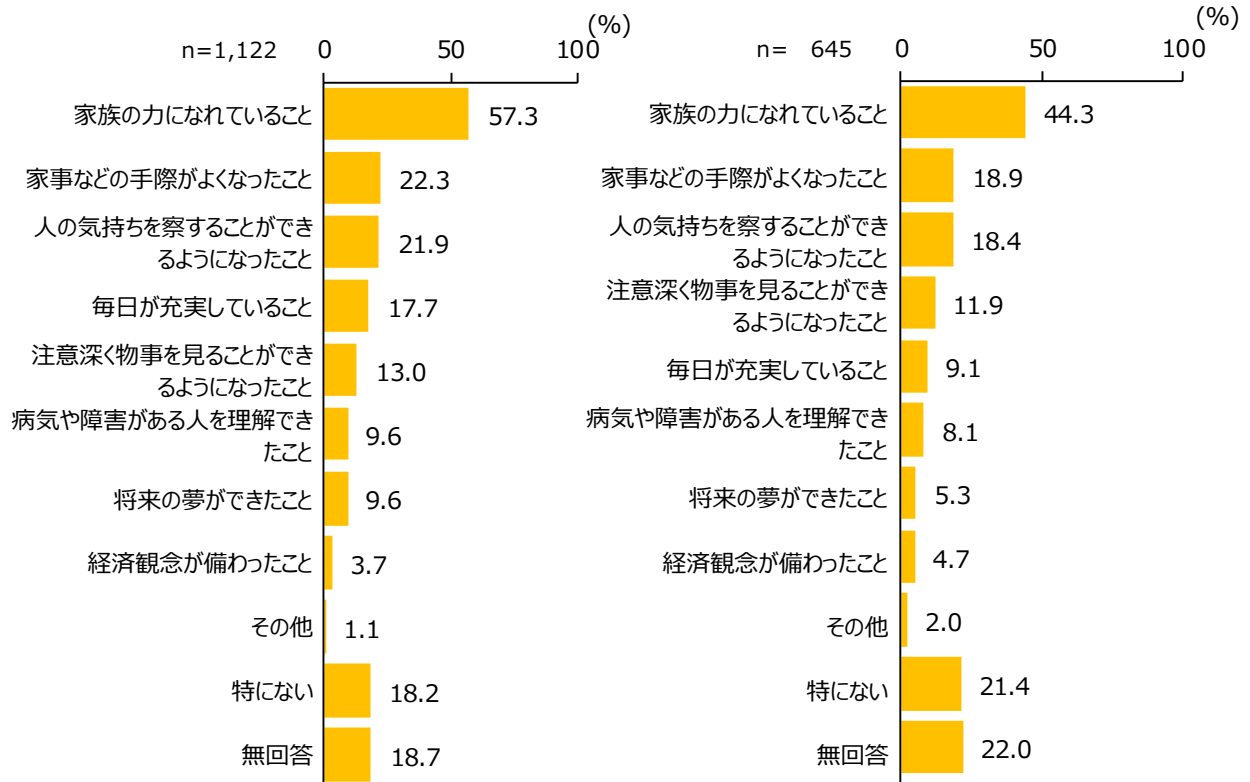
高校 2 年生全体では、「特にきつきさは感じていない」が 52.9%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「精神的にきつい」が 13.6%で最も高く、次いで「時間的余裕がない」(12.7%)、「身体的にきつい」(6.7%)となっている。

(11) お世話をすることでよかったと思うこと

問 17 お世話をすることでよかったと思うことを教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

【中学 2 年生】

【高校 2 年生】



<高校 2 年生・学校種別> (上位 7 項目+「特にない」)

	調査数	家族の力になれていること (%)	家事などの手際がよかったこと (%)	人の気持ちを察することができるようになったこと (%)	注意深く物事を見ることができるようになったこと (%)	毎日が充実していること (%)	病気や障害がある人を理解できたこと (%)	将来の夢ができたこと (%)	特にない (%)
全日制高校 2 年生	623	44.9	18.5	18.5	12.2	9.1	7.9	5.3	21.0
定時制高校 2 年生相当	18	27.8	27.8	22.2	5.6	5.6	16.7	5.6	33.3
通信制高校 2 年生相当	4	25.0	50.0	-	-	25.0	-	-	25.0

お世話をすることでよかったと思うことは、中学 2 年生で「家族の力になれていること」が 57.3%で最も高く、次いで「家事などの手際がよかったこと」(22.3%)、「人の気持ちを察することができるようになったこと」(21.9%)、「毎日が充実していること」(17.7%)となっている。一方、「特にない」は 18.2%だった。

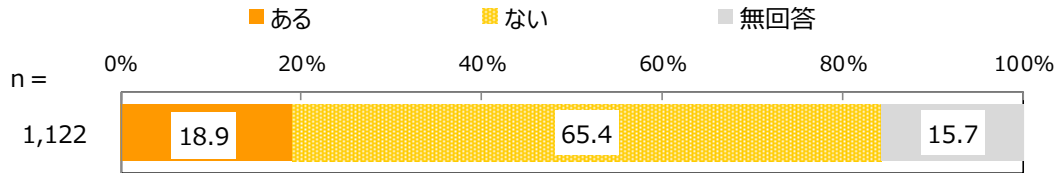
高校 2 年生全体では、「家族の力になれていること」が 44.3%で最も高く、次いで「家事などの手際がよかったこと」(18.9%)、「人の気持ちを察することができるようになったこと」(18.4%)、「注意深く物事を見ることができるようになったこと」(11.9%)となっている。一方、「特にない」は 21.4%だった。

(12) お世話をについて相談した経験

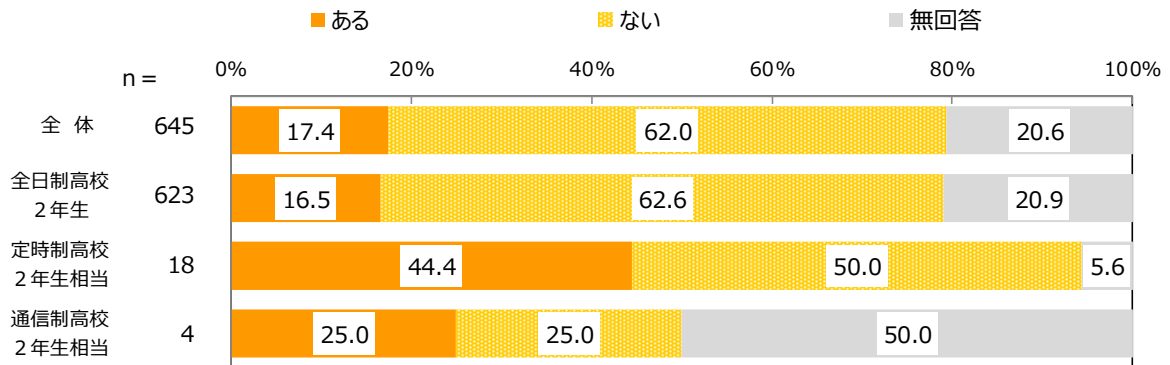
問 18 お世話を必要としている家族のことや、お世達の悩みを誰かに相談したことはありますか。

(あてはまる番号 1 つに○)

【中学 2 年生】



【高校 2 年生】



お世話をについて相談した経験は、中学 2 年生で「ある」が 18.9%、「ない」が 65.4%となっている。

高校 2 年生全体では、「ある」が 17.4%、「ない」が 62.0%となっている。

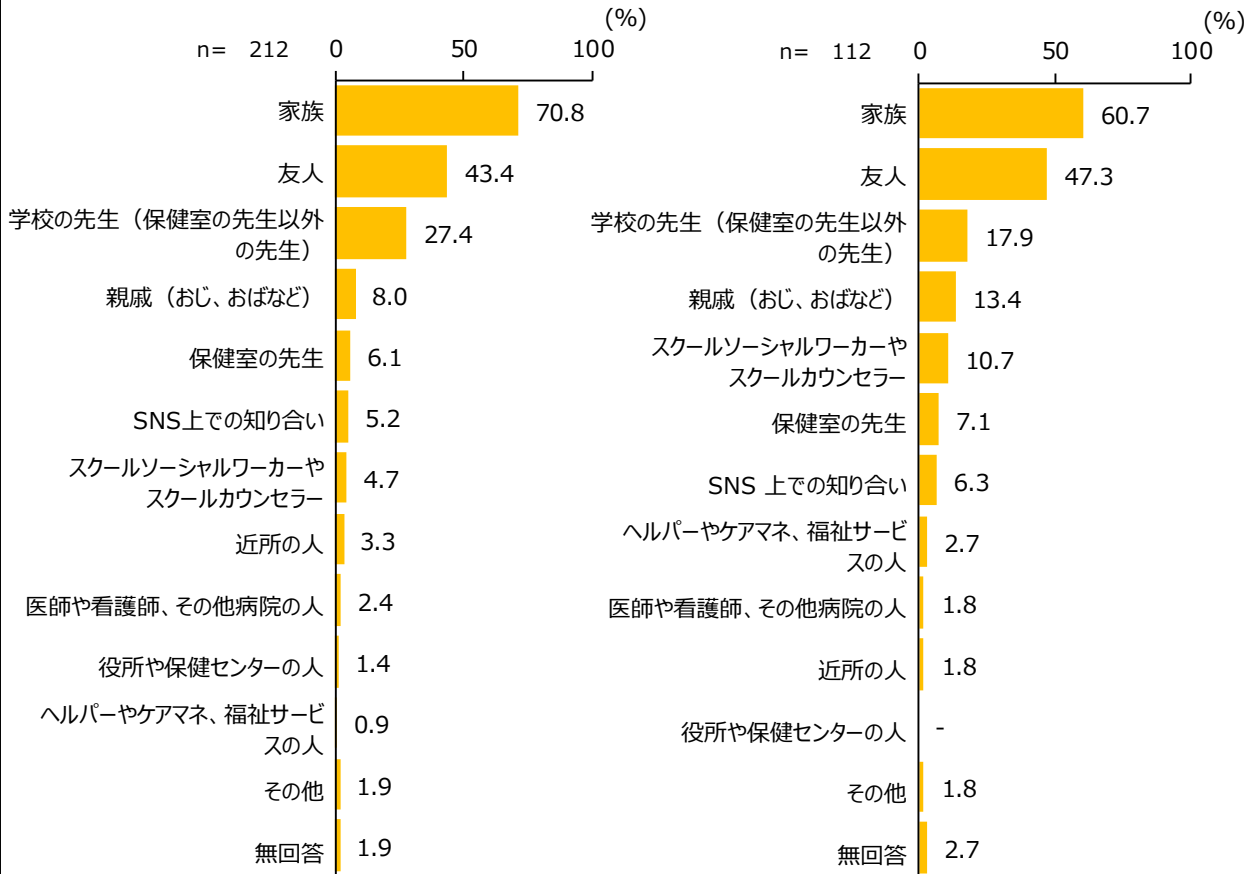
(13) お世話についての相談相手

(問 18 で「 1. ある」と回答した方にお聞きます。)

問 19-1 それは誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

【中学2年生】

【高校2年生】



<高校2年生・学校種別> (上位7項目)

	調査数	家族	友人	学校の先生以外 の先生（保健室 の先生）	親戚（おじ、 おばなど）	スクール カウンセ ラーや ソシ ャ ル ワ ー カ ー	保健室の 先生	S N S 上 で の 知 り 合 い
全日制高校2年生	103	60.2	44.7	18.4	13.6	9.7	4.9	4.9
定時制高校2年生相当	8	75.0	87.5	-	12.5	12.5	37.5	25.0
通信制高校2年生相当	1	-	-	100.0	-	100.0	-	-

お世話についての相談相手は、中学2年生で「家族」が70.8%で最も高く、次いで「友人」(43.4%)、「学校の先生（保健室の先生以外の先生）」(27.4%)、「親戚（おじ、おばなど）」(8.0%)となっている。

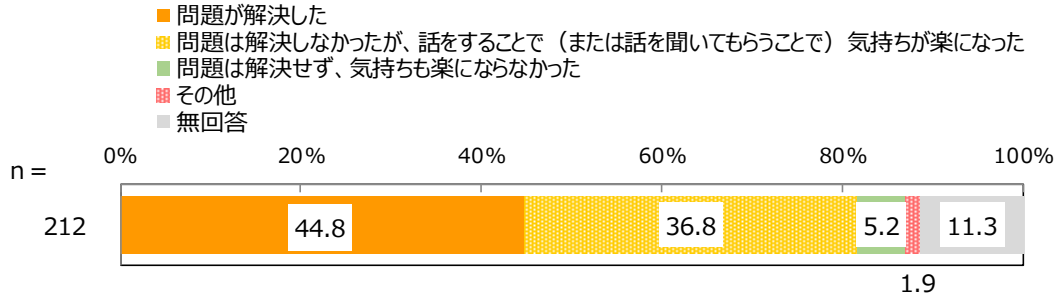
高校2年生全体では、「家族」が60.7%で最も高く、次いで「友人」(47.3%)、「学校の先生（保健室の先生以外の先生）」(17.9%)、「親戚（おじ、おばなど）」(13.4%)となっている。

(14) 相談した結果

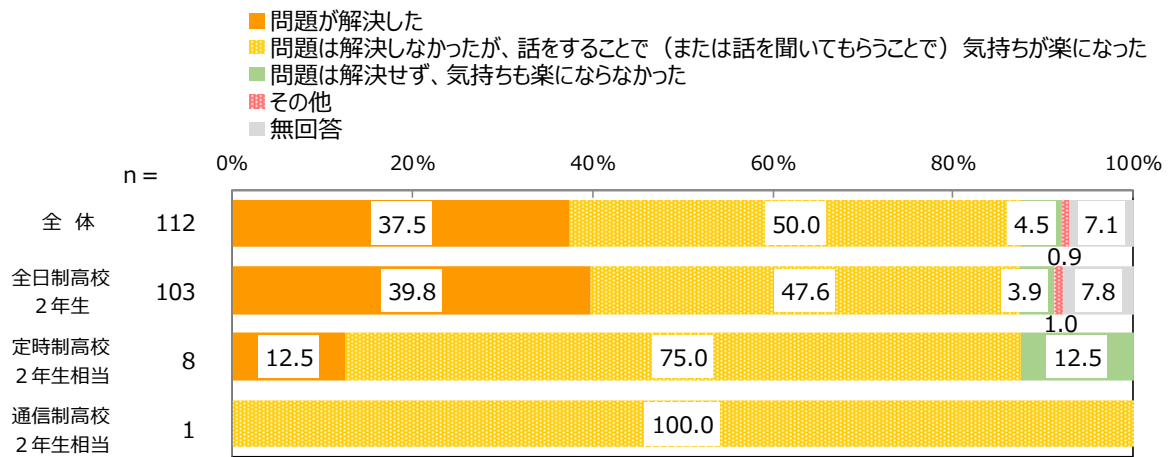
(問 18 で「1. ある」と回答した方にお聞きます。)

問 19-2 相談してどうでしたか。(あてはまる番号 1 つに○)

【中学 2 年生】



【高校 2 年生】



相談した結果は、中学 2 年生で「問題が解決した」が 44.8% で最も高く、次いで「問題は解決しなかったが、話をすることで（または話を聞いてもらうことで）気持ちが楽になった」(36.8%) となっている。

高校 2 年生全体では、「問題は解決しなかったが、話をすることで（または話を聞いてもらうことで）気持ちが楽になった」が 50.0% で最も高く、次いで「問題が解決した」(37.5%) となっている。

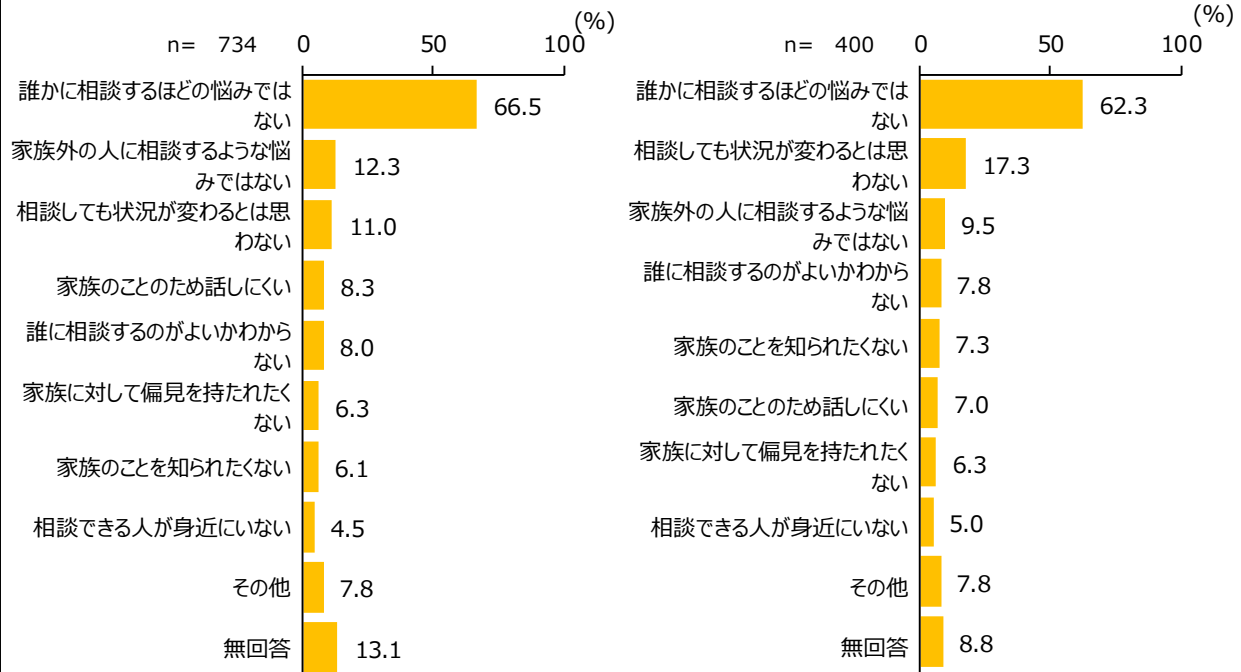
(15) お世話について相談したことがない理由

(問 18 で「2. ない」と回答した方にお聞きします。)

問 20 相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

【中学2年生】

【高校2年生】



<高校2年生・学校種別> (上位7項目)

	調査数	誰かに相談するほどの悩みではない (%)	家族外の人に相談するような悩みではない (%)	相談しても状況が変わるとは思わない (%)	家族のこのため話しにくい (%)	誰に相談するのがよいかわからない (%)	家族に対して偏見を持たれたくない (%)	家族のことを知られたくない (%)	相談できる人が身近にいない (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全日制高校2年生	390	62.6	16.7	9.2	7.4	6.7	6.9	6.2			
定時制高校2年生相当	9	44.4	44.4	22.2	22.2	33.3	11.1	11.1			
通信制高校2年生相当	1	100.0	-	-	-	-	-	-			

お世話について相談したことがない理由は、中学2年生で「誰かに相談するほどの悩みではない」が66.5%で最も高く、次いで「家族外の人に相談するような悩みではない」(12.3%)、「相談しても状況が変わるとは思わない」(11.0%)となっている。

高校2年生全体では、「誰かに相談するほどの悩みではない」が62.3%で最も高く、次いで「相談しても状況が変わるとは思わない」(17.3%)、「家族外の人に相談するような悩みではない」(9.5%)となっている。

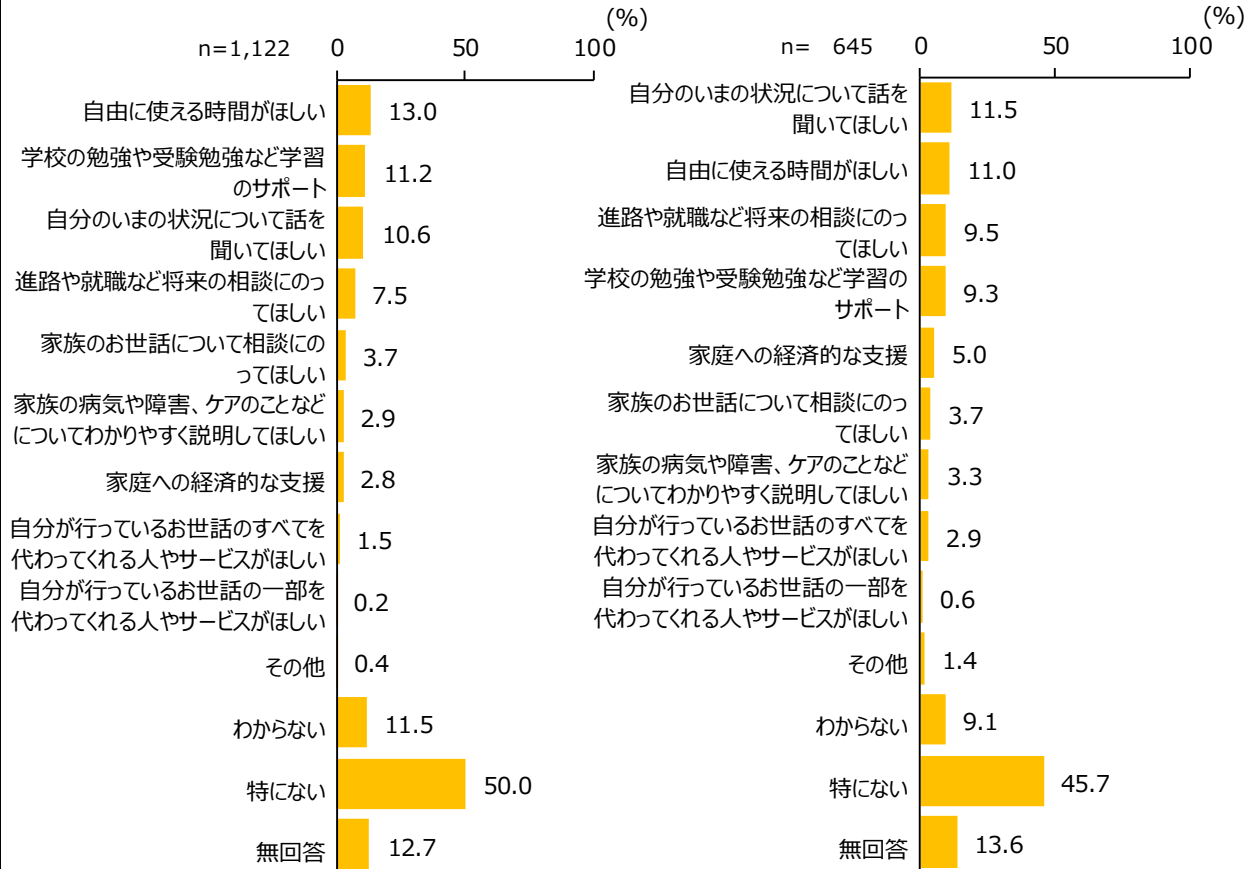
(16) 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

問 21 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

【中学 2 年生】

【高校 2 年生】



<高校 2 年生・学校種別> (上位 5 項目 + 「わからない」、「特にない」)

	調査数	自分のいまの状況について話を聞いてほしい (%)	自由に使える時間についてほしい (%)	進路や就職など将来の相談にのってほしい (%)	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート (%)	家庭への経済的支援 (%)	わからない (%)	特にない (%)
全日制高校 2 年生	623	10.9	10.6	9.5	9.3	4.7	8.8	46.7
定時制高校 2 年生相当	18	33.3	22.2	11.1	11.1	16.7	16.7	11.1
通信制高校 2 年生相当	4	-	25.0	-	-	-	25.0	50.0

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援は、中学 2 年生で「特にない」が 50.0%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「自由に使える時間がほしい」が 13.0%で最も高く、次いで「わからない」(11.5%)、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」(11.2%)、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」(10.6%)となっている。

高校 2 年生全体では、「特にない」が 45.7%を占めていた。一方、具体的な選択肢の中では、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」が 11.5%で最も高く、次いで「自由に使える時間がほしい」(11.0%)、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」(9.5%)、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」(9.3%)となっている。

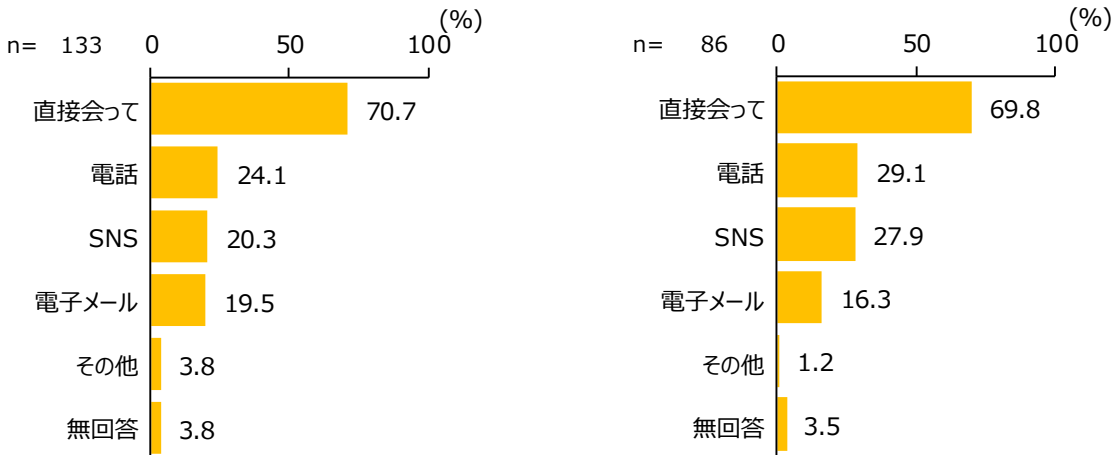
(17) 相談をする手段

(問 21 で「1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「2. 家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した方にお聞きます。)

問 22 どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。(あてはまる番号すべてに○)

【中学2年生】

【高校2年生】



<高校2年生・学校種別>

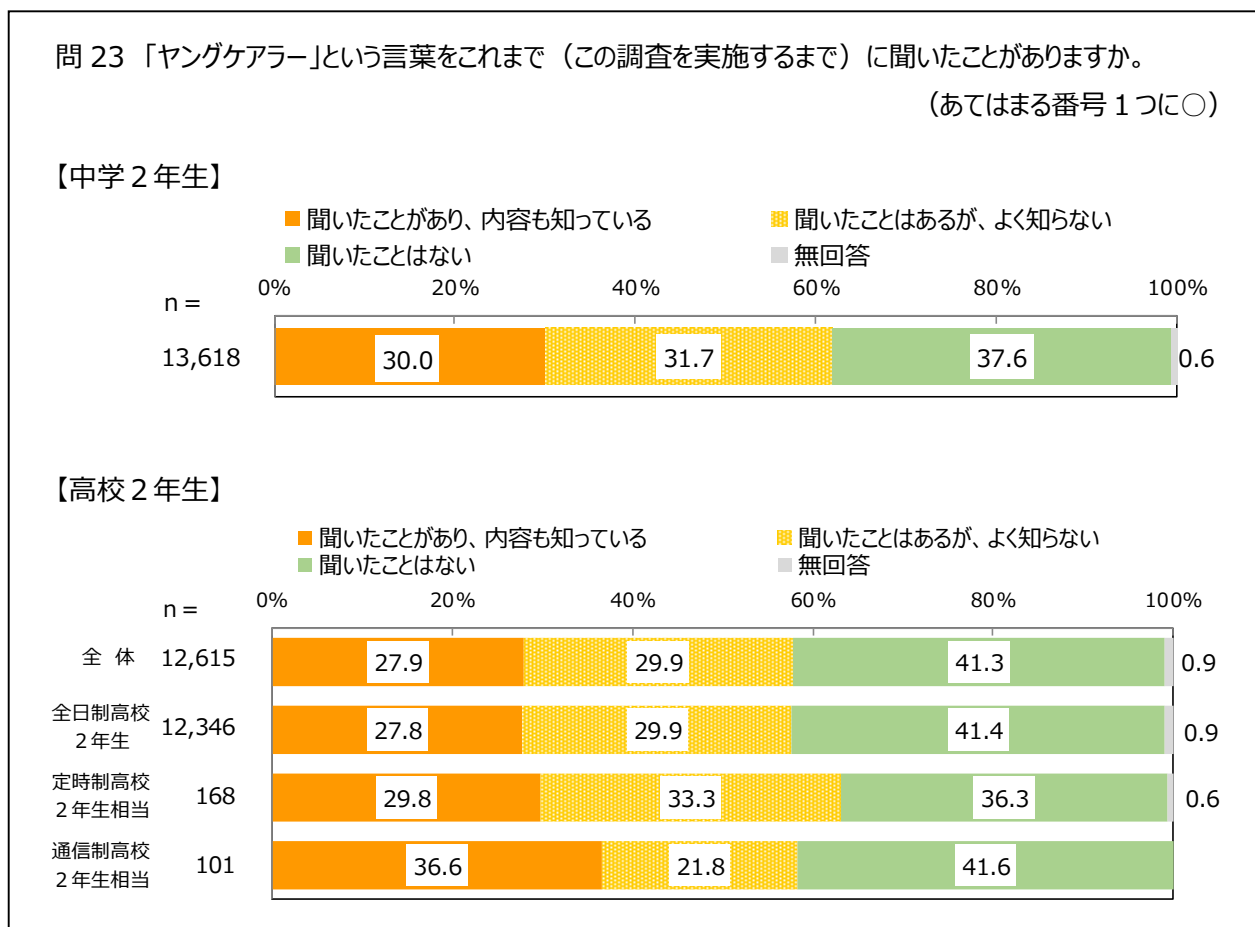
	調査数	直接会って	電話	SNS	電子メール	その他	無回答
全日制高校2年生	79	68.4	30.4	25.3	16.5	1.3	3.8
定時制高校2年生相当	7	85.7	14.3	57.1	14.3	-	-
通信制高校2年生相当	-	-	-	-	-	-	-

相談をする手段は、中学2年生で「直接会って」が70.7%で最も高く、次いで「電話」(24.1%)、「SNS」(20.3%)、「電子メール」(19.5%)となっている。

高校2年生全体では、「直接会って」が69.8%で最も高く、次いで「電話」(29.1%)、「SNS」(27.9%)、「電子メール」(16.3%)となっている。

4 ヤングケアラーについて

(1) 「ヤングケアラー」という言葉の認知度



「ヤングケアラー」という言葉の認知度は、中学 2 年生で「聞いたことはない」が 37.6% で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」(31.7%)、「聞いたことがあり、内容も知っている」(30.0%) となっている。

高校 2 年生全体では、「聞いたことはない」が 41.3% で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」(29.9%)、「聞いたことがあり、内容も知っている」(27.9%) となっている。

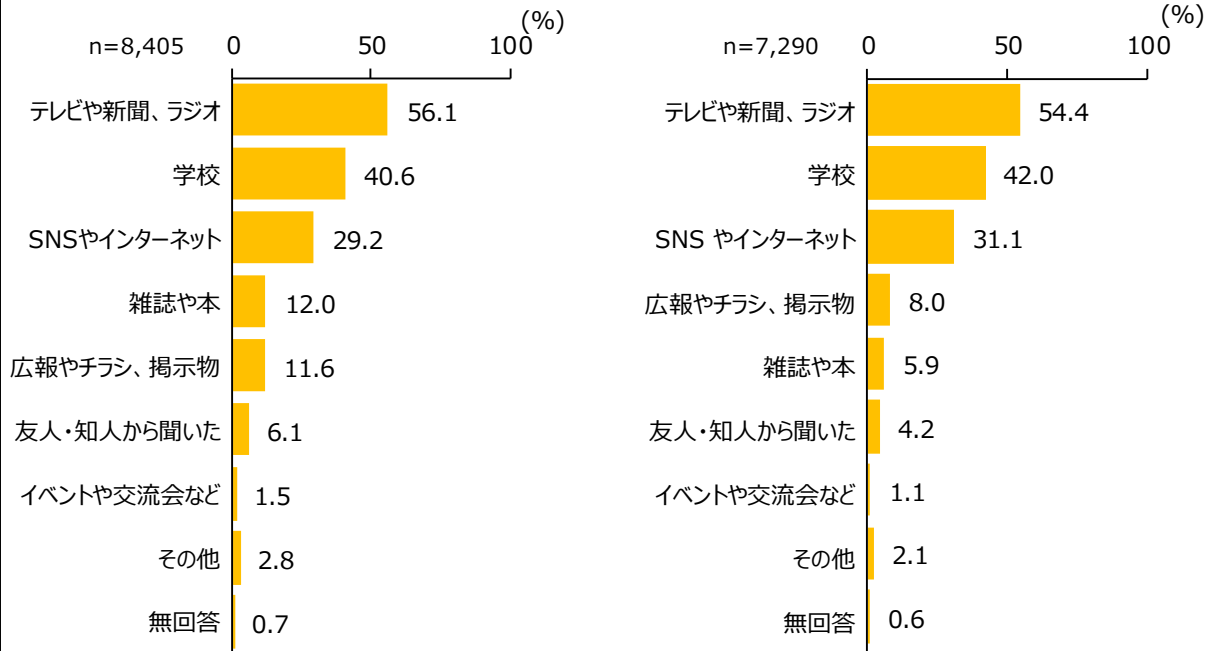
(2) 「ヤングケアラー」について知ったきっかけ

(問 23 で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」「2. 聞いたことがあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きます。)

問 24 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまる番号すべてに○)

【中学2年生】

【高校2年生】



<高校2年生・学校種別> (「その他」、無回答を除く)

	調査数	テレビや新聞、ラジオ	学校	SNSやインターネット	広報やチラシ、掲示物	雑誌や本	友人・知人から聞いた	イベントや交流会など
全日制高校2年生	7,125	54.5	42.2	30.8	8.0	5.9	4.1	1.2
定時制高校2年生相当	106	48.1	35.8	42.5	8.5	3.8	12.3	0.9
通信制高校2年生相当	59	59.3	30.5	44.1	6.8	8.5	-	-

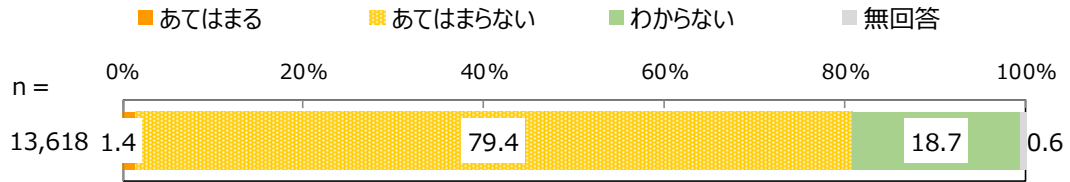
「ヤングケアラー」について知ったきっかけは、中学2年生で「テレビや新聞、ラジオ」が56.1%で最も高く、次いで「学校」(40.6%)、「SNS やインターネット」(29.2%)、「雑誌や本」(12.0%)となっている。

高校2年生全体では、「テレビや新聞、ラジオ」が54.4%で最も高く、次いで「学校」(42.0%)、「SNS やインターネット」(31.1%)、「広報やチラシ、掲示物」(8.0%)となっている。

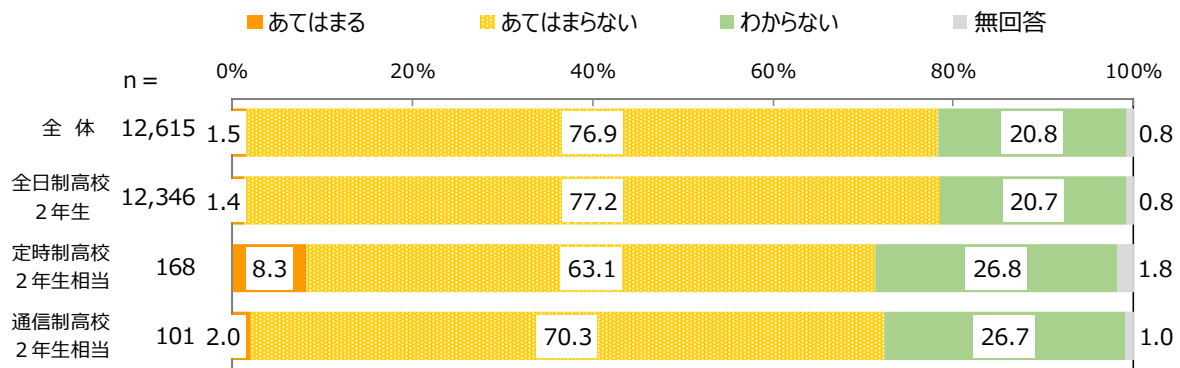
(3) 「ヤングケアラー」の自覚

問 25 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると感じますか。(あてはまる番号1つに○)

【中学2年生】



【高校2年生】



「ヤングケアラー」の自覚は、中学2年生で「あてはまる」が1.4%、「あてはまらない」が79.4%、「わからない」が18.7%となっている。

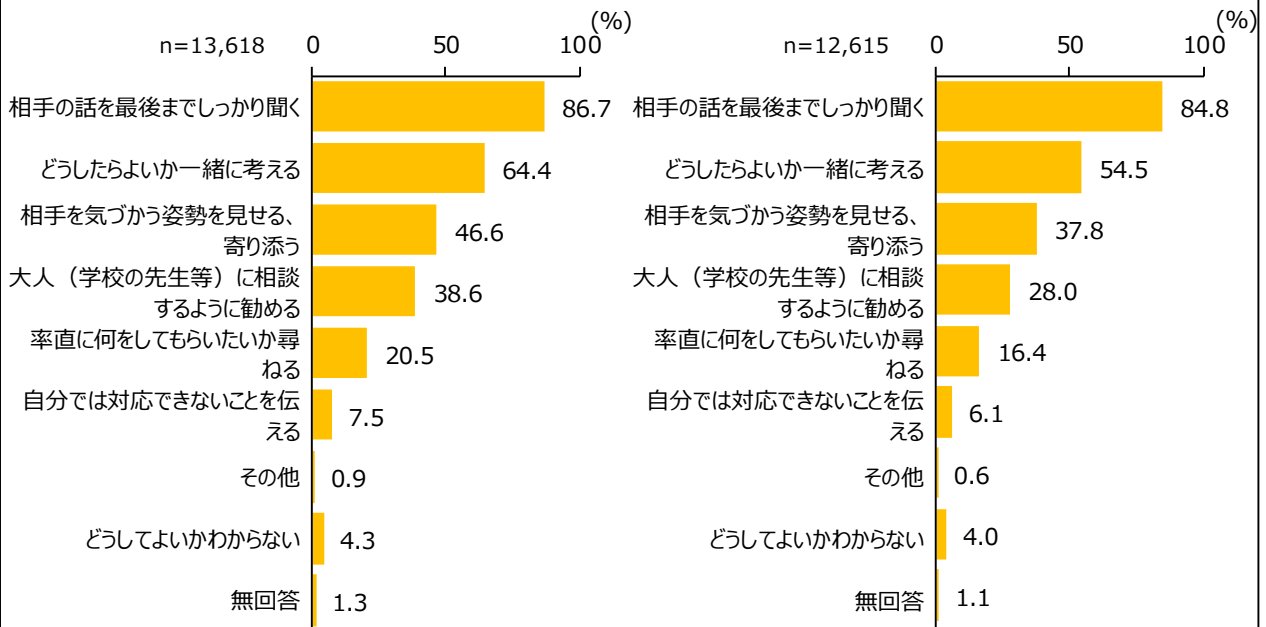
高校2年生全体では、「あてはまる」が1.5%、「あてはまらない」が76.9%、「わからない」が20.8%となっている。

(4) お世話の悩みを相談されたらどのような対応をとるか

問 26 あなたの周りの人がお世話についての悩みをあなたに話してきたら、あなたはどのような対応をしたいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

【中学2年生】

【高校2年生】



<高校2年生・学校種別> (「その他」、無回答を除く)

	調査数	相手の話を最後までしっかり聞く	どうしたらよいか一緒に考える	相手を気づかう姿勢を見せる、寄り添う	大人(学校の先生等)に相談するように勧める	率直に何をしてもらいたいか尋ねる	自分では対応できないことを伝える	その他	どうしてよいかわからない	無回答
全日制高校2年生	12,346	84.9	54.4	37.8	28.1	16.3	5.9	0.6	4.0	1.1
定時制高校2年生相当	168	80.4	60.1	38.7	24.4	20.2	10.7	0.6	4.0	1.1
通信制高校2年生相当	101	73.3	50.5	36.6	21.8	21.8	14.9	0.6	4.0	1.1

お世話の悩みを相談されたらどのような対応をとるかは、中学2年生で「相手の話を最後までしっかり聞く」が86.7%で最も高く、次いで「どうしたらよいか一緒に考える」(64.4%)、「相手を気づかう姿勢を見せる、寄り添う」(46.6%)、「大人(学校の先生等)に相談するように勧める」(38.6%)となっている。

高校2年生全体では、「相手の話を最後までしっかり聞く」が84.8%で最も高く、次いで「どうしたらよいか一緒に考える」(54.5%)、「相手を気づかう姿勢を見せる、寄り添う」(37.8%)、「大人(学校の先生等)に相談するように勧める」(28.0%)となっている。

(5) 自由意見

問 27 家族のお世話をしている子どもにとって、必要だと思うことや学校や周りの大人にしてもらいたいことを自由にかいてください。

以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

【中学2年生】

①家族のお世話をしている子どもにとって、必要だと思うこと

- ・自分の気持ちを聞いてくれる人がいることが大切だとおもいます。よりそってもらえる人がいること、相談に乗ってくれる人がいることで、その人の心が軽くなると思うので、私の周りにもそのような子がいたらはなしかけたいです。
- ・もし話を聞いたら、その内容(話したこととか)を親とかに言わないでほしい。関係がもっと悪くなりそうだし話を聞いてもらうだけで十分落ち着くから。
- ・必要なのは自分の時間だと思います。でも作るのは難しいと思うし、大変だと思うのでそこで周りの人が助けられるといいんじゃないかなと思います。
- ・勉強や友達と会う機会を作ってあげる。お世話をすると友達と会えなくなって一人になってしまうから。
- ・家族のお世話をしている子供は自分にあてられる時間が少なく、勉強にだんだん追いついていけなくなったりするとおもうので、その子が負担に思わないような方法で介護士の方を派遣するなどしてほしいと思います。また、月に一回のアンケートの実施などをしてほしいです。
- ・ヤングケアラーの子にとって家事をしたりすることやお世話をすることも大変だと思うけど、自分の時間が作れなくてみんなの話題についていけないことなどがつらいと思うので、世話が必要な人を無償で預けられる場所を提供してほしい。
- ・子供一人では、家事や介護は難しいし、その子供の自由な時間も少なくなり、友達との交流も無くなるから、子供を支えてあげられる、大人のボランティアを集めたりできるといいと思う。
- ・自分のやりたいことができるように、きょうだいを預かりながらも勉強や遊びができるところを作ってほしい。
- ・学校じゃなくても、例えば一時的にどこかにあずけることができる施設を多く作ったり、ヘルパーの料金の改正などをしてほしいと思います。
- ・自分も含めてヤングケアラーの問題を知らなかったし、あまり世間的にも広まっていない気がするから、ヤングケアラーについて知っても他人事になりやすいと思った。だから、まずは世間に広めて、ヤングケアラーの問題を真剣に考えるのが必要だと思った。
- ・まず、その子自身が自分は、「ヤングケアラーなんだ。」だということを知ってもらいたい。それを周りの人に言って、ヤングケアラーの子のそばにいてほしい。それだけでできると気持ちが軽くなると思うから。
- ・ヤングケアラーを知らない人の方が多いので、学校でこういった授業もしたほうがいいと思いました。
- ・その子(ヤングケアラー)の抱えている状況に対応して、無理やり大人の人たちに相談をさせるのではなく、その子に寄り添い、自分で決断させてあげるのほうがいいと思いました。

①家族のお世話をしている子どもにとって、必要だと思うこと（つづき）

・自分ではなかなか伝えられないと思うから周りの大人がその子のことをよく見て気づいてあげることが大切だと思います。家族のお世話をしている人も、一人で抱え込まず誰かに相談することも大切だと思う。
・本人たちは、自分がヤングケアラーだと気づいていないことがあるとネットで見たことがある。なので、まずは見つけてあげることが必要だと思う。
・お世話の関係で、学校に来ることができない人もいるので、家でも授業を受けることができるようにしたらよいと思います。
・「周りの人を頼ってもいい」ということを教えてあげたいです。「家族のこととかを相談できるところがあるよ」ということをわかりやすい場所にポスターなどで掲示するとういと思います。

②要望・求める支援（お世話をしている家族がいると回答した生徒の意見）

・親の代わりに担うことは精神的につらいから定期的にケアしてほしい。
・おばあちゃんのお薬のことや、ペースメーカーについてわからないので教えてもらいたい。おばあちゃんのお世話ができて幸せだから大丈夫。おばあちゃんのお世話をしている可愛そうって思っほしくない。
・お世話はたのしいことではないが、褒めてもらえると嬉しいです。
・子どもたちの勉強や受験などのためのサポート、お世話することで充実した生活を送るための支援など。偏見、差別のない平等な生活をするための支援。
・将来の進路や勉強の仕方について教えてもらいたい。
・家庭の事情などでなにかできないことがあったら言い訳ではなく理由として捉えてほしい。

③その他

・家族のお世話をすることは悪いことではないけれど、大人の人がやることは大人の人がしっかりやって子供がやるべきことは子供がしっかりやるように、やるべきことを考えて生活していくことが必要だと思いました。
・どんな家庭に生まれたとしてもその子供には勉強や趣味などを好きなようにできる権利があると思う。
・家族のお世話をすることはお手伝いかもしれないし、親孝行なのかもしれないけれど、そのお世話によって自分のしたいことができなかつたりやりたいことに手を出せなくなるのは違うと思う。
・ヤングケアラーの人たちが本当のことを言ってくれなかつたり、自分で分かってないこともあり、見つけ出すことはかなり大変なことだと思う。だけれども必ず見つけ出さないといけないことなので今回のこのアンケートなど少しでも手がかりになることをたくさんやり、少しでも多くのヤングケアラーたちを救ってほしいです。
・いやでやってる人だけではないと思うし、それを当たり前だと思っている人も中にはいると思うので、私だったら、他人に心配してほしくないし、ただ話を聞いてくれたり、もし手伝って欲しければそこで言って、そこから動いたりするだけでもうれしいと思います。

【高校2年生】

①家族のお世話をしている子どもにとって、必要だと思うこと

<p>・チャットで相談できる機能があるといいと思います（ラインなど）。電話だと誰が聞いているか分からないし、先生や友人に相談するにしても家族のことだと話しづらかったりすると思うので、第三者とメッセージを通して相談できる場所があればもっと相談してきてくれる人が増えると思います。</p>
<p>・悩み事などを相談できる相手がいない人のためにカウンセラーなどを増やすべきだと思います。</p>
<p>・解決策を1人で考えるのは難しいと思うので、相談を真面目に受けてくれる友達や大人がいると心も軽くなるのではないかと思います。</p>
<p>・部活とか勉強とか思うようにいかないと思うから、そういう子達にもっとやりたいことをやらせてあげべきだと思う。</p>
<p>・子供だけでは無理なこともきっとあるはずですが、デイサービスの利用、訪問介護、保健所の方との連携を楽にできるようになって欲しいと思う。</p>
<p>・子供の生活の自由が制限されないようにするための周りの大人や地方公共団体による支援。具体的には、ヤングケアラーの当事者同士が相談できる環境を作る、家族の世話を子供にさせない、子供が学校に通っている間は外部にサポートを依頼できるようにするなど。子供の進学にも影響する場合、奨学金や学生寮などの制度を充実させることも必要だと思う。</p>
<p>・近隣住民との協力等の地域の繋がりや、ヤングケアラーの支援ができるような施設や機関を充実させること、そして我々がこのような問題を抱えている子供がいるという事を理解する事が必要。</p>
<p>・ヤングケアラーに代わって介護をしてくれるような施設に、介護者を預けることができるような経済的支援。学校は、ヤングケアラー専用のカリキュラム作成が必要なのではないかと思います。</p>
<p>・家族の世話をしてくれるボランティア団体を作り、ヤングケアラーの負担を軽くし、彼ら自身の時間を作る。その時間を勉強や趣味などに使って欲しい。</p>
<p>・ヤングケアラーは知らない人も多く、ヤングケアラー自身の自覚がないことが多いので、学校などの子供や若い人が多くいる、よく見る場所で、取り上げるべきだと思います。</p>
<p>・学校にいる大人（教師など）が、ヤングケアラーの子供たちは忙しさや肉体的精神的疲労が大きいために学校生活を他の皆と同じように送れないことを理解し、できる範囲で手を差し伸べることが必要である。また、近隣住民なども理解を示すことが必要だと考える。</p>
<p>・周りの人間は同情したり可哀想だと思うのではなく、本人の意思を尊重しつつ、普段と変わった様子がないかどうか会話をしたり、見守ること。助けを求められたり、明らかに様子がおかしい場合には本人の心を傷つけないように注意を払いながら対応すること。</p>
<p>・家族のお世話を家族以外の人間が行うことは難しいので、周囲の人間は精神的なケアをヤングケアラーに対して行うべきであると思う。</p>
<p>・学校生活や友人関係が疎かにならないように手をさしのべてほしいです。</p>
<p>・子供の中には家庭や周りの環境のせいで人に相談したくないと思う人も一定数いると思うので、無理に話を聞き出そうとせず相手のペースを考えて優しく寄り添うことも必要だと思います。</p>
<p>・ただ合理的に金銭面やメンタルケアなどのサポートをするよりも、ただ隣に座って話を聞いたり、同じような境遇にある人と話してみるだけでだいぶ心が軽くなるように思います。</p>

②要望・求める支援（お世話をしている家族がいると回答した生徒の意見）

- ・相談してもあんまり聞いてもらえなくて、気持ちを理解してもらえないからつらい時がある。金銭的にも大変なのはしっかりとした理由があって、期日までに間に合わなかった場合、絶対にお金がもらえないなど人の気持ちを分かっている。悲しい。
- ・行政からの手助けが不可欠だと思う。若い子ゆえに自分から SOS を出せないことも考えられるので、学校でひとりひとりの家庭環境の把握から、きちんと次へ繋げていく必要があると思う。
- ・その子が助けを求めたら、助けるべきだと思う。余計に手を出すことでその子へのストレスになるから余計なことをしないでその子のことを一番に思うべきだと思う。
- ・一人で抱え込まずに、周りの人に相談するのが大切だと思う。周りの大人は、定期的に相談する機会を作るのが大切だと思う。
- ・学校に来るのは当たり前かもしれないけど、夜遅くまでお世話などをしていたらそんな行く体力なんて残ってるわけない。わかったような口調で辛いよとかそんな口だけな言葉はいらない。頑張ってきたらどうだなんて言われるけど、そんなのは自分が一番わかってる。他人には口を出されたくない。

③その他

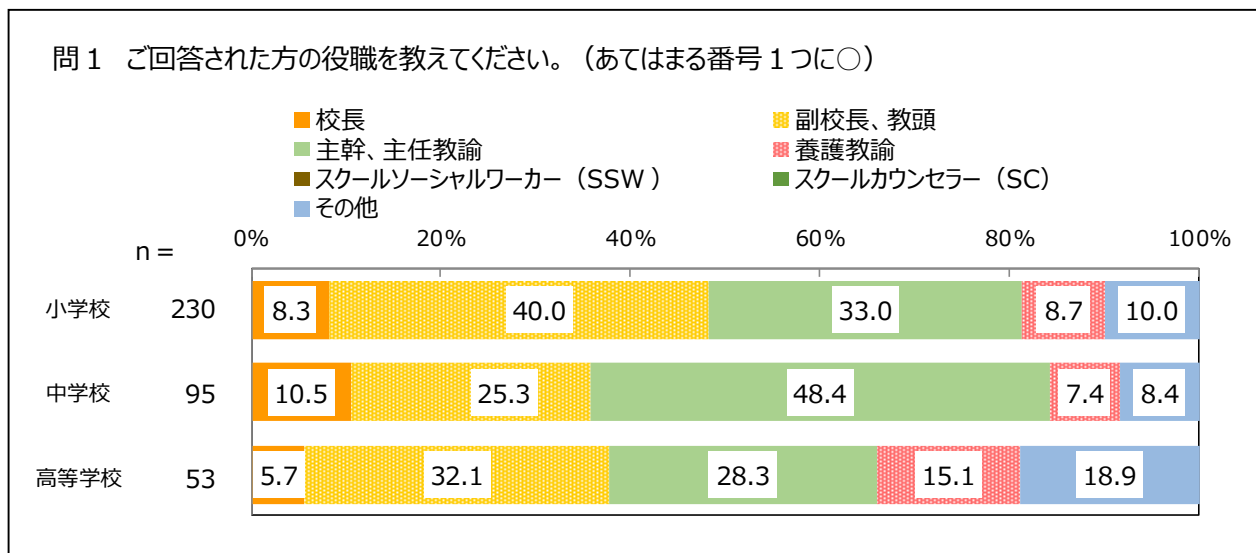
- ・そもそも家事などを大人がやらなくてはならないという決まりはないが、育児放棄等の悩みの場合であれば、それに対応したサポートを受けられる場所があるので、そこに連絡やコンタクトを取ったほうが良い。
- ・お世話をするのが日常になっている場合、自分がやりたいことなどを考えないようにしてしまうのではないと思う。まず、自分は何をしたいかなどを見つけられるように支援があるといいと思った。自分でヤングケアラーだと気づいていない人もいると聞いたので、地域で見守ったり手伝ったりできるといいと思う。
- ・まず学校や県がそういった子どもたちの数、実態を知ること。次にヤングケアラーについての啓発をし、同年代の子供たちにもその存在を理解させる。最後に県による包括的な介護者による支援や相談相手の派遣をし、ヤングケアラーの直接的支援をする。ヤングケアラー問題の重要な点は、その存在が学校や友人に知られないこと、ヤングケアラーであるから部活や勉強がうまくできず、学歴社会でも差別の対象となるという点である。根本的な解決には時間がかかるのでまずはそれに対する社会的理解を深めることが重要だと考える。
- ・あまり首を突っ込むのは迷惑だと思う。それが当たり前の環境ならどうこう言われるのは逆に嫌だ。でも、周りから孤立しないように影から対策してあげる必要はあると思う。
- ・子供がお世話をしなくても障害や病気のある家族の生活が困らないような制度を導入するなどヤングケアラーが生じない制度を考えて欲しいです。
- ・まずは親類の支援、それができないなら国などの公的な支援が必要だと思う（経済的支援や心理サポート的支援など、その家庭の状況に合わせた支援）。
- ・地域の人に声をかけてもらって、部活動の送迎を手伝ってもらったり、少しでもヤングケアラーの心の拠り所になる人をたくさん作れる環境にすること。
- ・居残り学習や休日の学校開放時間を増やし勉強をできるようにする。大人が介護などを週に何度か子供の勉強以外の自由時間（リラックスできるような）の確保ができるように家を訪れる。

第4章 学校向けアンケート調査

I 児童・生徒の生活実態に関する調査結果

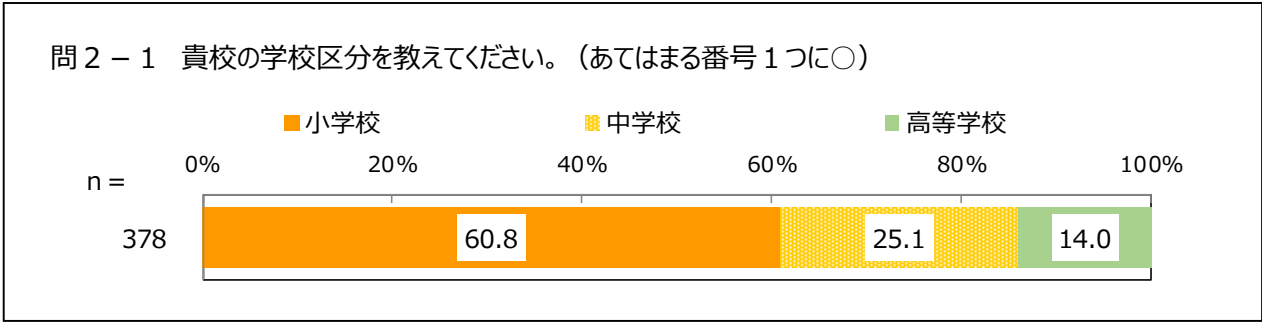
1 基本情報

(1) 回答者の役職



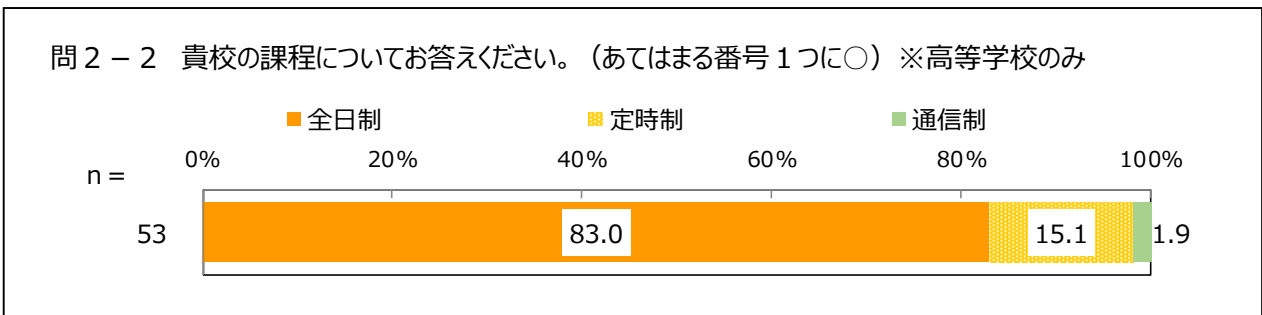
回答者の役職は、小学校で「副校長、教頭」が40.0%で最も高く、次いで「主幹、主任教諭」(33.0%)となっている。中学校では、「主幹、主任教諭」が48.4%で最も高く、次いで「副校長、教頭」(25.3%)となっている。高等学校では、「副校長、教頭」が32.1%で最も高く、次いで「主幹、主任教諭」(28.3%)となっている。

(2) 学校区分



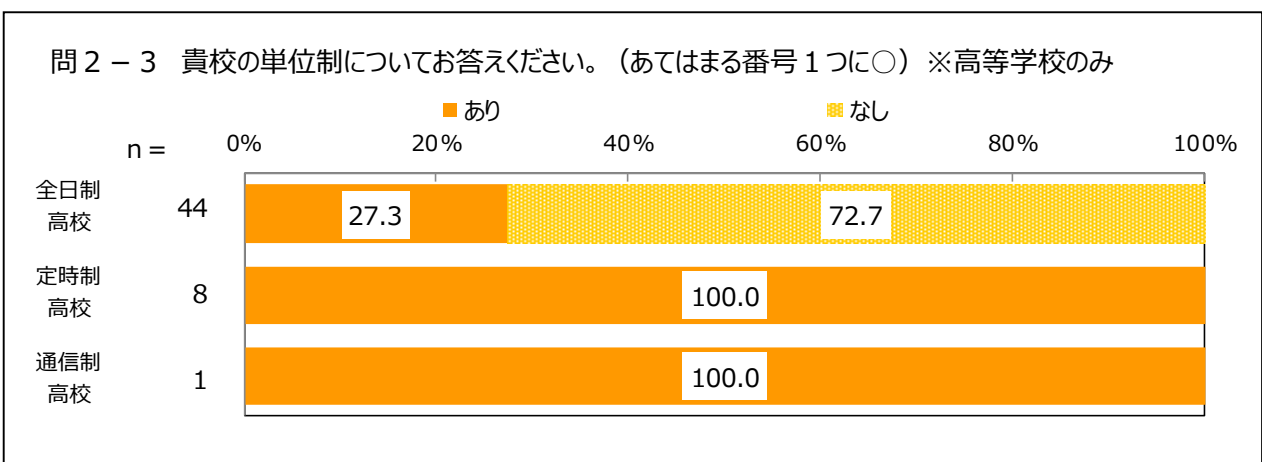
学校区分は、「小学校」が60.8%、「中学校」が25.1%、「高等学校」が14.0%となっている。

(3) 課程



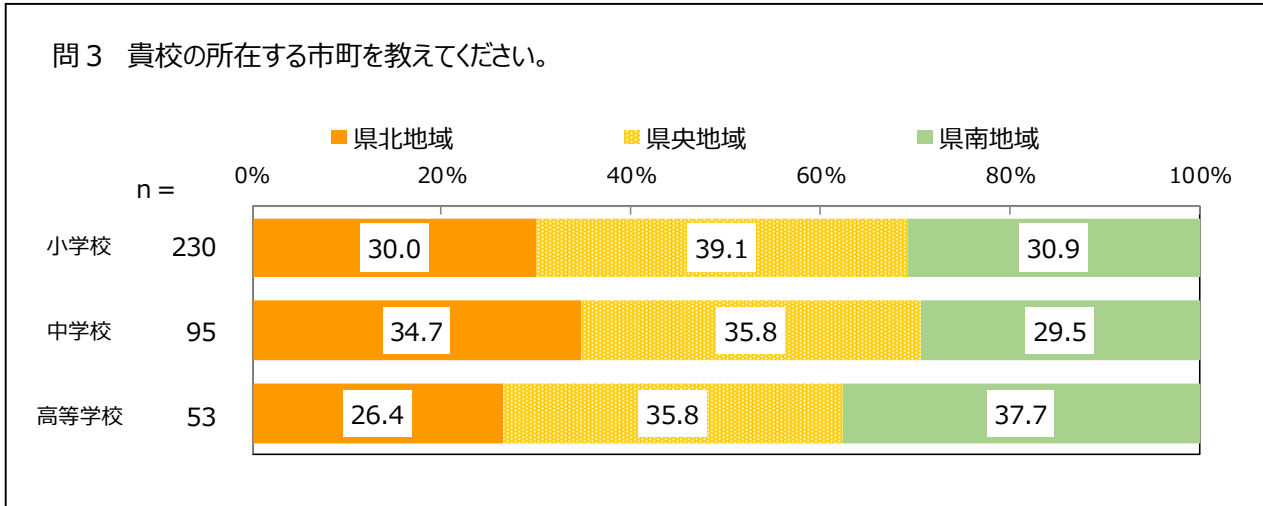
高等学校の課程は、「全日制」が83.0%で最も高くなっている。

(4) 単位制の有無



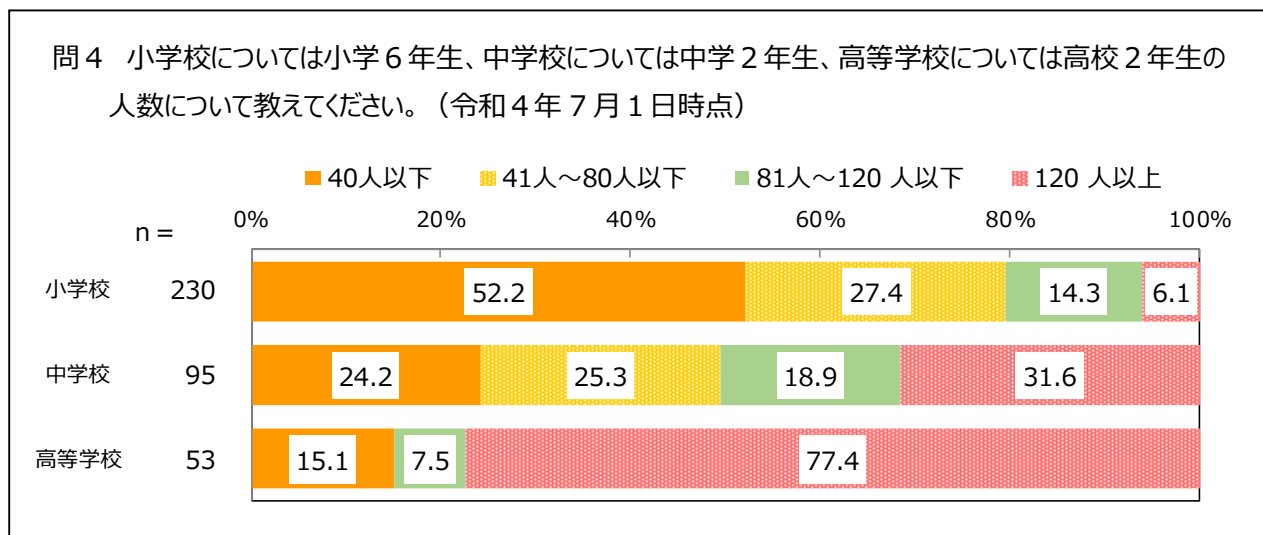
高等学校の単位制の有無は、全日制高校で「あり」が27.3%、「なし」が72.7%となっている。

(5) 学校の所在地



学校所在地は、小学校で「県北地域」が30.0%、「県央地域」が39.1%、「県南地域」が30.9%となっている。中学校では、「県北地域」が34.7%、「県央地域」が35.8%、「県南地域」が29.5%となっている。高等学校では、「県北地域」が26.4%、「県央地域」が35.8%、「県南地域」が37.7%となっている。

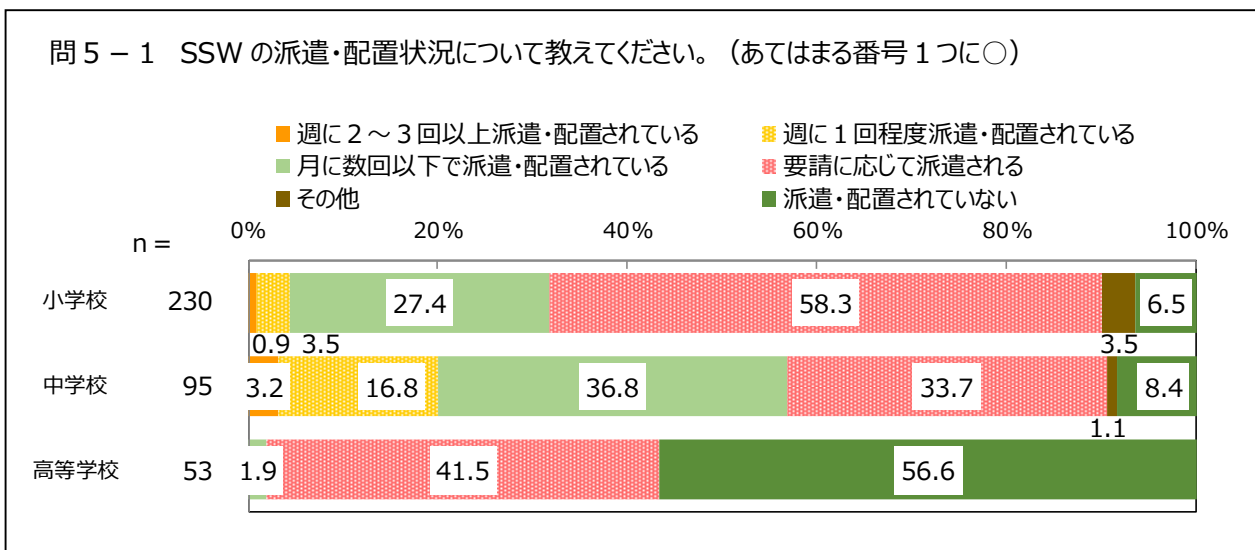
(6) 学校規模



児童・生徒の人数は、小学校で「40人以下」が52.2%で最も高く、次いで「41人~80人以下」(27.4%)となっている。中学校では、「120人以上」が31.6%で最も高く、次いで「41人~80人以下」(25.3%)、「40人以下」(24.2%)となっている。高等学校では、「120人以上」が77.4%で最も高く、次いで「40人以下」(15.1%)となっている。

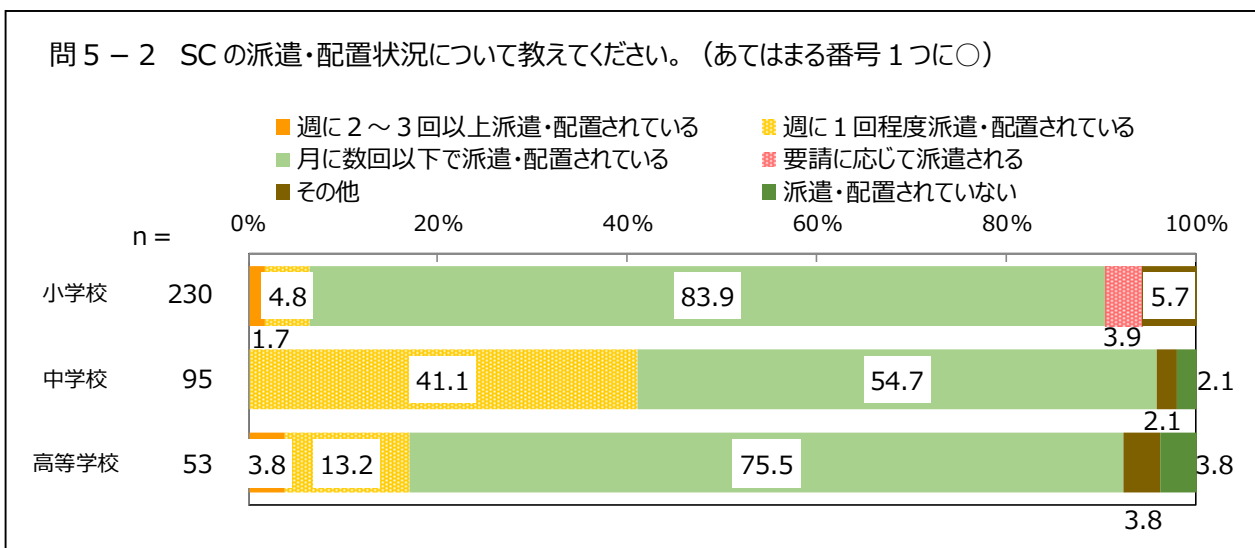
2 支援が必要だと思われる子どもへの対応

(1) SSW の派遣・配置状況



SSW の派遣・配置状況は、小学校で「要請に応じて派遣される」が 58.3% で最も高く、次いで「月に数回以下で派遣・配置されている」(27.4%) となっている。中学校では、「月に数回以下で派遣・配置されている」が 36.8% で最も高く、次いで「要請に応じて派遣される」(33.7%) となっている。高等学校では、「派遣・配置されていない」が 56.6% で最も高く、次いで「要請に応じて派遣される」(41.5%) となっている。

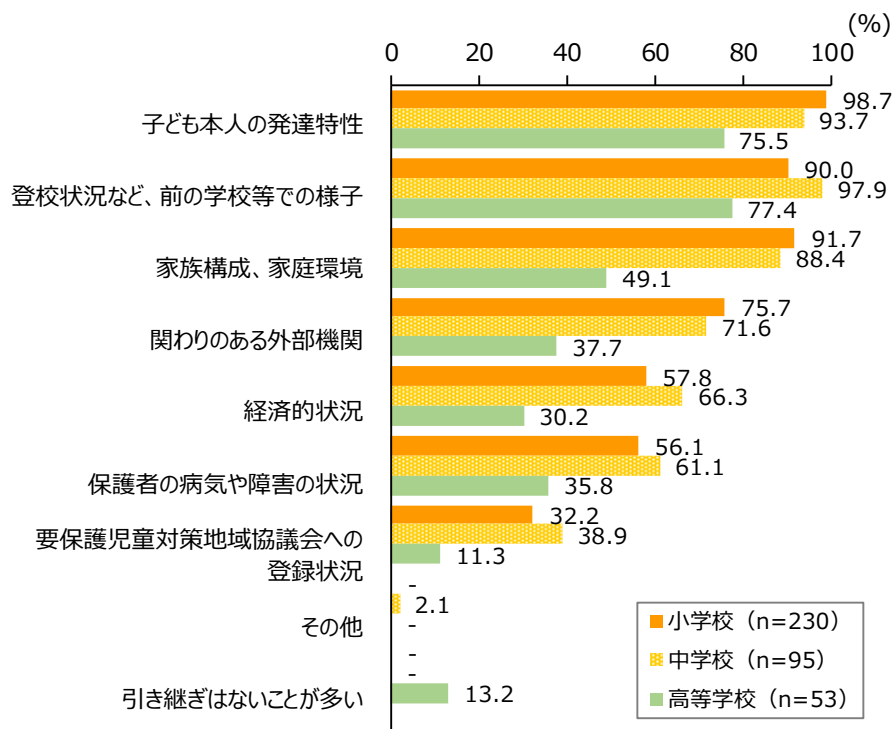
(2) SC の派遣・配置状況



SC の派遣・配置状況は、いずれも「月に数回以下で派遣・配置されている」の割合が最も高く、小学校、高等学校では 70% 以上となっている。中学校では、「月に数回以下で派遣・配置されている」が 54.7%、「週に1回程度派遣・配置されている」が 41.1% となっている。

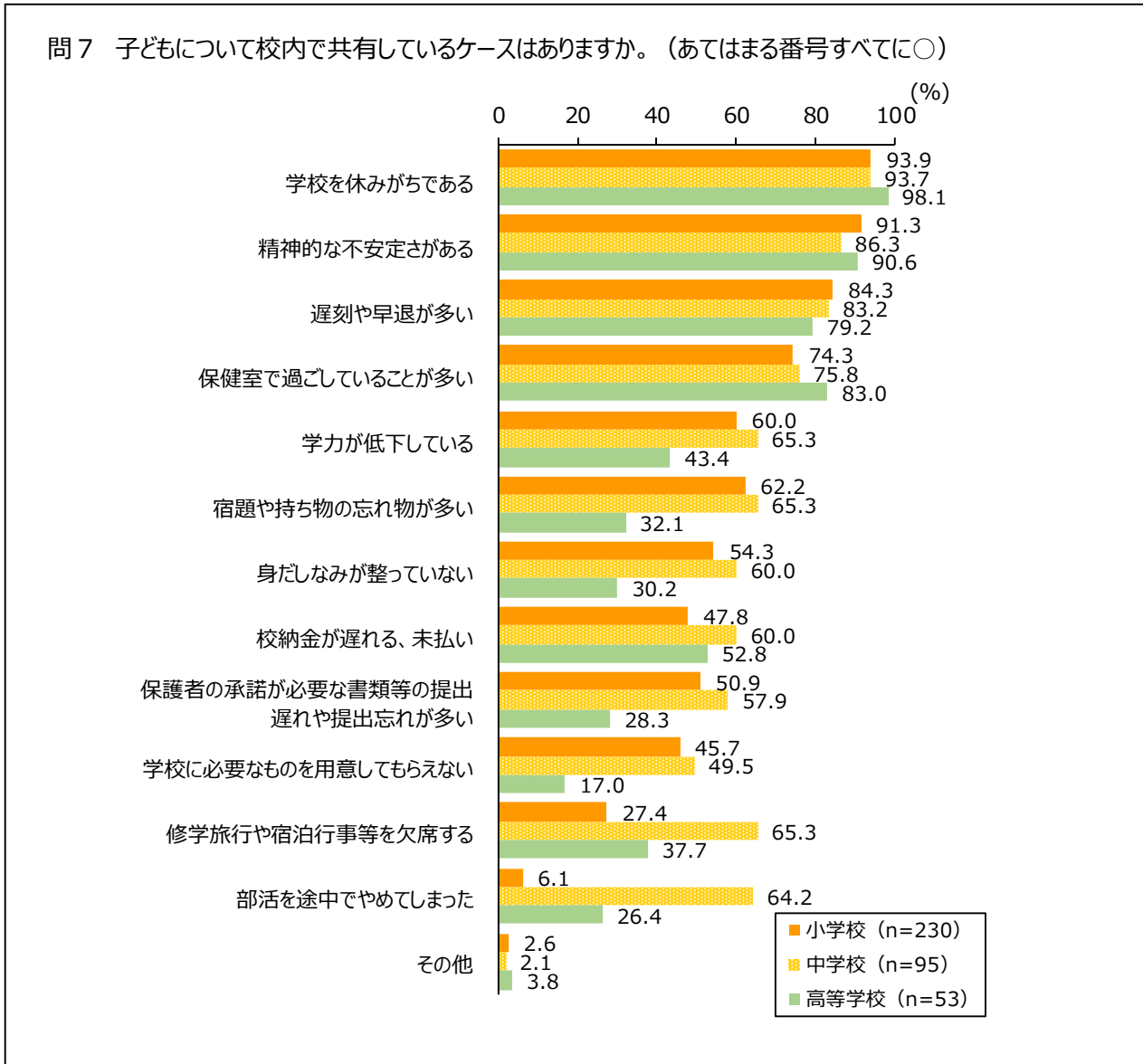
(3) 支援が必要と思われる子どもの引き継ぎ方

問6 支援が必要と思われる子どもや気になる子どもについて、入学前に幼稚園・保育所、小学校、中学校から、主にどのような引き継ぎがありますか。(あてはまる番号すべてに○)



支援が必要と思われる子どもの引き継ぎ方は、小学校で「子ども本人の発達特性」が98.7%で最も高く、次いで「家族構成、家庭環境」(91.7%)、「登校状況など、前の学校等での様子」(90.0%)となっている。中学校では、「登校状況など、前の学校等での様子」が97.9%で最も高く、次いで「子ども本人の発達特性」(93.7%)となっている。高等学校では、「登校状況など、前の学校等での様子」が77.4%で最も高く、次いで「子ども本人の発達特性」が75.5%となっている。

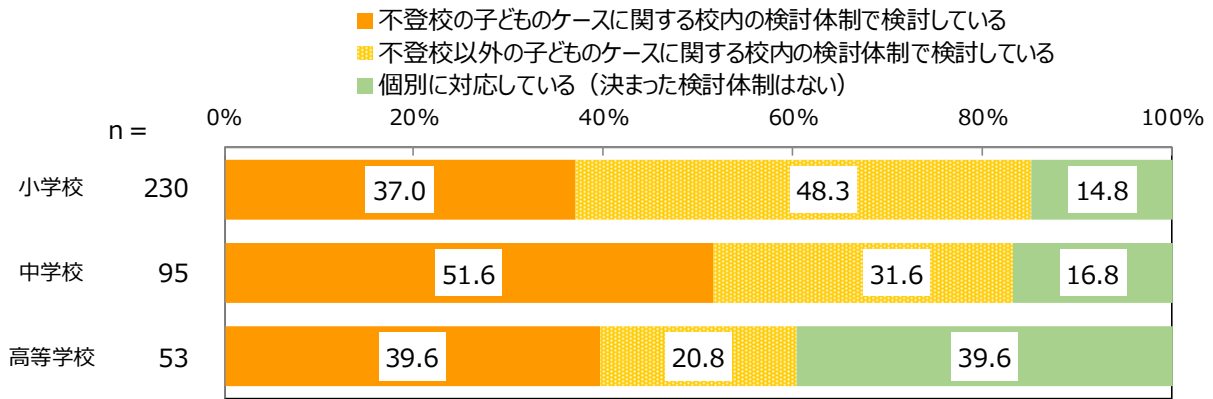
(4) 校内で共有している子どものケース



校内で共有している子どものケースは、いずれも「学校を休みがちである」の割合が最も高く、小学校、中学校で93%台、高等学校では98.1%と高くなっている。小学校、高等学校で「精神的な不安定さがある」が90%以上で高くなっている。

(5) 情報共有・対応の検討体制

問8 問7「子どもについて校内で共有しているケース」について、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多いケースでご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



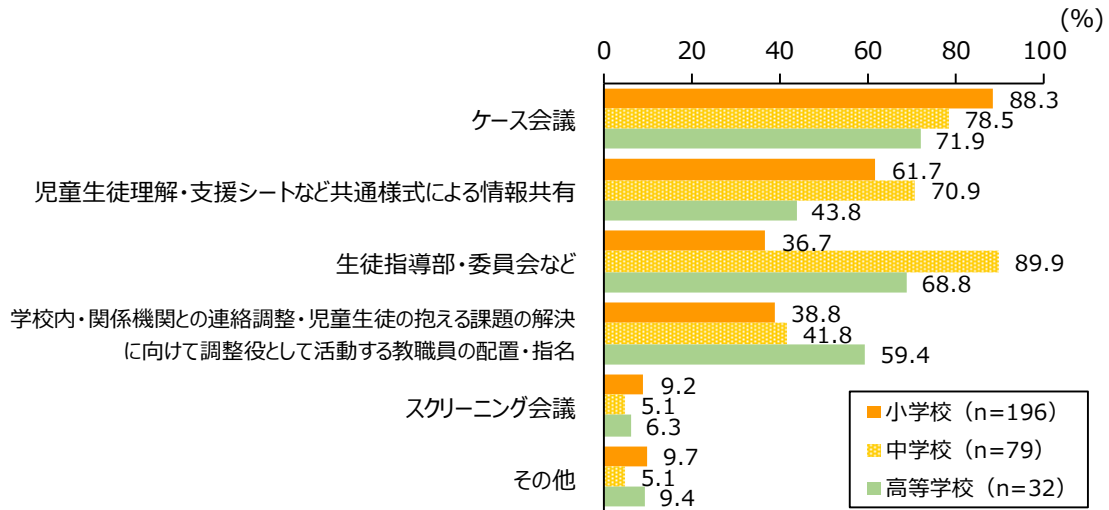
情報共有・対応の検討体制は、小学校で「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」が48.3%で最も高く、次いで「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」(37.0%)となっている。中学校では、「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」が51.6%で最も高く、次いで「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」(31.6%)となっている。高等学校では、「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「個別に対応している(決まった検討体制はない)」が39.6%で高くなっている。

(6) 情報共有・対応の検討方法

(問8で「1：不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」「2：不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した方にお伺いします。)

問9-1 校内ではどのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。

(あてはまる番号すべてに○)



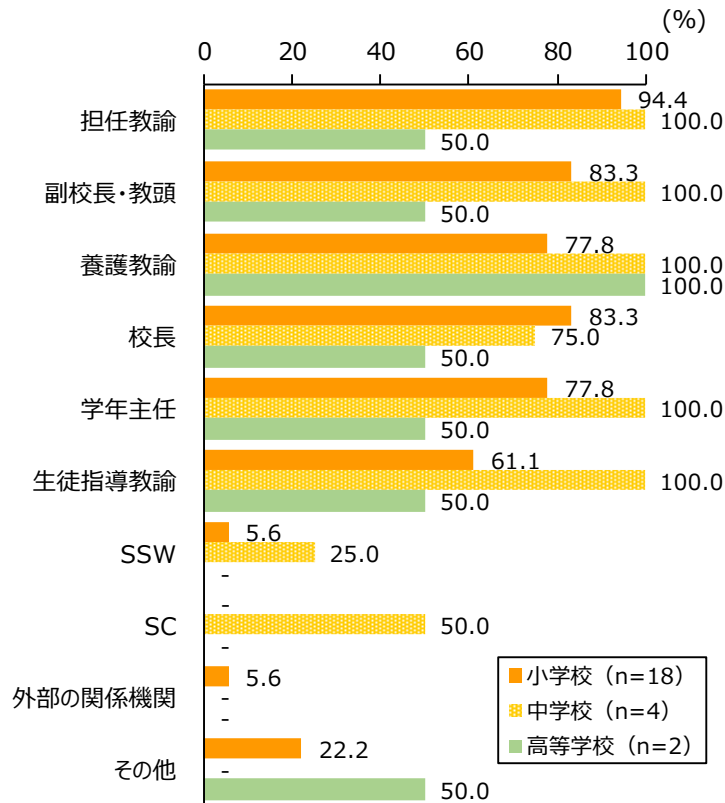
情報共有・対応の検討方法は、小学校、高等学校で「ケース会議」の割合が最も高く、小学校で88.3%、高等学校で71.9%となっている。中学校では、「生徒指導部・委員会など」が89.9%で最も高く、次いで「ケース会議」(78.5%)となっている。

(7) 会議の参加者

(問9-1で「1:スクリーニング会議」「2:ケース会議」「3:生徒指導部・委員会など」「6:その他」と回答した方にお伺いします。)

問9-2 どの教職員が参加していますか。(あてはまる番号すべてに○)

①スクリーニング会議

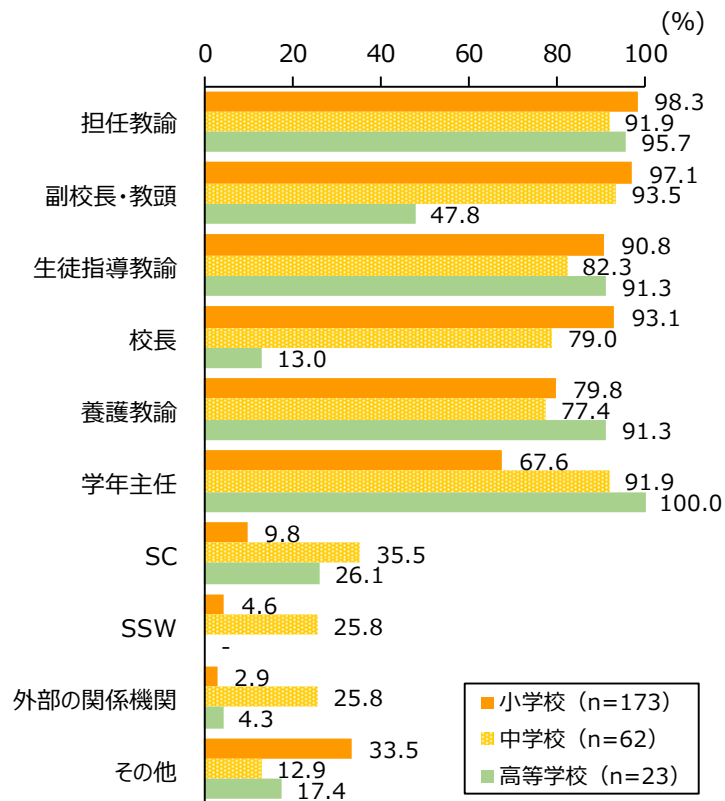


スクリーニング会議の参加者は、回答数が少ないため参考値であるが、小学校で「担任教諭」が94.4%で最も高く、次いで「校長」(83.3%)、「副校長・教頭」(83.3%)となっている。

(問9-1で「1:スクリーニング会議」「2:ケース会議」「3:生徒指導部・委員会など」「6:その他」と回答した方にお伺いします。)

問9-2 どの教職員が参加していますか。(あてはまる番号すべてに○)

②ケース会議

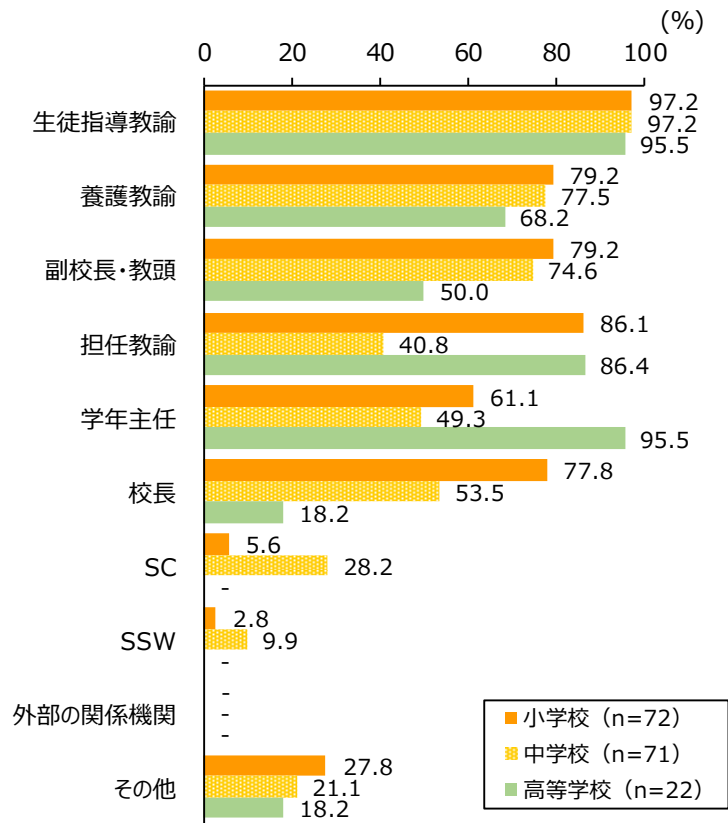


ケース会議の参加者は、小学校で「担任教諭」、「副校長・教頭」、「生徒指導教諭」、「校長」が90%以上で高くなっている。中学校では、「担任教諭」、「副校長・教頭」、「学年主任」が90%以上で高くなっている。高等学校は、回答数が少ないため参考値であるが、「担任教諭」、「生徒指導教諭」、「養護教諭」、「学年主任」が90%以上で高くなっている。

(問9-1で「1:スクリーニング会議」「2:ケース会議」「3:生徒指導部・委員会など」「6:その他」と回答した方にお伺いします。)

問9-2 どの教職員が参加していますか。(あてはまる番号すべてに○)

③生徒指導部・委員会

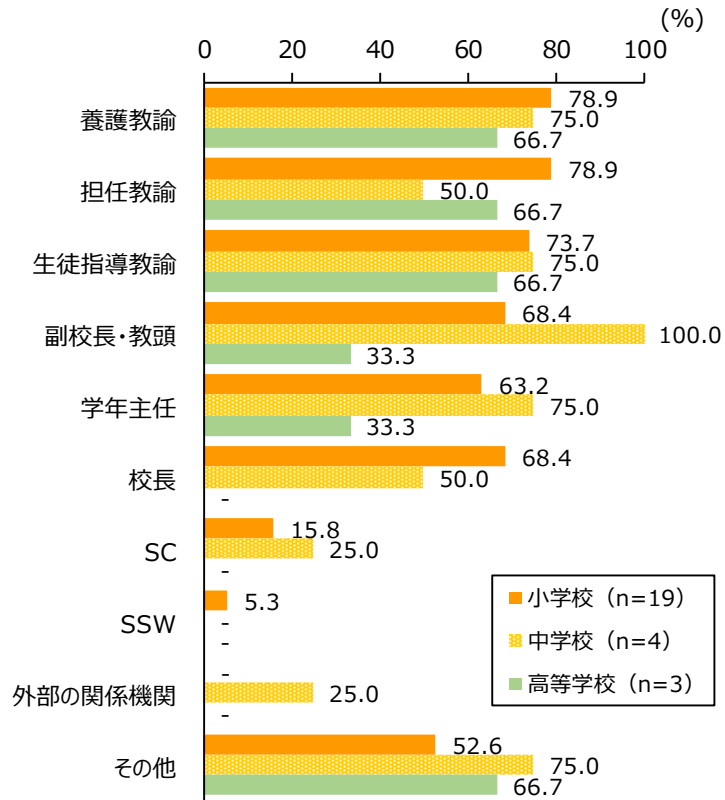


生徒指導部・委員会の参加者は、いずれも「生徒指導教諭」が95%以上で高くなっている。高等学校は、回答数が少ないため参考値であるが、「学年主任」も95.5%で高くなっている。

(問9-1で「1:スクリーニング会議」「2:ケース会議」「3:生徒指導部・委員会など」「6:その他」と回答した方にお伺いします。)

問9-2 どの教職員が参加していますか。(あてはまる番号すべてに○)

④その他



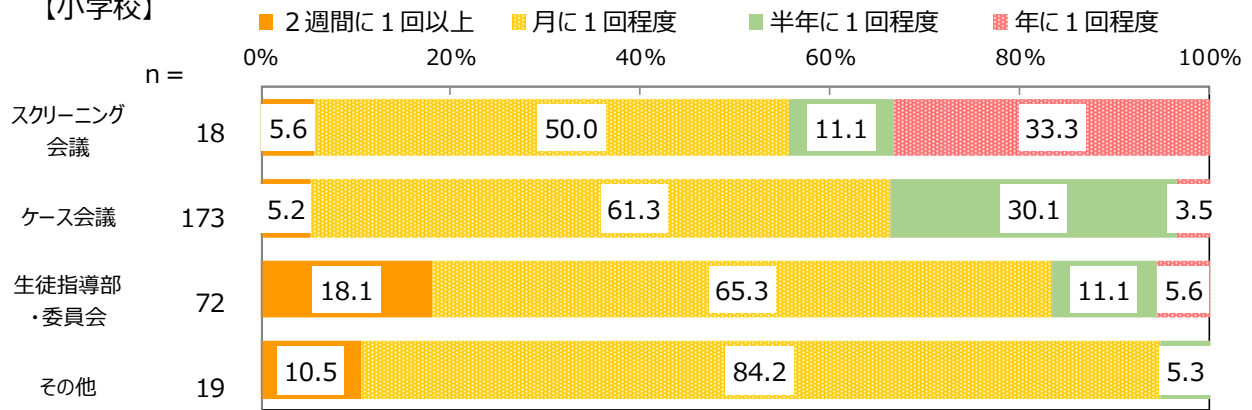
「その他」の内容には、「職員会議に児童指導に係る情報共有の時間を位置づけ」、「児童理解のための情報交換会」などがあった。「その他」の回答数が少ないため参考値として図示するに留めることとする。

(8) 会議の頻度

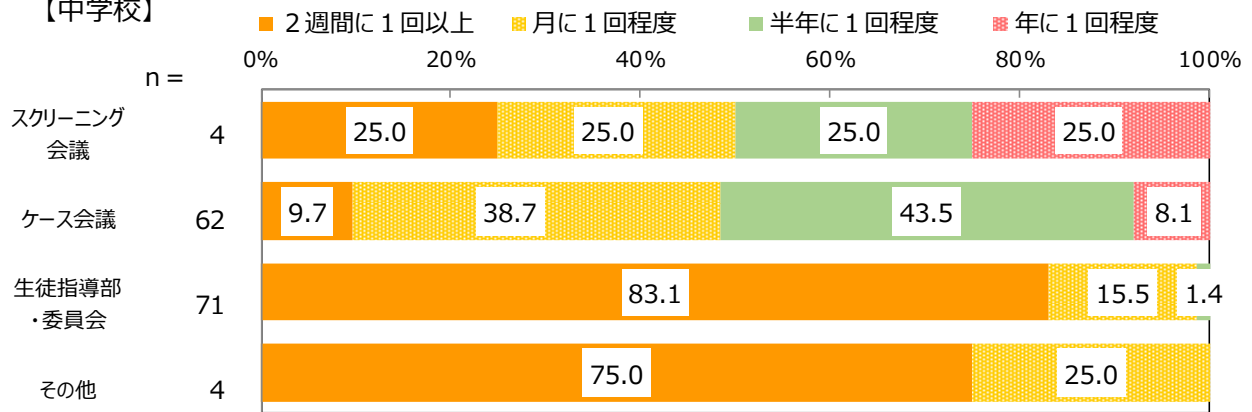
(問9-1で「1:スクリーニング会議」「2:ケース会議」「3:生徒指導部・委員会など」「6:その他」と回答した方にお伺いします。)

問9-3 会議の頻度はどのくらいですか。(あてはまる番号1つに○)

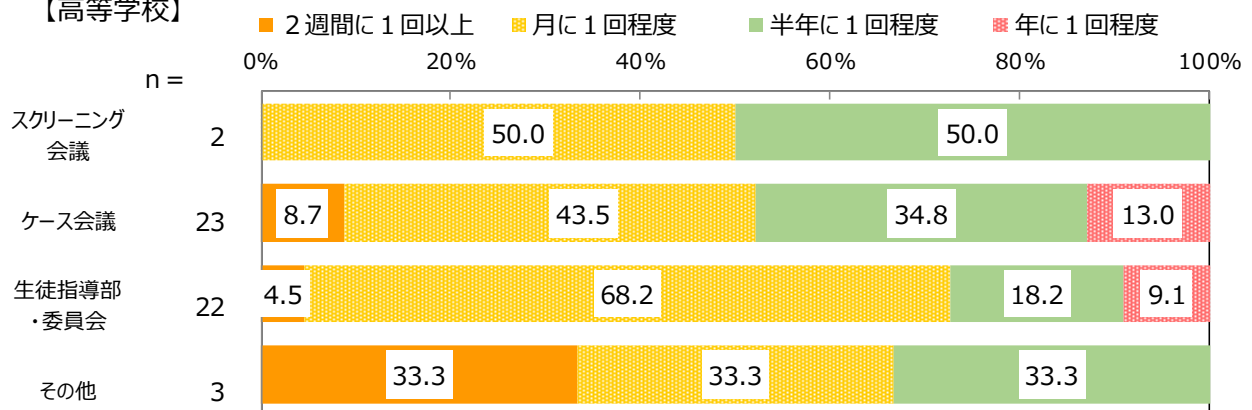
【小学校】



【中学校】



【高等学校】



会議の頻度は、小学校、高等学校で「月に1回程度」の割合が最も高くなっている。中学校は“ケース会議”で「半年に1回程度」が43.5%で最も高く、次いで「月に1回程度」が38.7%となっている。また、“生徒指導部・委員会”では「2週間に1回以上」が83.1%で最も高くなっている。

(9) 個別に対応している場合の情報共有・対応の検討方法・頻度

(問8で「3：個別に対応している」と回答した方にお伺いします。)

問10 問7「子どもについて校内で共有しているケース」について、貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について具体的に教えてください。

以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

【職員会議及び会議後の情報共有の時間を設ける】

- ・月に1回、職員会議後に職員間での情報共有をしている。
- ・担任より報告のあった生徒について、学年で共有し管理職に報告をしている。また、学期ごとに全学年の状況を報告する機会を設けている。
- ・毎週1回実施される学科会(所属教員全員参加)で学級の状況報告と対応の検討をしている。毎月1回実施される学科長会議(各学科長、教頭参加)で他学科とも情報共有するとともに教頭からの指導助言を参考に対応にあたっている。
- ・職員会議や打ち合わせ等における情報共有及び必要に応じての対応検討会(ケースに応じて、主に校長、教頭、担任、養護教諭、児童指導主任)。

【児童・生徒指導部会、委員会など】

- ・月1回、児童指導の情報交換会において情報共有をしている。対応の検討については、必要に応じてケース会議を行っている。
- ・1ヶ月に一回程度学年ごとに情報共有し、特に配慮を要すると思われる生徒については生徒指導部教育相談係が情報を一括して吸い上げ、まとめている。
- ・週に1回、生徒指導部会を開き、校長、生徒指導主事、各学年生徒指導担当、特別支援学級主任、特別支援コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラーが参加して、当該生徒の現状や支援の方法、家庭での様子などを確認・検討している。

【朝の打ち合わせなどで随時情報共有】

- ・主任会等で共有し、そこから学年職員に回したり、朝の打ち合わせ等でこまめに共有している。
- ・週に一度、朝の職員打ち合わせの時間を活用して、全職員で情報の共有をしている。

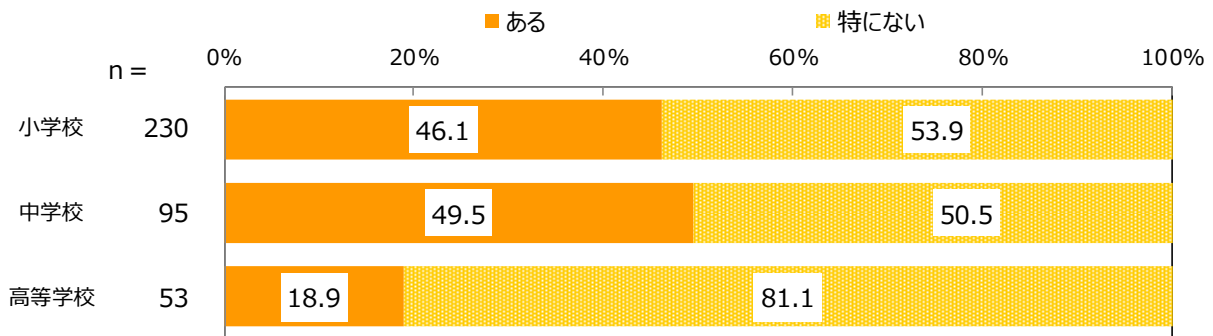
【必要に応じてケース会議を追加】

- ・定期的な事例研究会(全職員)や各生徒の共通シートの作成及び書き込み。適宜、特別支援委員会の開催や外部機関とのケース会議。
- ・管理職と関わりのある教職員でケース会議を必要時にその都度共有と検討を行い(頻度もケースによってさまざま)、全職員で児童情報共有の時間に共有を行う。

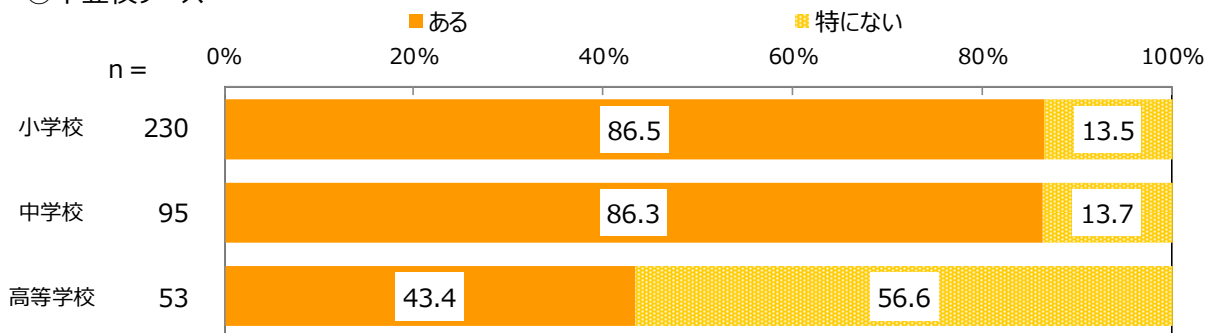
(10-1) 学校以外の関係機関と連携する体制の有無

問 11-1 問 7「子どもについて校内で共有しているケース」について、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。
(あてはまる番号 1 つに○)

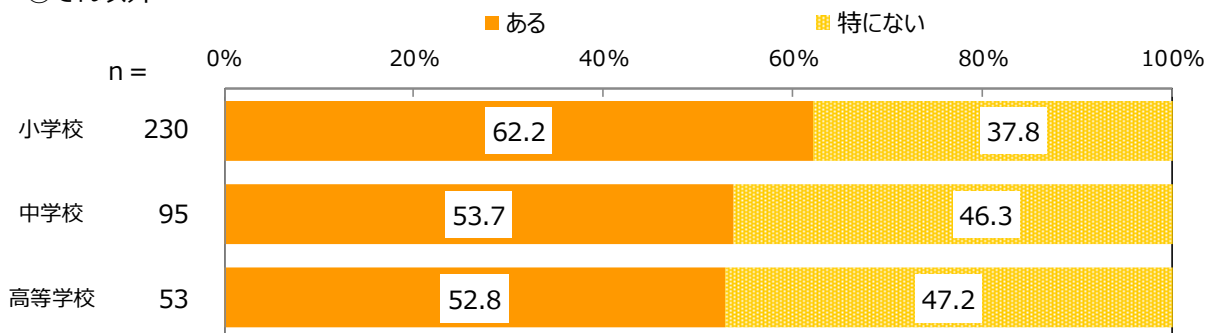
①要保護児童対策地域協議会の登録ケース



②不登校ケース



③それ以外



学校以外の関係機関と連携する体制の有無は、要保護児童対策地域協議会の登録ケースの場合、小学校、中学校で「ある」が40%台となっている。高等学校は、「ある」が18.9%となっている。

不登校ケースの場合、小学校、中学校で「ある」が80%台と高くなっている。高等学校では、「ある」が43.4%となっている。

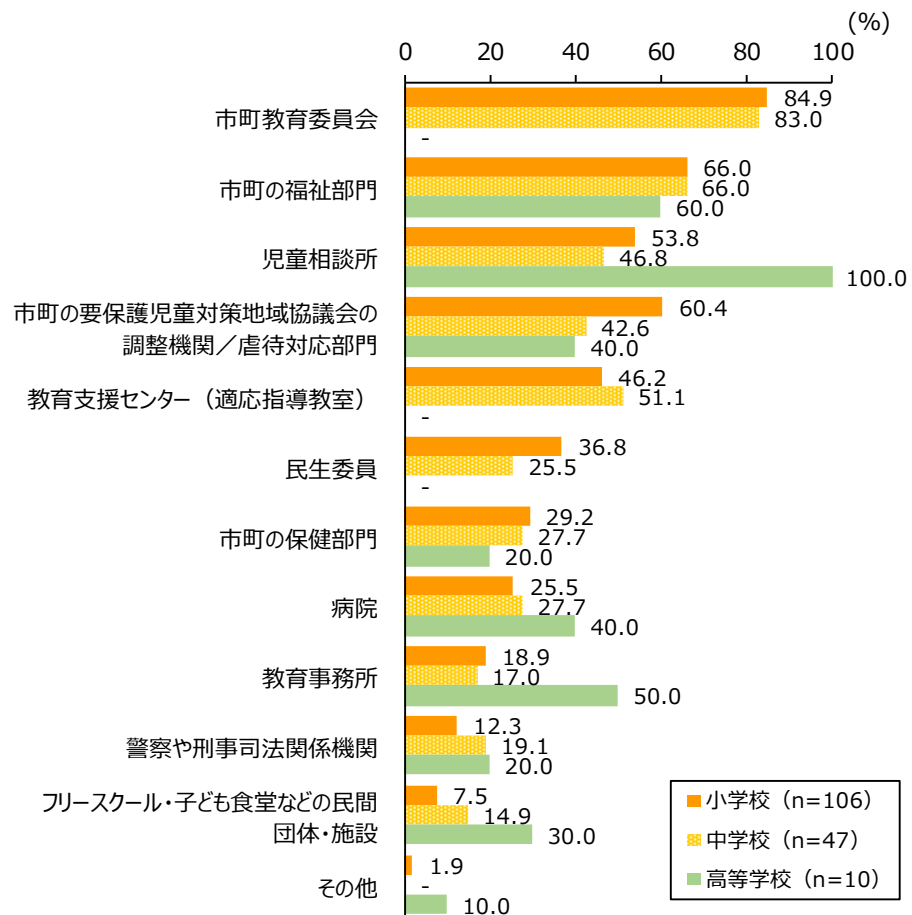
それ以外の場合、小学校で「ある」が62.2%、中学校、高等学校で「ある」が50%台となっている。

(10-2) 連携する関係機関

問 11-2 問 7「子どもについて校内で共有しているケース」について、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。

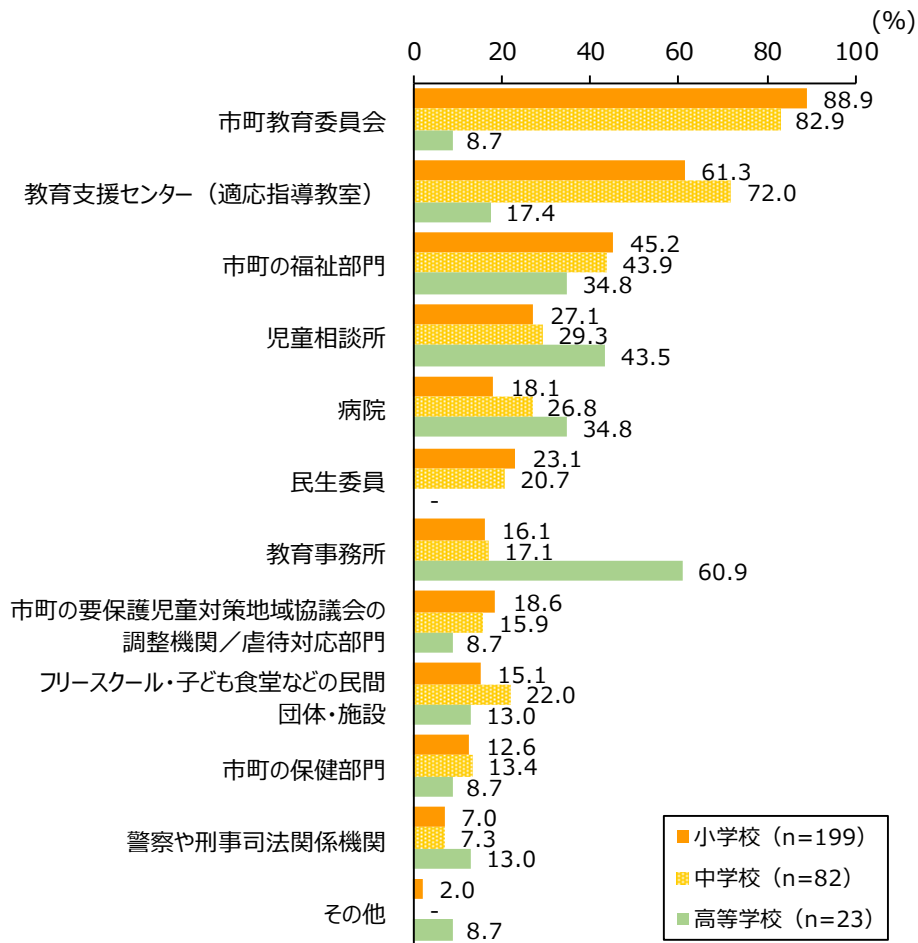
(あてはまる番号すべてに○)

①要保護児童対策地域協議会の登録ケース



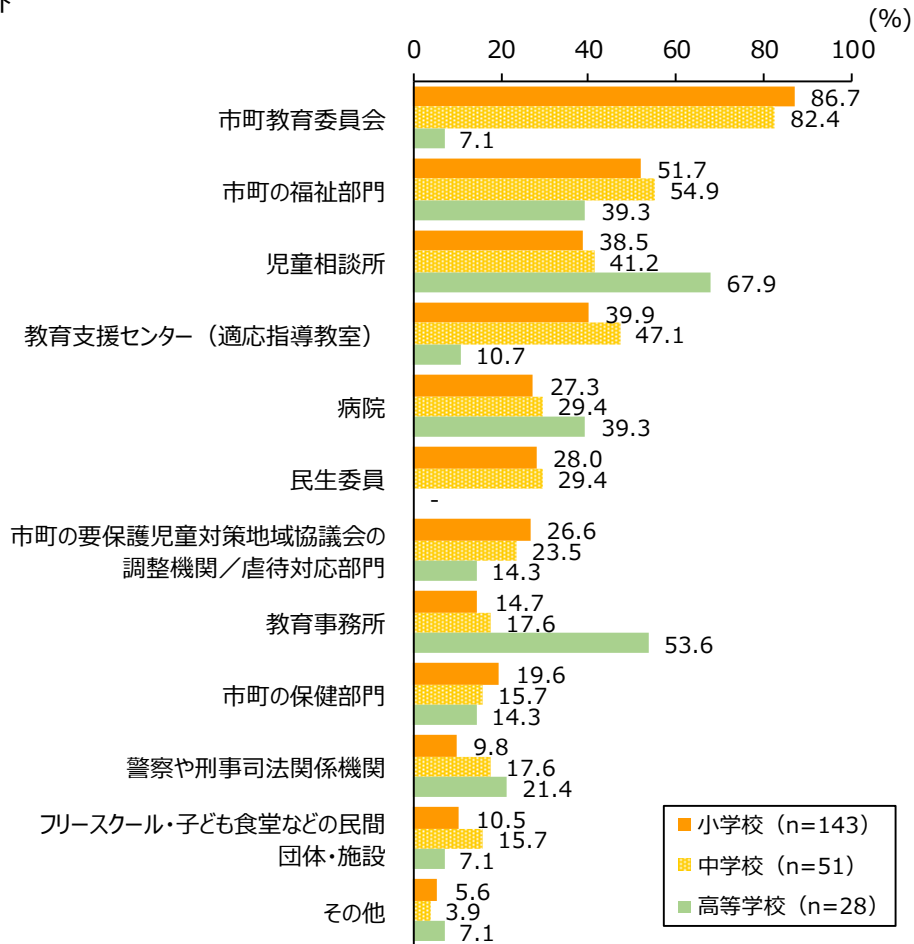
要保護児童対策地域協議会の登録ケースは、小学校、中学校で「市町教育委員会」が80%台で最も高くなっている。次いで、小学校では「市町の福祉部門」(66.0%)、「市町の要保護児童対策地域協議会の調整機関／虐待対応部門」(60.4%)が高く、中学校では「市町の福祉部門」(66.0%)、「教育支援センター（適応指導教室）」(51.1%)が高くなっている。

②不登校ケース



不登校ケースは、小学校、中学校で「市町教育委員会」が80%台で最も高くなっている。次いで、小学校、中学校ともに「教育支援センター（適応指導教室）」が高くなっている。

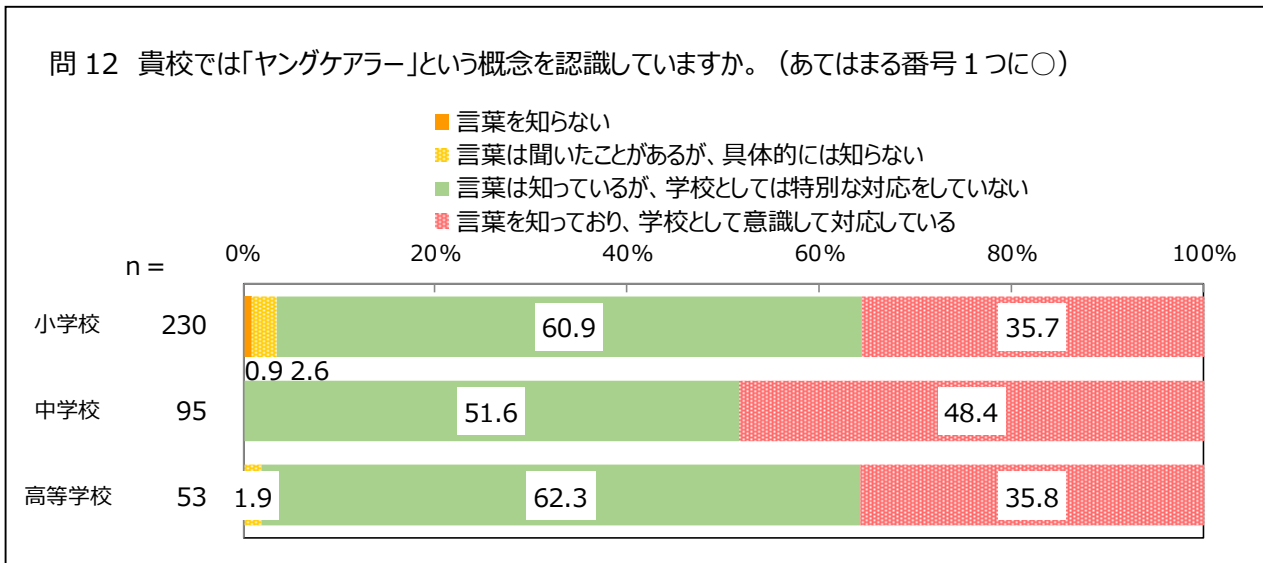
③それ以外



それ以外のケースは、小学校、中学校で「市町教育委員会」が80%台で最も高くなっている。次いで、小学校、中学校ともに「市町の福祉部門」が高くなっている。

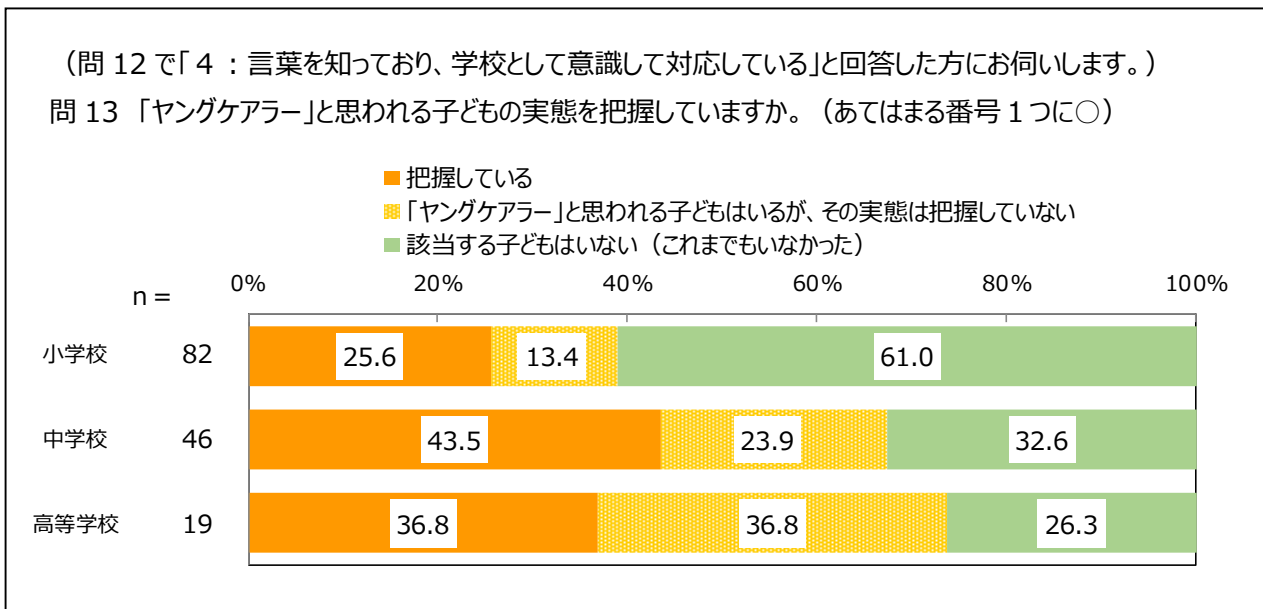
3 ヤングケアラーについて

(1) 「ヤングケアラー」概念の認識



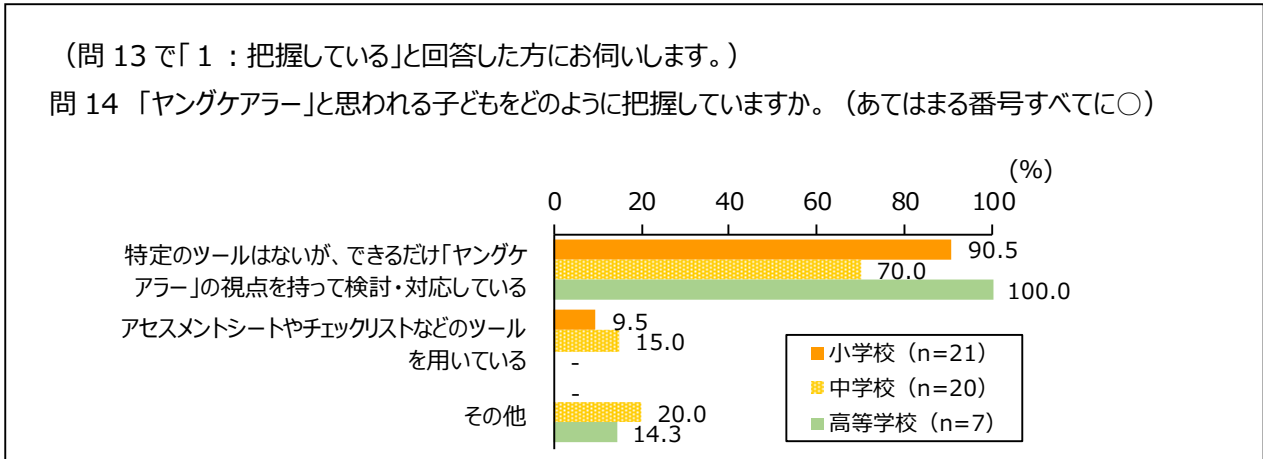
「ヤングケアラー」概念の認識は、いずれも「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」が最も高く、小学校、高等学校で 60% 台、中学校で 51.6% となっている。「言葉を知っており、学校として意識して対応している」は中学校で 48.4% となっている。

(2) 「ヤングケアラー」の実態把握の状況



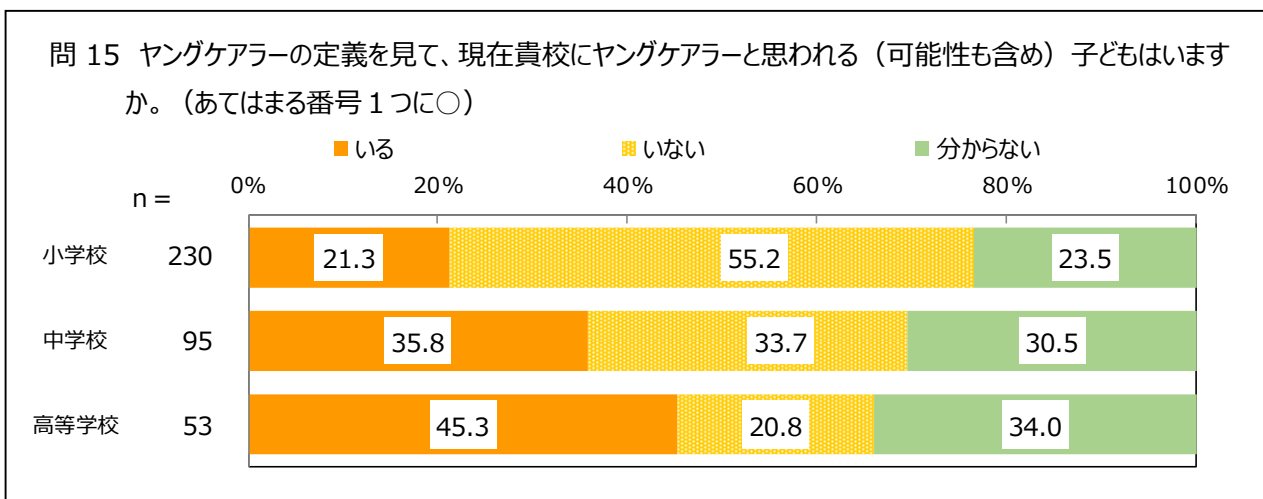
「ヤングケアラー」の実態把握の状況は、小学校で「該当する子どもはいない (これまででもいなかった)」が 61.0% で最も高くなっている。中学校では、「把握している」が 43.5% で最も高くなっている。回答数が少ないため参考値であるが、高等学校では、「把握している」、「「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が 36.8% となっている。

(3) 「ヤングケアラー」の把握方法



「ヤングケアラー」の把握方法は、回答数が少ないため参考値であるが、いずれも「特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している」の割合が高くなっている。

(4) 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

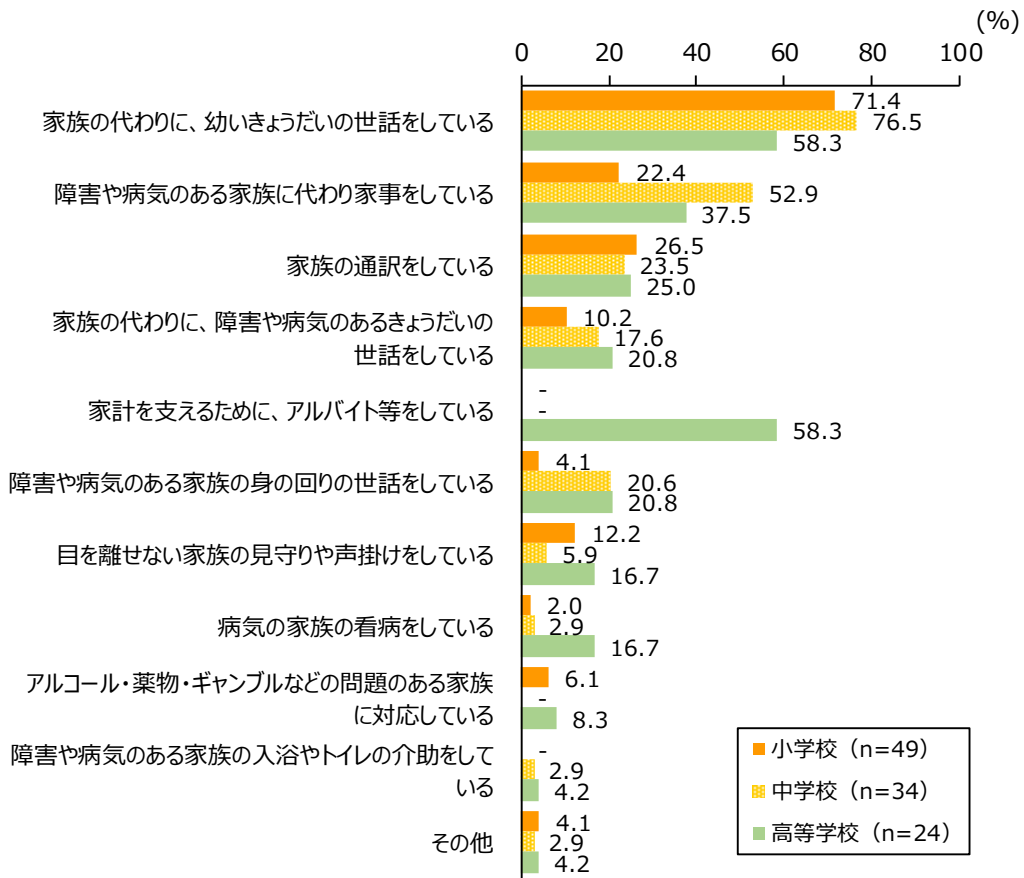


「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無は、小学校で「いる」が21.3%、「いない」が55.2%となっている。中学校では、「いる」が35.8%、「いない」が33.7%となっている。高等学校では、「いる」が45.3%、「いない」が20.8%、「分からない」が34.0%となっている。

(5) ヤングケアラーと思われる子どもの状況

(問 15 で「1 : いる」と回答した方にお伺いします。)

問 16-1 ヤングケアラーと思われる子どもの状況はどれですか。(あてはまる番号すべてに○)

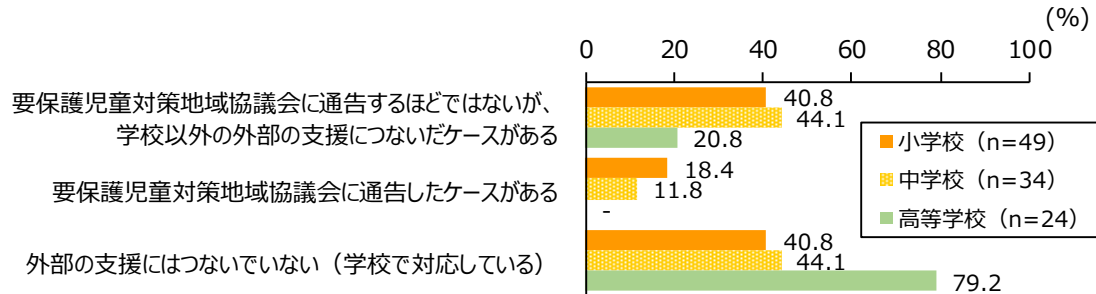


ヤングケアラーと思われる子どもの状況は、小学校、中学校で「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が70%台で最も高くなっている。回答数が少ないため参考値であるが、高等学校で「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」、「家計を支えるために、アルバイト等をしている」が58.3%となっている。

(6) 外部の支援につないだケースの有無

問 16-2 ヤングケアラーと思われる子どもについて、具体的に学校以外の外部（教育委員会、役所、要保護児童対策地域協議会など）の支援につないだケースはありますか。

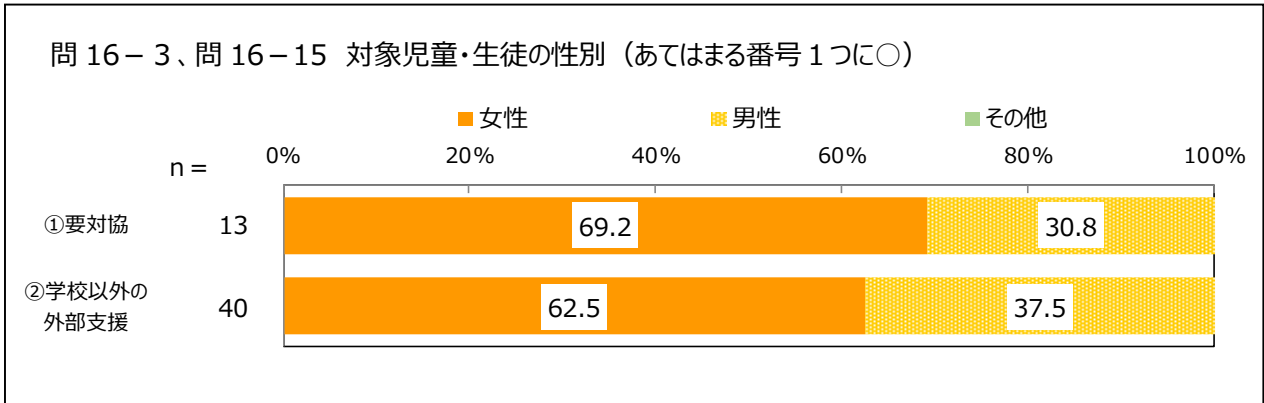
(あてはまる番号すべてに○)



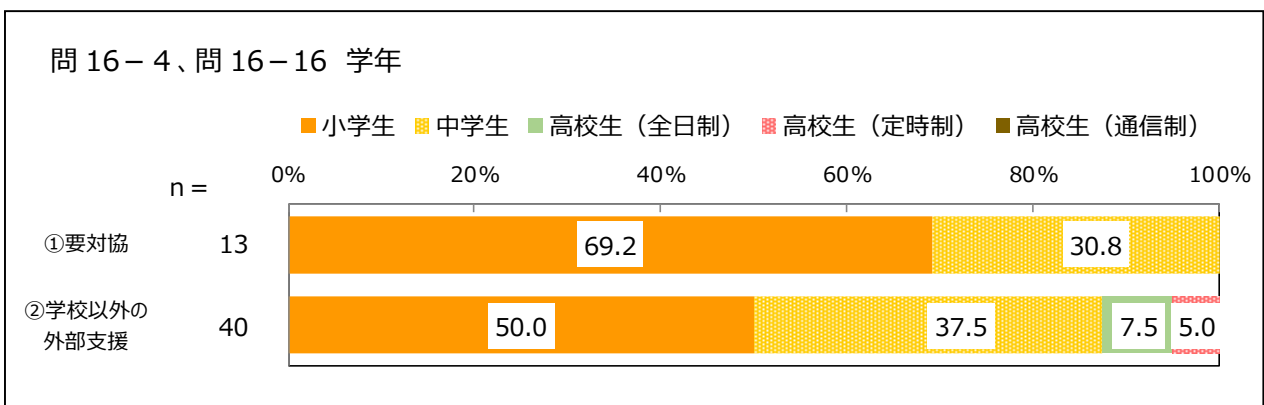
外部の支援につないだケースの有無は、小学校、中学校で「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」が40%台で高くなっている。一方、小学校、中学校ともに「外部の支援にはつないでいない (学校で対応している)」も40%台で高くなっている。回答数が少ない参考値であるが、高等学校で「外部の支援にはつないでいない (学校で対応している)」が79.2%となっている。

(7) 個別の事例

①要保護児童対策地域協議会に通告したケース、②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースについて、直近のケースを1件ずつ聞いたところ、結果は以下のとおりである。また、①要保護児童対策地域協議会に通告したケースは、回答数が少ないため、参考値とする。

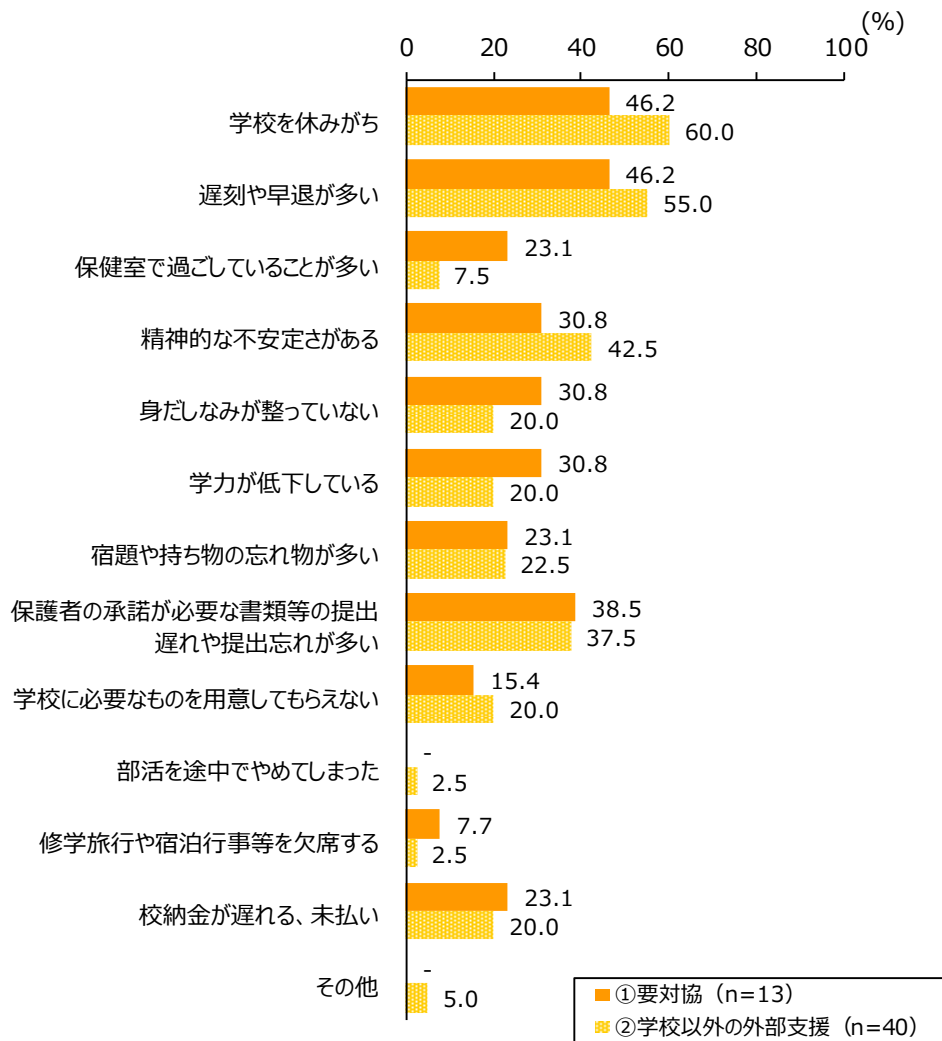


対象児童・生徒の性別は、要対協で「女性」が69.2%、「男性」が30.8%となっている。学校以外の外部支援では、「女性」が62.5%、「男性」が37.5%となっている。



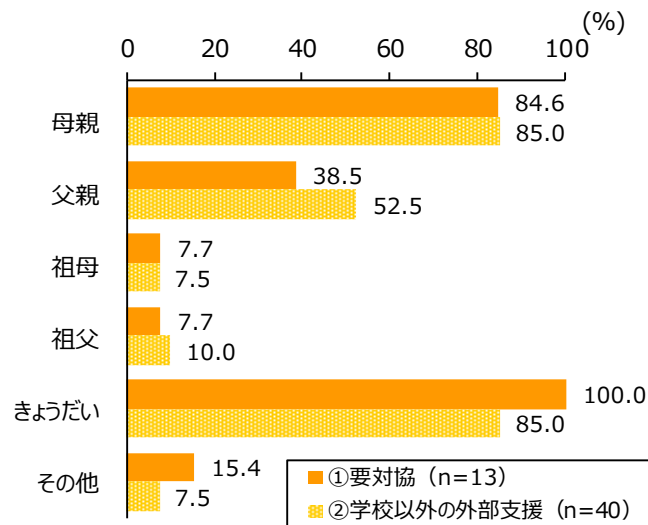
学年は、要対協で「小学生」が69.2%で最も高く、次いで「中学生」(30.8%)となっている。学校以外の外部支援では、「小学生」が50.0%で最も高く、次いで「中学生」(37.5%)、「高校生(全日制)」(7.5%)、「高校生(定時制)」(5.0%)となっている。

問 16-5、問 16-17 学校生活の状況について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)



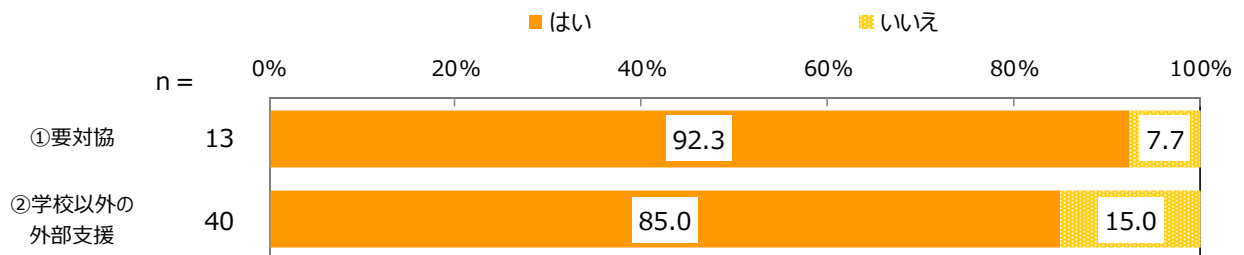
学校生活の状況は、要対協で「学校を休みがち」、「遅刻や早退が多い」が 46.2%で高く、次いで「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」(38.5%)となっている。学校以外の外部支援では、「学校を休みがち」が 60.0%で最も高く、次いで「遅刻や早退が多い」(55.0%)、「精神的な不安定さがある」(42.5%)、「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」(37.5%)となっている。

問 16-6、問 16-18 家族構成について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)



家族構成は、要対協で「きょうだい」が 100.0%で最も高く、次いで「母親」(84.6%)となっている。学校以外の外部支援では、「母親」、「きょうだい」が 85.0%で高くなっている。

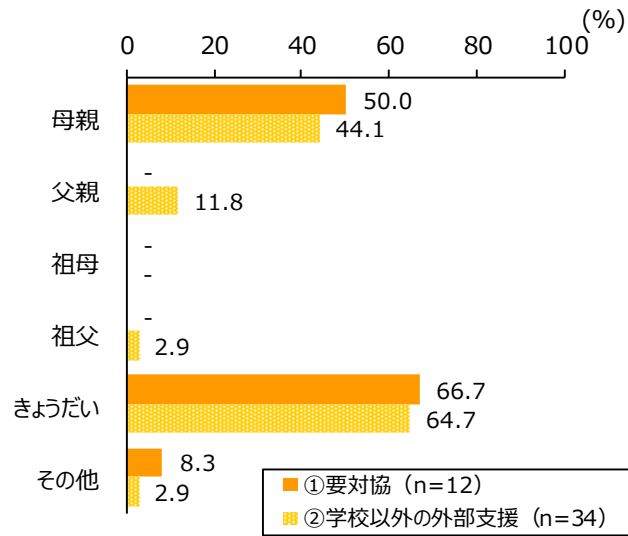
問 16-7、問 16-19 ケアの状況を把握していますか。(あてはまる番号 1つに○)



ケアの状況の把握は、要対協で「はい」(把握している)が 92.3%となっている。学校以外の外部支援では、「はい」(把握している)が 85.0%となっている。

問 16－ 8、問 16－ 20 ケアの具体的な内容について教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

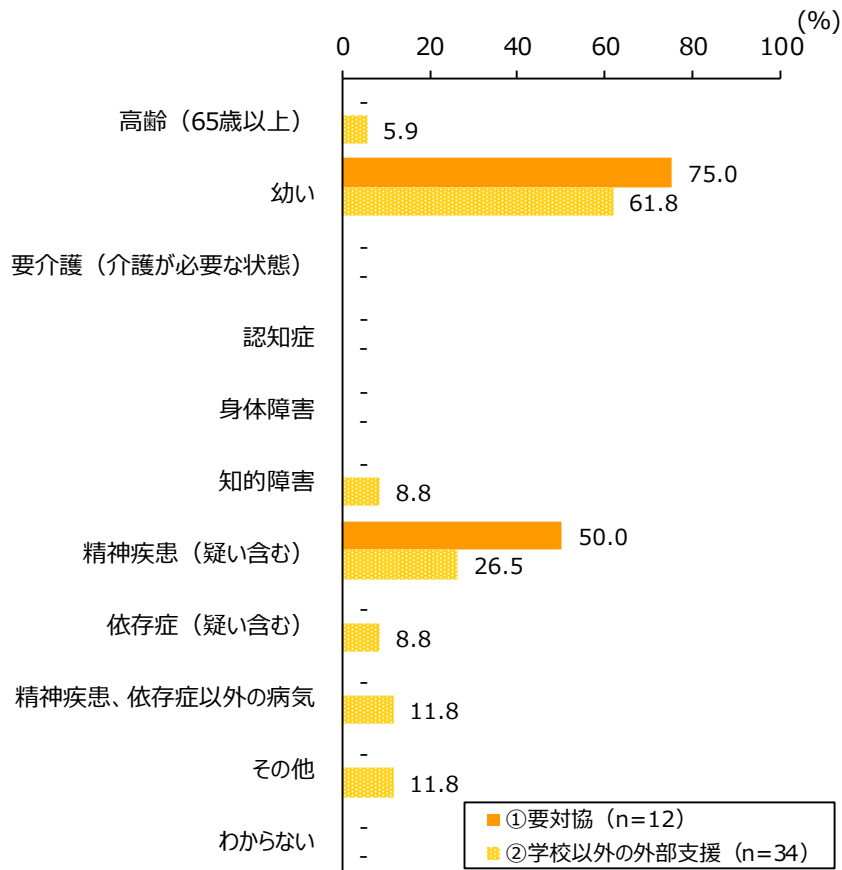
（ケアを必要としている人）



ケアを必要としている人は、要対協で「きょうだい」が 66.7%で最も高く、次いで「母親」（50.0%）となっている。学校以外の外部支援では、「きょうだい」が 64.7%で最も高く、次いで「母親」（44.1%）となっている。

問 16-9、問 16-21 ケアの具体的な内容について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

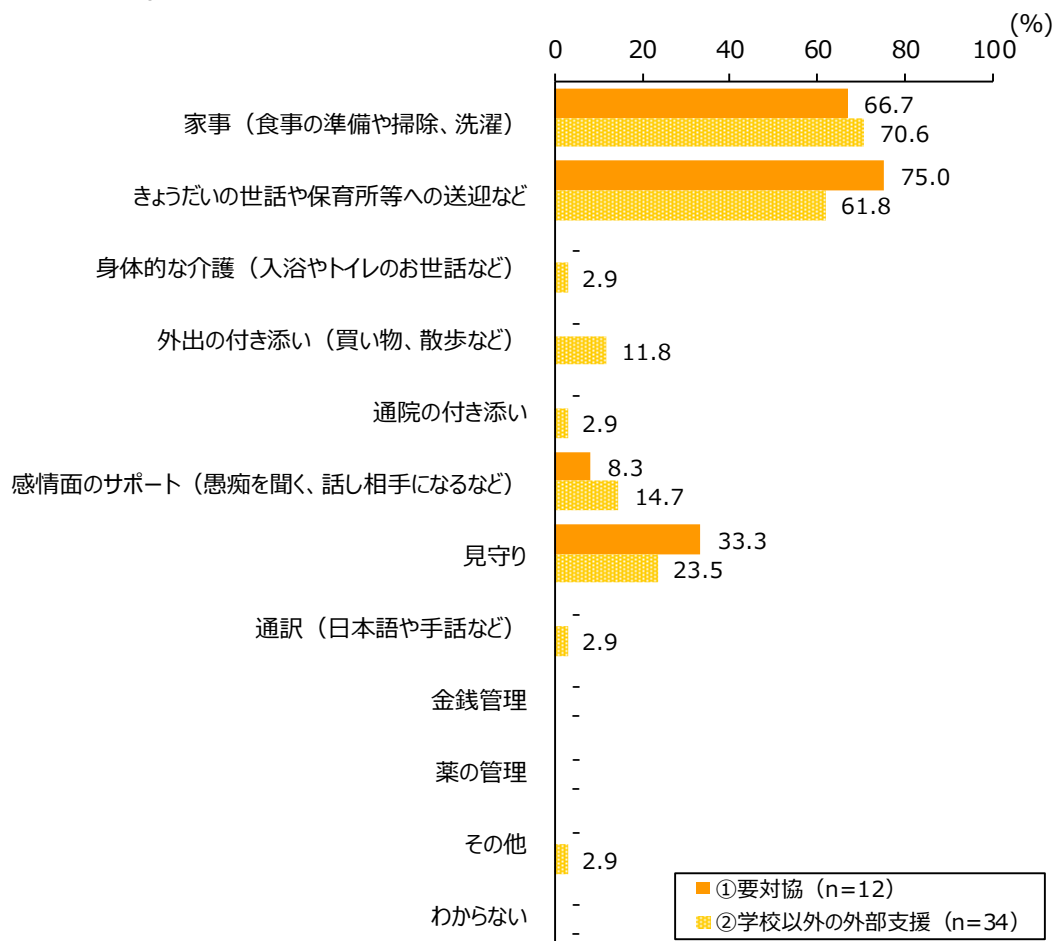
(ケアを必要としている人の状況)



ケアを必要としている人の状況は、要対協で「若い」が75.0%で最も高く、次いで「精神疾患 (疑い含む)」(50.0%)となっている。学校以外の外部支援では、「若い」が61.8%で最も高く、次いで「精神疾患 (疑い含む)」(26.5%)となっている。

問 16-10、問 16-22 ケアの具体的な内容について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

(ケアの内容)



ケアの内容は、要対協で「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が75.0%で最も高く、次いで「家事 (食事の準備や掃除、洗濯)」(66.7%)となっている。学校以外の外部支援では、「家事 (食事の準備や掃除、洗濯)」が70.6%で最も高く、次いで「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」(61.8%)となっている。

問 16-11、問 16-23 ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけについて教えてください。

以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

①要保護児童対策地域協議会に通告したケース

- ・本児の話から把握。
- ・本人から担任へ訴えがある。
- ・本人から養護教諭への訴えがあったため。
- ・教育相談。
- ・家庭訪問時の家庭内の煩雑な様子を見たり、子供からの会話で祖母が病気であると聞いたりしたことから。
- ・母からの申し出。
- ・欠席理由として、幼児の面倒を見ているとの答えがあった。
- ・小学校からの申し送り。

②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

【児童・生徒との面談・聞き取り】

- ・面談により発覚した。
- ・本人の話の内容から、ヤングケアラーではないかと感じられたことから。
- ・本人の欠席時などの家庭訪問などで本人に話をきいた。
- ・体調が悪く保健室で休んでいるときに、養護教諭に弟たちの面倒をみて疲れるとの話があった。

【生活の様子や周りの状況を見て】

- ・本児は元気であっても、きょうだい欠席（体調不良等）の際には欠席しているため。
- ・担任が家庭訪問した際に、本児と話をしているときでも母親や祖父の一声で弟の面倒を見ているから。
- ・家庭との連絡が取りにくく、不登校傾向の妹に付き添って登校（遅刻）することが多いため。

【外部からの報告】

- ・児童館からの連絡により。
- ・小学校からの引き継ぎで、児童相談所が関わっていることを知ったから。
- ・同じ部活動内の別の保護者からの情報。
- ・中学校からの引き継ぎと自傷行為についての聞き取りなど。
- ・友人の保護者が警察に通報した。
- ・市の子育て支援センターからの情報。

問 16-24 つないだ機関について教えてください。

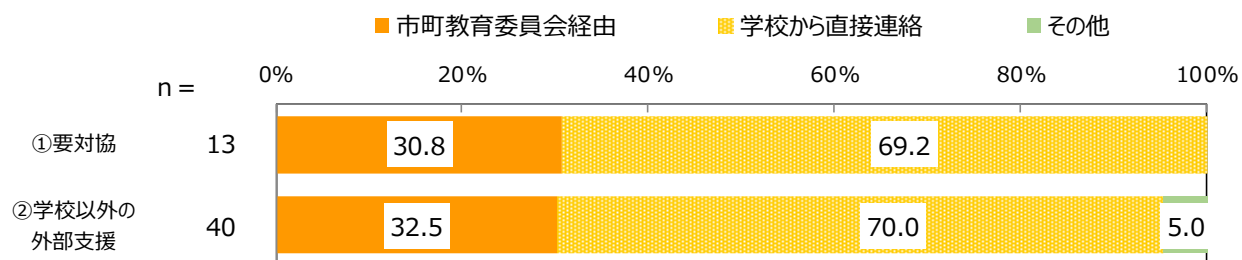
※②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

- ・市の子ども家庭課。
- ・市のこども政策課に情報提供した。
- ・市の子ども福祉課。
- ・市の子育て支援センター。
- ・町の健康福祉課。
- ・市の家庭児童相談所。
- ・市教育委員会、福祉関係の職員に連絡。
- ・町の子ども未来課、SSW。
- ・民生委員、児童相談所。
- ・市役所内の青少年相談員・家庭相談員。

問 16-12 要保護児童対策地域協議会への通告ルートについて教えてください。

問 16-25 外部機関へのつなぎ方について教えてください。(あてはまる番号1つに○)



要保護児童対策地域協議会への通告ルートは、「市町教育委員会経由」が30.8%、「学校から直接連絡」が69.2%となっている。外部機関へのつなぎ方では、「市町教育委員会経由」が32.5%、「学校から直接連絡」が70.0%となっている。

問 16-13、問 16-26 学校で行った支援（要対協との連携も含めて）について教えてください。

以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

①要保護児童対策地域協議会に通告したケース

- ・児童のケア
- ・本人の話をよく聞く。保護者への丁寧な連絡。
- ・町子ども未来課との情報共有、家庭訪問。
- ・子ども家庭支援室への情報提供と特別支援学級入級での学習支援。
- ・教育相談、要対協との連携。
- ・関係機関と連絡を取り、ケース会議等を開きながら、現状を把握しようと努めている。
- ・児童指導委員会を開き、情報を共有。本児の話を聞くようにしている。
- ・健康福祉課職員等による家庭訪問。
- ・関係機関との連携、子育て支援センター職員との定期面談。担任による健康観察、教育相談。心の教育相談員との面談。職員の共通理解や声掛け。
- ・本人との定期的な面談と状況把握、保護者の状況確認、関係各所との情報の共有、支援の方針確認。
- ・きょうだいの保育所との連携。
- ・スクールカウンセラーとのカウンセリングなど。

②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

【市町村との連携、その他関係者との情報共有】

- ・スクールカウンセラーから町の健康福祉課に話をし、学校の状況を共通理解した。祖父の介護のケアマネさんからも情報を収集するようにした。
- ・民生委員、児童相談所との連携。
- ・家庭指導相談室と情報を共有。
- ・児童からの情報を管理職から町教委へ連絡。町のSSWさんにつなぎ、家庭の様子をみていただく。本校のSCには、児童と母の面談を行う。児童が保健室を利用した時には、体にあざ等がないか注意をして見ることや、話を聞ける関係を保つようにする。
- ・進路について本人が親に相談できずに学校に相談。学校が仲介となって以前から繋がっていた子どもサポートセンターの方へ繋いで学校で本人と話し合いを実施。

【本人への聞き取り、家庭との連絡、家庭訪問等】

- ・保護者と相談、SSWの家庭訪問に同席。
- ・定期的に家庭訪問し、本人が来られるときは登校できるよう支援する。できないときは、本人の様子や保護者の様子を聞き取り、生活の改善を助言することもある。その様子を市ともやり取りする。学年職員は、本人と携帯でやり取りできるようにしてあり、困ったことがあったらすぐに動けるような校内体制を整えてある。
- ・両親との面談。本人への声かけ・見守り。
- ・通院などのつなぎや家庭訪問で本人の話を聞いて状況確認するなど。
- ・本人の心身のケア 母親に支援場所の情報提供など。

問 16-14、問 16-27 支援した結果、子どもの変化について教えてください。

以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

①要保護児童対策地域協議会に通告したケース

- ・ ストレスの軽減。
- ・ 今年度になって規則正しく登校できるようになってきた。生活態度も落ち着いてきている。
- ・ 休まずに学校生活をよく頑張っている。
- ・ 気持ちの安定。
- ・ 進路に対しての不安、将来に対しての不安。
- ・ 家庭環境に対応しきれず、食事をとらない、学校を欠席しがちである。通院し、検査を受ける予定。
- ・ 一時的に母親の行動改善が見られても、再度繰り返しの状態が続いている。
- ・ 欠席数減少。リズム良く学校生活を送れている。自分のやりたい活動に一生懸命取り組んでいる。
- ・ 精神的安定が見られた。
- ・ 登校できる日が増えた。
- ・ 現状維持であり、今のところ特に変化はなし。

②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

- ・ 遅刻、早退、欠席の減少。
- ・ 別室登校が増えた。
- ・ 不定期だが自力で登校することもある。修学旅行に参加した。
- ・ 担任との密な関わりにより、遅刻をしてでも学校に登校できている。
- ・ 安心した様子。今後の進路について見通しがもてた。
- ・ 学校内で落ち着いて生活している。保護者も学用品等をすぐに用意とまではいかないが準備をしてくれている。
- ・ もともと生徒は落ち着いて学校生活を送っている。友人との関係もよい。SC との相談を定期的に入れて、話を聴くようにしている。
- ・ 今の所、学校を休んだりはしていないが、精神的な不安定さ、浮き沈みは見られる。
- ・ 学校とは連絡を取ってくれない。教育委員会が窓口になっている。
- ・ 医療機関につなげることができた。
- ・ 特に変化はない。担任が進路について働きかけているが、意識は低い。

(8) 外部の支援につながらなかった理由

(問 16-2 で「3 : 外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)」と回答した方にお伺いします。)

外部の支援につながらなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのか教えてください。

問 16-28 外部の支援につながらなかった理由

以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

【学校生活に支障がなく、学校内で対処できる状態であるため】

- ・ヤングケアラーの定義に当てはまるかもしれないが、すぐに外部の支援が必要であると判断されなかったため。
- ・可能性があると思われる生徒はいるが、学校生活における態度も良好であることが多く、本人からも(担任等に)特に申し出があるわけではないこと。また、普段の様子からも悩んでいるような状態が見受けられないこと。
- ・著しく不都合であると申し出るまでの生徒がいなかった。
- ・家族で仲良くしている様子であり、納得しているように感じている。
- ・「生活が成り立たない」「進路実現に支障が出ている」とまではしていないため。

【ヤングケアラーかどうかの判断に迷う(現在把握をしている最中)、外部につなぐ体制が整っていない】

- ・児童との教育相談以外には、個別の家庭の事情に踏み込んで話をする機会を持っていないため。
- ・ヤングケアラーについて正確に人物を特定していない。また、本人・保護者より直接相談を受けていない。
- ・教育委員会に相談しているが、外部の支援先が見つからない。
- ・本人がどの程度家族の世話をしているのか、実態をつかめていないから。

【その他(既に外部機関とつながっている等)】

- ・入学以前から、外部機関の支援(市の福祉課)が入っていたため、学校では特別な対応を行っていない。
- ・母へのDVに対しては外部の支援が入っていたので子どもへの支援も任せてしまった。
- ・各部会で話題に上がらなかったため。

(9) 学校内で対応している対応方法

(問 16-2 で「3：外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)」と回答した方にお伺いします。)

外部の支援につながらなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのか教えてください。

問 16-28 対応方法

以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

【教育相談・見守り・声かけ等】

- ・学期に1度程度、児童との教育相談(一人10分程度の面談)を行っている。
- ・担任を中心に日頃から声かけをしたり、面談等で話をじっくり聞く。
- ・普段から、変わった様子がないかなどをよく観察している。面談等で本人からの申し出がある場合などに対応している。

【学習面のサポート・関係機関との連携等】

- ・学校に来た時の学習面のフォローと話を聞く等の情緒面のサポート。
- ・入学後、教育事務所や市町の福祉部門の担当者から学校(担任)に連絡が入る。その後は、必要に応じて、家庭と学校生活の状況の情報を交換している。
- ・兄弟が通う小学校と連携し、情報を収集し、必要に応じて市町の福祉部局に連絡、相談を行う。

【その他】

- ・ヤングケアラーに関する講習会を生徒、教員向けに実施した。
- ・「ヤングケアラー」の認識をさせて、本人の考えを聞いていきたい。

(10) ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること

問 16-29 ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気をつけていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

【日頃の行動に注視する】

- ・学習課題などの提出状況、納金の遅延、就学支援金の受理の有無、授業中の態度等。
- ・欠席や遅刻等の出欠状況や課題等の継続的な未提出状況、アルバイト希望等の際、理由を確認し把握につながるようにしている。
- ・子供との日常会話を大切にするとともに、観察により、細かな変化を見落とさないようにすること。

【周囲と連携して把握する】

- ・学校内だけでなく、中学校、子育て支援センターなどとも情報交換をして実態の把握に努める。
- ・個別に問題の根が深い場合は、SCに面談を依頼し連携を図るようにしている。
- ・担任を中心として教科担当者など接する教職員が色々と気をつけて見ていて配慮するところは配慮し、よく声をかけるようにしている。本校は生徒一人ひとりに週ごとの日誌を書かせているので、何かあったらそこに書くように指導もしている。

【教育相談・アンケート調査の実施、電話連絡】

- ・欠席状況の確認、教育相談の実施、心のアンケート等による児童理解に努めること。
- ・学期ごとに設けられた教育相談において、各担任が家庭での状況を確認するとともに、毎日の生活ノートの日記のやりとりで、間接的に生徒の家庭での過ごし方も把握するようにしている。
- ・欠席理由の把握及び連続した時の電話連絡や家庭訪問。

【学校全体での対応】

- ・教員ひとりひとりが、「ヤングケアラー」について理解し、日頃から意識を持って生徒と接している。
- ・児童の状況の変化や家庭環境等を踏まえて考察、対策すること。
- ・生徒と家庭に粘り強くアプローチすること。
- ・早期発見に努め、個別の支援を心がけている。

【児童・生徒本人との信頼関係】

- ・家庭での状況を把握するために、担任から本人への聴き取りをこまめに行う、また気になる点については、家庭に連絡をするなど、日常的に「側にいるよ。」というサインを送り続けるよう努力している。
- ・子ども当人たちは家族を守るためと思い、やっていることがある。そのため当人たちの自尊心を傷つけないような声かけを行うよう心掛けている。
- ・学校生活は普通に送っているため、入り込みすぎず、アドバイスをするようにしている。

【保護者や本人への配慮】

- ・ヤングケアラーという言葉は使わない。家族、生徒、どちらかの肩を持つような対応はしない。
- ・保護者と本人の関係が悪化しないように配慮しながらも情報共有が図れるようにすること。

(11) ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること

問 16-30 ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

【介入することの難しさ】

- ・家庭内の問題であり、発見はできても学校から家庭に指導するのは難しい。
- ・個別の家庭の事情があり、そこに踏み込んで欲しくないと感じる保護者の方が一定数いること。
- ・生徒が学校で話したことを、保護者に伝えないでほしいという訴えをし、保護者との情報共有が難しくなる。
- ・保護者対応。ヤングケアラーの問題が家庭内の問題に直結しているため、なかなか踏み込んでいけない。
- ・家庭としては、どうしても生徒の手が必要であり、それを止めることは難しい。また、家庭のプライバシーや金銭問題など、どこまで家庭に入り込めるか悩むところである。

【線引き（ヤングケアラーと手伝いの判断、介入する限度の判断）の難しさ】

- ・ヤングケアラーと判断する基準が明確でない。家族・本人からの情報が得にくい。
- ・家事手伝いとヤングケアラーの線引き。生徒のその日の心身の状態で負担感が異なることもある。
- ・ヤングケアラーの概念について教職員が知ることから始まり、もし児童がヤングケアラーと分かった場合には、どういった対応をとるべきなのかが分からない（教育委員会や児相への通告等）。また、児童の家庭や家族の問題に関わる話題について、教師が話を聞き取ることはなかなか難しい。

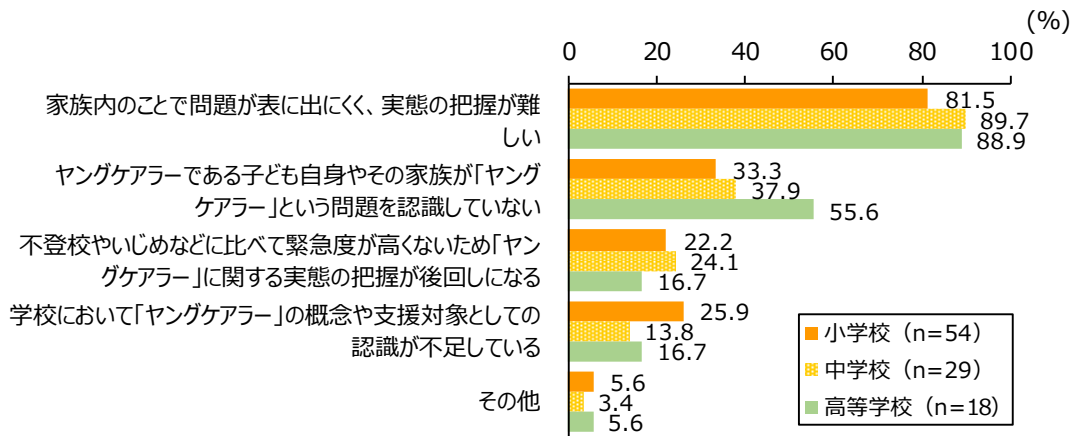
【その他】

- ・本当に困っていると思われる生徒は、あらゆることにがんばっており、SOSを出さない傾向にある。
- ・生徒の要望がどの程度なのか分からない。
- ・家庭内で起こっていることなので、親をかばって隠そうとしている場合もある。それを正直に開示してもらうことは、難しい。
- ・学校では「普通の生徒」で過ごし、特別視されたくないとする生徒に、どう関わるかが難しい。見守り、待ちの姿勢になりがちである。18歳の壁が有り、18歳を境に市町等外部機関の対応部署が異なる場合が有り、連携しにくい。

(12) ヤングケアラーがいるかわからない理由

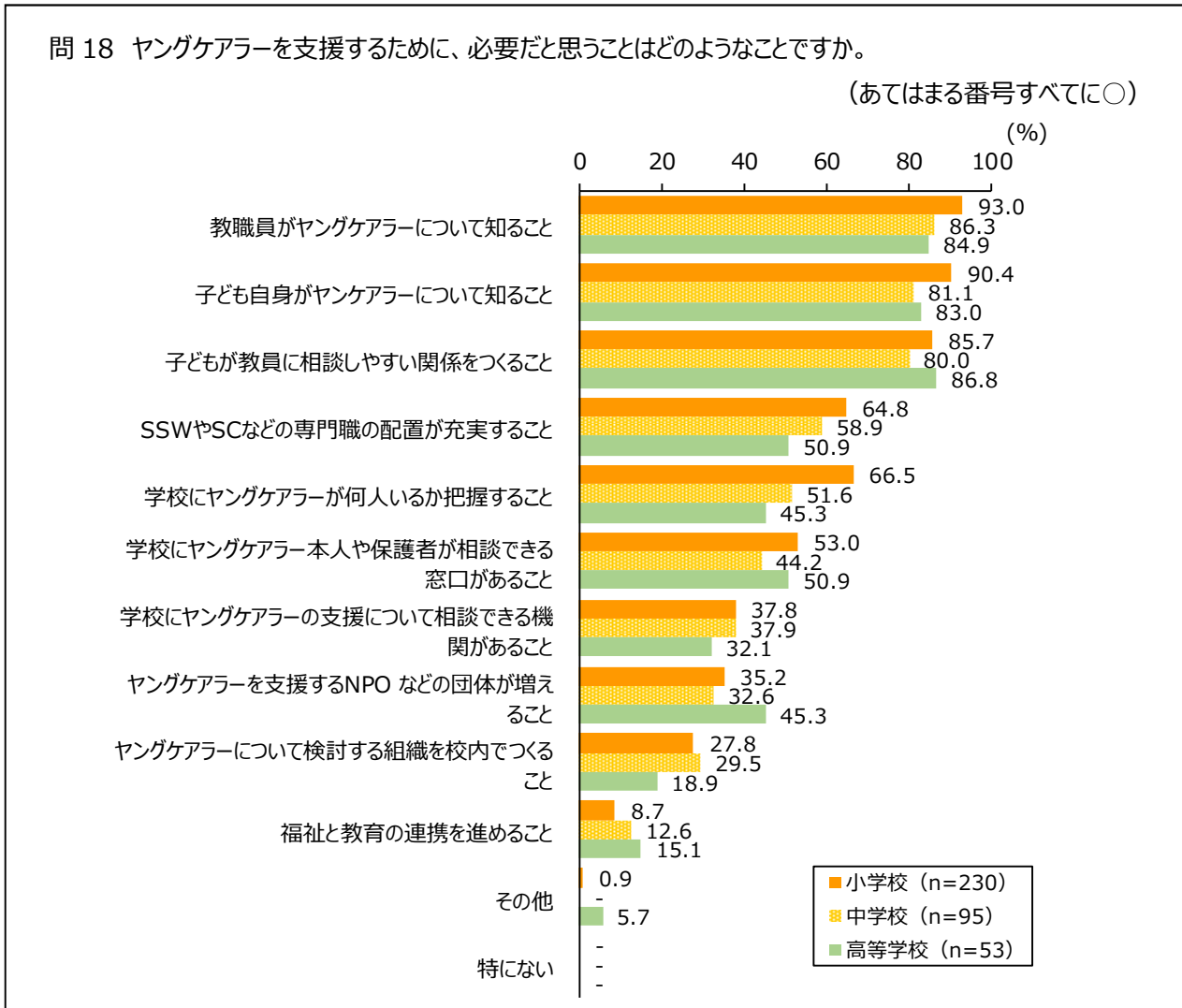
(問 15 で「3 : 分からない」と回答した方にお伺いします。)

問 17 その理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)



ヤングケアラーがいるかわからない理由は、小学校で「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が81.5%で最も高くなっている。回答数が少ないため参考値であるが、中学校、高等学校でも「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が80%台で高くなっている。

(13) ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと



ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことは、いずれも「教職員がヤングケアラーについて知ること」、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」が80%以上で高くなっている。また、小学校で「SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること」、「学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること」が60%台で高くなっている。

(14) ヤングケアラーに関する自由意見

問 19 ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。

以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

①ヤングケアラー支援に関する難しさについて（課題）

- ・家庭内の事情は面談等である程度把握することができるが、完全には露呈されず、完全に理解できていないと感じる。また、生徒自身が自分の生活に違和感を覚えなかったり、周囲に相談できずに抱え込んでしまうこともあると考えられる。
- ・手伝い、家族のために役に立つとの境界線が難しいと感じる。保護者にもその視点が必要。子育てや、家事などの困っている人が多いことを念頭に置いて、対応したいと思っている。「普通」「これまでは」の概念を払拭しなくてはと思う。
- ・学校という立場では実際に家庭内に踏み込むことは難しい。そのため学校で発見できた場合、当人のケア及び（本人の許可を得て）外部へどうつなげていくか、家庭福祉の充実、家庭への支援が日本には満足に得られない。その情報も少ない。ヤングケアラーについては子どもだけでなく家庭一人一人に焦点をあて、個別ケア及び必要な福祉サービスへのつなぎ、そして家庭全体を1ケースとしてとらえなくてはならない。それができないと根本的な解決は望めない。
- ・ヤングケアラーに該当しているかどうかを学校で把握するのは非常に難しいと思う。役所の役員が家庭に入るなどしないことには難しいのではないのでしょうか。
- ・学校としての対応が非常に難しい。地域の福祉団体等との連携を模索したい。
- ・昔からあったことだが、言葉としては最近出てきたものであり認知が低いと思う。またそういう家庭で育ってきた子供はそれが当たり前だと認識して、表面に出にくい部分もあると思う。

②ヤングケアラー支援に関して必要だと思うこと

- ・自分がヤングケアラーであることを隠したいという生徒もいることが多いに予想される。そのため表面化しにくい側面もある。実態把握の具体的な方法や子どものケアの方法などを知る必要性を感じている。
- ・実情の把握が難しい問題ではありますが、生徒への適切な指導、支援のためにも状況の把握に努めてまいりたいと思います。生徒や保護者、教職員においても認知度を高めていく取り組みが求められると思います。
- ・最近メディア等でヤングケアラーを取り扱っているものを目にします。多くの方にヤングケアラーについて知っていただくことは、大切だと感じています。
- ・子供たち自身がヤングケアラーについて学べるようにリーフレットを作成し配布したらいいのではないかと考えた。
- ・家庭環境について、中学校からの引き継ぎがあれば、指導体制が準備できると思う。
- ・ヤングケアラーとして疑われる児童はおりますので、今後、把握や対応が必要になってくると思われます。具体的な把握方法の例や対応のフローチャートなどがあると助かるかと思えます。

③学校以外の外部機関との連携の必要性について

<p>・ヤングケアラーの対象となる児童の情報について、家庭内の情報について収集が困難な場合があることから、民生委員等の外部・地域の方からの情報があるとよい。</p>
<p>・ヤングケアラーは、学校だけでは解決できない問題なので、SSW や市の福祉課等との関係を図りやすい環境を作らねばならないと思う。</p>
<p>・ヤングケアラーの支援は喫緊の課題であると認識しているが、学校をプラットフォームとして具体的対策を求めることに対しては教職員の負担増大につながり慎重な対応が求められる。学校は対象となる児童生徒の発見にとどめ、具体的な支援体制は福祉で担当する形が望ましい。</p>
<p>・家庭環境がどんどん複雑になり、学校では対応しきれないケースも増えていくと思われます。公的な福祉部門の充実に入力していただけると心強いです。保護者の中に精神疾患を抱えている方も多く、生徒に二次障害のような形で表れていることがあります。保護者の受け皿が欲しいです。</p>
<p>・様々な家庭があるが学校で把握できる範囲に限りもある。学校入学までに関わる子育て課と入学後に関わる委員会の行政で情報共有をしていただき、子育て時期からの情報を連携する体制を県全体でそろえていただけるとよいと感じる。</p>

④ヤングケアラー支援に関して今後取り組みたいこと

<p>・ヤングケアラーについては、虐待と同じように分かりにくい部分があるので、教師が実態を把握し、対処することが必要だと思う。子どもが教師に話してくれるような信頼関係を築き、相談しやすい窓口をたくさんつくってあげることも大切だと思った。</p>
<p>・家庭の中のことを進んで話したり相談したりすることができない児童がいるという視点を常にもって、アンケートや面談、児童観察を定期的に行うことにより、ヤングケアラーの早期発見、早期対応に努めていくことが必要であると考えています。</p>
<p>・子ども自身がSOSをだせること。周囲の大人が気づいてあげて専門機関へつなぐことが大事だと思います。そのためには、日頃から、教員として、職場の子供達と信頼関係を築けるよう努めていきたいと思っています。</p>
<p>・日頃から子どもたちの様子を注意深く見ていく必要があると思います。また保護者との連携も重要だと考えます。</p>
<p>・学校から直接何か働きかけて、すぐに改善を図ることは難しいが、児童に寄り沿うことはできると思う。困ったことを口に出して言っていること、頼っていること、相談する機関もあるのだということは伝えたい。</p>
<p>・学校で把握しきれない児童の状況もあると思うので、今後教職員のヤングケアラーについての理解を高める研修などもしていく必要があると感じる。その上で、児童に寄り添った指導ができるようにしていきたいと思う。</p>
<p>・児童にヤングケアラーについて分かりやすく伝える教材や動画などがあると、学校でも指導しやすいと思います。まだまだ教職員も児童も認知度が低いと思うので、まずは周知するところから始めていきたいです。</p>
<p>・ヤングケアラーに関して、具体的なケースを想定しながら、職員間の共通理解を図る。</p>

第5章 調査結果の分析

I 国の調査との比較

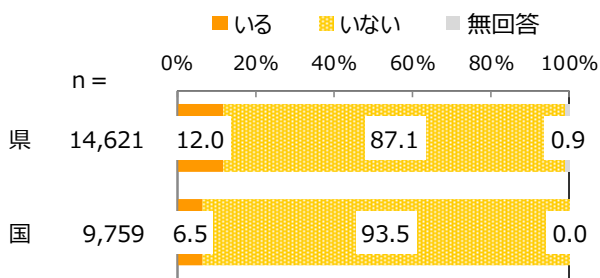
本項目では、本調査結果と国で実施した調査の結果を比較している。第2章 調査実施の概要「6 報告書の見方」のとおり、中学校、高校、中学2年生、高校2年生の結果は、厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（令和3年3月）、小学校、小学6年生の結果は、厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（令和4年3月）にて公表されている結果と比較をしている。国の調査は、本調査と調査対象者の抽出方法や調査の実施時期等が異なるため、その点を留意して比較した結果を確認する必要がある。

1 児童・生徒向けアンケート調査結果の比較

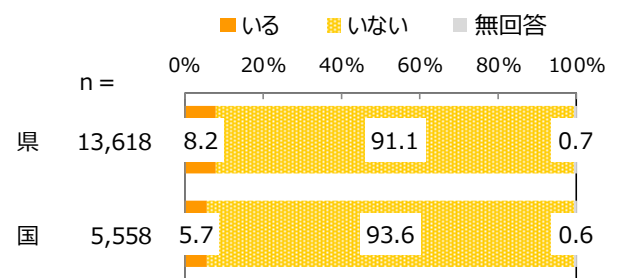
(1) お世話をしている家族の有無

お世話をしている家族の有無を国の調査結果と比較すると、「いる」は通信制高校2年生で県が国よりも7.0ポイント低くなっているが、その他の学年で「いる」は県が国よりも高く、小学6年生で5.5ポイント高くなっている。

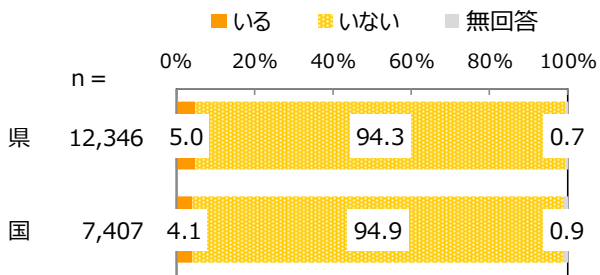
【小学6年生】



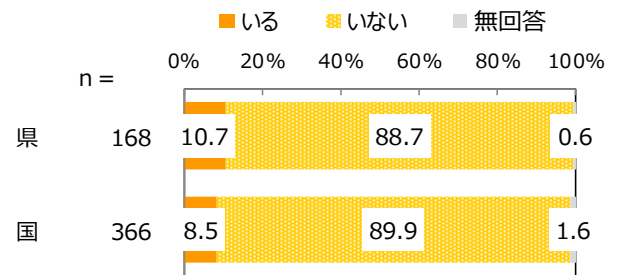
【中学2年生】



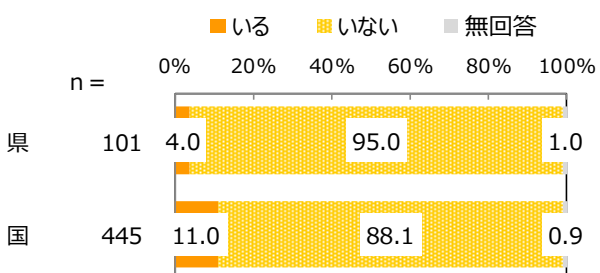
【全日制高校2年生】



【定時制高校2年生相当】



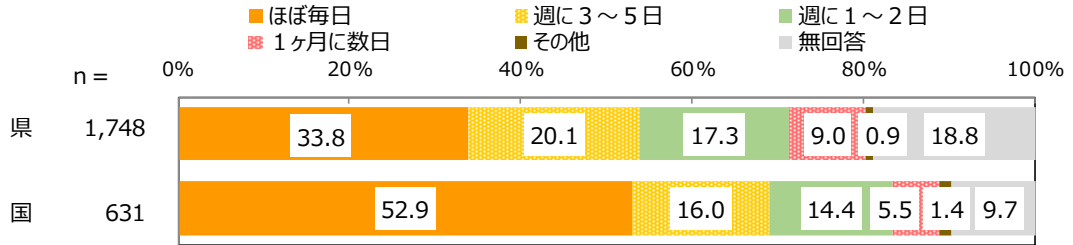
【通信制高校2年生】



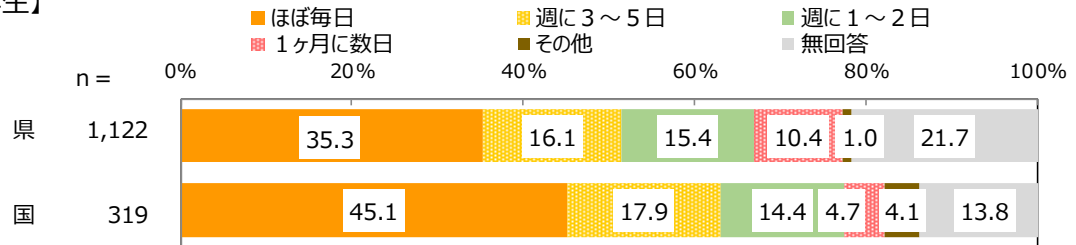
(2) お世話をしている頻度

お世話をしている頻度を国の調査結果と比較すると、いずれも「ほぼ毎日」は県が国よりも低く、特に小学6年生で県が国よりも19.1ポイント、全日制高校2年生で県が国よりも10.2ポイントと10ポイント以上低くなっている。

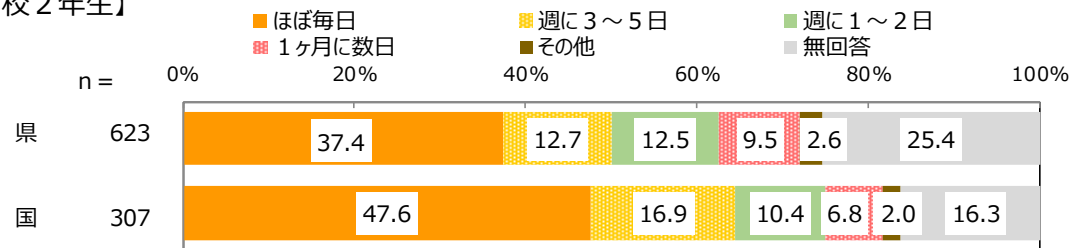
【小学6年生】



【中学2年生】

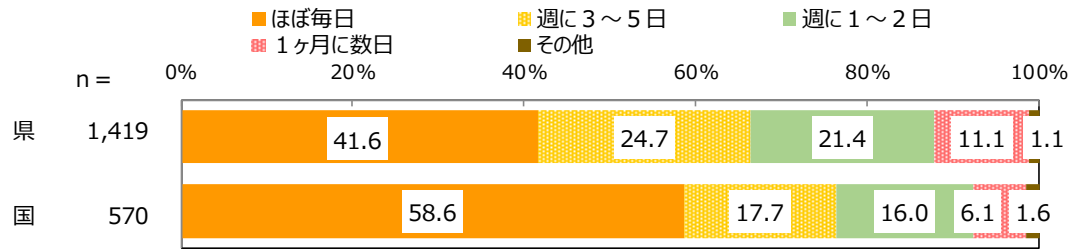


【全日制高校2年生】

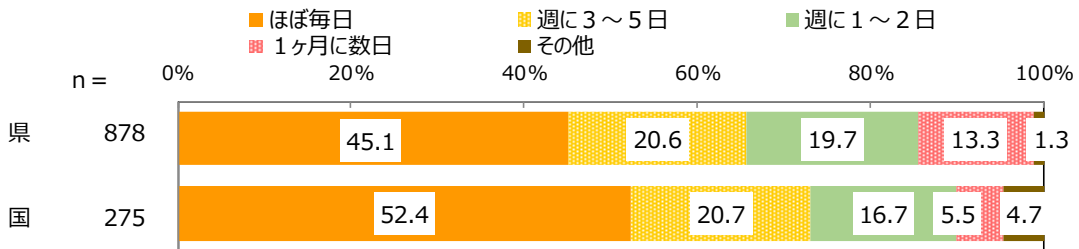


<参考・「無回答」を除いた集計>

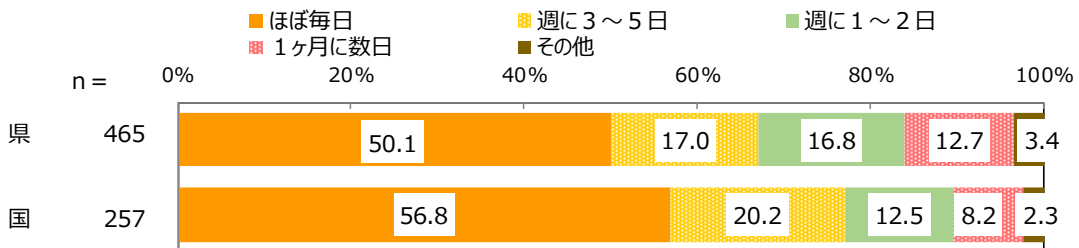
【小学6年生】



【中学2年生】



【全日制高校2年生】

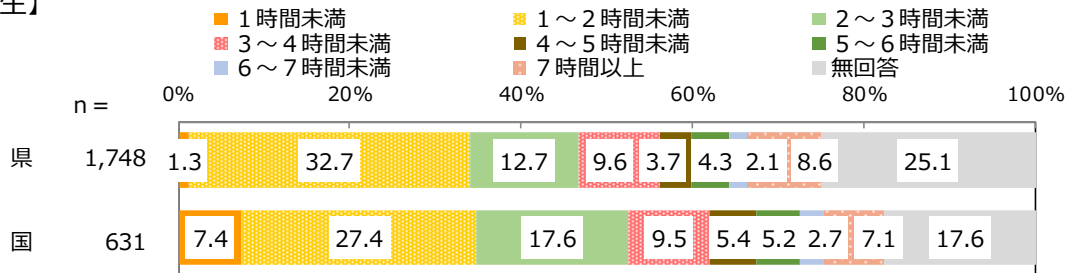


(注) 国の調査結果は、各選択肢の比率しか公表されていない。比較をするにあたっては、nと比率から各選択肢の件数を逆算し、「無回答」を除いた値で再度回答の比率を算出している。

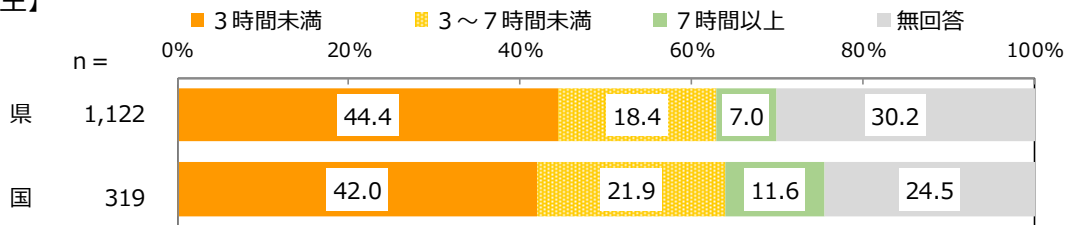
(3) 平日1日あたりにお世話に費やす時間

平日1日あたりにお世話に費やす時間を国の調査結果と比較すると、「1時間未満」は小学6年生で県が国よりも6.1ポイント低くなっている。一方、「1～2時間未満」は県が国よりも5.3ポイント高くなっている。中学2年生で「7時間以上」は県が国よりも4.6ポイント、「3～7時間未満」も県が国よりも3.5ポイント低くなっている。検定の結果、有意な差はみられないが、全日制高校2年生で「3～7時間未満」は県が国よりも5.6ポイント低くなっている。一方、「3時間未満」は県が国よりも4.2ポイント高くなっている。

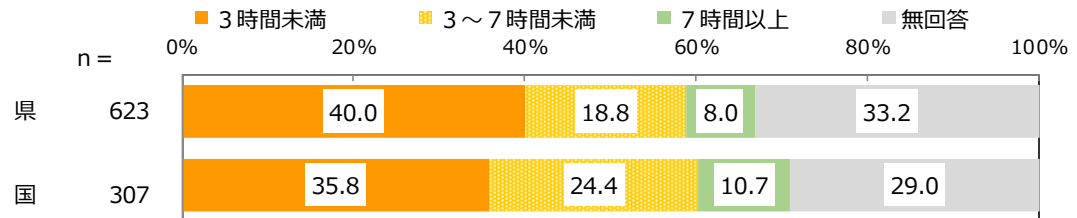
【小学6年生】



【中学2年生】



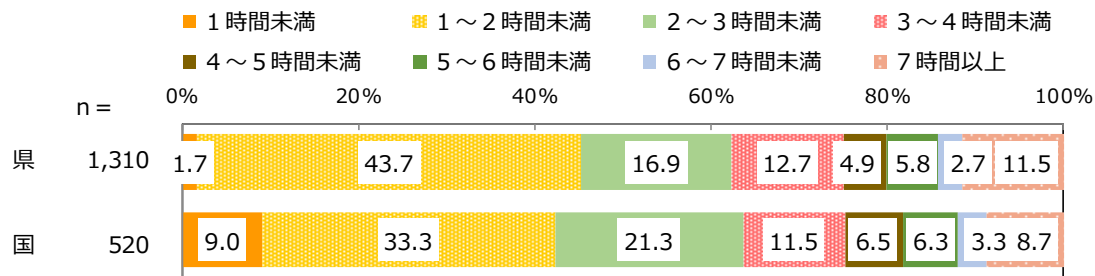
【全日制高校2年生】



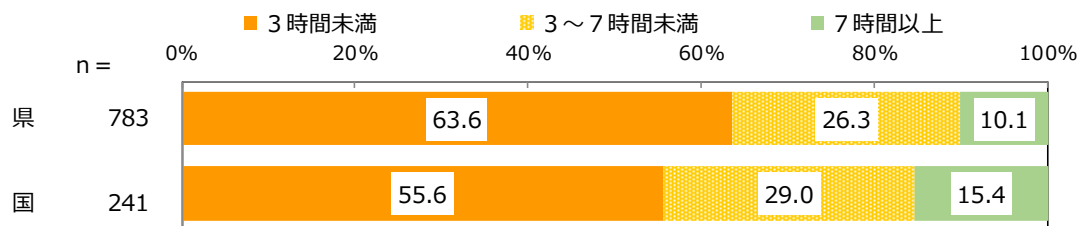
(注) 時間の区分は国の調査にあわせて設定している。

<参考・「無回答」を除いた集計>

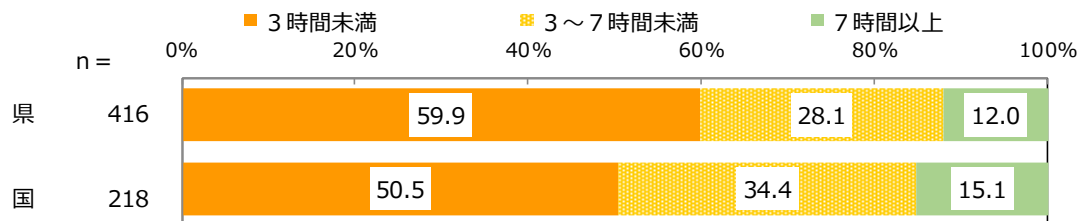
【小学6年生】



【中学2年生】



【全日制高校2年生】

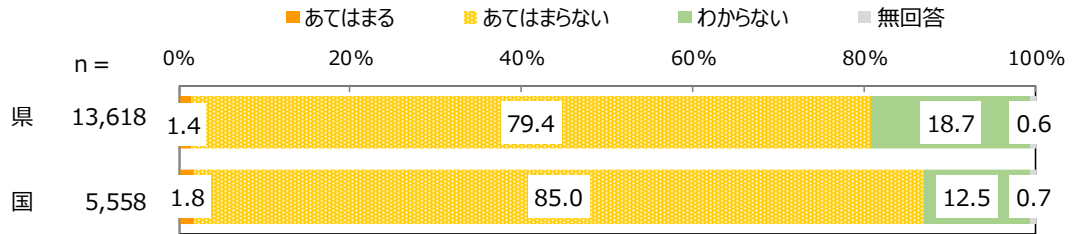


(注) 国の調査結果は、各選択肢の比率しか公表されていない。比較をするにあたっては、nと比率から各選択肢の件数を逆算し、「無回答」を除いた値で再度回答の比率を算出している。

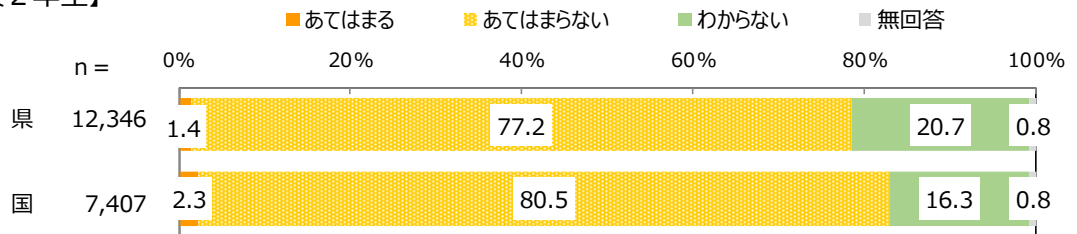
(4) 「ヤングケアラー」の自覚

「ヤングケアラー」の自覚を国の調査結果と比較すると、いずれも「あてはまる」、「あてはまらない」は県が国よりも低く、「わからない」は県が国よりも高くなっている。「わからない」は中学生2年生で県が国よりも6.2ポイント、全日制高校2年生で県が国よりも4.4ポイント高くなっている。

【中学2年生】

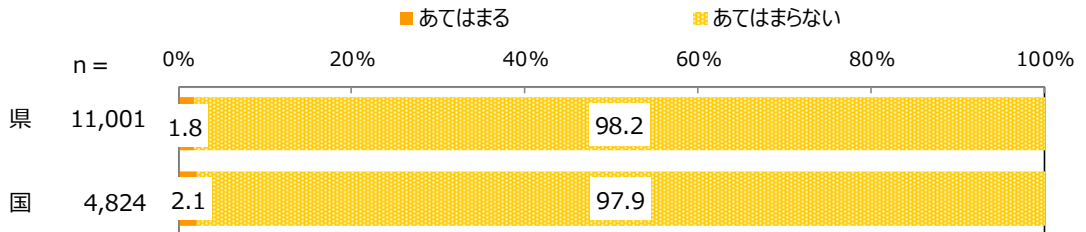


【全日制高校2年生】

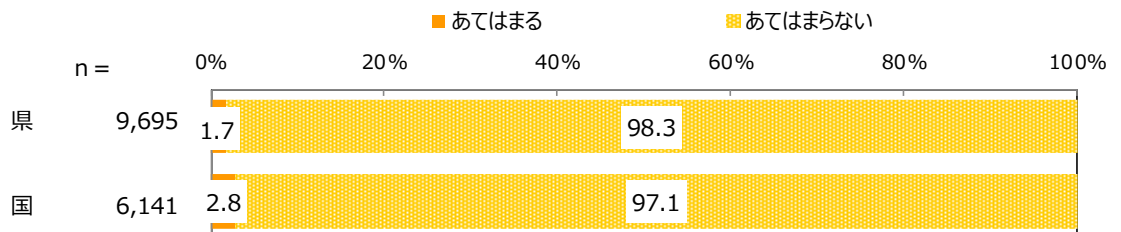


<参考・「わからない」、「無回答」を除いた集計>

【中学2年生】



【全日制高校2年生】



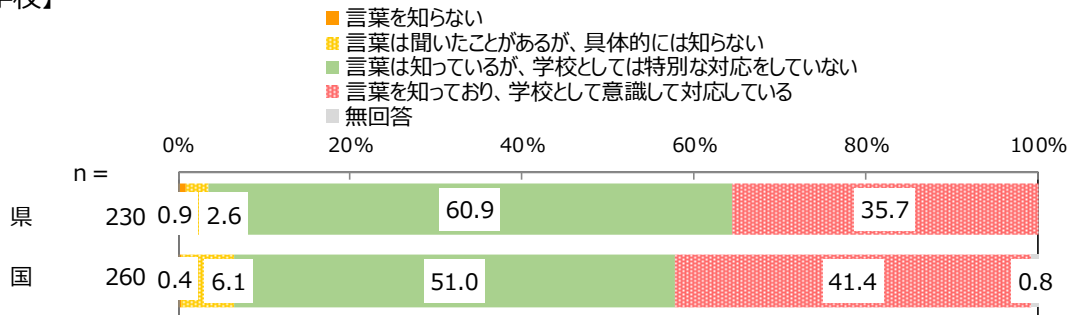
(注) 国の調査結果は、各選択肢の比率しか公表されていない。比較をするにあたっては、nと比率から各選択肢の件数を逆算し、「無回答」を除いた値で再度回答の比率を算出している。

2 学校向けアンケート調査結果の比較

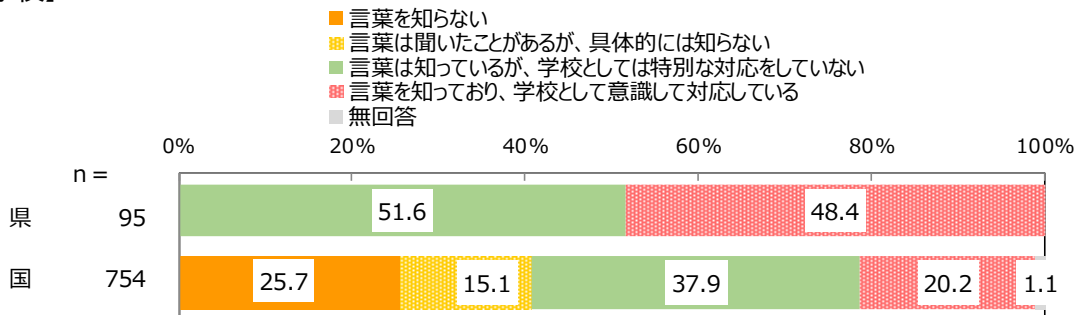
(1) 「ヤングケアラー」概念の認識

「ヤングケアラー」概念の認識を国の調査結果と比較すると、「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」は中学校、全日制高校で県が国よりも10ポイント以上高くなっている。「言葉を知っており、学校として意識して対応している」は中学校、全日制高校で県が国よりも20ポイント以上高くなっている。

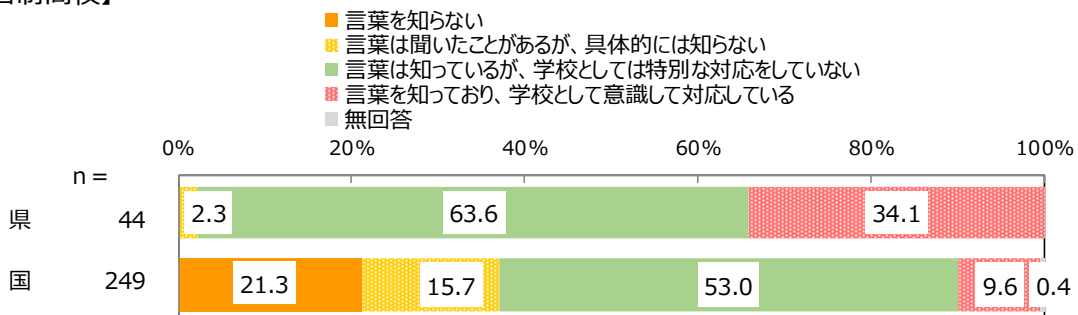
【小学校】



【中学校】



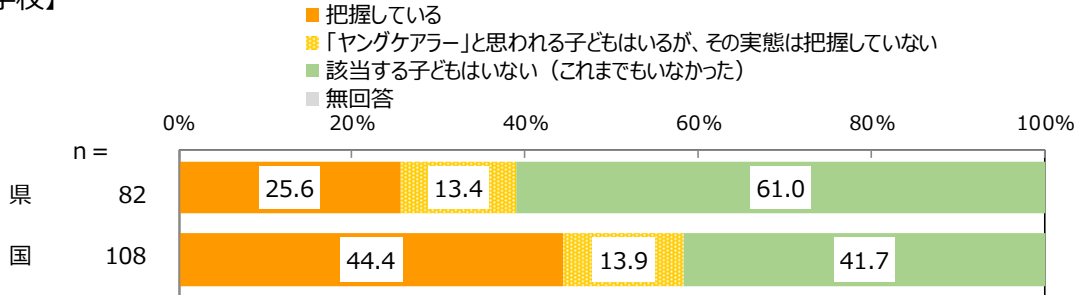
【全日制高校】



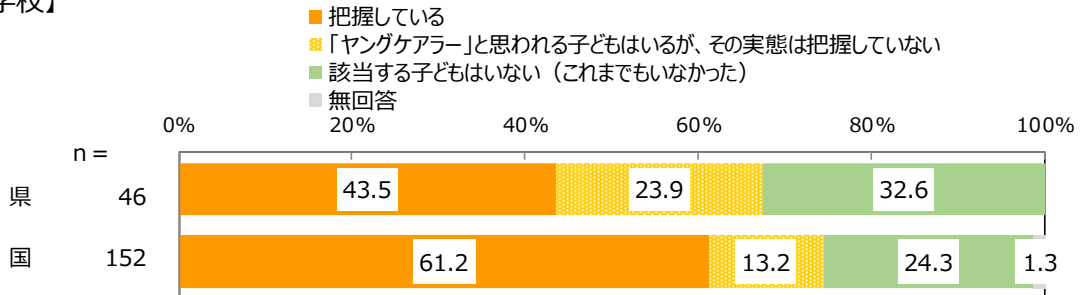
(2) 「ヤングケアラー」の実態把握の状況

「ヤングケアラー」の実態把握の状況を国の調査結果と比較すると、「該当する子どもはいない（これまでもいなかった）」は小学校、中学校で県が国よりも高く、小学校で県が国よりも19.3ポイント高くなっている。

【小学校】



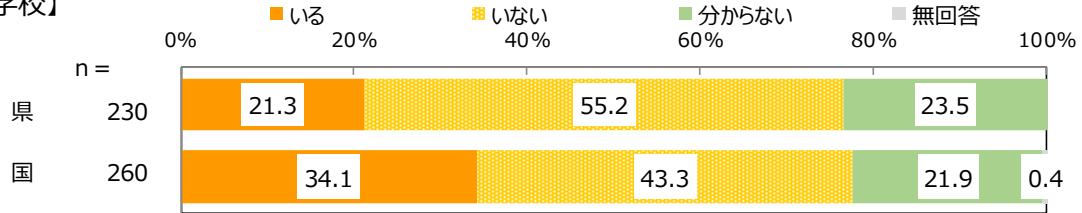
【中学校】



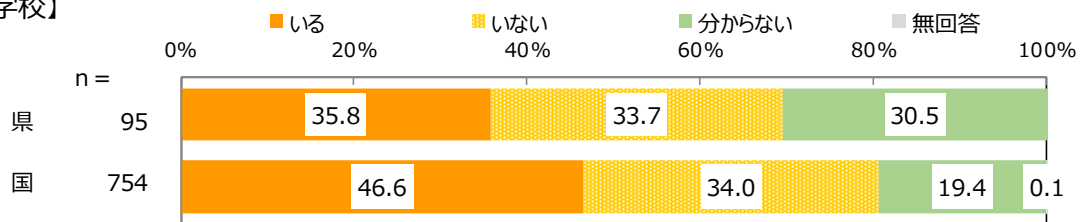
(3) 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無を国の調査結果と比較すると、「いる」は小学校、中学校で県が国よりも10ポイント以上低くなっている。「分からない」は中学校で県が国よりも11.1ポイント高くなっている。

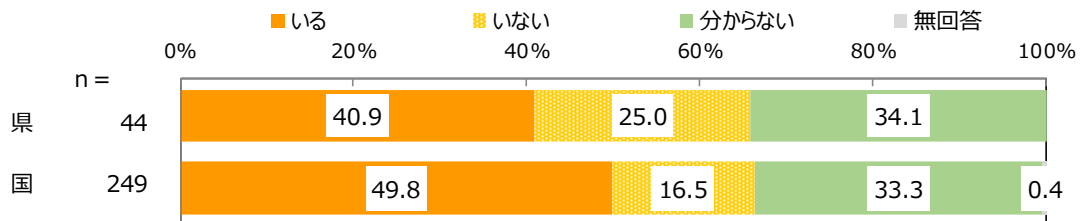
【小学校】



【中学校】



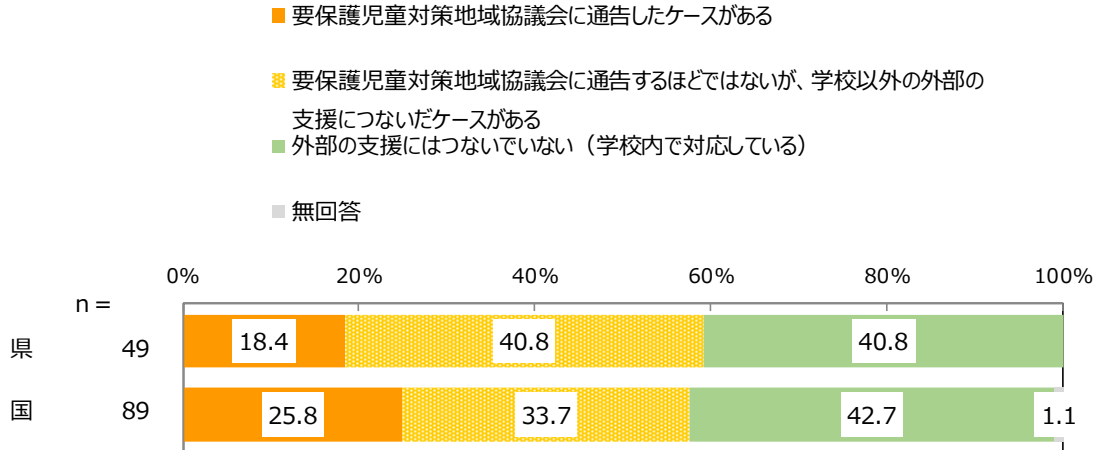
【全日制高校】



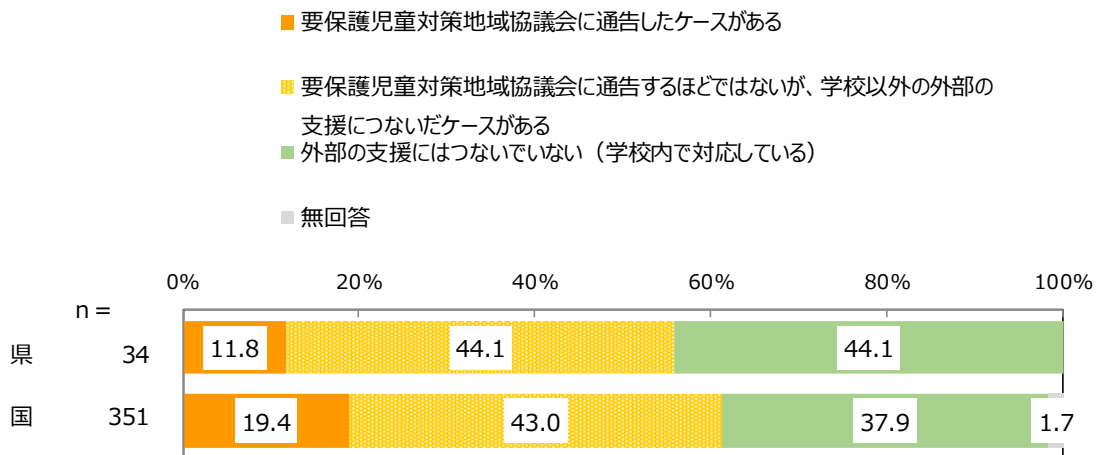
(4) 外部の支援につないだケースの有無

外部の支援につないだケースの有無を国の調査結果と比較すると、いずれも「要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」は県が国よりも低くなっている。「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」は小学校で県が40.8%と高く、「外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）」は中学校で県が44.1%と高くなっている。

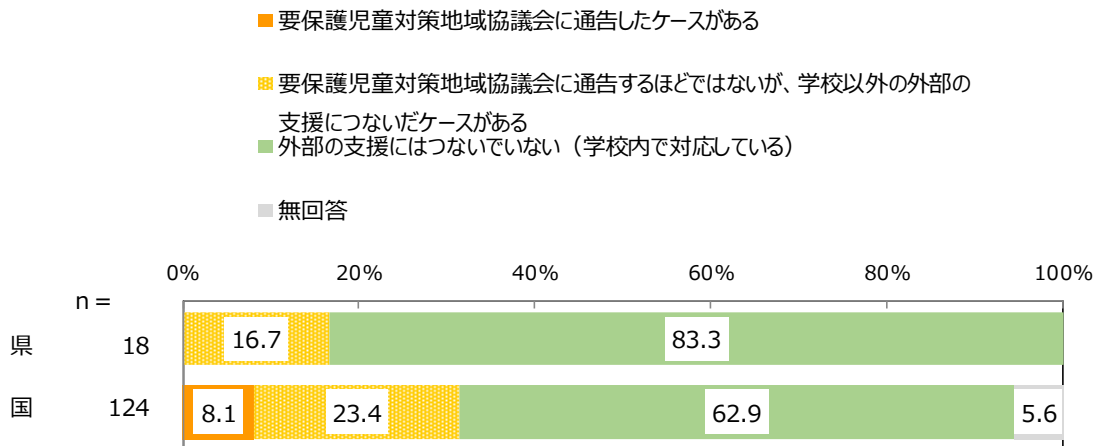
【小学校】



【中学校】



【全日制高校】



Ⅱ 調査結果の追加分析

1 お世話をしている家族の有無別でみた生活状況や意識

(1) 通学状況

出席状況をお世話をしている家族の有無別でみると、いずれも「ほとんど欠席しない」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも低く、5ポイント以上の差がある。

遅刻や早退の状況をお世話をしている家族の有無別でみると、いずれも「ほとんどしない」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも低く、5ポイント以上の差がある。

(出席状況)

		調査数	しほ なと いん ど 欠 席	る た ま に 欠 席 す	よ く 欠 席 す る	無 回 答
6 年 生	お世話をしている 家族がいる	1,748	72.1	24.4	2.6	0.9
	お世話をしている 家族がいない	12,736	80.1	17.3	2.0	0.6
2 年 生	お世話をしている 家族がいる	1,122	72.9	18.0	9.0	0.1
	お世話をしている 家族がいない	12,405	79.8	12.4	7.5	0.3
高 校 全 日 制 生	お世話をしている 家族がいる	623	70.3	18.1	10.9	0.6
	お世話をしている 家族がいない	11,639	79.8	12.2	7.8	0.2

(遅刻や早退の状況)

		調査数	い ほ と ん ど し な い	た ま に す る	よ く す る	無 回 答
6 年 生	お世話をしている 家族がいる	1,748	74.5	20.4	2.4	2.7
	お世話をしている 家族がいない	12,736	83.4	13.5	1.6	1.6
2 年 生	お世話をしている 家族がいる	1,122	76.7	17.0	3.8	2.4
	お世話をしている 家族がいない	12,405	85.1	11.7	2.0	1.2
高 校 全 日 制 生	お世話をしている 家族がいる	623	81.2	14.8	2.2	1.8
	お世話をしている 家族がいない	11,639	86.5	10.8	1.5	1.2

(2) ふだんの生活

ふだんの生活をお世話をしている家族の有無別でみると、小学6年生で「特にない」はお世話をしている家族の有無に関わらず最も高くなっているが“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも12.1ポイント低くなっている。具体的な内容は、「持ち物の忘れ物が多い」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも9.2ポイント高く、「提出物を出すのが遅れることが多い」も“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも5.8ポイント高くなっている。

中学2年生で「特にない」はお世話をしている家族の有無に関わらず最も高くなっているが“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも12.8ポイント低くなっている。全日制高校2年生でも、“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも7.0ポイント低くなっている。具体的な内容は、中学2年生で「宿題や課題ができていないことが多い」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも11.3ポイント高くなっている。「提出しなければならぬ書類などの提出が遅れることが多い」も“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも9.9ポイント高くなっている。全日制高校2年生で「持ち物の忘れ物が多い」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも8.3ポイント高くなっている。

		調査数	授業中に寝てしまうことが多い	宿題が多すぎてできない	持ち物の忘れ物が多い	習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い
6 年 生	お世話をしている家族がいる	1,748	10.8	18.2	32.7	3.3	23.0	1.0	1.9
	お世話をしている家族がいない	12,736	7.0	11.2	23.5	2.2	17.2	0.3	1.0

		調査数	学校では一人で過ごすことが多い	時間や遊びの少ない	特にない	無回答
6 年 生	お世話をしている家族がいる	1,748	7.0	6.4	48.8	2.2
	お世話をしている家族がいない	12,736	4.7	3.8	60.9	1.8

(%)

		調査数	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題が多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなげな書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い
2 年 中 学 生	お世話をしている家族がいる	1,122	25.7	31.3	29.8	8.8	33.1	1.0	3.0
	お世話をしている家族がいない	12,405	18.8	20.0	23.8	5.6	23.2	0.3	1.2
高 校 全 日 制 生	お世話をしている家族がいる	623	42.9	21.8	24.1	5.8	22.0	0.6	1.4
	お世話をしている家族がいない	11,639	41.2	19.1	15.8	4.3	18.3	0.6	0.9

		調査数	学校で1人で過ごすことが多い	時間やべり少ない	友人と遊んだり、おしゃべりする	特にない	無回答
2 年 中 学 生	お世話をしている家族がいる	1,122	8.7	6.2	37.8	2.9	
	お世話をしている家族がいない	12,405	5.8	4.8	50.6	2.0	
高 校 全 日 制 生	お世話をしている家族がいる	623	7.1	5.8	34.3	2.6	
	お世話をしている家族がいない	11,639	6.3	6.0	41.3	1.5	

(3) 家族構成

家族構成をお世話をしている家族の有無別でみると、小学6年生で「二世帯世帯」はお世話をしている家族の有無に関わらず6割台と高くなっている。

中学2年生で「三世帯世帯」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも4.2ポイント高くなっている。一方、「二世帯世帯」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも6.7ポイント低くなっている。全日制高校2年生で「ひとり親家庭」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも3.3ポイント高くなっている。一方、「二世帯世帯」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも6.3ポイント低くなっている。

(%)

		調査数	ひとり親家庭	二世帯世帯	三世帯世帯	その他世帯	無回答
6 小 学 生	お世話をしている家族がいる	1,748	14.0	65.8	19.6	0.5	0.1
	お世話をしている家族がいない	12,736	12.5	67.1	19.7	0.5	0.1

(%)

		調査数	ひとり親家庭	二世帯世帯	三世帯世帯	暮らしその他世帯・一人	無回答
2 中 学 生	お世話をしている家族がいる	1,122	16.6	58.1	23.7	1.2	0.4
	お世話をしている家族がいない	12,405	14.8	64.8	19.5	0.7	0.2
高 校 全 日 制 生	お世話をしている家族がいる	623	20.4	54.7	21.5	2.7	0.6
	お世話をしている家族がいない	11,639	17.1	61.0	19.7	1.9	0.3

(4) 健康状態

健康状態をお世話をしている家族の有無別でみると、いずれも「よい」はお世話をしている家族の有無に関わらず最も高くなっている。「よい」と「まあよい」をあわせてみると、その割合は、“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも低く、中学2年生では5ポイント以上低くなっている。一方、「よくない」と「あまりよくない」をあわせてみると、その割合は、“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりもやや高くなっている。

			(%)					
		調査数	よい	まあよい	ふつう	いあまりよくない	よくない	無回答
6 小 年 学 生	お世話をしている 家族がいる	1,748	60.4	17.3	17.9	3.7	0.4	0.4
	お世話をしている 家族がいない	12,736	62.9	16.8	17.0	2.6	0.4	0.2
2 中 年 学 生	お世話をしている 家族がいる	1,122	52.8	18.9	21.1	5.8	1.3	0.1
	お世話をしている 家族がいない	12,405	56.8	20.2	18.2	3.8	0.7	0.2
高 校 全 2 日 年 制 生	お世話をしている 家族がいる	623	47.0	22.5	22.5	6.3	1.4	0.3
	お世話をしている 家族がいない	11,639	51.5	22.0	20.6	4.8	0.9	0.2

(5) 生活満足度

生活満足度をお世話をしている家族の有無別でみると、小学6年生で「5点(たいへん満足)」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも5.1ポイント低くなっている。

「4点」も“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも4.5ポイント低くなっている。一方、「3点」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも4.4ポイント高くなっている。

中学2年生で「8点」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも5.4ポイント低くなっている。全日制高校2年生でも、「8点」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも4.0ポイント低くなっている。一方、全日制高校2年生で「5点」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも4.9ポイント高くなっている。

			(%)						
		調査数	足0点(まったく満足していない)	1点	2点	3点	4点	足5点(たいへん満足)	無回答
6 小 学 生	お世話をしている家族がいる	1,748	2.0	3.0	8.3	20.8	26.1	37.5	2.3
	お世話をしている家族がいない	12,736	1.1	2.0	6.2	16.4	30.6	42.6	1.1

			(%)						
		調査数	て0点(全く満足していない)	1点	2点	3点	4点	5点	6点
2 中 学 生	お世話をしている家族がいる	1,122	2.0	1.5	2.5	5.1	7.0	12.6	7.6
	お世話をしている家族がいない	12,405	0.7	0.8	1.8	3.5	5.0	9.7	7.3
高 校 全 日 制 生	お世話をしている家族がいる	623	2.4	1.0	1.9	4.5	6.1	16.7	9.0
	お世話をしている家族がいない	11,639	1.2	0.7	1.7	4.3	6.0	11.8	10.3

			7点	8点	9点	満10点(たいへん満足)	無回答
2 中 学 生	お世話をしている家族がいる	1,122	10.0	14.5	12.9	22.3	2.1
	お世話をしている家族がいない	12,405	13.6	19.9	16.2	21.0	0.6
高 校 全 日 制 生	お世話をしている家族がいる	623	16.4	16.7	8.2	14.0	3.2
	お世話をしている家族がいない	11,639	17.6	20.7	10.6	14.3	0.9

(6) 孤独の状況

孤独の状況をお世話をしている家族の有無別でみると、中学2年生で「4～6点（ほとんどない）」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも3.8ポイント低くなっている。全日制高校2年生でも「4～6点（ほとんどない）」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも4.3ポイント低くなっている。

		調査数	(%)				無回答
			10～12点（常にあり）	7～9点（時々あり）	4～6点（ほとんどない）	3点（決してない）	
2 年生 中 学 生	お世話をしている家族がいる	1,122	4.4	22.5	32.9	38.7	1.5
	お世話をしている家族がいない	12,405	3.7	21.8	36.7	36.8	1.1
高 校 全 日 制 2 年 生	お世話をしている家族がいる	623	5.6	25.7	32.9	33.9	1.9
	お世話をしている家族がいない	11,639	4.2	26.0	37.2	32.1	0.5

(7) ヤングケアラーの自覚

ヤングケアラーの自覚をお世話をしている家族の有無別でみると、いずれも「あてはまらない」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも40ポイント以上低くなっているが、“お世話をしている家族がいる”で4割前後の回答がある。「わからない」は“お世話をしている家族がいる”が“お世話をしている家族がいない”よりも30ポイント前後高くなっているが、“お世話をしている家族がいる”で4割台半ばほどとなっている。

		調査数	(%)			無回答
			あてはまる	あてはまらない	わからない	
2 年生 中 学 生	お世話をしている家族がいる	1,122	8.8	41.2	46.6	3.4
	お世話をしている家族がいない	12,405	0.8	83.1	16.0	0.2
高 校 全 日 制 2 年 生	お世話をしている家族がいる	623	10.6	37.6	46.4	5.5
	お世話をしている家族がいない	11,639	0.9	79.7	19.3	0.2

2 ヤングケアラーの自覚別にみた意識

(1) 家族構成

家族構成をヤングケアラーの自覚別にみると、中学2年生で「二世帯世帯」は“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまる”で6割を超えている。「三世帯世帯」は“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまらない”、“わからない”で2割台半ばとなっている。全日制高校2年生で「ひとり親家庭」は“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまる”で2割台半ばとなっている。

			(%)					
			調査数	ひとり親家庭	二世帯世帯	三世帯世帯	暮らし等 その他世帯・一人	無回答
2 中 学 2 年 生	し お て い る お 世 話 を	あてはまる	99	16.2	62.6	19.2	2.0	-
		あてはまらない	462	15.4	58.9	24.7	1.1	-
		わからない	523	17.8	57.4	23.1	1.0	0.8
	し お て い ない お 世 話 を	あてはまる	94	23.4	56.4	19.1	1.1	-
		あてはまらない	10,305	13.8	65.9	19.5	0.7	0.2
		わからない	1,986	19.9	59.6	19.5	0.8	0.3
高 校 全 日 制 2 年 生	し お て い る お 世 話 を	あてはまる	66	24.2	47.0	21.2	7.6	-
		あてはまらない	234	19.7	58.1	20.9	1.3	-
		わからない	289	20.4	52.9	23.2	2.4	1.0
	し お て い ない お 世 話 を	あてはまる	99	26.3	52.5	18.2	3.0	-
		あてはまらない	9,276	16.3	62.1	19.5	1.7	0.3
		わからない	2,241	19.9	56.4	20.7	2.7	0.3

(2) 健康状態

健康状態をヤングケアラーの自覚別にみると、いずれも「よい」はヤングケアラーの自覚に関わらず最も高くなっているが、中学2年生で「よい」は“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまる”が5割未満と“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまらない”、“わからない”よりも低くなっている。「あまりよくない」は“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまる”で1割を超えている。全日制高校2年生で「まあよい」は“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまる”が3割近くと“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまらない”、“わからない”よりも高くなっている。

(%)

			調査数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
2 中 学 生	し お て い る 世 話 を	あてはまる	99	48.5	16.2	19.2	12.1	4.0	-
		あてはまらない	462	55.6	19.5	20.3	4.3	-	0.2
		わからない	523	51.1	19.3	22.0	5.7	1.9	-
	し て い な い 世 話 を	あてはまる	94	56.4	20.2	14.9	4.3	3.2	1.1
		あてはまらない	10,305	58.6	20.2	17.2	3.4	0.5	0.2
		わからない	1,986	47.0	20.7	24.1	6.1	1.9	0.3
高 校 全 日 制 2 年 生	し お て い る 世 話 を	あてはまる	66	47.0	28.8	15.2	6.1	1.5	1.5
		あてはまらない	234	49.6	22.6	21.8	3.8	1.7	0.4
		わからない	289	44.3	21.8	24.6	8.3	1.0	-
	し て い な い 世 話 を	あてはまる	99	41.4	21.2	17.2	16.2	4.0	-
		あてはまらない	9,276	52.9	22.5	19.6	4.2	0.6	0.1
		わからない	2,241	46.1	20.1	25.0	6.6	1.8	0.4

(3) 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援をヤングケアラーの自覚別にみると、「特にない」はヤングケアラーの自覚に関わらず最も高い場合が多いが、“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまる”が“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまらない”、“わからない”よりも低くなっている。中学2年生で「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「自由に使える時間がほしい」、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」は“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまる”で2割台半ばとなっている。全日制高校2年生で「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」は“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまる”で3割近く、「自由に使える時間がほしい」は“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまる”で2割を超えている。

		調査数	(%)						
			て自 話の 聞い いま の状 況に つい	談家 族の のお つお て世 話し にい て相	り の 家 族 の 病 気 や 障 害 、 わ け か ア	る の 自 分 が 行 つ て い る お し く 世 話	人 の 自 分 が サ ー ブ に 代 わ る お し く 世 話	い 自 由 に 使 え る 時 間 が ほ し	談進 に路 のや つ就 職な ど将 来の 相
2 年 中 学 生	あてはまる	99	24.2	11.1	12.1	6.1	-	24.2	16.2
	あてはまらない	462	7.8	1.1	1.9	0.6	0.2	10.0	6.3
	わからない	523	10.9	4.6	2.1	1.5	0.2	14.3	7.5
高 校 全 日 制 生	あてはまる	66	27.3	12.1	9.1	13.6	1.5	22.7	12.1
	あてはまらない	234	6.4	1.7	2.1	1.3	0.4	9.8	9.4
	わからない	289	12.1	2.4	2.8	2.1	0.7	9.7	10.0

		調査数	ど学 校の 勉 強 や 受 験 勉 強 な サ ポ ー ト	家 庭 へ の 経 済 的 な 支 援	そ の 他	わ か ら な い	特 に な い	無 回 答
2 年 中 学 生	あてはまる							
	あてはまらない	462	8.9	0.9	0.4	8.2	56.1	14.7
	わからない	523	11.5	2.9	0.4	15.9	49.5	8.4
高 校 全 日 制 生	あてはまる	66	12.1	13.6	4.5	10.6	25.8	1.5
	あてはまらない	234	9.4	4.3	1.3	8.5	52.1	12.8
	わからない	289	9.7	3.5	1.0	9.3	52.2	8.7

(4) 相談する手段

相談する手段をヤングケアラーの自覚別にみると、回答数が少ないため参考値であるが、いずれも「直接会って」はヤングケアラーの自覚に関わらず最も高くなっている。中学2年生で「電話」は“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまる”、“わからない”で2割以上となっている。全日制高校2年生で「電話」、「SNS」は“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーにあてはまるか“わからない”で3割以上となっている。

			(%)					
		調査数	直接会って	電話	SNS	電子メール	その他	無回答
2 中 学 生	あてはまる	27	66.7	22.2	14.8	14.8	7.4	7.4
	あてはまらない	37	73.0	18.9	18.9	16.2	8.1	2.7
	わからない	66	69.7	27.3	24.2	24.2	-	3.0
高 校 全 日 制 生	あてはまる	22	86.4	13.6	22.7	13.6	4.5	-
	あてはまらない	18	66.7	38.9	16.7	22.2	-	5.6
	わからない	38	60.5	34.2	31.6	15.8	-	5.3

(注) 相談する手段は、お世話をしている家族がいる生徒のみを対象とした設問

(5) お世話の悩みを相談されたらどのような対応をとるか

お世話の悩みを相談されたらどのような対応をとるかをヤングケアラーの自覚別にみると、いずれも「相手の話を最後までしっかり聞く」はヤングケアラーの自覚に関わらず最も高くなっている。中学2年生で「どうしたらよいか一緒に考える」は“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまる”で6割近く、「相手を気づかう姿勢を見せる、寄り添う」は“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまる”で4割と高くなっている。全日制高校2年生でも「どうしたらよいか一緒に考える」は“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまる”で半数を超え、「相手を気づかう姿勢を見せる、寄り添う」は“お世話をしている家族がいる”かつヤングケアラーに“あてはまる”で3割台半ばと高くなっている。

			(%)						
			調査数	相手の話を最後までしっかり聞く	相談する(学校の先生等に)	率直に何をしていたか尋ねる	どうしたらよいか一緒に考える	相手を気づかう姿勢を見せる、寄り添う	自分では対応できないことを伝える
2 中 学 生	お世話をしている	あてはまる	99	81.8	19.2	22.2	58.6	40.4	12.1
		あてはまらない	462	78.1	22.9	16.0	50.9	33.1	4.1
		わからない	523	72.7	14.7	13.8	47.2	29.8	4.6
	お世話をしていない	あてはまる	94	79.8	28.7	22.3	63.8	45.7	8.5
		あてはまらない	10,305	89.3	43.9	21.5	66.6	49.8	7.8
		わからない	1,986	81.9	23.9	18.8	63.2	39.6	7.0
高 校 全 日 制 生	お世話をしている	あてはまる	66	83.3	24.2	21.2	51.5	36.4	12.1
		あてはまらない	234	81.2	18.4	12.4	41.0	28.6	3.4
		わからない	289	71.3	6.6	10.4	33.9	23.2	4.5
	お世話をしていない	あてはまる	99	87.9	15.2	21.2	50.5	29.3	9.1
		あてはまらない	9,276	87.6	32.6	17.1	57.6	41.1	6.2
		わからない	2,241	79.6	14.9	14.5	47.9	29.0	5.3

			調査数	その他	い ど う し て よ い か わ か ら な い	無 回 答
2 中 学 生	お世話をしている	あてはまる	99	1.0	4.0	1.0
		あてはまらない	462	1.3	6.9	6.3
		わからない	523	1.9	13.2	6.7
	お世話をしていない	あてはまる	94	3.2	5.3	3.2
		あてはまらない	10,305	0.9	2.9	0.3
		わからない	1,986	0.8	8.6	1.1
高 校 全 日 制 生	お世話をしている	あてはまる	66	3.0	3.0	-
		あてはまらない	234	2.1	3.0	4.3
		わからない	289	2.1	17.0	3.1
	お世話をしていない	あてはまる	99	2.0	3.0	-
		あてはまらない	9,276	0.5	2.4	0.2
		わからない	2,241	0.4	8.7	0.6

3 お世話の頻度別にみたお世話の状況や意識

(1) 通学状況

出席状況をお世話の頻度別で見ると、いずれも「ほとんど欠席しない」が最も高くなっている。

遅刻や早退の状況をお世話の頻度別で見ると、いずれも「ほとんどしない」が最も高くなっている。

(出席状況)

			(%)			
		調査数	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
6 年 生 小 学 生	ほぼ毎日	591	72.3	23.9	2.9	1.0
	週に3日～5日	351	70.7	27.6	1.1	0.6
	週に1日～2日	303	71.3	24.8	3.3	0.7
	1ヶ月に数日	158	72.8	23.4	2.5	1.3
	その他	16	75.0	12.5	12.5	-
2 年 生 中 学 生	ほぼ毎日	396	69.2	20.7	10.1	-
	週に3日～5日	181	72.9	16.0	11.0	-
	週に1日～2日	173	73.4	17.9	8.7	-
	1ヶ月に数日	117	78.6	14.5	6.8	-
	その他	11	72.7	27.3	-	-
高 校 全 日 制 2 年 生	ほぼ毎日	233	69.5	19.7	10.7	-
	週に3日～5日	79	68.4	21.5	8.9	1.3
	週に1日～2日	78	70.5	15.4	14.1	-
	1ヶ月に数日	59	74.6	16.9	6.8	1.7
	その他	16	56.3	25.0	18.8	-

(遅刻や早退の状況)

			(%)			
		調査数	ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
6 年 生 小 学 生	ほぼ毎日	591	74.3	20.0	2.5	3.2
	週に3日～5日	351	72.9	22.2	2.6	2.3
	週に1日～2日	303	74.9	20.8	1.3	3.0
	1ヶ月に数日	158	72.2	23.4	2.5	1.9
	その他	16	68.8	25.0	-	6.3
2 年 生 中 学 生	ほぼ毎日	396	72.2	19.7	5.8	2.3
	週に3日～5日	181	74.0	18.2	5.0	2.8
	週に1日～2日	173	78.6	18.5	1.2	1.7
	1ヶ月に数日	117	81.2	14.5	2.6	1.7
	その他	11	72.7	18.2	-	9.1
高 校 全 日 制 2 年 生	ほぼ毎日	233	79.4	17.2	1.3	2.1
	週に3日～5日	79	81.0	13.9	5.1	-
	週に1日～2日	78	88.5	9.0	2.6	-
	1ヶ月に数日	59	79.7	13.6	6.8	-
	その他	16	62.5	31.3	-	6.3

(2) 健康状態

健康状態をお世話の頻度別で見ると、いずれも「よい」が最も高くなっている。「ふつう」は中学2年生の“ほぼ毎日”、全日制高校2年生の“ほぼ毎日”、“1ヶ月に数日”で2割台半ばとなっている。

		(%)						
		調査数	よい	まあよい	ふつう	いあまりよくな	よくない	無回答
6 年 生 小 学	ほぼ毎日	591	58.9	16.1	19.8	4.1	0.7	0.5
	週に3日～5日	351	60.7	19.4	15.4	3.4	0.3	0.9
	週に1日～2日	303	60.1	16.8	21.1	2.0	-	-
	1ヶ月に数日	158	57.6	16.5	20.3	4.4	0.6	0.6
	その他	16	43.8	12.5	31.3	12.5	-	-
2 年 生 中 学	ほぼ毎日	396	48.0	18.7	24.0	6.8	2.3	0.3
	週に3～5日	181	53.0	18.8	19.9	7.2	1.1	-
	週に1～2日	173	56.6	17.3	18.5	6.9	0.6	-
	1ヶ月に数日	117	59.0	23.9	15.4	1.7	-	-
	その他	11	45.5	27.3	27.3	-	-	-
高 校 全 日 制 2 年 生	ほぼ毎日	233	42.9	25.3	24.9	5.6	0.9	0.4
	週に3～5日	79	39.2	26.6	22.8	7.6	2.5	1.3
	週に1～2日	78	52.6	23.1	15.4	7.7	1.3	-
	1ヶ月に数日	59	45.8	18.6	25.4	8.5	1.7	-
	その他	16	43.8	12.5	25.0	12.5	6.3	-

(3) 生活満足度

生活満足度をお世話の頻度別でみると、小学6年生で「5点（たいへん満足）」はお世話の頻度に関わらず最も高くなっている。「4点」は“週に1日～2日”で3割を超え、“週に3日～5日”、“1ヶ月に数日”で3割近くとなっている。「3点」は“ほぼ毎日”で2割台半ばとなっている。中学2年生で「10点（たいへん満足）」はお世話の頻度に関わらず最も高くなっているが、お世話の頻度が多いほど低くなる傾向にある。全日制高校2年生で「5点」は“週に3～5日”が2割台半ばとなっている。

		調査数	0点 （満足していない）	1点	2点	3点	4点	5点 （たいへん満足）	無回答
小学 6年生	ほぼ毎日	591	2.9	3.4	8.3	23.2	21.7	37.6	3.0
	週に3日～5日	351	1.7	3.7	7.1	19.9	27.6	38.2	1.7
	週に1日～2日	303	1.0	2.0	10.6	19.8	31.0	33.7	2.0
	1ヶ月に数日	158	1.3	3.2	6.3	20.3	27.8	39.9	1.3
	その他	16	6.3	-	12.5	25.0	25.0	31.3	-

		調査数	0点 （全く満足していない）	1点	2点	3点	4点	5点	6点
中学 2年生	ほぼ毎日	396	3.3	2.0	2.5	5.8	8.3	12.1	5.8
	週に3～5日	181	2.8	1.1	1.1	6.1	8.3	13.8	8.3
	週に1～2日	173	-	1.2	4.0	3.5	5.2	14.5	9.2
	1ヶ月に数日	117	0.9	0.9	1.7	4.3	6.8	11.1	6.0
	その他	11	-	-	-	9.1	18.2	18.2	9.1
高校 全 日 制 2 年 生	ほぼ毎日	233	2.1	-	1.3	6.0	7.7	17.2	9.4
	週に3～5日	79	3.8	2.5	3.8	5.1	7.6	25.3	8.9
	週に1～2日	78	3.8	2.6	1.3	-	3.8	15.4	11.5
	1ヶ月に数日	59	1.7	-	3.4	5.1	6.8	16.9	-
	その他	16	12.5	-	-	18.8	-	6.3	12.5

		調査数	7点	8点	9点	10点 （たいへん満足）	無回答
中学 2年生	ほぼ毎日	396	11.1	12.9	14.1	18.7	3.3
	週に3～5日	181	9.4	13.8	11.6	22.7	1.1
	週に1～2日	173	9.8	14.5	12.7	24.9	0.6
	1ヶ月に数日	117	7.7	22.2	11.1	25.6	1.7
	その他	11	9.1	9.1	-	27.3	-
高校 全 日 制 2 年 生	ほぼ毎日	233	18.0	15.0	8.2	12.4	2.6
	週に3～5日	79	10.1	13.9	6.3	10.1	2.5
	週に1～2日	78	16.7	19.2	7.7	16.7	1.3
	1ヶ月に数日	59	27.1	13.6	10.2	13.6	1.7
	その他	16	25.0	-	12.5	6.3	6.3

(4) 孤独の状況

孤独の状況をお世話の頻度別で見ると、中学2年生で「3点（決してない）」は“1ヶ月に数日”が4割近くと高くなっている。「4～6点（ほとんどない）」も“週に1～2日”が4割近くと高くなっている。全日制高校2年生で「4～6点（ほとんどない）」は“1ヶ月に数日”が4割近くとなっている。

			(%)				
		調査数	1 0 1 2 点 (常にあ る)	7 5 9 点 (時々ある)	4 5 6 点 (ほとん どない)	3 点 (決して ない)	無 回 答
中 学 2 年 生	ほぼ毎日	396	5.3	26.5	30.1	36.9	1.3
	週に3～5日	181	5.5	24.3	35.4	33.7	1.1
	週に1～2日	173	5.8	19.7	38.2	35.3	1.2
	1ヶ月に数日	117	3.4	23.9	32.5	39.3	0.9
	その他	11	-	27.3	27.3	45.5	-
高 校 全 日 制 2 年 生	ほぼ毎日	233	7.7	28.3	29.6	32.6	1.7
	週に3～5日	79	7.6	31.6	31.6	24.1	5.1
	週に1～2日	78	6.4	29.5	34.6	29.5	-
	1ヶ月に数日	59	6.8	16.9	39.0	35.6	1.7
	その他	16	-	25.0	50.0	18.8	6.3

(5) お世話の内容

お世話の内容をお世話の頻度別でみると、小学6年生で「家事」は“週に3日～5日”が5割台半ば、“週に1日～2日”が5割と高くなっている。「見守り」は“ほぼ毎日”、“週に3日～5日”が4割台半ばと高くなっている。中学2年生、全日制高校2年生で「家事」、「きょうだいの世話や保育所へ送迎」、「見守り」はお世話の頻度が多いほど高くなる傾向にある。

		調査数	(%)						
			家事	送迎 や 保育所 等 への 世 話	きょう だいの お 世 話	身 体 的 な 介 護	外 出 の 付 き 添 い	通 院 の 付 き 添 い	手 話 を 聞 く 、 話 し 相 手 に な る な ど
6 年 生 小 学	ほぼ毎日	591	43.8	26.7	6.4	18.3	4.6	32.5	45.3
	週に3日～5日	351	53.3	17.9	3.1	18.5	4.3	29.9	44.4
	週に1日～2日	303	50.2	10.6	5.6	15.8	2.6	26.7	31.0
	1ヶ月に数日	158	39.9	6.3	4.4	11.4	3.8	27.8	31.6
	その他	16	6.3	-	-	6.3	6.3	6.3	-
		調査数	話 通 訳 （ 日 本 語 や 手 話 ）	お 金 の 管 理	薬 の 管 理	そ の 他	無 回 答		
6 年 生 小 学	ほぼ毎日	591	3.9	5.8	4.1	5.2	5.8		
	週に3日～5日	351	2.3	4.3	3.7	3.7	3.7		
	週に1日～2日	303	1.3	4.0	3.0	4.3	6.3		
	1ヶ月に数日	158	1.3	3.2	3.2	2.5	13.3		
	その他	16	-	6.3	-	25.0	56.3		

(%)

		調査数	家事	きょうだいの世話など 保育所等へ送迎	身体的な介護	外出の付き添い	通院の付き添い	感情面のサポート	見守り
2 年 中 学 生	ほぼ毎日	396	49.0	38.9	11.1	23.7	4.3	11.1	47.2
	週に3日～5日	181	57.5	23.8	10.5	24.3	2.8	14.9	40.3
	週に1日～2日	173	53.8	16.8	3.5	18.5	2.9	6.9	45.7
	1ヶ月に数日	117	47.0	10.3	3.4	17.1	1.7	10.3	39.3
	その他	11	18.2	9.1	-	9.1	-	9.1	27.3
高 校 全 日 制 2 年 生	ほぼ毎日	233	58.4	37.3	10.7	24.5	5.2	16.3	48.1
	週に3日～5日	79	58.2	22.8	8.9	26.6	3.8	19.0	43.0
	週に1日～2日	78	52.6	17.9	3.8	24.4	3.8	11.5	39.7
	1ヶ月に数日	59	42.4	6.8	10.2	13.6	8.5	8.5	28.8
	その他	16	31.3	6.3	6.3	-	6.3	6.3	12.5

		調査数	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
2 年 中 学 生	ほぼ毎日	396	3.0	1.8	4.0	3.8	5.1
	週に3日～5日	181	3.3	1.7	2.8	3.3	2.2
	週に1日～2日	173	2.9	0.6	3.5	2.3	4.0
	1ヶ月に数日	117	0.9	-	0.9	4.3	9.4
	その他	11	-	-	-	9.1	45.5
高 校 全 日 制 2 年 生	ほぼ毎日	233	4.7	3.4	5.2	4.3	2.1
	週に3日～5日	79	3.8	2.5	2.5	2.5	2.5
	週に1日～2日	78	2.6	-	3.8	1.3	1.3
	1ヶ月に数日	59	3.4	1.7	1.7	5.1	8.5
	その他	16	-	6.3	-	31.3	6.3

(6) 平日1日あたりにお世話に費やす時間

平日1日あたりにお世話に費やす時間をお世話の頻度別で見ると、いずれも「3時間未満」は概ねお世話の頻度が少ないほど高い傾向にある。一方、「3～7時間未満」は概ねお世話の頻度が多いほど高い傾向にある。

			(%)			
		調査数	3時間未満	満3～7時間未満	7時間以上	無回答
6 年 小 学 生	ほぼ毎日	591	42.5	31.8	19.0	6.8
	週に3日～5日	351	60.1	26.5	4.8	8.5
	週に1日～2日	303	73.6	13.9	3.0	9.6
	1ヶ月に数日	158	75.9	11.4	5.1	7.6
	その他	16	18.8	6.3	6.3	68.8
中 学 2 年 生	ほぼ毎日	396	42.2	32.1	15.9	9.8
	週に3～5日	181	65.2	23.8	2.8	8.3
	週に1～2日	173	74.6	15.6	2.3	7.5
	1ヶ月に数日	117	70.1	7.7	5.1	17.1
	その他	11	18.2	-	9.1	72.7
高 校 全 2 日 年 制 生	ほぼ毎日	233	44.6	29.2	17.6	8.6
	週に3～5日	79	46.8	35.4	2.5	15.2
	週に1～2日	78	76.9	12.8	5.1	5.1
	1ヶ月に数日	59	69.5	11.9	5.1	13.6
	その他	16	37.5	18.8	-	43.8

(7) お世話をしているためにやりたいけれどできないこと

お世話をしているためにやりたいけれどできないことをお世話の頻度別でみると、小学6年生で「特にない」はお世話の頻度に関わらず最も高くなっているが、「自分の時間が取れない」はお世話の頻度が多いほど高い傾向にあり、“ほぼ毎日”、“週に3日～5日”で16%台となっている。中学2年生、全日制高校2年生で、いずれも「特にない」はお世話の頻度に関わらず最も高くなっているが、具体的な内容はお世話の頻度が多いほど高い傾向にある。いずれも「自分の時間が取れない」はお世話の頻度が多いほど高い傾向にあり、“ほぼ毎日”で2割前後となっている。

		(%)								
		調査数	う学校を休んでしま	し遅まうや早退をして	時宿間題がなど勉強する	い眠る時間がたりな	が友だちと遊ぶこと	習い事ができない	な自分の時間が取れ	
6 年 生 小 学	ほぼ毎日	591	4.9	7.1	11.8	8.0	9.0	1.4	16.6	
	週に3日～5日	351	3.1	2.8	12.0	12.8	6.3	0.6	16.0	
	週に1日～2日	303	2.3	2.3	7.9	6.3	7.6	0.7	13.5	
	1ヶ月に数日	158	1.3	0.6	6.3	5.1	7.6	0.6	10.1	
	その他	16	6.3	12.5	-	6.3	-	-	6.3	
		調査数	その他	特にない	無回答					
6 年 生 小 学	ほぼ毎日	591	1.0	64.0	5.2					
	週に3日～5日	351	-	61.8	6.6					
	週に1日～2日	303	0.7	68.3	6.3					
	1ヶ月に数日	158	0.6	77.8	7.0					
	その他	16	6.3	31.3	50.0					

(%)

		調査数	ない 学校に行きたくても行け	早退してしまいう	宿題をする時間が取れない	睡眠が十分に取れない	い友人と遊ぶことができない	得なかつた	部活や習い事ができない	変更した	進路の変更を考えた
2 年 中 学 生	ほぼ毎日	396	2.5	3.5	15.9	15.7	11.6	2.8	3.3		
	週に3日～5日	181	1.1	2.2	12.7	13.8	7.7	2.8	1.7		
	週に1日～2日	173	0.6	1.7	4.0	8.7	9.2	1.2	0.6		
	1ヶ月に数日	117	0.9	3.4	5.1	7.7	7.7	0.9	0.9		
	その他	11	-	-	-	-	-	-	-		
高 校 全 日 制 2 年 生	ほぼ毎日	233	4.7	3.4	18.0	19.3	13.7	3.4	5.6		
	週に3日～5日	79	2.5	1.3	13.9	11.4	13.9	3.8	2.5		
	週に1日～2日	78	-	-	12.8	11.5	5.1	-	1.3		
	1ヶ月に数日	59	1.7	-	3.4	5.1	1.7	-	-		
	その他	16	-	-	12.5	6.3	6.3	-	-		

		調査数	自 分 の 時 間 が 取 れ な い	そ の 他	特 に な い	無 回 答
2 年 中 学 生	ほぼ毎日	396	20.2	0.5	57.6	6.3
	週に3日～5日	181	14.9	1.7	66.9	6.1
	週に1日～2日	173	8.1	0.6	70.5	6.9
	1ヶ月に数日	117	8.5	-	76.9	6.0
	その他	11	9.1	18.2	63.6	9.1
高 校 全 日 制 2 年 生	ほぼ毎日	233	17.6	1.3	55.4	4.3
	週に3日～5日	79	12.7	1.3	53.2	11.4
	週に1日～2日	78	10.3	-	66.7	5.1
	1ヶ月に数日	59	6.8	-	78.0	6.8
	その他	16	25.0	6.3	50.0	12.5

(8) お世話のきつさ

お世話のきつさをお世話の頻度別でみると、小学6年生で「特に大変さは感じていない」はお世話の頻度に関わらず最も高くなっているが、具体的なきつさの内容ではお世話の頻度が多いほど高い傾向にあり、「気持ちの面で大変」は“ほぼ毎日”で2割となっている。中学2年生、全日制高校2年生でも、「特にきつさは感じていない」はお世話の頻度に関わらず最も高くなっているが、「時間的余裕がない」はお世話の頻度が多いほど高い傾向にある。

(%)

		調査数	体力面で大変	大変持ちの面で	時間的余裕がない	特に大変さは	無回答
6年生 小学	ほぼ毎日	591	16.2	20.8	16.2	57.2	2.7
	週に3日～5日	351	12.3	18.8	15.1	60.4	3.1
	週に1日～2日	303	10.9	14.5	10.6	63.7	5.3
	1ヶ月に数日	158	9.5	8.2	5.7	76.6	5.1
	その他	16	12.5	6.3	6.3	31.3	43.8

(%)

		調査数	身体的にきつ	精神的にきつ	時間的余裕がない	特にきつさは	無回答
2年生 中学	ほぼ毎日	396	9.3	13.9	17.9	66.2	3.3
	週に3～5日	181	9.9	12.7	16.6	71.3	0.6
	週に1～2日	173	2.9	7.5	12.1	78.0	2.9
	1ヶ月に数日	117	4.3	6.0	7.7	82.9	3.4
	その他	11	-	9.1	-	72.7	18.2
高校 全日制 2年生	ほぼ毎日	233	10.3	18.5	19.3	65.7	0.9
	週に3～5日	79	10.1	21.5	19.0	62.0	3.8
	週に1～2日	78	1.3	7.7	15.4	73.1	5.1
	1ヶ月に数日	59	-	6.8	5.1	78.0	11.9
	その他	16	-	31.3	-	50.0	18.8

(9) お世話について相談した経験

お世話について相談した経験をお世話の頻度別で見ると、小学6年生で「ある」は“週に1日～2日”以上で3割近くと高くなっている。中学2年生、全日制高校2年生で、「ある」はお世話の頻度が多いほど高い傾向にあり、中学2年生の“週に3～5日”以上、全日制高校2年生の“ほぼ毎日”で2割台半ばとなっている。

		(%)			
		調査数	ある	ない	無回答
6 小 学 生	ほぼ毎日	591	27.4	71.6	1.0
	週に3日～5日	351	29.6	67.2	3.1
	週に1日～2日	303	27.7	71.0	1.3
	1ヶ月に数日	158	24.7	72.8	2.5
	その他	16	18.8	37.5	43.8
2 中 学 生	ほぼ毎日	396	25.0	72.2	2.8
	週に3～5日	181	24.3	75.7	-
	週に1～2日	173	18.5	80.9	0.6
	1ヶ月に数日	117	17.1	80.3	2.6
	その他	11	27.3	63.6	9.1
高 校 全 日 制 2 年 生	ほぼ毎日	233	23.2	74.2	2.6
	週に3～5日	79	19.0	77.2	4
	週に1～2日	78	17.9	78.2	3.8
	1ヶ月に数日	59	16.9	78.0	5.1
	その他	16	12.5	81.3	6.3

(10) お世話について相談したことがない理由

お世話について相談したことがない理由をお世話の頻度別でみると、小学6年生で「相談するほどの悩みではないから」はお世話の頻度に関わらず高くなっている。中学2年生、全日制高校2年生でも、「誰かに相談するほどの悩みではない」はお世話の頻度に関わらず高くなっている。

(%)

		調査数	みで 相談 する はな いほ ど の 悩 み	か ら わ か ら な い が	誰 に 相 談 す る の 人 が い	相 談 で き る 人 が い	た く な い こ と を 話 し	わ ら な い も 何 も 変	そ の 他	無 回 答
6 年 生	ほぼ毎日	423	60.0	7.6	2.8	7.8	12.3	13.2	8.3	
	週に3日～5日	236	67.8	5.5	4.2	6.8	10.2	11.4	6.4	
	週に1日～2日	215	63.3	7.4	4.7	5.6	13.5	12.1	3.7	
	1ヶ月に数日	115	59.1	1.7	1.7	4.3	19.1	8.7	13.9	
	その他	6	33.3	-	-	-	17	16.7	33.3	

(%)

		調査数	ど の 悩 み で は す な い ほ	誰 か に 相 談 す る の 人 が い	は な い よ う な 悩 み で 談	す な い よ う な 人 が い	家 族 外 の 人 に 相 談	よ い に 相 談 す る の 人 が い	誰 に 相 談 す る の 人 が い	近 に い で き る 人 が 身	相 談 す る こ と の た め	話 す こ と の た め	家 族 の こ と を 知 ら	家 族 の こ と を 知 ら	を 持 た れ た し て 偏 見	家 族 に 対 し て 偏 見	い 変 わ る し て は も 思 わ な が	そ の 他	無 回 答
中 学 2 年 生	ほぼ毎日	286	72.0	16.8	11.2	7.3	10.8	8.0	8.7	15.4	7.7	6.6							
	週に3日～5日	137	66.4	11.7	8.0	4.4	8.8	5.1	7.3	13.9	8.8	8.0							
	週に1日～2日	140	72.9	7.9	7.1	2.1	7.1	6.4	5.0	6.4	4.3	11.4							
	1ヶ月に数日	94	69.1	12.8	4.3	2.1	5.3	3.2	3.2	4.3	10.6	7.4							
	その他	7	57.1	28.6	14.3	-	-	-	-	-	42.9	14.3							
高 校 全 日 制 2 年 生	ほぼ毎日	173	70.5	8.1	6.9	4.0	7.5	6.9	5.8	16.2	6.4	3.5							
	週に3日～5日	61	55.7	13.1	9.8	4.9	11.5	11.5	11.5	21.3	6.6	6.6							
	週に1日～2日	61	72.1	11.5	4.9	4.9	3.3	6.6	3.3	18.0	3.3	3.3							
	1ヶ月に数日	46	63.0	4.3	4.3	2.2	-	2.2	4.3	13.0	8.7	8.7							
	その他	13	30.8	15.4	15.4	15	15	-	8	31	46.2	7.7							

(11) 相談する手段

相談する手段をお世話の頻度別で見ると、回答数が少ないため参考値となるが、「直接会って」はお世話の頻度に関わらず高い傾向にある。

		(%)						
		調査数	直接会って	電話	S N S	電子メール	その他	無回答
6 年 生 小 学	ほぼ毎日	94	58.5	24.5	10.6	14.9	3.2	13.8
	週に3日～5日	67	73.1	25.4	6.0	11.9	4.5	6.0
	週に1日～2日	47	78.7	21.3	10.6	2.1	2.1	2.1
	1ヶ月に数日	28	71.4	28.6	10.7	14.3	-	10.7
	その他	3	33.3	33.3	-	-	33.3	33.3
2 年 生 中 学	ほぼ毎日	60	73.3	23.3	23.3	26.7	3.3	5.0
	週に3日～5日	23	60.9	26.1	21.7	17.4	4.3	4.3
	週に1日～2日	22	68.2	27.3	9.1	4.5	4.5	4.5
	1ヶ月に数日	12	66.7	25.0	16.7	8.3	8.3	-
	その他	1	100.0	-	100.0	-	-	-
高 校 全 2 日 年 生	ほぼ毎日	33	81.8	24.2	18.2	9.1	3.0	-
	週に3日～5日	16	62.5	31.3	18.8	25.0	-	6.3
	週に1日～2日	10	60.0	40.0	40.0	10.0	-	-
	1ヶ月に数日	6	33.3	50.0	16.7	-	-	16.7
	その他	4	25.0	25.0	25.0	50.0	-	25.0

(12) 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援をお世話の頻度別でみると、小学6年生で「特にない」はお世話の頻度に関わらず最も高くなっているが、「自由に使える時間がほしい」は“ほぼ毎日”、“週に3日～5日”で2割近くとなっている。中学2年生、全日制高校2年生でも、「特にない」はお世話の頻度に関わらず最も高くなっているが、中学2年生で「自由に使える時間がほしい」は“ほぼ毎日”、“週に3日～5日”で2割近くとなっている。全日制高校2年生で「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」は“週に3～5日”で2割近くとなっている。

		(%)								
		調査数	自分でほしことについて話を聞	家族のお世話について相談	話や病気の説明についてほしい	家族の病気や障がい、いわお世	自分が誰かいてお世話の	一部分が誰かいてお世話の	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい
6年生 小学	ほぼ毎日	591	14.0	5.2	1.4	3.4	0.7	17.6	15.1	
	週に3日～5日	351	17.1	6.8	2.3	2.8	-	18.5	19.1	
	週に1日～2日	303	13.2	4.0	1.3	2.6	0.3	15.8	14.5	
	1ヶ月に数日	158	17.7	2.5	0.6	1.3	-	11.4	10.1	
	その他	16	12.5	6.3	-	-	-	12.5	6.3	
		調査数	ほお金の面で支援して	その他	特にない	わからない	無回答			
6年生 小学	ほぼ毎日	591	4.2	1.2	54.0	8.8	3.4			
	週に3日～5日	351	3.1	1.1	51.0	7.7	3.1			
	週に1日～2日	303	2.6	0.3	55.4	8.3	3.6			
	1ヶ月に数日	158	1.3	-	58.2	8.9	4.4			
	その他	16	6.3	-	18.8	12.5	43.8			

(%)

		調査数	て自分の話を聞いてほし いままの状況について	談にのつてほし い	家族のお世話について相 談のつてほし い	りやすくと説明してほし い	の家族の病気や障害、ケ ア	る人やすべが代わつてほ しい	の自分が行つてお世 話	人やすべが代わつてほ しい	の自分が行つてお世 話	い自由に使 える時間 がほし い	談にのつてほし い	進路や就 職など 将来の 相
中学 2 年生	ほぼ毎日	396	12.4	8.1	4.3	2.8	-	17.7	10.1					
	週に3～5日	181	12.7	2.2	1.7	2.8	-	17.1	7.2					
	週に1～2日	173	11.0	2.3	3.5	-	-	9.8	8.7					
	1ヶ月に数日	117	10.3	0.9	3.4	-	0.9	11.1	4.3					
	その他	11	9.1	-	9.1	9.1	-	9.1	-					
高校全 2日 年生	ほぼ毎日	233	10.7	4.7	4.3	4.3	1.3	11.6	9.0					
	週に3～5日	79	17.7	7.6	5.1	2.5	-	15.2	13.9					
	週に1～2日	78	12.8	1.3	2.6	3.8	-	10.3	10.3					
	1ヶ月に数日	59	10.2	-	1.7	-	-	3.4	10.2					
	その他	16	18.8	6.3	6.3	12.5	6.3	18.8	6.3					

		調査数	ど学校の勉強や受験勉強な サポート	家庭への経済的な支援	その他	わからない	特 に ない	無 回 答
中学 2 年生	ほぼ毎日	396	15.7	4.8	1.0	11.6	51.3	3.8
	週に3～5日	181	11.0	4.4	-	14.4	51.9	5.5
	週に1～2日	173	10.4	1.7	-	15.6	54.9	3.5
	1ヶ月に数日	117	8.5	0.9	0.9	15.4	60.7	4.3
	その他	11	18.2	-	-	9.1	36.4	18.2
高校全 2日 年生	ほぼ毎日	233	9.0	5.2	1.7	10.7	50.6	3.0
	週に3～5日	79	12.7	11.4	3.8	6.3	40.5	6.3
	週に1～2日	78	11.5	2.6	-	2.6	53.8	9.0
	1ヶ月に数日	59	8.5	1.7	-	15.3	59.3	5.1
	その他	16	6.3	6.3	6.3	12.5	43.8	12.5

4 平日1日あたりの世話に費やす時間別にみたお世話の状況や意識

(1) 通学状況

出席状況をお世話に費やす時間別でみると、いずれも「ほとんど欠席しない」はお世話に費やす時間に関わらず最も高くなっている。「たまに欠席する」はお世話に費やす時間が長いほど高い傾向にある。

遅刻や早退の状況をお世話に費やす時間別でみると、いずれも「ほとんどなし」はお世話に費やす時間に関わらず最も高くなっている。「たまにする」はお世話に費やす時間が長いほど高い傾向にある。

(出席状況)

			(%)			
		調査数	ほとんど欠席	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
6 年 小 学 生	3時間未満	816	73.2	23.2	2.6	1.1
	3～7時間未満	343	70.0	27.7	2.0	0.3
	7時間以上	151	67.5	28.5	4.0	-
2 年 中 学 生	3時間未満	498	74.7	16.9	8.4	-
	3～7時間未満	206	68.0	20.9	11.2	-
	7時間以上	79	63.3	25.3	11.4	-
高 校 全 2 日 年 制 生	3時間未満	249	74.7	15.3	9.6	0.4
	3～7時間未満	117	60.7	27.4	12.0	-
	7時間以上	50	68.0	24.0	8.0	-

(遅刻や早退の状況)

			(%)			
		調査数	ほとんどなし	たまにする	よくする	無回答
6 年 小 学 生	3時間未満	816	76.1	18.9	2.1	2.9
	3～7時間未満	343	71.1	23.0	3.2	2.6
	7時間以上	151	66.9	29.1	2.0	2.0
2 年 中 学 生	3時間未満	498	79.7	16.3	2.4	1.6
	3～7時間未満	206	69.4	20.9	6.3	3.4
	7時間以上	79	65.8	24.1	8.9	1.3
高 校 全 2 日 年 制 生	3時間未満	249	82.3	13.7	3.2	0.8
	3～7時間未満	117	76.1	19.7	3.4	0.9
	7時間以上	50	74.0	20.0	2.0	4.0

(2) 健康状態

健康状態をお世話に費やす時間別で見ると、いずれも「よい」はお世話に費やす時間が短いほど高い傾向にある。小学6年生、全日制高校2年生で「ふつう」はお世話に費やす時間が長いほど高い傾向にある。

			(%)					
		調査数	よい	まあよい	ふつう	いあまりよくな	よくない	無回答
6 小学 年生	3時間未満	816	61.8	17.0	17.3	3.3	0.2	0.4
	3～7時間未満	343	54.5	19.2	20.4	5.0	0.6	0.3
	7時間以上	151	54.3	14.6	25.2	4.0	0.7	1.3
2 中学 年生	3時間未満	498	55.2	19.5	19.9	4.8	0.4	0.2
	3～7時間未満	206	47.6	17.5	23.3	8.3	3.4	-
	7時間以上	79	45.6	19.0	22.8	11.4	1.3	-
高 校 全 日 制 高 校 2 年 生	3時間未満	249	49.0	23.3	19.3	6.4	1.2	0.8
	3～7時間未満	117	34.2	25.6	29.1	9.4	1.7	-
	7時間以上	50	40.0	26.0	32.0	-	2.0	-

(3) 生活満足度

生活満足度をお世話に費やす時間別で見ると、小学6年生で「5点（たいへん満足）」はお世話に費やす時間が短いほど高い傾向にある。「3点」、「2点」はお世話に費やす時間が長いほど高くなる傾向にある。中学2年生で「10点（たいへん満足）」は「3時間未満」、「3～7時間未満」が2割を超えている。全日制高校2年生で「7点」、「8点」は「3時間未満」が2割前後となっている。「5点」は「3～7時間未満」、「7時間以上」が2割以上となっている。

			足0点（たいへん満足）							(%)
		調査数	1点	2点	3点	4点	5点	無回答		
6 小 学 生	3時間未満	816	1.5	2.6	7.7	19.4	26.5	40.2	2.2	
	3～7時間未満	343	2.0	4.1	9.6	23.9	23.6	33.8	2.9	
	7時間以上	151	4.6	2.6	13.2	23.8	25.2	28.5	2.0	

			足0点（たいへん満足）						(%)
		調査数	1点	2点	3点	4点	5点	6点	
2 中 学 生	3時間未満	498	0.4	1.4	2.2	4.4	7.2	14.1	6.8
	3～7時間未満	206	3.4	1.9	1.9	6.8	7.8	11.2	6.3
	7時間以上	79	7.6	2.5	2.5	6.3	8.9	11.4	10.1
高 校 全 日 制 生	3時間未満	249	1.6	1.2	2.0	5.2	5.2	14.1	6.8
	3～7時間未満	117	1.7	0.9	2.6	6.8	11.1	23.9	10.3
	7時間以上	50	8.0	-	2.0	4.0	8.0	20.0	16.0

			7点	8点	9点	満10点（たいへん満足）	無回答
2 中 学 生	3時間未満	498	10.2	16.3	13.3	22.3	1.4
	3～7時間未満	206	10.2	14.6	11.7	22.8	1.5
	7時間以上	79	5.1	10.1	16.5	16.5	2.5
高 校 全 日 制 生	3時間未満	249	20.5	18.5	9.6	12.4	2.8
	3～7時間未満	117	11.1	8.5	8.5	13.7	0.9
	7時間以上	50	12.0	12.0	2.0	14.0	2.0

(4) 孤独の状況

孤独の状況をお世話に費やす時間別で見ると、中学2年生で「3点（決してない）」は“7時間以上”で4割台半ば、“3～7時間未満”、“3時間未満”が3割台半ばと高くなっている。「4～6点（ほとんどない）」も“3～7時間未満”、“3時間未満”が3割以上と高くなっている。全日制高校2年生で「3点（決してない）」、「4～6点（ほとんどない）」は“3時間未満”が3割台半ばと高くなっている。「7～9点（時々ある）」は“3～7時間未満”、“7時間以上”が3割以上と高くなっている。

		(%)					
		調査数	10点以下 （常にあ る）	7～9点 （時々あ る）	4～6点 （ほとん どない）	3点 （決して ない）	無回 答
2 中 学 生	3時間未満	498	5.2	22.7	36.5	34.9	0.6
	3～7時間未満	206	6.3	26.2	30.1	36.4	1.0
	7時間以上	79	3.8	27.8	20.3	45.6	2.5
高 校 全 日 制 生	3時間未満	249	5.6	23.7	34.9	34.1	1.6
	3～7時間未満	117	11.1	35.9	26.5	25.6	0.9
	7時間以上	50	8.0	32.0	28.0	28.0	4.0

(5) お世話の内容

お世話の内容をお世話に費やす時間別でみると、小学6年生で「見守り」は“3～7時間未満”、“7時間以上”が5割以上と高くなっている。「家事」はお世話に費やす時間に関わらず高い傾向にある。中学2年生、全日制高校2年生で「見守り」は中学2年生の“3～7時間未満”、“7時間以上”で5割台半ば、全日制高校2年生の“3～7時間未満”、“7時間以上”で6割前後と高くなっている。「家事」はお世話に費やす時間に関わらず高い傾向にある。

(%)

		調査数	家事	送り受けなど	きょうだいの世話	身体的な介護	外出の付き添い	通院の付き添い	話を聞く、話し相手になるなど	見守り
6 小学 年生	3時間未満	816	47.9	15.2	4.0	14.2	3.1	27.2	34.2	
	3～7時間未満	343	43.4	21.9	5.2	23.9	5.8	35.3	53.9	
	7時間以上	151	48.3	33.1	9.9	18.5	6.6	36.4	51.7	

		調査数	通訳（日本語や手話）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
6 小学 年生	3時間未満	816	1.6	3.4	2.3	4.0	7.0
	3～7時間未満	343	3.2	5.0	2.9	4.7	2.6
	7時間以上	151	6.6	11.3	9.9	6.6	4.0

(%)

		調査数	家事	きょうだいの世話など 保育所等へ送迎	身体的な介護	外出の付き添い	通院の付き添い	感情面のサポート	見守り
2 中 学 生	3時間未満	498	51.6	20.1	7.8	17.9	1.8	9.0	41.6
	3～7時間未満	206	52.4	41.7	8.7	31.1	6.3	18.4	54.4
	7時間以上	79	50.6	48.1	15.2	27.8	6.3	8.9	53.2
高 校 全 2 日 年 制 生	3時間未満	249	51.8	22.1	6.0	18.1	2.8	9.2	35.7
	3～7時間未満	117	59.0	37.6	12.8	32.5	4.3	26.5	57.3
	7時間以上	50	54.0	42.0	12.0	28.0	14.0	16.0	60.0

		調査数	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
2 中 学 生	3時間未満	498	1.8	0.8	2.2	4.2	4.0
	3～7時間未満	206	4.4	1.0	4.4	1.9	1.5
	7時間以上	79	5.1	5.1	6.3	2.5	5.1
高 校 全 2 日 年 制 生	3時間未満	249	4.0	1.6	2.4	4.4	2.0
	3～7時間未満	117	3.4	3.4	3.4	4.3	0.9
	7時間以上	50	6.0	8.0	10.0	4.0	6.0

(6) お世話をしているためにやりたいけれどできないこと

お世話をしているためにやりたいけれどできないことをお世話に費やす時間別でみると、いずれも「特にない」はお世話の頻度に関わらず最も高くなっているが、お世話に費やす時間が短いほど高い傾向にある。具体的な内容は、お世話に費やす時間が長いほど高くなる傾向にある。

		調査数	(%)						
			ま学校を休んでし	て遅刻や早退をし	る宿題などが勉強す	ない眠る時間がたり	と友だちと遊ぶこ	い習い事ができな	れ自分の時間が取
6 小学 生	3時間未満	816	2.3	3.7	7.5	7.0	6.3	1.1	12.1
	3～7時間未満	343	5.0	4.7	16.3	10.2	9.9	0.6	20.7
	7時間以上	151	8.6	9.9	15.9	17.2	15.9	1.3	20.5

		調査数	その他	特にない	無回答
6 小学 生	3時間未満				
	3～7時間未満	343	1.2	62.4	2.0
	7時間以上	151	0.7	56.3	4.0

		調査数	(%)							
			ない学校に行きたくても行け	早退しても学校を遅刻・	宿題をする時間や勉強を	睡眠が十分に取れない	い友人と遊ぶことができな	い、活やくは辞めざるな	変な、変な、考えざるな	進路の変更を考はえざるな
2 中学 生	3時間未満	498	1.0	1.6	7.8	10.0	7.0	0.6	1.2	
	3～7時間未満	206	0.5	2.4	16.5	17.0	13.6	3.4	2.9	
	7時間以上	79	3.8	7.6	21.5	21.5	21.5	8.9	5.1	
高 校 全 2 日 制 生	3時間未満	249	2.8	-	8.8	12.4	6.4	0.8	1.6	
	3～7時間未満	117	2.6	2.6	22.2	17.1	12.8	3.4	7.7	
	7時間以上	50	8.0	12.0	26.0	22.0	28.0	8.0	6.0	

		調査数	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
2 中学 生	3時間未満					
	3～7時間未満	206	20.9	0.5	59.2	3.4
	7時間以上	79	29.1	1.3	50.6	3.8
高 校 全 2 日 制 生	3時間未満	249	10.8	0.4	67.9	3.6
	3～7時間未満	117	19.7	2.6	52.1	3.4
	7時間以上	50	26.0	2.0	48.0	-

(7) お世話のきつさ

お世話のきつさをお世話に費やす時間別でみると、いずれも「特に大変さは感じていない（特にきつさは感じていない）」はお世話の頻度に関わらず最も高くなっているが、お世話に費やす時間が短いほど高い傾向にある。具体的な内容は、お世話に費やす時間が長いほど高くなる傾向にある。

(%)

		調査数	体力面で大変	大変持ちの面で	余暇が	特に大変さは	無回答
6 小学 年生	3時間未満	816	11.2	14.1	12.4	64.5	3.8
	3～7時間未満	343	16.3	19.8	15.5	62.1	0.9
	7時間以上	151	20.5	28.5	21.2	48.3	3.3

(%)

		調査数	身体的にきつ	精神的にきつ	余暇が	特にきつさは	無回答
2 中学 年生	3時間未満	498	4.6	8.6	11.6	77.7	2.0
	3～7時間未満	206	8.3	14.1	21.8	66.0	0.5
	7時間以上	79	15.2	17.7	24.1	64.6	1
高校全 2日 年生	3時間未満	249	6.8	10.0	12.4	74.3	3.2
	3～7時間未満	117	6.8	23.1	19.7	62.4	0.9
	7時間以上	50	14.0	34.0	28.0	54.0	-

(8) お世話について相談した経験

お世話について相談した経験をお世話に費やす時間別でみると、小学6年生、中学2年生で「ある」はお世話に費やす時間が長いほど高くなる傾向にある。全日制高校2年生で「ない」は“7時間以上”が8割を超えている。

(%)

		調査数	ある	ない	無回答
6 小学 年生	3時間未満	816	27.0	71.4	1.6
	3～7時間未満	343	27.4	72.0	0.6
	7時間以上	151	33.1	66.2	0.7
2 中学 年生	3時間未満	498	18.9	80.3	0.8
	3～7時間未満	206	28.2	71.4	0.5
	7時間以上	79	35.4	63.3	1.3
高校全 2日 年生	3時間未満	249	20.5	77.1	2.4
	3～7時間未満	117	23.1	75.2	1.7
	7時間以上	50	16.0	82.0	2.0

(9) お世話について相談したことがない理由

お世話について相談したことがない理由をお世話に費やす時間別でみると、いずれも「相談するほどの悩みではないから（誰かに相談するほどの悩みではない）」はお世話に費やす時間に関わらず最も高くなっている。具体的な内容は、小学6年生、中学2年生でお世話に費やす時間が長いほど高くなる傾向にある。全日制高校2年生で「相談しても状況が変わるとは思わない」は“3～7時間未満”が3割を超えて高くなっている。

(%)

		調査数	み相 では ない ほ ど の 悩	かよ ら い か わ か ら な い	誰 に 相 談 す る の が	な 相 談 か ら き る 人 が い	た 家 族 の こ と を 話 し	わ 相 談 し て も 何 も 変	そ の 他	無 回 答
6 小 学 生	3時間未満	583	64.8	4.8	2.1	5.5	12.0	12.2	6.5	
	3～7時間未満	247	62.8	7.7	3.6	7.7	15.4	14.2	4.9	
	7時間以上	100	56.0	13.0	9.0	15.0	17.0	7.0	7.0	

(%)

		調査数	ど 誰 か の 悩 み に 相 談 す る ほ ど	は な る よ う な 悩 み に 相 談	家 族 外 の 人 に 相 談	よ 誰 に か わ か ら な い	近 に 相 談 い で き る 人 が 身	話 し に く い の た め	れ 家 族 の こ と を 知 ら	を 家 族 に 対 し て な 偏 見	い 変 相 談 し て も 思 わ な い	そ の 他	無 回 答
2 中 学 生	3時間未満	400	70.8	10.8	7.0	2.3	7.0	4.8	4.5	8.5	8.0	7.5	
	3～7時間未満	147	75.5	17.0	10.9	10.2	11.6	7.5	10.9	17.0	4.8	4.8	
	7時間以上	50	66.0	30.0	18.0	10.0	18.0	14.0	12.0	18.0	14.0	8.0	
高 校 全 日 制 2 年 生	3時間未満	192	67.7	6.3	2.6	2.1	4.2	5.7	3.6	12.0	8.9	3.6	
	3～7時間未満	88	71.6	17.0	15.9	12.5	12.5	10.2	12.5	31.8	3.4	2.3	
	7時間以上	41	65.9	9.8	9.8	4.9	4.9	7.3	4.9	19.5	4.9	2.4	

(10) 相談する手段

相談する手段をお世話に費やす時間別でみると、いずれも「直接会って」はお世話に費やす時間に関わらず最も高くなっている。

		(%)						
		調査数	直接会って	電話	S N S	電子メール	その他	無回答
6 年 生	3時間未満	128	71.1	24.2	3.9	9.4	1.6	9.4
	3～7時間未満	51	68.6	19.6	13.7	11.8	3.9	3.9
	7時間以上	44	68.2	31.8	18.2	15.9	2.3	9.1
2 年 生	3時間未満	59	67.8	23.7	16.9	16.9	1.7	3.4
	3～7時間未満	27	77.8	25.9	25.9	25.9	-	7.4
	7時間以上	17	64.7	17.6	23.5	23.5	11.8	-
高 校 全 2 日 制 生	3時間未満	33	66.7	33.3	21.2	9.1	-	3.0
	3～7時間未満	23	65.2	17.4	21.7	34.8	4.3	-
	7時間以上	9	77.8	33.3	33.3	-	-	-

(11) 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援をお世話に費やす時間別でみると、小学6年生で「特にない」はお世話に費やす時間に関わらず最も高くなっているが、お世話に費やす時間が短いほど高くなる傾向にある。「自分のことについて話を聞いてほしい」、「自由に使える時間がほしい」、「勉強を教えてほしい」はお世話に費やす時間が長いほど高くなる傾向にある。中学2年生で「特にない」はお世話に費やす時間に関わらず最も高くなっているが、お世話に費やす時間が短いほど高くなる傾向にある。具体的な内容は、お世話に費やす時間が長いほど高くなる傾向にある。全日制高校2年生で「特にない」はお世話に費やす時間に関わらず最も高くなっているが、“3時間未満”が6割近くと高くなっている。「自由に使える時間がほしい」は“3～7時間未満”が2割を超えている。

(%)

		調査数	自分のことについて話を聞	家族のお世話について相談	家族の病や障がい、お世	話や説明など、いわ	家族の病気や障がい、お世	話や説明など、いわ	話や説明など、いわ	話や説明など、いわ	話や説明など、いわ	話や説明など、いわ	話や説明など、いわ
6 小 学 生	3時間未満	816	14.3	4.0	1.0	2.7	0.2	15.2	13.4				
	3～7時間未満	343	12.8	4.1	1.5	2.0	0.6	15.2	14.6				
	7時間以上	151	26.5	12.6	3.3	6.0	0.7	33.1	28.5				

		調査数	ほお金の面で支援して	その他	特にない	わからない	無回答
6 小 学 生	3時間未満	816	2.8	0.5	57.8	7.8	2.9
	3～7時間未満	343	2.6	1.7	53.6	10.8	0.9
	7時間以上	151	7.9	0.7	38.4	9.9	-

(%)

		調査数	て自 話の 聞い まて ほし い	談家 族の つお て世 話し いて 相	り の や す く 説 明 し て ほ し い	家 族 の 病 気 や 障 害 、 ケ ア	の す べ が 行 つ て お 世 話 を 代 わ る お 世 話	人 や サ ー ビ ス が ほ し い	の 一 部 が 代 わ つ て お 世 話 を 代 わ る	い自 由 に 使 え る 時 間 が ほ し い	談進 路の つて ほし い 将 来 の 相
2 年 中 学 生	3時間未満	498	10.6	2.8	2.6	1.4	-	12.0	7.6		
	3～7時間未満	206	11.7	4.4	2.9	1.0	0.5	18.4	9.7		
	7時間以上	79	20.3	13.9	11.4	6.3	-	29.1	13.9		
高 校 全 日 制 生	3時間未満	249	12.0	3.6	2.8	2.4	0.4	6.8	8.4		
	3～7時間未満	117	15.4	6.0	6.0	6.0	0.9	21.4	15.4		
	7時間以上	50	14.0	4.0	4.0	6.0	-	14.0	14.0		

		調査数	ど学 校の 勉 強 や 受 験 勉 強 な サ ポ ー ト	家 庭 へ の 経 済 的 な 支 援	そ の 他	わ か ら な い	特 に な い	無 回 答
2 年 中 学 生	3時間未満	498	12.0	2.8	0.6	13.3	57.6	2.6
	3～7時間未満	206	15.0	2.9	-	13.6	51.9	1.9
	7時間以上	79	20.3	10.1	1.3	13.9	39.2	5.1
高 校 全 日 制 生	3時間未満	249	7.6	2.8	2.0	7.2	58.6	3.6
	3～7時間未満	117	15.4	10.3	1.7	9.4	40.2	1.7
	7時間以上	50	14.0	10.0	-	10.0	48.0	-

5 お世話を必要としている家族別にみたお世話の状況や意識

お世話をしている家族がいる児童・生徒のお世話の状況や意識をお世話を必要としている家族別にみた。基数（調査数）が30を下回るものについては、参考として図示するに留め、文中では言及をしない。

（1）通学状況

出席状況をお世話を必要としている家族別でみると、いずれも「ほとんど欠席しない」はお世話を必要としている家族に関わらず最も高くなっている。

遅刻や早退の状況をお世話を必要としている家族別でみると、いずれも「ほとんどしない」はお世話を必要としている家族に関わらず最も高くなっている。

（出席状況）

			(%)			
		調査数	しほ なと いん ど 欠 席	るた まに 欠 席 す	よく 欠 席 す る	無 回 答
6 年 生	母のみ	136	64.0	30.1	3.7	2.2
	父のみ	12	75.0	16.7	-	8.3
	祖母のみ	67	70.1	25.4	3.0	1.5
	祖父のみ	26	76.9	15.4	7.7	-
	きょうだいのみ（幼い）	497	75.7	21.5	2.4	0.4
	きょうだいのみ（それ以外）	99	70.7	28.3	1.0	-
	その他のみ	34	61.8	32.4	5.9	-
	複数人	560	70.4	25.9	2.7	1.1
2 年 生	母のみ	98	66.3	18.4	15.3	-
	父のみ	15	80.0	20.0	-	-
	祖母のみ	57	80.7	14.0	5.3	-
	祖父のみ	24	79.2	16.7	4.2	-
	きょうだいのみ（幼い）	304	73.4	19.7	6.9	-
	きょうだいのみ（それ以外）	73	74.0	15.1	11.0	-
	その他のみ	28	57.1	21.4	21.4	-
	複数人	335	73.4	17.6	8.7	0.3
高 校 全 日 年 制 生	母のみ	55	63.6	27.3	9.1	-
	父のみ	11	81.8	18.2	-	-
	祖母のみ	52	71.2	17.3	11.5	-
	祖父のみ	21	66.7	9.5	19.0	4.8
	きょうだいのみ（幼い）	151	68.9	21.9	9.3	-
	きょうだいのみ（それ以外）	38	65.8	18.4	13.2	2.6
	その他のみ	25	60.0	16.0	24.0	-
	複数人	180	75.0	13.9	11.1	-

(遅刻や早退の状況)

(%)

		調査数	いほとんどのしな	たまにする	よくする	無回答
6年生 小学	母のみ	136	64.0	24.3	6.6	5.1
	父のみ	12	58.3	33.3	8.3	-
	祖母のみ	67	74.6	22.4	1.5	1.5
	祖父のみ	26	76.9	23.1	-	-
	きょうだいのみ(幼い)	497	77.1	18.5	2.2	2.2
	きょうだいのみ(それ以外)	99	72.7	22.2	4.0	1.0
	その他のみ	34	76.5	23.5	-	-
	複数人	560	72.0	22.9	1.8	3.4
2年生 中学	母のみ	98	70.4	15.3	8.2	6.1
	父のみ	15	100.0	-	-	-
	祖母のみ	57	84.2	10.5	3.5	1.8
	祖父のみ	24	75.0	20.8	-	4.2
	きょうだいのみ(幼い)	304	75.3	18.1	4.6	2.0
	きょうだいのみ(それ以外)	73	76.7	15.1	8.2	-
	その他のみ	28	67.9	28.6	-	3.6
	複数人	335	76.1	19.7	2.4	1.8
高校全 2日制 生	母のみ	55	85.5	7.3	5.5	1.8
	父のみ	11	72.7	27.3	-	-
	祖母のみ	52	80.8	19.2	-	-
	祖父のみ	21	95.2	4.8	-	-
	きょうだいのみ(幼い)	151	76.2	19.2	4.6	-
	きょうだいのみ(それ以外)	38	84.2	15.8	-	-
	その他のみ	25	76.0	16.0	4.0	4.0
	複数人	180	83.9	11.7	1.1	3.3

(2) 健康状態

健康状態をお世話を必要としている家族別でみると、いずれも「よい」はお世話を必要としている家族に関わらず最も高くなっている。「ふつう」は中学2年生の“きょうだいのみ（それ以外）”、全日制高校2年生の“祖母のみ”で3割を超えている。

			(%)					
		調査数	よい	まあよい	ふつう	いあまりよくな	よくない	無回答
6 年 生	母のみ	136	60.3	18.4	14.0	5.9	0.7	0.7
	父のみ	12	58.3	16.7	25.0	-	-	-
	祖母のみ	67	56.7	14.9	20.9	7.5	-	-
	祖父のみ	26	53.8	23.1	23.1	-	-	-
	きょうだいのみ（幼い）	497	61.0	16.1	18.5	3.6	0.6	0.2
	きょうだいのみ（それ以外）	99	56.6	19.2	19.2	5.1	-	-
	その他のみ	34	47.1	29.4	23.5	-	-	-
	複数人	560	61.1	16.8	19.1	2.1	0.4	0.5
2 年 生	母のみ	98	53.1	20.4	18.4	6.1	2.0	-
	父のみ	15	20.0	13.3	33.3	33.3	-	-
	祖母のみ	57	59.6	17.5	19.3	3.5	-	-
	祖父のみ	24	58.3	16.7	8.3	12.5	4.2	-
	きょうだいのみ（幼い）	304	50.3	22.0	21.1	5.6	0.7	0.3
	きょうだいのみ（それ以外）	73	43.8	16.4	32.9	5.5	1.4	-
	その他のみ	28	50.0	14.3	25.0	10.7	-	-
	複数人	335	57.0	17.9	17.9	5.1	2.1	-
高 校 全 日 制 2 年 生	母のみ	55	50.9	18.2	21.8	7.3	1.8	-
	父のみ	11	27.3	45.5	9.1	18.2	-	-
	祖母のみ	52	34.6	26.9	32.7	5.8	-	-
	祖父のみ	21	38.1	47.6	9.5	-	4.8	-
	きょうだいのみ（幼い）	151	39.1	23.8	25.8	7.9	2.6	0.7
	きょうだいのみ（それ以外）	38	36.8	26.3	28.9	7.9	-	-
	その他のみ	25	48.0	12.0	36.0	4.0	-	-
	複数人	180	55.0	23.3	13.9	6.1	1.1	0.6

(3) 生活満足度

生活満足度をお世話を必要としている家族別で見ると、小学6年生で「5点(たいへん満足)」は“きょうだいのみ(幼い)”、“複数人”が4割近くと高くなっている。「3点」は“その他のみ”が3割を超え、“母のみ”、“きょうだいのみ(それ以外)”が3割近くとなっている。

中学2年生で「10点(たいへん満足)」は“母のみ”、“複数人”が2割台半ばとなっている。全日制高校2年生で「5点」は“祖母のみ”、“きょうだいのみ(それ以外)”が2割台半ばとなっている。

			足0点 しないで ない 満	1点	2点	3点	4点	足5点 (たいへん満)	無回答
6 年 生 小 学	母のみ	136	4.4	4.4	12.5	27.2	22.8	25.0	3.7
	父のみ	12	-	8.3	-	41.7	16.7	25.0	8.3
	祖母のみ	67	3.0	3.0	10.4	23.9	23.9	35.8	-
	祖父のみ	26	-	3.8	7.7	23.1	38.5	26.9	-
	きょうだいのみ(幼い)	497	1.0	2.0	9.3	18.5	27.4	39.8	2.0
	きょうだいのみ(それ以外)	99	-	2.0	7.1	27.3	27.3	36.4	-
	その他のみ	34	8.8	5.9	5.9	32.4	14.7	32.4	-
	複数人	560	2.9	2.9	6.6	18.9	25.9	39.6	3.2

(%)

		調査数	足0点 して いない (ま つた く 満)	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点
2 年 中 学 生	母のみ	98	1.0	2.0	2.0	9.2	7.1	12.2	5.1
	父のみ	15	-	-	6.7	6.7	13.3	26.7	13.3
	祖母のみ	57	3.5	-	3.5	3.5	8.8	10.5	7.0
	祖父のみ	24	-	4.2	4.2	-	12.5	16.7	8.3
	きょうだいのみ (幼い)	304	2.0	0.7	2.0	4.6	6.6	12.5	7.2
	きょうだいのみ (それ以外)	73	2.7	5.5	5.5	6.8	5.5	8.2	12.3
	その他のみ	28	3.6	-	-	10.7	10.7	14.3	14.3
	複数人	335	2.4	1.8	2.4	4.2	7.2	13.1	6.9
高 校 全 日 制 2 年 生	母のみ	55	3.6	-	5.5	7.3	3.6	18.2	9.1
	父のみ	11	-	9.1	-	-	9.1	27.3	9.1
	祖母のみ	52	1.9	3.8	1.9	1.9	11.5	23.1	5.8
	祖父のみ	21	4.8	-	-	4.8	4.8	14.3	-
	きょうだいのみ (幼い)	151	2.6	-	2.0	4.6	8.6	13.9	9.9
	きょうだいのみ (それ以外)	38	2.6	2.6	-	10.5	13.2	23.7	7.9
	その他のみ	25	4.0	-	-	-	8.0	28.0	12.0
	複数人	180	1.7	0.6	2.2	4.4	3.3	12.8	10.6

		調査数	7 点	8 点	9 点	満 足 1 0 点 (た い へ ん)	無 回 答
2 年 中 学 生	母のみ	98	11.2	17.3	8.2	23.5	1.0
	父のみ	15	20.0	6.7	-	-	6.7
	祖母のみ	57	8.8	15.8	15.8	22.8	-
	祖父のみ	24	4.2	8.3	8.3	29.2	4.2
	きょうだいのみ (幼い)	304	9.9	16.8	15.1	21.1	1.6
	きょうだいのみ (それ以外)	73	16.4	9.6	13.7	13.7	-
	その他のみ	28	7.1	21.4	7.1	10.7	-
	複数人	335	10.1	13.1	11.0	23.6	4.2
高 校 全 日 制 2 年 生	母のみ	55	16.4	16.4	9.1	9.1	1.8
	父のみ	11	9.1	18.2	-	9.1	9.1
	祖母のみ	52	13.5	13.5	7.7	15.4	-
	祖父のみ	21	19.0	33.3	9.5	9.5	-
	きょうだいのみ (幼い)	151	19.9	16.6	6.6	13.2	2.0
	きょうだいのみ (それ以外)	38	10.5	10.5	13.2	5.3	-
	その他のみ	25	24.0	8.0	8.0	8.0	-
	複数人	180	15.6	17.2	8.9	18.3	4.4

(4) 孤独の状況

孤独の状況をお世話を必要としている家族別で見ると、中学2年生で「3点（決してない）」は“複数人”が4割と高くなっている。中学2年生で「4～6点（ほとんどない）」は“きょうだいのみ（それ以外）”が4割近くと高くなっている。全日制高校2年生でも「4～6点（ほとんどない）」は“母のみ”が4割近くと高くなっている。全日制高校2年生では「7～9点（時々ある）」も“きょうだいのみ（それ以外）”が4割を超えて高くなっている。

		調査数	1 0 ～ 1 2 点 （常 に あ る）	7 ～ 9 点 （時 々 あ る）	4 ～ 6 点 （ほ と ん ど な い）	3 点 （決 し て な い）	無 回 答
						(%)	
2 中 学 生	母のみ	98	6.1	27.6	28.6	31.6	6.1
	父のみ	15	6.7	33.3	20.0	40.0	-
	祖母のみ	57	10.5	19.3	33.3	36.8	-
	祖父のみ	24	8.3	20.8	41.7	29.2	-
	きょうだいのみ（幼い）	304	3.9	25.3	33.6	36.2	1.0
	きょうだいのみ（それ以外）	73	5.5	19.2	39.7	34.2	1.4
	その他のみ	28	-	35.7	39.3	25.0	-
	複数人	335	4.2	21.5	32.2	40.6	1.5
高 校 全 日 制 2 年 生	母のみ	55	7.3	25.5	38.2	29.1	-
	父のみ	11	-	36.4	36.4	27.3	-
	祖母のみ	52	5.8	26.9	34.6	30.8	1.9
	祖父のみ	21	-	23.8	38.1	38.1	-
	きょうだいのみ（幼い）	151	6.0	29.1	34.4	29.1	1.3
	きょうだいのみ（それ以外）	38	15.8	42.1	18.4	21.1	2.6
	その他のみ	25	8.0	12.0	36.0	44.0	-
	複数人	180	6.1	25.0	29.4	36.7	2.8

(5) お世話の内容

お世話の内容をお世話を必要としている家族別でみると、小学6年生で「家事」は“母のみ”が6割を超え、“複数人”で6割近くと高くなっている。「見守り」は“きょうだいのみ(幼い)”が6割と高くなっている。中学2年生で「家事」は“母のみ”が6割を超え、“複数人”が6割と高くなっている。「家事」は全日制高校2年生でも“母のみ”が6割近く、“きょうだいのみ(幼い)”、“複数人”が5割を超えて高くなっている。「見守り」は中学2年生、全日制高校2年生ともに“祖母のみ”、“きょうだいのみ(幼い)”、“きょうだいのみ(それ以外)”が高くなっている。

		調査数	家事	送迎などへの世話	きょうだいの保育所等のお世話	身体的な介護	外出の付き添い	通院の付き添い	手話を聞くなど話し相手	見守り
6 年 生 小 学	母のみ	136	61.0	2.2	3.7	10.3	4.4	21.3	15.4	
	父のみ	12	66.7	-	-	-	-	25.0	25.0	
	祖母のみ	67	40.3	1.5	10.4	19.4	7.5	40.3	32.8	
	祖父のみ	26	34.6	-	15.4	15.4	-	38.5	30.8	
	きょうだいのみ(幼い)	497	29.2	30.2	4.6	13.1	0.6	30.2	60.0	
	きょうだいのみ(それ以外)	99	33.3	13.1	6.1	11.1	2.0	28.3	40.4	
	その他のみ	34	17.6	11.8	2.9	5.9	5.9	32.4	47.1	
	複数人	560	57.9	16.1	4.3	22.3	6.6	29.3	26.4	
		調査数	話通訳(日本語や手)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答			
6 年 生 小 学	母のみ	136	2.9	3.7	3.7	3.7	13.2			
	父のみ	12	-	-	8.3	-	8.3			
	祖母のみ	67	1.5	1.5	6.0	7.5	4.5			
	祖父のみ	26	-	-	11.5	3.8	7.7			
	きょうだいのみ(幼い)	497	0.6	1.4	0.6	4.6	2.8			
	きょうだいのみ(それ以外)	99	3.0	2.0	1.0	8.1	11.1			
	その他のみ	34	-	-	2.9	17.6	5.9			
	複数人	560	4.1	9.5	5.9	3.2	16.4			

(%)

		調査数	家事	きょうだいの世話を迎など	身体的な介護	外出の付き添い	通院の付き添い	感情面のサポート	見守り
2 年 中 学 生	母のみ	98	62.2	7.1	8.2	25.5	6.1	12.2	20.4
	父のみ	15	73.3	20.0	6.7	20.0	13.3	-	20.0
	祖母のみ	57	38.6	1.8	7.0	19.3	7.0	14.0	54.4
	祖父のみ	24	16.7	-	16.7	16.7	4.2	4.2	66.7
	きょうだいのみ（幼い）	304	35.2	47.4	10.9	14.5	1.3	7.9	59.9
	きょうだいのみ（それ以外）	73	30.1	27.4	2.7	19.2	2.7	8.2	57.5
	その他のみ	28	28.6	21.4	10.7	21.4	-	17.9	39.3
	複数人	335	60.9	17.9	5.7	23.6	3.9	11.9	23.6
高 校 全 日 制 2 年 生	母のみ	55	58.2	5.5	1.8	23.6	9.1	25.5	16.4
	父のみ	11	45.5	-	9.1	27.3	9.1	-	27.3
	祖母のみ	52	48.1	1.9	13.5	21.2	17.3	17.3	42.3
	祖父のみ	21	33.3	-	23.8	9.5	14.3	4.8	42.9
	きょうだいのみ（幼い）	151	51.0	52.3	8.6	22.5	-	11.9	56.3
	きょうだいのみ（それ以外）	38	39.5	18.4	7.9	23.7	2.6	21.1	50.0
	その他のみ	25	24.0	12.0	8.0	12.0	4.0	4.0	48.0
	複数人	180	52.8	18.3	5.6	18.3	3.3	10.0	19.4

		調査数	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
2 年 中 学 生	母のみ	98	6.1	1.0	4.1	1.0	16.3
	父のみ	15	-	6.7	-	6.7	6.7
	祖母のみ	57	-	-	8.8	-	5.3
	祖父のみ	24	-	-	-	12.5	12.5
	きょうだいのみ（幼い）	304	1.3	0.3	1.0	2.6	2.0
	きょうだいのみ（それ以外）	73	1.4	-	2.7	4.1	8.2
	その他のみ	28	10.7	-	3.6	17.9	14.3
	複数人	335	2.7	2.7	4.2	1.8	21.2
高 校 全 日 制 2 年 生	母のみ	55	5.5	1.8	3.6	5.5	12.7
	父のみ	11	9.1	-	18.2	-	36.4
	祖母のみ	52	-	1.9	7.7	1.9	3.8
	祖父のみ	21	-	-	9.5	4.8	4.8
	きょうだいのみ（幼い）	151	0.7	1.3	-	2.0	0.7
	きょうだいのみ（それ以外）	38	-	2.6	-	15.8	10.5
	その他のみ	25	4.0	-	4.0	20.0	12.0
	複数人	180	6.7	3.9	3.9	2.8	24.4

(6) お世話の頻度

お世話の頻度をお世話を必要としている家族別で見ると、いずれも「ほぼ毎日」は“きょうだいのみ（幼い）”、“きょうだいのみ（それ以外）”で高い傾向にあり、中学2年生、全日制高校2年生の“きょうだいのみ（幼い）”で6割以上と高くなっている。

								(%)
		調査数	ほぼ毎日	週に3日〜5日	週に1日〜2日	1ヶ月に数日	その他	無回答
6 小 学 生	母のみ	136	28.7	19.1	25.7	10.3	2.9	13.2
	父のみ	12	66.7	16.7	8.3	-	-	8.3
	祖母のみ	67	23.9	19.4	28.4	22.4	3.0	3.0
	祖父のみ	26	7.7	26.9	26.9	26.9	-	11.5
	きょうだいのみ（幼い）	497	57.5	25.2	13.1	3.6	-	0.6
	きょうだいのみ（それ以外）	99	40.4	24.2	15.2	12.1	-	8.1
	その他のみ	34	20.6	17.6	29.4	17.6	5.9	8.8
	複数人	560	29.6	20.7	23.0	12.5	0.4	13.8
2 中 学 生	母のみ	98	32.7	16.3	16.3	18.4	1.0	15.3
	父のみ	15	73.3	13.3	13.3	-	-	-
	祖母のみ	57	31.6	22.8	19.3	24.6	1.8	-
	祖父のみ	24	16.7	8.3	37.5	33.3	-	4.2
	きょうだいのみ（幼い）	304	60.5	17.8	14.1	5.9	0.3	1.3
	きょうだいのみ（それ以外）	73	47.9	19.2	17.8	5.5	1.4	8.2
	その他のみ	28	28.6	25.0	21.4	3.6	10.7	10.7
	複数人	335	28.1	18.8	19.1	14.0	0.9	19.1
高 校 全 日 制 高 校 2 年 生	母のみ	55	30.9	21.8	12.7	10.9	3.6	20.0
	父のみ	11	36.4	18.2	9.1	-	-	36.4
	祖母のみ	52	40.4	9.6	17.3	23.1	3.8	5.8
	祖父のみ	21	23.8	28.6	14.3	28.6	-	4.8
	きょうだいのみ（幼い）	151	64.2	15.2	15.2	2.6	2.0	0.7
	きょうだいのみ（それ以外）	38	55.3	21.1	2.6	2.6	2.6	15.8
	その他のみ	25	36.0	12.0	20.0	8.0	12.0	12.0
	複数人	180	29.4	10.0	14.4	14.4	1.7	30.0

(7) 平日1日あたりにお世話に費やす時間

平日1日あたりにお世話に費やす時間をお世話を必要としている家族別でみると、いずれも「3時間未満」は家族を必要としている家族に関わらず最も高くなっている。「3～7時間未満」は“きょうだいのみ(幼い)”で3割以上と高くなっている。「3～7時間未満」は小学6年生の“その他のみ”、全日制高校2年生の“きょうだいのみ(それ以外)”も3割以上と高くなっている。

			(%)			
		調査数	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答
6 小 学 生	母のみ	136	57.4	12.5	8.1	22.1
	父のみ	12	50.0	25.0	8.3	16.7
	祖母のみ	67	65.7	13.4	11.9	9.0
	祖父のみ	26	57.7	15.4	-	26.9
	きょうだいのみ(幼い)	497	48.9	33.8	12.5	4.8
	きょうだいのみ(それ以外)	99	52.5	23.2	9.1	15.2
	その他のみ	34	44.1	32.4	11.8	11.8
	複数人	560	52.7	17.3	8.8	21.3
2 中 学 生	母のみ	98	51.0	17.3	2.0	29.6
	父のみ	15	60.0	6.7	26.7	6.7
	祖母のみ	57	66.7	15.8	8.8	8.8
	祖父のみ	24	62.5	25.0	-	12.5
	きょうだいのみ(幼い)	304	48.7	33.9	10.5	6.9
	きょうだいのみ(それ以外)	73	49.3	20.5	8.2	21.9
	その他のみ	28	46.4	10.7	14.3	28.6
	複数人	335	49.3	14.6	6.6	29.6
高 校 全 日 制 2 年 生	母のみ	55	45.5	20.0	5.5	29.1
	父のみ	11	27.3	18.2	9.1	45.5
	祖母のみ	52	53.8	11.5	15.4	19.2
	祖父のみ	21	52.4	14.3	9.5	23.8
	きょうだいのみ(幼い)	151	51.0	31.8	12.6	4.6
	きょうだいのみ(それ以外)	38	39.5	36.8	2.6	21.1
	その他のみ	25	28.0	16.0	24.0	32.0
	複数人	180	41.1	15.6	5.0	38.3

(8) お世話をしているためにやりたいけれどできないこと

お世話をしているためにやりたいけれどできないことをお世話を必要としている家族別でみると、小学6年生で「特にない」はお世話を必要としている家族に関わらず最も高くなっている。「自分の時間が取れない」は“その他のみ”で2割となっている。中学2年生、全日制高校2年生で「特にない」はお世話を必要としている家族に関わらず最も高くなっている。「自分の時間が取れない」は中学2年生の“きょうだいのみ（幼い）”で2割、全日制高校2年生の“きょうだいのみ（それ以外）”で2割近くとなっている。全日制高校2年生では「宿題をする時間や勉強をする時間が取れない」も“きょうだいのみ（それ以外）”で2割近くとなっている。

		調査数	(%)							
			う学校を休んでしま	し遅刻や早退をして	時宿題などい勉強する	い眠る時間がたりな	が友だちと遊ぶこと	習い事ができない	な自分の時間が取れ	
6 小 学 生	母のみ	136	5.1	5.1	5.9	2.2	5.1	0.7	9.6	
	父のみ	12	8.3	8.3	16.7	-	16.7	-	8.3	
	祖母のみ	67	3.0	4.5	10.4	7.5	7.5	1.5	11.9	
	祖父のみ	26	-	3.8	-	3.8	3.8	-	3.8	
	きょうだいのみ（幼い）	497	3.4	4.0	9.9	7.6	7.2	0.6	15.9	
	きょうだいのみ（それ以外）	99	2.0	5.1	7.1	6.1	7.1	-	16.2	
	その他のみ	34	-	-	17.6	8.8	8.8	-	20.6	
	複数人	560	4.5	5.4	10.0	10.7	8.0	1.8	13.8	

		調査数	その他	特にない	無回答
6 小 学 生	母のみ				
	父のみ	12	-	41.7	16.7
	祖母のみ	67	-	73.1	3.0
	祖父のみ	26	-	76.9	11.5
	きょうだいのみ（幼い）	497	0.6	70.4	3.0
	きょうだいのみ（それ以外）	99	2.0	57.6	11.1
	その他のみ	34	2.9	61.8	11.8
	複数人	560	0.5	56.8	14.6

(%)

		調査数	ない 学校に行きたくても行け	早退してしまおう学校を遅刻・	宿題をする時間や勉強を	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	い、もしくは辞めざるを得なかつた	部活や習い事ができない	変更した	得ない、もしくは進路を	進路の変更を考えた
2 年 中 学 生	母のみ	98	2.0	4.1	3.1	8.2	9.2	-	-	-	-	-
	父のみ	15	6.7	-	6.7	13.3	-	-	-	-	6.7	-
	祖母のみ	57	-	1.8	5.3	7.0	1.8	-	-	-	1.8	-
	祖父のみ	24	-	-	-	8.3	4.2	-	-	-	-	-
	きょうだいのみ（幼い）	304	-	1.6	16.8	9.2	11.8	2.3	0.3	-	-	-
	きょうだいのみ（それ以外）	73	1.4	1.4	9.6	16.4	8.2	2.7	4.1	-	-	-
	その他のみ	28	-	-	10.7	10.7	10.7	3.6	3.6	-	-	-
	複数人	335	2.7	4.2	8.7	14.0	8.4	2.7	3.0	-	-	-
高 校 全 日 制 2 年 生	母のみ	55	5.5	1.8	12.7	12.7	10.9	-	1.8	-	-	-
	父のみ	11	-	-	9.1	9.1	9.1	-	-	-	-	-
	祖母のみ	52	1.9	-	11.5	15.4	7.7	3.8	3.8	-	-	-
	祖父のみ	21	-	-	-	4.8	-	-	-	-	-	-
	きょうだいのみ（幼い）	151	2.0	1.3	16.6	12.6	13.2	2.0	2.6	-	-	-
	きょうだいのみ（それ以外）	38	5.3	-	18.4	13.2	13.2	2.6	2.6	-	-	-
	その他のみ	25	-	-	12.0	12.0	12.0	4.0	4.0	-	-	-
	複数人	180	3.3	2.8	10.0	13.3	6.1	2.8	3.9	-	-	-

		調査数	自分の時間が取れない	その他	特 に ない	無 回 答
2 年 中 学 生	母のみ	98	5.1	2.0	66.3	14.3
	父のみ	15	13.3	-	60.0	6.7
	祖母のみ	57	5.3	1.8	82.5	1.8
	祖父のみ	24	8.3	-	83.3	4.2
	きょうだいのみ（幼い）	304	20.1	0.7	66.4	2.6
	きょうだいのみ（それ以外）	73	19.2	-	56.2	11.0
	その他のみ	28	10.7	3.6	71.4	14.3
	複数人	335	11.6	0.3	49.9	23.9
高 校 全 日 制 2 年 生	母のみ	55	12.7	1.8	47.3	21.8
	父のみ	11	9.1	-	54.5	27.3
	祖母のみ	52	9.6	1.9	59.6	7.7
	祖父のみ	21	4.8	-	81.0	14.3
	きょうだいのみ（幼い）	151	15.9	-	61.6	3.3
	きょうだいのみ（それ以外）	38	18.4	5.3	39.5	18.4
	その他のみ	25	16.0	-	72.0	8.0
	複数人	180	10.0	0.6	47.8	25.0

(9) お世話のきつき

お世話のきつきをお世話を必要としている家族別でみると、小学6年生で「特に大変さは感じていない」はお世話をしている家族に関わらず最も高くなっている。「時間の余裕がない」は“その他のみ”で2割台半ばとなっている。中学2年生、全日制高校2年生で「特にきつきは感じていない」はお世話を必要としている家族に関わらず最も高くなっている。全日制高校2年生で「精神的にきつい」は“きょうだいのみ（それ以外）”が3割を超えて高くなっている。

(%)

		調査数	体力面で大変	大変持ちの面で	な時間の余裕が	感じにくい大変さは	無回答
6年生	母のみ	136	8.1	21.3	11.8	52.2	14.7
	父のみ	12	8.3	41.7	8.3	41.7	8.3
	祖母のみ	67	10.4	19.4	10.4	64.2	3.0
	祖父のみ	26	7.7	11.5	3.8	65.4	11.5
	きょうだいのみ（幼い）	497	14.5	17.7	13.5	65.6	1.8
	きょうだいのみ（それ以外）	99	11.1	17.2	9.1	58.6	9.1
	その他のみ	34	14.7	14.7	26.5	44.1	11.8
	複数人	560	12.7	13.6	11.8	52.7	15.7

(%)

		調査数	い身体的にきつい	い精神的にきつい	な時間の余裕が	感じにくいきつさは	無回答
2年生	母のみ	98	8.2	10.2	7.1	65.3	14.3
	父のみ	15	13.3	20.0	13.3	53.3	6.7
	祖母のみ	57	-	10.5	5.3	86.0	-
	祖父のみ	24	-	8.3	8.3	79.2	8.3
	きょうだいのみ（幼い）	304	3.9	8.6	15.1	75.7	1.3
	きょうだいのみ（それ以外）	73	8.2	13.7	17.8	67.1	4.1
	その他のみ	28	14.3	3.6	10.7	71.4	14.3
	複数人	335	9.6	11.9	14.6	54.3	20.6
高校 全日制2年生	母のみ	55	3.6	20.0	10.9	50.9	18.2
	父のみ	11	9.1	18.2	9.1	36.4	36.4
	祖母のみ	52	7.7	15.4	13.5	71.2	7.7
	祖父のみ	21	9.5	23.8	14.3	71.4	4.8
	きょうだいのみ（幼い）	151	7.3	12.6	15.9	70.2	0.7
	きょうだいのみ（それ以外）	38	15.8	31.6	18.4	47.4	10.5
	その他のみ	25	4.0	16.0	16.0	68.0	12.0
	複数人	180	5.0	8.9	13.9	52.2	28.3

(10) お世話について相談した経験

お世話について相談した経験をお世話を必要としている家族別で見ると、「ない」は小学6年生の“祖母のみ”、全日制高校2年生の“祖母のみ”、“きょうだいのみ（幼い）”で8割以上と高くなっている。

(%)

		調査数	ある	ない	無回答
6 年 生	母のみ	136	27.2	66.9	5.9
	父のみ	12	41.7	41.7	16.7
	祖母のみ	67	16.4	80.6	3.0
	祖父のみ	26	26.9	69.2	3.8
	きょうだいのみ（幼い）	497	26.8	72.4	0.8
	きょうだいのみ（それ以外）	99	27.3	70.7	2.0
	その他のみ	34	26.5	64.7	8.8
	複数人	560	27.9	63.4	8.8
2 年 生	母のみ	98	25.5	64.3	10.2
	父のみ	15	40.0	53.3	6.7
	祖母のみ	57	21.1	78.9	-
	祖父のみ	24	8.3	87.5	4.2
	きょうだいのみ（幼い）	304	19.1	79.3	1.6
	きょうだいのみ（それ以外）	73	19.2	74.0	6.8
	その他のみ	28	28.6	67.9	3.6
	複数人	335	23.6	65.7	10.7
高 校 全 日 制 2 年 生	母のみ	55	27.3	54.5	18.2
	父のみ	11	45.5	36.4	18.2
	祖母のみ	52	15.4	80.8	3.8
	祖父のみ	21	23.8	71.4	4.8
	きょうだいのみ（幼い）	151	15.2	84.1	0.7
	きょうだいのみ（それ以外）	38	26.3	63.2	10.5
	その他のみ	25	12.0	76.0	12.0
	複数人	180	16.1	60.0	23.9

(11) お世話について相談したことがない理由

お世話について相談したことがない理由をお世話を必要としている家族別でみると、小学6年生で「相談するほどの悩みではないから」はお世話を必要としている家族に関わらず最も高くなっている。「相談しても何も変わらないから」は“祖母のみ”で2割となっている。中学2年生、全日制高校2年生で「誰かに相談するほどの悩みではない」はお世話を必要としている家族に関わらず最も高くなっている。「相談しても状況が変わるとは思わない」は全日制高校2年生の“母のみ”で3割、中学2年生の“きょうだいのみ（それ以外）”で2割となっている。

(%)

		調査数	み相談はするほどの悩	かよ誰に相談するの	な相談できない人が	た家族の話をし	わ相談しても何も変	その他	無回答
6 小 学 生	母のみ	91	47.3	13.2	4.4	13.2	14.3	13.2	13.2
	父のみ	5	100.0	-	-	-	-	-	-
	祖母のみ	54	59.3	7.4	7.4	11.1	20.4	9.3	1.9
	祖父のみ	18	61.1	-	5.6	5.6	5.6	11.1	16.7
	きょうだいのみ（幼い）	360	68.1	4.7	1.7	5.8	12.5	13.6	5.0
	きょうだいのみ（それ以外）	70	58.6	5.7	4.3	4.3	10.0	14.3	11.4
	その他のみ	22	81.8	9.1	-	4.5	9.1	4.5	4.5
	複数人	355	56.1	5.6	3.9	6.5	13.2	11.5	13.0

(%)

		調査数	ど誰か相談するほど	はす家族外の人	よ誰に相談するの	近相談できない人が身	話家族のくこのため	れ家族のくこのため	を家族にたたくて偏見	い変わることも思わ	相相談しても状況	その他	無回答
2 中 学 生	母のみ	63	68.3	11.1	6.3	4.8	3.2	3.2	6.3	11.1	6.3	12.7	
	父のみ	8	50.0	25.0	12.5	-	12.5	12.5	12.5	-	-	12.5	
	祖母のみ	45	66.7	15.6	8.9	4.4	15.6	6.7	6.7	17.8	4.4	4.4	
	祖父のみ	21	61.9	9.5	4.8	4.8	14.3	-	9.5	19.0	19.0	4.8	
	きょうだいのみ（幼い）	241	79.3	14.1	7.5	4.6	7.1	5.0	6.2	10.4	7.5	5.4	
	きょうだいのみ（それ以外）	54	66.7	16.7	3.7	1.9	9.3	5.6	5.6	20.4	11.1	13.0	
	その他のみ	19	52.6	15.8	5.3	-	15.8	10.5	10.5	21.1	10.5	15.8	
	複数人	220	61.4	8.6	10.5	5.9	8.6	8.6	6.4	7.7	7.3	15.9	
高 校 全 日 制 高 校 2 年 生	母のみ	30	50.0	13.3	10.0	10.0	13.3	3.3	16.7	30.0	6.7	6.7	
	父のみ	4	25.0	25.0	-	-	25.0	50.0	25.0	50.0	-	50.0	
	祖母のみ	42	69.0	7.1	9.5	-	2.4	4.8	4.8	16.7	4.8	-	
	祖父のみ	15	46.7	20.0	6.7	-	-	-	13.3	20.0	6.7	-	
	きょうだいのみ（幼い）	127	77.2	8.7	3.9	3.1	3.9	4.7	3.9	12.6	6.3	1.6	
	きょうだいのみ（それ以外）	24	50.0	12.5	20.8	8.3	20.8	25.0	12.5	20.8	12.5	12.5	
	その他のみ	19	63.2	5.3	10.5	5.3	5.3	10.5	5.3	15.8	31.6	-	
	複数人	108	57.4	7.4	6.5	6.5	8.3	6.5	4.6	15.7	7.4	13.9	

(12) 相談する手段

相談する手段は回答数が少ないため参考値として図示するに留める。

			(%)					
		調査数	直接会って	電話	S N S	電子メール	その他	無回答
6 年 生	母のみ	28	57.1	25.0	3.6	17.9	3.6	10.7
	父のみ	4	75.0	25.0	-	-	-	25.0
	祖母のみ	6	83.3	33.3	16.7	-	16.7	-
	祖父のみ	5	60.0	20.0	-	20.0	-	-
	きょうだいのみ（幼い）	59	74.6	13.6	5.1	13.6	1.7	5.1
	きょうだいのみ（それ以外）	9	55.6	11.1	11.1	22.2	-	11.1
	その他のみ	6	83.3	50.0	50.0	16.7	-	-
	複数人	119	67.2	28.6	11.8	8.4	4.2	10.1
2 年 生	母のみ	13	84.6	23.1	-	23.1	-	7.7
	父のみ	3	100.0	-	-	-	-	-
	祖母のみ	8	50.0	25.0	25.0	25.0	12.5	-
	祖父のみ	2	100.0	-	50.0	-	-	-
	きょうだいのみ（幼い）	31	67.7	22.6	22.6	29.0	3.2	-
	きょうだいのみ（それ以外）	7	71.4	14.3	14.3	-	-	14.3
	その他のみ	4	75.0	-	25.0	50.0	-	-
	複数人	54	66.7	31.5	24.1	13.0	5.6	5.6
高 校 全 日 制 2 年 生	母のみ	10	70.0	40.0	-	30.0	-	-
	父のみ	1	100.0	-	-	-	-	-
	祖母のみ	4	25.0	-	-	25.0	-	50.0
	祖父のみ	2	50.0	50.0	-	-	-	-
	きょうだいのみ（幼い）	20	70.0	30.0	20.0	20.0	5.0	-
	きょうだいのみ（それ以外）	10	80.0	-	10.0	30.0	-	10.0
	その他のみ	4	50.0	-	50.0	-	-	-
	複数人	24	75.0	50.0	50.0	8.3	-	-

(13) 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援をお世話を必要としている家族別でみると、小学6年生で「特にない」はお世話を必要としている家族に関わらず最も高くなっている。「自由に使える時間がほしい」、「勉強を教えてほしい」は“その他のみ”で2割台半ばとなっている。中学2年生、全日制高校2年生で「特にない」はお世話を必要としている家族に関わらず最も高くなっている。中学2年生で「自由に使える時間がほしい」は“きょうだいのみ（それ以外）”で2割を超えている。全日制高校2年生で「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」は“きょうだいのみ（それ以外）”が2割台半ばとなっている。「自由に使える時間がほしい」は“その他のみ”で2割台半ばとなっている。

(%)

		調査数	自分でほしことについて話を聞	家族のお世話について相談	家族の病気や障がい、お世話	家族の病気や障がい、お世話	自分が誰かについてお世話	自分が誰かについてお世話	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい
6 年 生 小 学	母のみ	136	18.4	3.7	-	5.1	-	16.2	11.8	
	父のみ	12	25.0	8.3	-	-	-	25.0	-	
	祖母のみ	67	7.5	3.0	-	3.0	-	16.4	9.0	
	祖父のみ	26	19.2	-	3.8	-	-	-	7.7	
	きょうだいのみ（幼い）	497	10.3	3.6	1.2	2.2	0.6	14.9	13.7	
	きょうだいのみ（それ以外）	99	9.1	2.0	2.0	3.0	-	12.1	16.2	
	その他のみ	34	17.6	2.9	2.9	-	-	23.5	23.5	
	複数人	560	19.3	7.1	2.0	2.9	0.4	18.4	16.4	

		調査数	ほお金の面で支援して	その他	特にない	わからない	無回答
6 年 生 小 学	母のみ	136	2.2	-	43.4	10.3	8.8
	父のみ	12	16.7	-	33.3	16.7	8.3
	祖母のみ	67	1.5	-	62.7	11.9	1.5
	祖父のみ	26	-	-	65.4	-	7.7
	きょうだいのみ（幼い）	497	3.2	1.4	59.8	8.5	1.4
	きょうだいのみ（それ以外）	99	2.0	1.0	54.5	5.1	9.1
	その他のみ	34	2.9	-	52.9	2.9	8.8
	複数人	560	3.0	0.7	48.6	8.8	7.0

(%)

		調査数	て自 話の 聞い まて ほし い	談家 族の つて ほし い	り のこ やす く説 明し てほ し	家 族の 病 気 や 障 害、 ケ ア	る の 人 や サ ー ビ ス が ほ し い	自 分 が 行 つ て い る お 世 話	人 の 一 部 が 代 わ つ て い る お 世 話	自 分 が 行 つ て い る お 世 話	い 自 由 に 使 え る 時 間 が ほ し	談進 路の つて ほし い
2 年 生	母のみ	98	11.2	5.1	6.1	1.0	1.0	9.2	4.1			
	父のみ	15	13.3	13.3	13.3	-	-	6.7	6.7			
	祖母のみ	57	12.3	5.3	5.3	5.3	-	15.8	5.3			
	祖父のみ	24	8.3	-	4.2	-	-	12.5	8.3			
	きょうだいのみ（幼い）	304	8.6	3.6	0.3	0.3	-	13.5	8.9			
	きょうだいのみ（それ以外）	73	9.6	1.4	4.1	-	-	21.9	8.2			
	その他のみ	28	14.3	3.6	7.1	-	-	10.7	7.1			
	複数人	335	14.6	5.4	4.2	3.6	0.3	15.8	9.0			
高 校 全 日 制 2 年 生	母のみ	55	16.4	3.6	5.5	9.1	-	9.1	7.3			
	父のみ	11	9.1	-	9.1	9.1	-	9.1	9.1			
	祖母のみ	52	1.9	5.8	3.8	1.9	1.9	7.7	9.6			
	祖父のみ	21	9.5	-	-	-	-	4.8	14.3			
	きょうだいのみ（幼い）	151	10.6	2.6	1.3	2.6	-	13.9	11.3			
	きょうだいのみ（それ以外）	38	23.7	7.9	7.9	5.3	-	15.8	10.5			
	その他のみ	25	16.0	4.0	4.0	4.0	-	24.0	12.0			
	複数人	180	12.2	3.9	3.9	2.2	1.7	8.3	9.4			

		調査数	ど学 校の 勉 強 や サ ー ポ ー ト 受 験 勉 強 な	家 庭 へ の 経 済 的 な 支 援	そ の 他	わ か ら な い	特 に な い	無 回 答
2 年 生	母のみ	98	7.1	5.1	-	11.2	56.1	10.2
	父のみ	15	20.0	13.3	6.7	6.7	46.7	6.7
	祖母のみ	57	14.0	5.3	1.8	14.0	49.1	1.8
	祖父のみ	24	12.5	-	-	12.5	66.7	4.2
	きょうだいのみ（幼い）	304	12.5	1.3	0.7	12.5	59.9	1.0
	きょうだいのみ（それ以外）	73	11.0	1.4	-	15.1	42.5	12.3
	その他のみ	28	17.9	-	-	14.3	57.1	3.6
	複数人	335	12.5	4.8	0.3	11.9	46.9	10.7
高 校 全 日 制 2 年 生	母のみ	55	9.1	1.8	3.6	7.3	43.6	12.7
	父のみ	11	9.1	18.2	9.1	-	18.2	36.4
	祖母のみ	52	9.6	3.8	-	7.7	61.5	1.9
	祖父のみ	21	4.8	-	-	14.3	57.1	4.8
	きょうだいのみ（幼い）	151	11.9	6.0	0.7	7.9	58.3	1.3
	きょうだいのみ（それ以外）	38	10.5	7.9	-	7.9	28.9	13.2
	その他のみ	25	20.0	12.0	-	12.0	48.0	8.0
	複数人	180	8.9	4.4	2.8	10.6	44.4	13.3

第6章 調査結果のまとめ

I 児童・生徒向けアンケート調査結果のまとめ

1 ヤングケアラーの実態、状況

本調査で、お世話をしている家族が「いる」割合は、小学6年生で12.0%、中学2年生で8.2%、全日制高校2年生で5.0%、定時制高校2年生で10.7%、通信制高校2年生で4.0%となった。国の調査結果と比較すると、お世話をしている家族が「いる」割合は、全体的に高い傾向にあったが、お世話の頻度は少なく、平日1日あたりのお世話に費やす時間は短い傾向にあった。

本調査は、学校を通じて、県内全ての公立及び私立学校に在籍する小学6年生、中学2年生、高校2年生（相当）の児童・生徒を対象に、学校時間を活用し、「ヤングケアラー」に関する啓発を実施した上で調査を実施した。一方、国の調査は、全国の小学校、中学校、高等学校から抽出された学校に在籍する小学6年生、中学2年生、高校2年生（相当）の児童・生徒を対象に、学校時間に絞らず調査を実施している。このように、調査対象者の抽出方法や調査の実施方法が異なるため、本調査では、国の調査で把握ができなかった層の回答を得ることができ、お世話をしている家族が「いる」割合が高くなった可能性がある。また、お世話の頻度が少なく、平日1日あたりのお世話に費やす時間が短い傾向にあったことから、国の調査よりも、お世話の負担が比較的軽度な層の回答を得ている可能性がある。これらを考慮すると、一概に本県のお世話をしている家族が「いる」割合が高いとはいえないが、県内の児童・生徒の中には、ヤングケアラーに該当する児童・生徒が一定数存在し、お世話の負担感に差があることがうかがえる。今後は、お世話の負担が大きい児童・生徒はもとより、それ以外の層に対しても状況悪化を防ぐ観点からアプローチを図るなど、きめ細かな支援体制を構築していくことが重要である。

2 ヤングケアラーのお世話の内容

お世話を必要としている家族は、「きょうだい」が多く、特に、お世話の頻度が「ほぼ毎日」の児童・生徒、平日1日あたりにお世話に費やす時間が3時間以上の、比較のお世話に費やす時間が長い児童・生徒で「きょうだい」が多い傾向にあった。また、お世話の内容は、全体で見ると「家事」が多かったが、平日1日あたりにお世話に費やす時間が3時間以上の、比較のお世話に費やす時間が長い児童・生徒で「見守り」が多く、「見守り」は「きょうだい」のお世話をしている児童・生徒で多かった。今後は、こうした状況を踏まえた上で、ヤングケアラーの身体的及び心理的負担の軽減に向けた支援について検討していく必要がある。

3 ヤングケアラーの自覚からみたヤングケアラーの特徴

ヤングケアラーの自覚がある生徒は、中学2年生全体、全日制高校2年生全体で、ともに1.4%であった。さらに、お世話をしている家族がいる生徒でヤングケアラーの自覚がある生徒をみると、中学2年生で8.8%、全日制高校2年生で10.6%であった。また、「わからない」と回答した生徒は、中学2年生で46.6%、全日制高校2年生で46.4%と4割を占めており、自分のお世話の状況について客観的に判断することが難しいことがうかがえる。このことから、学校関係者など、周囲の人々が「ヤングケアラー」の概念や実態を理解し、必要に応じて声かけや外部機関につなぐことができるよう、取組を進めていく必要がある。

4 ヤングケアラーの支援体制

お世話をしている家族が「いる」児童・生徒がお世話について相談した経験は、「ない」が60%台となっており、相談をしない理由は、「相談するほどの悩みではないから」が半数以上を占めて多くなっていた。お世話について相談した経験が「ある」児童・生徒が相談をした相手は、「家族」、「友人」が多く、身近な人に相談をしていることがうかがえる結果となった。また、相談する手段の希望については、「直接会って」が多い結果となった。

本調査では、相談をした経験はない児童・生徒が多く、相談するほどの悩みではないと考えている場合が多いという結果になったが、ヤングケアラーに該当する児童・生徒自身が「ヤングケアラー」について理解を深めるとともに、誰かに相談をしたいと思ったときに、安心して、直接会って相談ができる体制を構築・充実させておく必要がある。また、ヤングケアラーに該当する児童・生徒が相談したことをきっかけに、心を閉ざしてしまうことがないよう、家族や友人など、周囲の人々が「ヤングケアラー」について正しく理解するための周知啓発を進め、ヤングケアラーに該当する児童・生徒が安心して相談できる環境づくりを進めていくことが重要である。

II 学校向けアンケート調査結果のまとめ

1 「ヤングケアラー」の理解、認識

「ヤングケアラー」の概念の認識は、いずれも「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」が最も高く、半数以上を占めていた。国の調査結果と比較すると、「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」は中学校、全日制高校で県が国よりも10ポイント以上高く、「言葉を知っており、学校として意識して対応している」も中学校、全日制高校で県が国よりも20ポイント以上高くなっていた。本調査と国の調査は調査の実施時期が異なるため、正確な比較は難しいが、「ヤングケアラー」の概念は県内の学校で一定の理解が進んでいることがうかがえる。また、学校内に「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもが「いる」と回答した学校は、小学校で21.3%、中学校で35.8%、高等学校で45.3%となっており、身近に「ヤングケアラー」に該当する児童・生徒がいることを認識している学校が一定数あった。しかし、ヤングケアラーの把握や支援にあたっては、介入することの難しさやヤングケアラーと通常のお手伝いの線引きに難しさを感じている学校が多かった。今後は、まず本調査の結果を市町や各学校に共有することによって、「ヤングケアラー」の周知啓発、ヤングケアラーの実態把握につなげていくこと、さらに、市町職員や学校の教職員などを対象に、ヤングケアラー支援に関する研修を実施するなど、ヤングケアラーを早期発見できる体制を構築していくことが重要である。

2 外部機関との連携状況

ヤングケアラーと思われる子どもについて、学校以外の外部の支援につないだケースを確認したところ、小学校、中学校で「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」が40%台で高くなっていた。一方、「外部の支援にはつないでいない（学校で対応している）」も40%台で高く、学校で対応しているケースが一定数確認できた。学校内で対応している場合、見守りや教育相談など、児童・生徒に寄り添った対応がなされていることが確認できたが、家庭の状況によっては学校内で対応をすることが難しい場合も多いため、学校で抱え込まず、外部機関など福祉につなぐ流れを構築していく必要がある。また、教職員が子どもの異変に気が付いた場合も、家庭の問題であることから、問題に介入することが難しい場合が多いため、学校と福祉をつなぐSSWの機能をより一層活かしていくことが重要である。

資料編

1 小学生向け調査画面

小学生の生活についてのアンケート調査

注意事項

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。
回答は、各ページ60分以内に送信をしてください。
JavaScriptおよびCookieを有効にしてください。

推奨ブラウザ

【Windows】
Chrome 最新版
Firefox 最新版
Microsoft Edge 最新版
【MacOS】
Chrome 最新版
Firefox 最新版
Safari 最新版
【Android】
標準ブラウザ（Chrome）最新版
【iOS】
標準ブラウザ（Safari）最新版
Chrome 最新版

次へ

-----<改ページ>-----

I 基本情報

Q1 あなたの性別を教えてください。（あてはまるものを1つ選んでください）

- 男
- 女
- その他/答えたくない

-----<改ページ>-----

[必須]

Q2-1 現在住んでいる市町を教えてください。

選択して下さい▼

-----<改ページ>-----

[必須]

Q2-2 通学している学校がある市町を教えてください。

選択して下さい▼

-----<改ページ>-----

[必須]

Q2-3 通学している学校名を教えてください。

選択して下さい ▼

-----<改ページ>-----

Q3 あなたと一緒に（いっしょ）に住んでいるのは誰（だれ）ですか。（あてはまるものをすべて選んでください）

お母さん

お父さん

おばあさん

おじいさん

兄・姉⇒ () 人

弟・妹⇒ () 人

その他 ()

-----<改ページ>-----

Q4 あなたの健康状態について教えてください。（あてはまるものを1つ選んでください）

- よい
- まあよい
- ふつう
- あまりよくない
- よくない

-----<改ページ>-----

II ふだんの生活について

Q5-1 あなたは学校を欠席したり、遅刻（ちこく）や早退（そうたい）をしたりすることがありますか。
（あてはまるものをそれぞれ1つ選んでください）

欠席について

- ほとんど欠席しない
- たまに欠席する
- よく欠席する

Q5-2 あなたは学校を欠席したり、遅刻（ちこく）や早退（そうたい）をしたりすることがありますか。
（あてはまるものをそれぞれ1つ選んでください）
【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

遅刻（ちこく）や早退（そうたい）について

- ほとんどしない
- たまにする
- よくする

-----<改ページ>-----

Q6 ふだんの学校生活などにおいて、あてはまるものはありますか。
（あてはまるものをすべて選んでください）

- 授業中に寝（ね）てしまうことが多い
- 宿題ができていないことが多い
- 持ち物の忘（わす）れ物が多い
- 習い事を休むことが多い
- 提出物を出すのが遅（おく）れることが多い
- 修学旅行などの宿泊（しゅくはく）行事を欠席する
- 保健室で過ごすことが多い
- 学校では一人で過ごすことが多い
- 友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
- 特にない

-----<改ページ>-----

Q7 熱中して取り組んでいるものはありますか。（あてはまるものをすべて選んでください）

- スポーツをする・観戦する
- ゲームをする（テレビ、携帯（けいたい）、PCゲームなど）
- カードゲーム
- 音楽（演奏（えんそう）、鑑賞（かんしょう）、作曲、歌うことなど）
- 読書
- アニメを見る・マンガを読む
- 絵やマンガを描（か）く（イラストなど含（ふく）む）
- 物を作る（アクセサリー、手芸、裁縫（さいほう）など）
- お菓子（かし）づくり・料理をする
- 勉強
- その他（ ）

特にない

-----<改ページ>-----

Q8 あなたが悩（なや）んでいることはありますか。（あてはまるものをすべて選んでください）

友達のこと

学校の成績のこと

生活や勉強に必要なお金のこと

習い事のこと

家族のこと

自分のために使える時間が少ないこと

その他（）

特にない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q8で『1.友達のこと』～『7.その他（』 いずれかを選択した方のみ

Q8で「[回答：Q8]」と回答した人にお聞きします。

Q9 「[回答：Q8]」の悩（なや）みについて話を聞いてくれる人はいますか。（あてはまるものを1つ選んでください）

いる

いない

話はしたくない

-----<改ページ>-----

Q10 あなたは今の生活に(学校生活や家族のことを含（ふく）めて)どのくらい満足していますか。「たいへん満足」を5点、「まったく満足していない」を0点とすると何点でしょうか。（あてはまるものを1つ選んでください）



-----<改ページ>-----

III 家庭や家族のことについて

Q11 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(あてはまるものを1つ選んでください)

(ここで言う「お世話」とは、ふつう大人が行うような家事や家族のお世話を指します)

いる

いない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q11で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q11で「[回答: Q11]」と回答した人にお聞きします。
 お世話の状況(じょうきょう)について教えてください。

Q12-1 お世話を必要としている人について教えてください。(あてはまるものをすべて選んでください)

お母さん

お父さん

おばあさん

おじいさん

きょうだい

その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q11で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

お世話を必要としている人の状況(じょうきょう)やあなたが行っているお世話について教えてください。

Q12-2 お世話を必要としている人の状況(じょうきょう)を教えてください。
 (あてはまるものをすべて選んでください)

- 高齢（こうれい）（65歳（さい）以上）
- 幼（おさな）い
- 要介護（かいご）（介護（かいご）が必要な状態）
- 認知症（にんちしょう）
- 身体障（しょう）がい
- 知的障（しょう）がい
- こころの病気（うつ病など）※疑（うたが）い含（ふく）む
- 依存症（いぞんしょう）（お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱（かか）えている）※疑（うたが）い含（ふく）む
- こころの病気、依存症（いぞんしょう）以外の病気
- 日本語が苦手
- その他（ ）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q11で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q12-3 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。（あてはまるものをすべて選んでください）

お世話を必要としている人が複数いる場合は、それぞれの人ごとではなく一括（いっかつ）でお答えください。

- 家事（食事の準備や掃除（そうじ）、洗濯（せんたく））
- きょうだいのお世話や保育所等への送り迎（むか）えなど
- 身体的な介護（かいご）（入浴やトイレのお世話など）
- 外出の付き添（そ）い（買い物、散歩に一緒（いっしょ）に行くなど）
- 通院の付き添（そ）い（病院へ一緒（いっしょ）に行くなど）
- 話を聞く、話し相手になるなど
- 見守り
- 通訳（つうやく）（日本語や手話）

- お金の管理
- 薬の管理
- その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q11で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q12-4 あなたはお世話を誰（だれ）と一緒に（いっしょ）にしていますか。（あてはまるものをすべて選んでください）

- お母さん
- お父さん
- おばあさん
- おじいさん
- きょうだい
- しんせきの人
- 福祉（ふくし）サービス（ヘルパーなど）を利用
- その他 ()
- 自分のみ

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q11で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q12-5 あなたは何才からお世話をしていますか。

（はっきりとわからない場合は、だいたいの年がかまいません）

才から

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q11で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q12-6 あなたはどのくらいお世話をしていますか。(あてはまるものを1つ選んでください)

- ほぼ毎日
- 週に3日～5日
- 週に1日～2日
- 1ヶ月に数日
- その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q11で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q12-7 あなたは平日何時間くらいお世話をしていますか。

(日によって違(ちが)う場合は、この1ヶ月でいちばん長かった日の時間を教えてください)

1日 時間くらい

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q11で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q13 お世話をしていることで、このような経験をしたことがありますか。

(あてはまるものをすべて選んでください)

- 学校を休んでしまう
- 遅刻(ちこく)や早退(そうたい)をしてしまう
- 宿題など勉強する時間がない
- 眠(ねむ)る時間がたりない
- 友だちと遊ぶことができない
- 習い事ができない

自分の時間が取れない

その他 ()

特にない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q11で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q14 お世話をすることに大変さを感じていますか。(あてはまるものをすべて選んでください)

体力面で大変

気持ちの面で大変

時間の余裕(よゆう)がない

特に大変さを感じていない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q11で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q15 お世話をすることで、よかったと思うことを教えてください。
(あてはまるものをすべて選んでください)

家族の役に立てた、立てること

病気の人や障(しょう)がいがある人に優(やさ)しくできること

料理ができる(包丁などが使える)ようになったこと

スーパーで一人で買い物ができるようになったこと

自分のことは自分でできるようになったこと

年下の子が喜ぶことができる(折り紙や絵本を読むなど)ようになったこと

将来(しょうらい)の夢(なりたい職業)ができたこと

やりがいを感じる事

その他 ()

特にない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q11で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q16 あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩（なや）みについて誰（だれ）かに相談したことはありますか。
（あてはまるものを1つ選んでください）

ある

ない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q16で『1.ある』 いずれかを選択した方のみ

Q16で「[回答：Q16]」と回答した人にお聞きします。

Q17-1 誰（だれ）に相談しましたか。（あてはまるものをすべて選んでください）

家族（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい）

しんせき

友だち

学校の先生（保健室の先生以外）

保健室の先生

スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー

病院・医療（いりょう）・福祉（ふくし）サービスの人

近所の人

SNS上での知り合い

その他 ()

Q17-2 相談してどうでしたか。（あてはまるものを1つ選んでください）

- 問題が解決した
- 問題は解決しなかったが、話をするด้วย（または話を聞いてもらうことで）気持ちが楽になった
- 問題は解決せず、気持ちも楽にならなかった
- その他（ ）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q16で『2.ない』 いずれかを選択した方のみ

Q16で「[回答：Q16]」と回答した人にお聞きします。

Q18 相談していない理由を教えてください。（あてはまるものをすべて選んでください）

- 相談するほどの悩（なや）みではないから
- 誰（だれ）に相談するのがよいかわからないから
- 相談できる人がいないから
- 家族のことを話したくないから
- 相談しても何も変わらないから
- その他（ ）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q11で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q19 学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。（あてはまるものをすべて選んでください）

- 自分のことについて話を聞いてほしい
- 家族のお世話について相談にのってほしい
- 家族の病気や障（しょう）がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい
- 自分が行っているお世話のすべてを誰（だれ）かに代わってほしい

自分が行っているお世話の一部を誰（だれ）かに代わってほしい
⇒具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか（）

自由に使える時間がほしい

勉強を教えてほしい

お金の面で支援（しえん）してほしい

その他（）

特にない

わからない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q19で『1.自分のことについて話を聞いてほしい』～『2.家族のお世話について相談にのってほしい』 いずれかを選択した方のみ

Q19で「[回答：Q19]」と回答した人にお聞きします。

Q20 どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。
（あてはまるものをすべて選んでください）

直接会って

電話

SNS

電子メール

その他（）

-----<改ページ>-----

Q21 家族のお世話をしている子どもにとって、必要だと思うことや学校や周りの大人にしてもらいたいことを自由にかいてください。

自由記述

---<改ページ>---

2 中高生向け調査画面

※画像は中学生向けの調査画面

中学生の生活実態に関するアンケート調査

注意事項

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。
回答は、各ページ60分以内に送信をしてください。
JavaScriptおよびCookieを有効にしてください。

推奨ブラウザ

【Windows】
Chrome 最新版
Firefox 最新版
Microsoft Edge 最新版
【MacOS】
Chrome 最新版
Firefox 最新版
Safari 最新版
【Android】
標準ブラウザ（Chrome）最新版
【iOS】
標準ブラウザ（Safari）最新版
Chrome 最新版

次へ

-----<改ページ>-----

I 基本情報

Q1 あなたの学年を教えてください。（あてはまるものを1つ選んでください）

<input type="radio"/>	中学2年生
<input type="radio"/>	高校2年生
<input type="radio"/>	定時制高校2年生相当
<input type="radio"/>	通信制高校2年生相当

-----<改ページ>-----

Q2 あなたの性別を教えてください。（あてはまるものを1つ選んでください）

<input type="radio"/>	男性
<input type="radio"/>	女性
<input type="radio"/>	その他/答えたくない

-----<改ページ>-----

[必須]

Q3-1 現在住んでいる市町を教えてください。

選択して下さい▼

-----<改ページ>-----

[必須]

Q3-2 通学している学校がある市町を教えてください。

選択して下さい▼

-----<改ページ>-----

[必須]

Q3-3 通学している学校名を教えてください。

選択して下さい ▼

-----<改ページ>-----

Q4 現在一緒に住んでいる家族について教えてください。（あてはまるものをすべて選んでください）

<input type="checkbox"/>	母親
<input type="checkbox"/>	父親
<input type="checkbox"/>	祖母
<input type="checkbox"/>	祖父
<input type="checkbox"/>	兄・姉⇒ (<input type="text"/>) 人
<input type="checkbox"/>	弟・妹⇒ (<input type="text"/>) 人
<input type="checkbox"/>	その他 (<input type="text"/>)

-----<改ページ>-----

Q5 あなたの健康状態について教えてください。（あてはまるものを1つ選んでください）

<input checked="" type="radio"/>	よい
----------------------------------	----

まあよい

ふつう

あまりよくない

よくない

-----<改ページ>-----

II 普段の生活について

Q6-1 学校への通学状況について教えてください。（あてはまるものを1つ選んでください）

出席状況

ほとんど欠席しない

たまに欠席する

よく欠席する

Q6-2 学校への通学状況について教えてください。（あてはまるものを1つ選んでください）

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

遅刻や早退の状況

ほとんどしない

たまにする

よくする

-----<改ページ>-----

Q7 普段の学校生活等においてあてはまるものはありますか。

（あてはまるものをすべて選んでください）

授業中に居眠りすることが多い

宿題や課題ができていないことが多い

持ち物の忘れ物が多い

部活動や習い事を休むことが多い

提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い

修学旅行などの宿泊行事を欠席する

保健室で過ごすことが多い

学校では1人で過ごすことが多い

友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない

特にない

-----<改ページ>-----

Q8 熱中しているものはありますか。（あてはまるものをすべて選んでください）

スポーツをする・観戦する

ゲームをする（テレビ、携帯、PCゲームなど）

PC・スマホ・タブレット(LINE、アプリ、Webサイトを見るなど)

音楽（演奏、鑑賞、作曲、歌うことなど）

読書

アニメを見る・マンガを読む

絵やマンガを描く（イラストなど含む）

アイドル、芸能人（俳優、声優を含む）

勉強

部活動や習い事など

その他（）

特にない

-----<改ページ>-----

Q9 現在、悩んだり困っていることはありますか。（あてはまるものをすべて選んでください）

友人との関係のこと

学業成績のこと

進路のこと

部活動のこと

学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと

塾（通信含む）や習い事ができないこと

家庭の経済的状況のこと

自分と家族との関係のこと

家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）

病気や障害のある家族のこと

自分のために使える時間が少ないこと

その他 ()

特になし

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q9で『1.友人との関係のこと』～『12.その他(』 いずれかを選択した方のみ

Q9で「[回答：Q9]」と回答した方にお聞きします。

Q10 回答した悩みや困りごとについて相談に乗ってくれたり話を聞いてくれる人がいますか。
(あてはまるものを1つ選んでください)

相談相手や話を聞いてくれる人がいる

相談相手や話を聞いてくれる人がいない

相談や話はしたくない

-----<改ページ>-----

Q11-1 あなたは、自分には人との付き合いがないと感じることがありますか。
(あてはまるものを1つ選んでください)

決してない

ほとんどない

時々ある

常にある

Q11-2 あなたは、自分が取り残されていると感じることがありますか。
(あてはまるものを1つ選んでください)

決してない

ほとんどない

時々ある

常にある

Q11-3 あなたは、自分以外の人たちから孤立していると感じることがありますか。
(あてはまるものを1つ選んでください)

決してない

- ほとんどない
- 時々ある
- 常にある

-----<改ページ>-----

Q12 あなたは今の生活に(学校生活や家族のことを含めて)どのくらい満足していますか。
「たいへん満足」を10点、「全く満足していない」を0点とすると何点でしょうか。
(あてはまるものを1つ選んでください)

	←	0 点	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点	7 点	8 点	9 点	10 点	→
		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		全く満足していない											たいへん満足

-----<改ページ>-----

III 家庭や家族のことについて

Q13 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。
(あてはまるものを1つ選んでください)

(ここで言う「お世話」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることです)

- いる
- いない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q13で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

問13で「[回答: Q13]」と回答した方にお聞きします。お世話の状況について教えてください。

Q14-1 お世話を必要としている方について教えてください。
(あてはまるものをすべて選んでください)

- 母親
- 父親
- 祖母
- 祖父
- きょうだい
- その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q13で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

お世話を必要としている人の状況やあなたがやっているお世話について教えてください。

Q14-2 お世話を必要としている方の状況を教えてください。
(あてはまるものをすべて選んでください)

- 高齢（65歳以上）
- 若い
- 要介護（介護が必要な状態）
- 認知症
- 身体障害
- 知的障害
- 精神疾患（疑い含む）
- 依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）
- 精神疾患、依存症以外の病気
- 日本語が苦手
- その他（ ）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q13で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q14-3 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。
(あてはまるものをすべて選んでください)

お世話を必要としている方が複数いる場合も、それぞれの方ごとではなく一括でお答えください。

- 家事（食事の準備や掃除、洗濯）
- きょうだいの世話や保育所等へ送迎など
- 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
- 外出の付き添い（買い物、散歩など）
- 通院の付き添い
- 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
- 見守り
- 通訳（日本語や手話など）
- 金銭管理

- 薬の管理
- その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q13で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q14-4 お世話は誰と行っていますか。(あてはまるものをすべて選んでください)

- 母親
- 父親
- 祖母
- 祖父
- きょうだい
- 親戚の人
- 福祉サービス（ヘルパーなど）を利用
- その他 ()
- 自分のみ

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q13で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q14-5 お世話はいつから行っていますか。お世話を始めた年齢をお答えください。

(はっきりとわからない場合は、だいたいの年齢でかまいません)

歳から

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q13で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q14-6 お世話をしている頻度を教えてください。(あてはまるものを1つ選んでください)

- ほぼ毎日
- 週に3～5日
- 週に1～2日

- 1ヶ月に数日
- その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q13で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q14-7 平日にお世話はどのくらい行っていますか。時間数をお答えください。

(日によって異なる場合は、この1ヶ月の中で最も長かった日の時間をお答えください)

1日 時間程度

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q13で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q15 お世話をしていることで、やりたいけどできていないことはありますか。

(あてはまるものをすべて選んでください)

- 学校に行きたくても行けない
- どうしても学校を遅刻・早退してしまう
- 宿題をする時間や勉強をする時間が取れない
- 睡眠が十分に取れない
- 友人と遊ぶことができない
- 部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった
- 進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した
- 自分の時間が取れない
- その他 ()
- 特になし

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q13で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q16 お世話をすることによってきつさを感じていますか。

(あてはまるものをすべて選んでください)

- 身体的にきつい
- 精神的にきつい

時間的余裕がない

特にきつさは感じていない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q13で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q17 お世話をすることでよかったと思うことを教えてください。
(あてはまるものをすべて選んでください)

家族の力になれていること

病気や障害がある人を理解できたこと（差別しないようになったこと）

家事などの手際がよくなったこと

経済観念（お金の感覚）が変わったこと

注意深く物事を見ることができるようになったこと

人の気持ちを察することができるようになったこと

将来の夢ができたこと

毎日が充実していること

その他（ ）

特にない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q13で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q18 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。
(あてはまるものを1つ選んでください)

ある

ない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q18で『1.ある』 いずれかを選択した方のみ

Q18で「[回答：Q18]」と回答した方にお聞きします。

Q19-1 誰に相談しましたか。(あてはまるものをすべて選んでください)

家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）

- 親戚（おじ、おばなど）
- 友人
- 学校の先生（保健室の先生以外）
- 保健室の先生
- スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
- 医師や看護師、その他病院の人
- ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人
- 役所や保健センターの人
- 近所の人
- SNS上での知り合い
- その他（ ）

Q19-2 相談してどうでしたか。（あてはまるものを1つ選んでください）

- 問題が解決した
- 問題は解決しなかったが、話をする中で（または話を聞いてもらうことで）気持ちが楽になった
- 問題は解決せず、気持ちも楽にならなかった
- その他（ ）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q18で『2.ない』 いずれかを選択した方のみ

Q18で「[回答：Q18]」と回答した方にお聞きします。

Q20 相談していない理由を教えてください。（あてはまるものをすべて選んでください）

- 誰かに相談するほどの悩みではない
- 家族外の人に相談するような悩みではない
- 誰に相談するのがよいかわからない
- 相談できる人が身近にいない
- 家族のここのため話しにくい
- 家族のことを知られたくない
- 家族に対して偏見を持たれたくない

- 相談しても状況が変わるとは思わない
- その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q13で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q21 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。
(あてはまるものをすべて選んでください)

- 自分のいまの状況について話を聞いてほしい
- 家族のお世話について相談にのってほしい
- 家族の病気や障害、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい
- 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい
- 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい
⇒具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか ()
- 自由に使える時間がほしい
- 進路や就職など将来の相談にのってほしい
- 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
- 家庭への経済的な支援
- その他 ()
- わからない
- 特にない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q21で『1.自分のいまの状況について話を聞いてほしい』～『2.家族のお世話について相談にのってほしい』 いずれかを選択した方のみ

Q21で「[回答: Q21]」と回答した方にお聞きします。

Q22 どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。
(あてはまるものをすべて選んでください)

- 直接会って
- 電話
- SNS
- 電子メール

■ その他 ()

-----<改ページ>-----

IV ヤングケアラーについて

Q23 ヤングケアラーとは、「本来大人が担うとされている家事や家族の世話などを日常のおこなっていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことを言います。

「ヤングケアラー」という言葉をこれまで（この調査を実施するまで）に聞いたことがありますか。
（あてはまるものを1つ選んでください）

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

● 聞いたことがあり、内容も知っている

● 聞いたことはあるが、よく知らない

● 聞いたことはない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q23で『1.聞いたことがあり、内容も知っている』～『2.聞いたことはあるが、よく知らない』 いずれかを選択した方のみ

Q23で「[回答：Q23]」と回答した方にお聞きします。

Q24 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。（あてはまるものをすべて選んでください）

■ テレビや新聞、ラジオ

- 雑誌や本
- SNSやインターネット
- 広報やチラシ、掲示物
- イベントや交流会など
- 学校
- 友人・知人から聞いた
- その他 ()

-----<改ページ>-----

Q25 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。(あてはまるものを1つ選んでください)

- あてはまる
- あてはまらない
- わからない

-----<改ページ>-----

Q26 あなたの周りの人がお世話についての悩みをあなたに話をしてきたら、あなたはどのような対応をしたいと思いますか。(あてはまるものをすべて選んでください)

- 相手の話を最後までしっかり聞く
- 大人(学校の先生等)に相談するように勧める
- 率直に何をしてもらいたいか尋ねる
- どうしたらよいか一緒に考える
- 相手を気づかう姿勢を見せる、寄り添う
- 自分では対応できないことを伝える
- その他 ()
- どうしてよいかわからない

-----<改ページ>-----

Q27 家族のお世話をしている子どもにとって、必要だと思うことや学校や周りの大人にしてもらいたいことを自由にかいてください。

自由記述

-----<改ページ>-----

3 学校向け調査画面

児童・生徒の生活実態に関するアンケート調査

注意事項

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。
回答は、各ページ60分以内に送信をしてください。
JavaScriptおよびCookieを有効にしてください。

推奨ブラウザ

【Windows】
Chrome 最新版
Firefox 最新版
Microsoft Edge 最新版
【MacOS】
Chrome 最新版
Firefox 最新版
Safari 最新版
【Android】
標準ブラウザ（Chrome）最新版
【iOS】
標準ブラウザ（Safari）最新版
Chrome 最新版

次へ

-----<改ページ>-----

I 基本情報

【必須】

Q1 ご回答された方の役職を教えてください。
(あてはまるものを1つ選んでください)

- 校長
- 副校長、教頭
- 主幹、主任教諭（具体的に：）
- 養護教諭
- スクールソーシャルワーカー（SSW）
- スクールカウンセラー（SC）
- その他（）

-----<改ページ>-----

【必須】

Q2-1 貴校の学区区分を教えてください。
(あてはまるものを1つ選んでください)

- 小学校
- 中学校
- 高等学校

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q2-1で『3.高等学校』 いずれかを選択した方のみ

前問で「[回答：Q2-1]」と選択した方にお伺いします。

【必須】

Q2-2 貴校の課程、単位制についてお答えください。
(あてはまるものを1つ選んでください)

課程

- 全日制
- 定時制
- 通信制

【必須】

Q2-3 貴校の課程、単位制についてお答えください。
(あてはまるものを1つ選んでください)
【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

単位制の有無

- あり
- なし

-----<改ページ>-----

【必須】

Q3 貴校の所在する市町を教えてください。

選択して下さい▼

-----<改ページ>-----

【必須】

Q4 児童・生徒数についてお伺いします。 [回答：Q2-1] [回答：G1]
(令和4年7月1日時点)

() 人

-----<改ページ>-----

II 支援が必要と思われる子どもへの対応についてお伺いします。
SSW、SCの派遣・配置状況をお伺いします。

[必須]

Q5-1 SSWの派遣・配置状況について教えてください。
(あてはまるものを1つ選んでください)

- 週に2～3回以上派遣・配置されている
- 週に1回程度派遣・配置されている
- 月に数回以下で派遣・配置されている
- 要請に応じて派遣される
- その他 ()
- 派遣・配置されていない

[必須]

Q5-2 SCの派遣・配置状況について教えてください。
(あてはまるものを1つ選んでください)

- 週に2～3回以上派遣・配置されている
- 週に1回程度派遣・配置されている
- 月に数回以下で派遣・配置されている
- 要請に応じて派遣される
- その他 ()
- 派遣・配置されていない

-----<改ページ>-----

[必須]

Q6 支援が必要と思われる子どもや気になる子どもについて、入学前に幼稚園・保育所、小学校、中学校から、主にどのような引き継ぎがありますか。
(あてはまるものをすべて選んでください)

- 登校状況など、前の学校等での様子
- 子ども本人の発達特性
- 保護者の病気や障害の状況
- 家族構成、家庭環境
- 経済的状況

要保護児童対策地域協議会（要対協）への登録状況

関わりのある外部機関

その他 ()

引き継ぎはないことが多い

-----<改ページ>-----

【必須】

Q7 子どもについて校内で共有しているケースはありますか。
(あてはまるものをすべて選んでください)

学校を休みがちである

遅刻や早退が多い

保健室で過ごしていることが多い

精神的な不安定さがある

身だしなみが整っていない

学力が低下している

宿題や持ち物の忘れ物が多い

保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い

学校に必要なものを用意してもらえない

部活を途中でやめてしまった

修学旅行や宿泊行事等を欠席する

校納金が遅れる、未払い

その他 ()

-----<改ページ>-----

【必須】

Q8 「子どもについて校内で共有しているケース」について、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多いケースでご回答ください。
(あてはまるものを1つ選んでください)

不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している

不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している

個別に対応している（決まった検討体制はない）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q8で『1.不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している』～『2.不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している』 いずれかを選択した方のみ

Q8で「[回答：Q8]」と回答した方にお伺いします。

【必須】

Q9-1 校内ではどのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。
(あてはまるものをすべて選んでください)

- スクリーニング会議※
- ケース会議
- 生徒指導部・委員会など
- 児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有
- 教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名
- その他

※すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援の必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐため迅速な識別を行う会議

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q9-1で『1.スクリーニング会議※』～『3.生徒指導部・委員会など』、『6.その他』 いずれかを選択した方のみ

Q9-1で「[回答：Q9-1]」と回答した方にお伺いします。

【必須】

Q9-2 どの教職員が参加していますか。
(あてはまるものをすべて選んでください)

スクリーニング会議
ケース会議
生徒指導部・委員会
その他 ([回答：Q9-1・t6])

	↓	↓	↓	↓
校長	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
副校長・教頭	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学年主任	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
担任教諭	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
生徒指導教諭	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
参加者 養護教諭	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
SSW	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
SC	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
外部の関係機関 (<input style="width: 150px;" type="text"/>)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他 (<input style="width: 150px;" type="text"/>)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
 Q9-1で『1.スクリーニング会議※』～『3.生徒指導部・委員会など』、『6.その他』 いずれかを選択した方のみ

【必須】
Q9-3 会議の頻度はどのくらいですか。
 (あてはまるものを1つ選んでください)

	↓	↓	↓	↓
	スクリーニング会議	ケース会議	生徒指導部・委員会	その他 (「 回答 : Q 9 - 1 ・ t 6 」)
頻度	2週間に1回以上	●	●	●
	月に1回程度	●	●	●
	半年に1回程度	●	●	●
	年に1回程度	●	●	●

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
 Q8で『3.個別に対応している (決まった検討体制はない)』 いずれかを選択した方のみ

Q8で「[回答：Q8]」と回答した方にお伺いします。

[必須]

Q10 「子どもについて校内で共有しているケース」について、貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について具体的に教えてください。

自由記述

-----<改ページ>-----

[必須]

Q11-1 「子どもについて校内で共有しているケース」について、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。

(あてはまるものを1つ選んでください)

要保護児童対策地域協議会の登録ケース

- ある
- 特になし

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q11-1で『1.ある』 いずれかを選択した方のみ

前問で連携する関係機関が「[回答：Q11-1]」と回答した方にお伺いします。

[必須]

Q11-2 連携する関係機関を選択肢からお選びください。

(あてはまるものをすべて選んでください)

- 市町教育委員会
- 市町の福祉部門（市町の要保護児童対策地域協議会の調整機関／虐待対応部門を除く）
- 市町の保健部門
- 市町の要保護児童対策地域協議会の調整機関／虐待対応部門
- 教育事務所
- 教育支援センター（適応指導教室）
- フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
- 児童相談所
- 民生委員
- 病院
- 警察や刑事司法関係機関

その他 ()

-----<改ページ>-----

【必須】

Q11-3 「子どもについて校内で共有しているケース」について、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。
(あてはまるものを1つ選んでください)

不登校ケース

- ある
- 特にない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q11-3で『1.ある』 いずれかを選択した方のみ

前問で連携する関係機関が「[回答: Q11-3]」と回答した方にお伺いします。

【必須】

Q11-4 連携する関係機関を選択肢からお選びください。
(あてはまるものをすべて選んでください)

- 市町教育委員会
- 市町の福祉部門 (市町の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門を除く)
- 市町の保健部門
- 市町の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門
- 教育事務所
- 教育支援センター (適応指導教室)
- フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
- 児童相談所
- 民生委員
- 病院
- 警察や刑事司法関係機関
- その他 ()

-----<改ページ>-----

【必須】

Q11-5 「子どもについて校内で共有しているケース」について、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。

(あてはまるものを1つ選んでください)

要保護児童対策地域協議会の登録ケース、不登校ケース以外

ある

特になし

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q11-5で『1.ある』 いずれかを選択した方のみ

前問で連携する関係機関が「[回答：Q11-5]」と回答した方にお伺いします。

【必須】

Q11-6 連携する関係機関を選択肢からお選びください。

(あてはまるものをすべて選んでください)

市町教育委員会

市町の福祉部門（市町の要保護児童対策地域協議会の調整機関／虐待対応部門を除く）

市町の保健部門

市町の要保護児童対策地域協議会の調整機関／虐待対応部門

教育事務所

教育支援センター（適応指導教室）

フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設

児童相談所

民生委員

病院

警察や刑事司法関係機関

その他（ ）

-----<改ページ>-----

III ヤングケアラーについてお伺いします。

【必須】

Q12 貴校では「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。

(あてはまるものを1つ選んでください)

言葉を知らない

- 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない
- 言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない
- 言葉を知っており、学校として意識して対応している

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
 Q12で『4.言葉を知っており、学校として意識して対応している』 いずれかを選択した方のみ

Q12で「[回答：Q12]」と回答した方にお伺いします。

【必須】

Q13 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。
 (あてはまるものを1つ選んでください)

- 把握している
- 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない
- 該当する子どもはいない (これまででもいなかった)

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
 Q13で『1.把握している』 いずれかを選択した方のみ

Q13で「[回答：Q13]」と回答した方にお伺いします。

【必須】

Q14 「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。
 (あてはまるものをすべて選んでください)

- アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
- 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している
- その他 ()

-----<改ページ>-----

ヤングケアラーを把握していない方も含め、全員にお伺いします。

ヤングケアラーとは「本来大人が担うと想定されている家族の世話を日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことを言います。ヤングケアラーの定義を踏まえて設問にお答えください。

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りを行っている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

-----<改ページ>-----

[必須]

Q15 ヤングケアラーの定義を見て、現在貴校にヤングケアラーと思われる（可能性も含め）子どもはいますか。
（あてはまるものを1つ選んでください）

- いる
- いない
- 分からない

-----<改ページ>-----

[回答者条件]

Q15で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q15で「[回答：Q15]」と回答した方にお伺いします。

[必須]

Q16-1 ヤングケアラーと思われる子どもの状況はどれですか。
（あてはまるものをすべて選んでください）

- 障害や病気のある家族に代わり家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている
- 家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている
- 家族の代わりに、障害や病気のあるきょうだいの世話をしている

- 目を離せない家族の見守りや声掛けをしている
- 家族の通訳をしている
- 家計を支えるために、アルバイト等をしている
- アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している
- 病気の家族の看病をしている
- 障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている
- 障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている
- その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q15で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q16-2 ヤングケアラーと思われる子どもについて、具体的に学校以外の外部（教育委員会、役所、要保護児童対策地域協議会など）の支援につないだケースはありますか。
 （あてはまるものをすべて選んでください）

- 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある
- 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある
- 外部の支援にはつないでいない（学校で対応している）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q16-2で『1.要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある』 全てを選択した方のみ

Q16-2で「[回答：Q16-2]」と回答した方にお伺いします。それぞれの該当する直近のケースについて1件ずつ教えてください。

【必須】

Q16-3 要保護児童対策地域協議会に通告したケースについて教えてください。
 （あてはまるものを1つ選んでください）

対象児童・生徒の性別

- 女性
- 男性
- その他

【必須】

Q16-4 要保護児童対策地域協議会に通告したケースを教えてください。
 【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

学年

- 小学 () 年
- 中学 () 年
- 高校 () 年

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q16-2で『1.要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある』 全てを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告したケース

【必須】

Q16-5 学校生活の状況について教えてください。
 (あてはまるものをすべて選んでください)

- 学校を休みがち
- 遅刻や早退が多い
- 保健室で過ごしていることが多い
- 精神的な不安定さがある
- 身だしなみが整っていない
- 学力が低下している
- 宿題や持ち物の忘れ物が多い
- 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
- 学校に必要なものを用意してもらえない
- 部活を途中でやめてしまった
- 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
- 校納金が遅れる、未払い
- その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q16-2で『1.要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある』 全てを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告したケース

【必須】

Q16-6 家族構成について教えてください。
 (あてはまるものをすべて選んでください)

- 母親

- 父親
- 祖母
- 祖父
- きょうだい
- その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
 Q16-2で『1.要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある』 全てを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告したケース

【必須】

Q16-7 ケアの状況を把握していますか。
 (あてはまるものを1つ選んでください)

- はい
- いいえ

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
 Q16-7で『1.はい』 いずれかを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告したケース
 Q16-7で「[回答：Q16-7]」と回答した方にお伺いします。

【必須】

Q16-8 ケアの具体的な内容について教えてください。
 (あてはまるものをすべて選んでください)

ケアを必要としている人

- 母親
- 父親
- 祖母
- 祖父
- きょうだい
- その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
 Q16-7で『1.はい』 いずれかを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告したケース

[必須]

Q16-9 ケアの具体的な内容について教えてください。
(あてはまるものをすべて選んでください)

ケアを必要としている人の状況

- 高齢（65歳以上）
- 若い
- 要介護（介護が必要な状態）
- 認知症
- 身体障害
- 知的障害
- 精神疾患（疑い含む）
- 依存症（疑い含む）
- 精神疾患、依存症以外の病気
- その他（）
- わからない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q16-7で『1.はい』 いずれかを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告したケース

[必須]

Q16-10 ケアの具体的な内容について教えてください。
(あてはまるものをすべて選んでください)

ケアの内容

- 家事（食事の準備や掃除、洗濯）
- きょうだいの世話や保育所等への送迎など
- 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
- 外出の付き添い（買い物、散歩など）
- 通院の付き添い
- 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
- 見守り
- 通訳（日本語や手話など）
- 金銭管理

- 薬の管理
- その他 ()
- わからない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
 Q16-2で『1.要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある』 全てを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告したケース

【必須】

Q16-11 ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけについて教えてください。

自由記述

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
 Q16-2で『1.要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある』 全てを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告したケース

【必須】

Q16-12 要保護児童対策地域協議会への通告ルートについて教えてください。
 (あてはまるものを1つ選んでください)

- 市町教育委員会経由
- 学校から直接連絡
- その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
 Q16-2で『1.要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある』 全てを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告したケース

【必須】

Q16-13 学校で行った支援（要対協との連携も含めて）について教えてください。

自由記述

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q16-2で『1.要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある』 全てを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告したケース

【必須】

Q16-14 支援した結果、子どもの変化について教えてください。

自由記述

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q16-2で『2.要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある』 全てを選択した方のみ

【必須】

Q16-15 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースについて教えてください。
(あてはまるものを1つ選んでください)

対象児童・生徒の性別

女性

男性

その他

【必須】

Q16-16 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースについて教えてください。
【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

学年

小学 () 年

中学 () 年

高校 () 年

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q16-2で『2.要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある』 全てを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

【必須】

Q16-17 学校生活の状況について教えてください。
(あてはまるものをすべて選んでください)

学校を休みがち

- 遅刻や早退が多い
- 保健室で過ごしていることが多い
- 精神的な不安定さがある
- 身だしなみが整っていない
- 学力が低下している
- 宿題や持ち物の忘れ物が多い
- 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
- 学校に必要なものを用意してもらえない
- 部活を途中でやめてしまった
- 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
- 校納金が遅れる、未払い
- その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
 Q16-2で『2.要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある』 全てを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

[必須]
Q16-18 家族構成について教えてください。
 (あてはまるものをすべて選んでください)

- 母親
- 父親
- 祖母
- 祖父
- きょうだい
- その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
 Q16-2で『2.要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある』 全てを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

[必須]

Q16-19 ケアの状況を把握していますか。
(あてはまるものを1つ選んでください)

- はい
- いいえ

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q16-19で『1.はい』 いずれかを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース
Q16-19で「[回答：Q16-19]」と回答した方にお伺いします。

[必須]

Q16-20 ケアの具体的な内容について教えてください。
(あてはまるものをすべて選んでください)

ケアを必要としている人

- 母親
- 父親
- 祖母
- 祖父
- きょうだい
- その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q16-19で『1.はい』 いずれかを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

[必須]

Q16-21 ケアの具体的な内容について教えてください。
(あてはまるものをすべて選んでください)

ケアを必要としている人の状況

- 高齢 (65歳以上)
- 幼い
- 要介護 (介護が必要な状態)
- 認知症
- 身体障害
- 知的障害

- 精神疾患（疑い含む）
- 依存症（疑い含む）
- 精神疾患、依存症以外の病気
- その他（ ）
- わからない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
 Q16-19で『1.はい』 いずれかを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

【必須】

Q16-22 ケアの具体的な内容について教えてください。
 （あてはまるものをすべて選んでください）

ケアの内容

- 家事（食事の準備や掃除、洗濯）
- きょうだいの世話や保育所等への送迎など
- 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
- 外出の付き添い（買い物、散歩など）
- 通院の付き添い
- 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）
- 見守り
- 通訳（日本語や手話など）
- 金銭管理
- 薬の管理
- その他（ ）
- わからない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
 Q16-2で『2.要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある』 全てを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

【必須】

Q16-23 ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけについて教えてください。

自由記述

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q16-2で『2.要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある』 全てを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

【必須】

Q16-24 つないだ機関について教えてください。

自由記述

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q16-2で『2.要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある』 全てを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

【必須】

Q16-25 外部機関へのつなぎ方について教えてください。
(あてはまるものをすべて選んでください)

市町教育委員会経由

学校から直接連絡

その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q16-2で『2.要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある』 全てを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

【必須】

Q16-26 学校で行った支援（つなぎ先との連携も含めて）について教えてください。

自由記述

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q16-2で『2.要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある』 全てを選択した方のみ

要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

【必須】

Q16-27 支援した結果、子どもの変化について教えてください。

自由記述

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q16-2で『3.外部の支援にはつないでいない（学校で対応している）』 いずれかを選択した方のみ

Q16-2で「[回答：Q16-2]」と回答した方にお伺いします。

【必須】

Q16-28 外部の支援につながらなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのか教えてください。

理由：

対応方法：

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q15で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

【必須】

Q16-29 ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気をつけていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

自由記述

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q15で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

[必須]

Q16-30 ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

自由記述

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q15で『3.分らない』 いずれかを選択した方のみ

Q15で「[回答：Q15]」と回答した方にお伺いします。

[必須]

Q17 その理由を教えてください。

(あてはまるものをすべて選んでください)

- 学校において「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
- 不登校やいじめなどに比べて緊急度が高くないため「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
- 家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
- ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
- その他 ()

-----<改ページ>-----

[必須]

Q18 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。

(あてはまるものをすべて選んでください)

- 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
- 教職員がヤングケアラーについて知ること
- 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
- SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること
- 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
- ヤングケアラーについて検討する組織を校内でつくること
- 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
- 学校にヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
- ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること

- 福祉と教育の連携を進めること
具体的に ()
- その他 ()
- 特にない

-----<改ページ>-----

【必須】

Q19 ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。

自由記述

-----<改ページ>-----

栃木県ヤングケアラー実態調査 報告書

令和4（2022）年12月

栃木県保健福祉部こども政策課

〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20

電話 028-623-3067 F A X 028-623-3070